

授 業 計 画

平成 27 年度

Syllabus 2015

健康科学部 看護学科

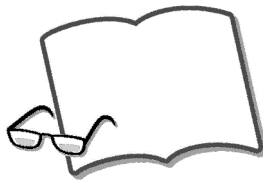
健康科学部

看護学科

兵庫大学の教育

兵庫大学の教育は、聖徳太子の「十七条憲法」に示された「和」の精神に基づいています。「和」の精神が含む「感謝・寛容・互譲」の心を持つとともに、自ら学び、自ら考える力を身につけ、共生社会の形成に主体的に貢献できる人間を育てます。

兵庫大学の3つの方針（ポリシー）について



アドミッションポリシー (AP)

入学者受け入れ方針

兵庫大学では、ディプロマポリシーで示された「3つの力」を理解する、次のような学生を受け入れます。

1. 自ら学ぼうとする意欲のある人
2. 自己を見つめ、自己をふり返る努力ができる人
3. 多様な考えを受け入れ理解しようとする人

カリキュラムポリシー (CP)

教育課程編成方針

兵庫大学では、学生が、ディプロマポリシーで示された「3つの力」を身につけることができるよう、次の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 大学において学ぶために基本的学習技術を習得し、自ら考える態度を身につける
2. 幅広い学問分野の知識や技術を習得し、多面的なものの見方を身につける
3. 実践的専門家になるために必要な専門的知識や技術を習得し、運用することができる力を身につける
4. 社会生活・職業生活についての理解を深め、卒業後も自律的に学習を継続することができる力を身につける
5. 社会や地域社会について体験的に学び、その一員として知識や能力を運用し行動する力を身につける

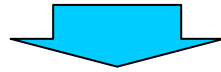
ディプロマポリシー (DP)

学位授与方針

兵庫大学では、学習者が「学士」の学位を取得するために、卒業までに次の能力を備えていることを求めます。

1. 自己を認識し、物事に進んで取り組む力
2. まわりに働きかけ、共に行動する力
3. 学んだ知識や身につけた技術を運用し、生涯にわたって活用できる力

兵庫大学 建学の精神・教育理念

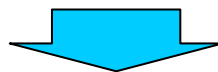


兵庫大学

アドミッション
ポリシー
(AP)

カリキュラム
ポリシー
(CP)

ディプロマ
ポリシー
(DP)

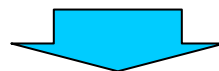


健康科学部

アドミッション
ポリシー
(AP)

カリキュラム
ポリシー
(CP)

ディプロマ
ポリシー
(DP)



看護学科

アドミッション
ポリシー
(AP)

カリキュラム
ポリシー
(CP)

ディプロマ
ポリシー
(DP)

みなさんは、

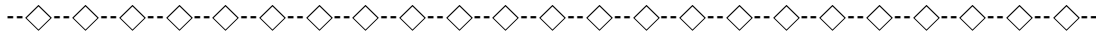
APに基づいて入学し、

CPに沿って学び

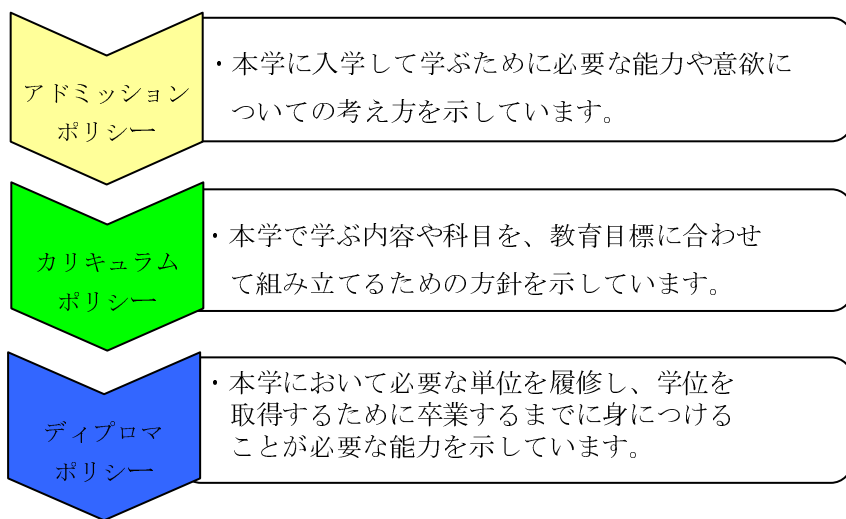
DPに定められた能力を身につけて卒業します。

健康科学部ポリシー

アドミッション ポリシー	カリキュラム ポリシー	ディプロマ ポリシー
<p>・健康科学部のディプロマポリシーを理解し、学ぶ意欲や学問に対する熱意をもち、自らを省みて努力を惜しまず、向上心を忘れない、柔軟な姿勢をもつ学生を受け入れます。</p>	<p>・健康科学部では、専門知識と技術の習得に向けて、基礎となる知識と社会人としての基礎学力を培います。また、学科の専門性に基づいて、健康課題を科学的に解明していく力を養うと共に、実践力を身につけることを目指して、カリキュラムを編成します。</p>	<p>・健康科学部では、生涯を通じて健康の維持と増進に関わる高い専門性を備え、健康で活力に満ちた地域社会の実現に貢献しようとする志をもつ人に、学士の学位を授与します。</p>



3つの方針（ポリシー）について



看護学科ポリシー

看護学科は、学部ポリシーに基づき、豊かな人間性と看護実践能力を備え、地域社会に貢献できる人材の育成を目指します。

アドミッション ポリシー

・健康科学部のアドミッションポリシーに基づき、次のような学生を受け入れます。

1. 人の命や健康に関心を持ち、看護に対して熱意のある人
2. 誠実で何事に対しても努力する姿勢のある人
3. 生涯にわたり自己を管理して学習に取り組もうとする向上心のある人

カリキュラム ポリシー

・看護学科のディプロマポリシーに示された5つの力を身につけるために、次の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 人間理解と人権擁護に必要な幅広い学問分野の知識や技術を習得し、高い倫理観を培うことにより、ヒューマンケアの基本に関する実践能力を身につける
2. 看護に関する専門的知識と技術を習得することにより、根拠に基づいた看護を計画的に展開する実践能力を身につける
3. 人々の健康生活の保持増進や健康障害に必要な援助についての知識と技術を習得することにより、それぞれ特有の看護課題に対応する実践能力を身につける
4. 保健医療福祉チームの一員としてチーム医療における看護の役割を理解し、他職種との協働・連携を通して看護が展開できる実践能力を身につける
5. 変化する社会の中で、看護の役割・責務を自覚し看護学の発展に参加し専門職者として研鑽し続ける基本的能力を身につける

ディプロマ ポリシー

・健康科学部のポリシーに基づき、卒業までに、次の力を身につけた人に学士（看護学）の学位を授与します。

1. 豊かな感性と人間性を持ち、幅広い視点で人とその生活について理解し、命の尊厳と人間尊重について考える力
2. 多様な価値観をもつ人びとや自分と世代・立場の異なる人びとを理解し、看護に必要な援助的人間関係を形成する力
3. 成長発達段階や健康レベルに応じた健康課題をもつ人びとに対して、科学的根拠に基づいた看護を実践する力
4. 保健医療福祉に携わる人と協働し、地域における人々の健康レベルの向上に貢献する力
5. 国際的な視野を持ち、人々の健康に対し実践を通して貢献でき、将来において、看護実践・教育・研究を担い、その発展に貢献できる力

「カリキュラムマップ」には

「ディプロマポリシーに基づいて身につけるべき能力」を具体化したものが上部に記載されています。

各科目において、「特に重要」及び「重要」と思われる能力には「◎」や「○」が記載されます。

看護学科カリキュラムマップ【基礎・教養科目】(平成27、26、25、24年度入学者)

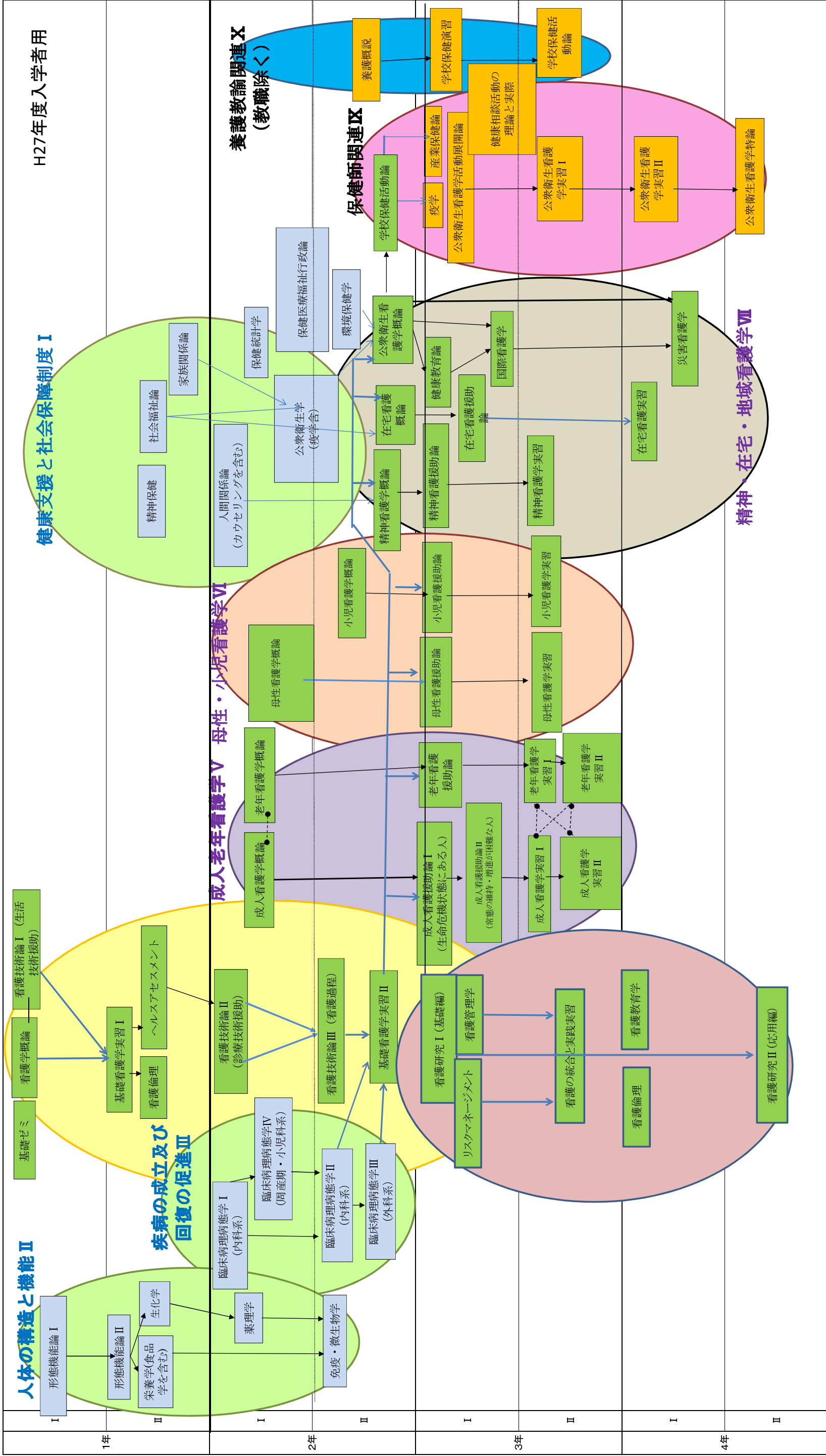
		ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○						
		兵庫大学ディプロマポリシー						
		1)自己を認識し、物事に進んで取り組む力 2)まわりに働きかけ、共に行動する力 3)学んだ知識や身につけた技術を運用し、生涯にわたって活用できる力						
授業科目の区分	授業科目名	A	B	C	D	E	F	G
		コミュニケーション力	情報リテラシー(情報処理能力、情報収集・発信力)	多様なものの見方、考え方ができる力	自己を認識し、他者を理解する力	社会・文化について理解する力	自然・健康について理解する力	論理的思考力
基礎科目	日本語(読解と表現)	◎				○		○
	英語	◎		○		○		
	コンピュータ演習	○	◎					○
	化学基礎			○			◎	○
	生物基礎			○			◎	○
教養	宗教と人生			○	◎	○		
	生命倫理学			○			◎	
	哲学			◎	○			○
	文学			◎	○	○		
	芸術			◎		○		
	心理学			◎	○			○
	仏教と現代社会			◎	○	○		
	国際理解と宗教Ⅰ(キリスト教)			◎	○	○		
	国際理解と宗教Ⅱ(イスラム教)			◎	○	○		
	色彩とデザイン		○	○		◎		○
科	法と社会			○		◎		○
	日本国憲法			○		◎		○
	人権の歴史			○	◎	○		
	政治学			◎		○		○
	社会学			○		◎		○
	経済学			◎		○		○
	化学			○			◎	
	生物学			○			◎	
	食と健康	○				○	◎	
	実用英語(初級)	◎				○		
目	実用英語(中級)	◎				○		
	中国語(初級)	◎				○		
	中国語(中級)	◎				○		
	韓国語(初級)	◎				○		
	韓国語(中級)	◎				○		
	健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)			○			◎	○
	健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)	○			○		◎	
	健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)	○			○		◎	
	私のためのキャリア設計	○		○	◎			○

看護学科カリキュラムマップ(平成27、26、25、24年度入学者)

【健康科学部ディプロマポリシー】生涯を通じて健康の維持と増進に関わる高い専門性を備え、健康で活力に満ちた地域社会の実現に貢献しようとする志をもつ人に、学士の学位を授与します。

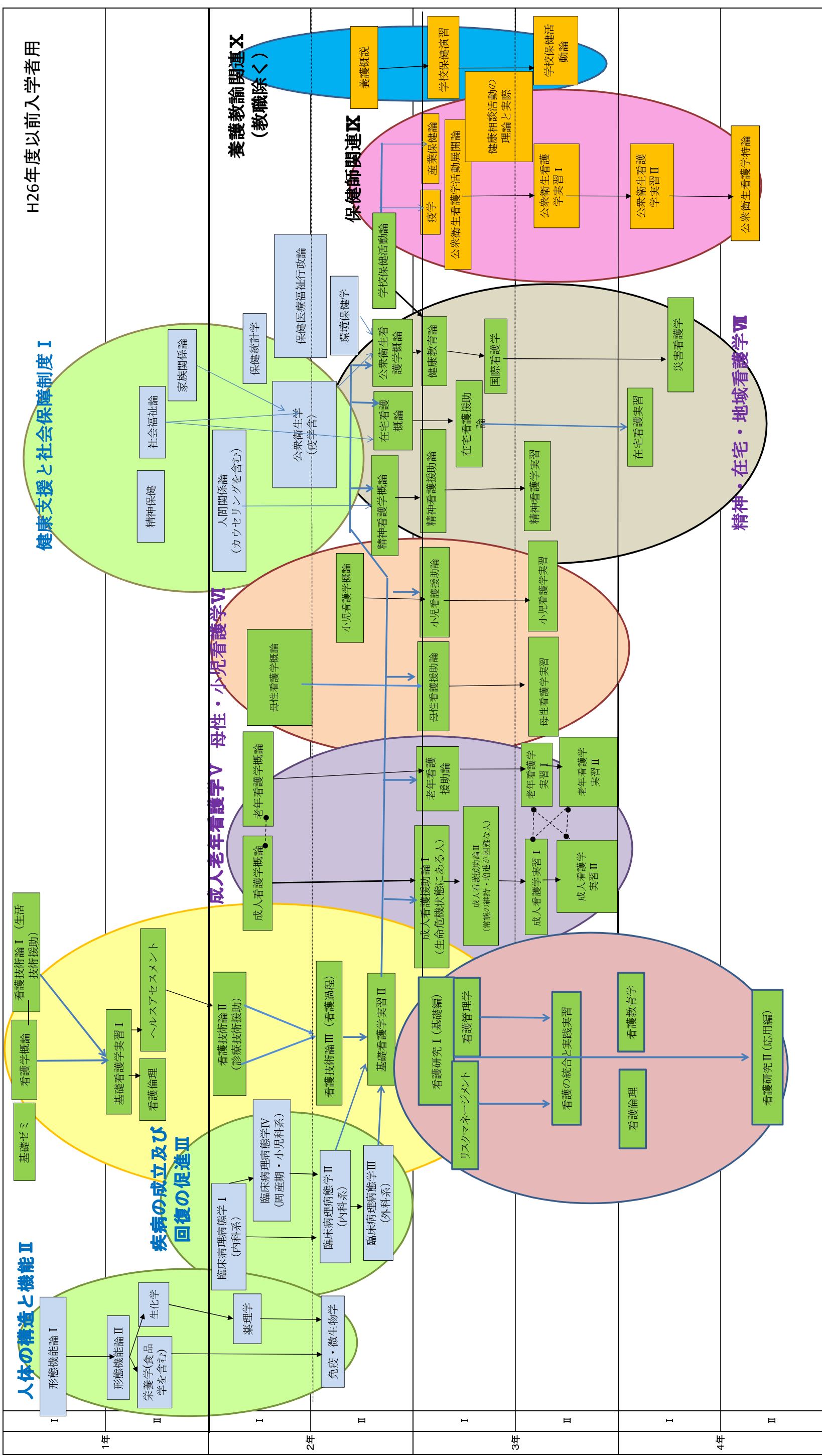
授業科目区分		ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○																				
		看護学科ディプロマポリシー																				
		1			2			3								4			5			
		1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	4-1	4-2	4-3	5-1	5-2	5-3	
授業科目の名称		豊かな感性と人間性を持ち、幅広い視点で人とその生活について理解し、命の尊厳と人間尊重について考える力	多様な価値観をもつ人びとや自分と世代・立場の異なる人びとを理解し、看護に必要な援助の人間関係を形成する力			成長発達段階や健康レベルに応じた健康課題をもつ人びとに対して、科学的根拠に基づいた看護を実践する力								保健医療福祉に携わる人と協働し、地域における人々の健康レベルの向上に貢献する力			国際的な視野を持ち、人々の健康に対し実践を通して貢献でき、将来において、看護実践・教育・研究を担い、その発展に貢献できる力					
I 群 (健康支援と社会保健制度)		社会福祉論												◎	○	○	○					
		人間関係論(カウンセラー含む)		○	○	◎	○															
II 群 (人体の構造と機能)		基礎生物学					○	◎	○			○	○									
		形態機能論 I					○	◎	○			○	○									
III 群 (回復の促進)		臨床病理学 I (内科系)					○	◎	○			○	◎	○								
		臨床病理学 II (内科系)					○	◎	○			○	◎	○								
IV 群 (基礎看護学)		看護学概論	○	○	◎	○	○															
		看護理論			○	○														◎	○	○
V 群 (成人・老年看護学)		ヘルスアセスメント							◎	○	○	○										
		看護技術論 I (生活技術援助)							○	○	○	◎	○									
VI 群 (母性・小児看護学)		基礎看護学実習 I				◎				○	○	○										
		基礎看護学実習 II	○	◎	○				◎	○	○	○										
VII 群 (精神・在宅・公衆衛生看護学)		看護教育論																	○	◎	○	
		看護倫理	◎	○	○															○	○	○
VIII 群 (看護の統合と実)		看護管理学													○	○	○			○	◎	
		成人看護学概論	○	○	○									◎								
IX 群 (保健師関連)		成人看護学実習 I	○											◎	○	○						
		成人看護学実習 II	○	○	○										◎	○						
X 群 (養護)		老年看護学概論	○												○							
		老年看護学実習 I	○																			
XI 群 (看護の発展)		母性看護学概論	○																			
		母性看護学実習			○																	
XII 群 (看護の発展)		小児看護学概論	○																			
		小児看護学実習			○																	
XIII 群 (看護の発展)		精神看護学概論	○																			
		精神看護学実習				○	○	○														
XIV 群 (看護の発展)		在宅看護概論	○																			
		在宅看護実習			○					◎												
XV 群 (看護の発展)		公衆衛生看護学概論													○	◎	○	○				
		健康教育論												◎		○	○					
XVI 群 (看護の発展)		学校保健概論	○											◎		○						
		国際看護学																◎	○	○		
XVII 群 (看護の発展)		基礎ゼミ				◎																
		看護研究 I (基礎編)																		○	◎	○
XVIII 群 (看護の発展)		看護研究 II (応用編)																		○	◎	○
		リスクマネジメント論	○	○												○	◎	○				
XIX 群 (看護の発展)		看護の統合と実践実習	○	○																		
		疫学																				
XX 群 (看護の発展)		公衆衛生看護学活動展開論																				
		健康相談活動の理論と実践																				
XXI 群 (看護の発展)		産業保健論																				
		公衆衛生看護学実習 I																				
XXII 群 (看護の発展)		公衆衛生看護学実習 II																				
		公衆衛生看護学特論																				
XXIII 群 (看護の発展)		学校保健活動論	○																			
		学校保健演習	○																			
XXIV 群 (看護の発展)		養護概説	◎																			

カリキュラム体系表



看護の統合と実践Ⅷ

カリキュラム体系表



看護の統合と実践Ⅷ

H26年度以前入学者用

シラバスの見方

「ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力」について

「重点的に身につける能力」は、学部学科のディプロマポリシーに基づいて、さらに細かく設定された「能力」（下表 1-1…、2-2…など）の中から、授業を通して特に身につけてほしいものを選び出したものです。

なお、シラバスには5つまで記載されていますが、カリキュラムマップでは5つ以上記載されている科目もあります。

経済情報学科ディプロマポリシー														
1				2					3					
自己を認識し、他者を理解し思いやる心と志をもって社会で生きていく力				経済と情報の諸問題について関心をもち、まわりに働きかけ、ともに行動する力					学んだ知識や習得した技術を生涯にわたって活用し、社会に貢献できる力					
1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5
主体的に学ぶ力	コミュニケーション力	プレゼンテーション力	情報活用能力	問題発見力	経済学的思考力	システム的思考力	ビジネス基礎力	キャリア形成力	経営学の知識の応用力	キャリア形成力	社会の働き	経営学の知識	経営学の知識	情報活用能力

科目名、担当者名、授業方法、単位・必修、開講年次・開講期：履修する科目が「必修」なのか「選択」についてチェックしましょう。

《シラバス例》

授業の概要：科目の全体的な内容とともに、その科目を学ぶ意義や必要性について解説されています。

授業の到達目標：科目の目的にそって、学習者が身につけることをめざす能力・知識・態度などについて、具体的な目標が示されています。

成績評価の方法：学習の目標がどの程度達成できたかについて、評価方法や評価の基準、評価方法ごとの配点などが示されています。

授業計画：授業で学習するテーマと学習内容・学習目標などが示されています。15回の授業の流れやキーワードにも目を通しましょう。

テキスト：授業で使用する図書が示されています。図書の他に、プリント教材や視聴覚教材などが示される場合があります。
参考図書：テキスト以外に授業や授業時間外学習の参考となる図書や教材等が示されています。

授業時間外学習：履修している科目の単位は、授業時間以外の学習時間も合わせて認定します。予習復習について、担当教員の指示や考え方をよく読んでおきましょう。

備考：担当教員の授業運営の方針や授業参加に関する考え方、指示・要望等が示されています。必ず目を通しましょう。

「カリキュラムマップ」とは、ディプロマポリシーに基づいて細かく設定された「能力」（マップ上部 1-1…、2-1…など）をどの授業によって身につけるのかについて一覧にしたものです。

単位を積み上げるだけでなく、入学から卒業までにどんな能力を身につける必要があるのかを意識しながら履修していきましょう。

授業科目のナンバリングについて

<ナンバリングとは？>

科目ごとに数字とアルファベットを用いて「ナンバー」を割り振ることを指します。これにより、科目の学修内容の順番や科目間のつながりなどがわかりやすくなります。また、学生が自分に合った科目のレベル（難易度）や専門内容を考えて履修計画を立てることができます。

<ナンバリングの見方>

各授業科目には、9桁のナンバーが付与されています。
そのナンバーは次の基準等により設定しています。

詳細	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
ナンバー	学科	科目の位置づけ			履修区分	学年 (レベル)	通し番号 (001～)

詳細①：学科

K	看護学科
---	------

詳細②③④：科目の位置づけ（専門教育科目）

② ③		
0	1	I群 健康支援と社会保障制度
0	2	II群 人体の構造と機能
0	3	III群 疾病の成立及び回復の促進
0	4	IV群 基礎看護学
0	5	V群 成人老年看護学
0	6	VI群 母性小児看護学
0	7	VII群 精神・地域・在宅看護学
0	8	VIII群 看護の統合と実践
0	9	IX群 保健師関連
1	0	X群 養護教諭関連

④	
A	看護師
B	看護師・保健師
C	看護師・保健師・養護教諭
D	保健師
E	養護教諭
F	保健師・養護教諭
X	指定なし

詳細②③④：科目の位置づけ（基礎・教養科目）

② ③		
B	A	基礎科目
H	U	教養科目（人文）
S	O	教養科目（社会）
N	A	教養科目（自然）
L	A	教養科目（語学）
P	H	教養科目（体育）
C	A	教養科目（キャリア）

④	
L	講義
S	演習
P	実技

詳細⑤：履修区分

1	必修
2	選択
3	選択必修

詳細⑥：学年（レベル）

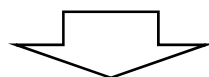
1	1年
2	2年
3	3年
4	4年

詳細⑦：通し番号

001～

例えば、「保健医療福祉行政論」という科目には、＜K01B12006＞というナンバーが付与されています。このナンバーは、次の組み合わせにより付与されたものです。

<p>詳細①：学科 → 看護学科「K」</p> <p>詳細②：科目の位置づけ → I群 健康支援と社会保障制度「01」</p> <p>詳細③：科目の位置づけ → —</p> <p>詳細④：科目の位置づけ → 看護師・保健師「B」</p> <p>詳細⑤：履修区分 → 必修科目「1」</p> <p>詳細⑥：学年レベル → 2年生相当「2」</p> <p>詳細⑦：通し番号 → 通し番号「006」</p>
--



	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
詳細	看護学科	I群 健康支援と 社会保障制度		看護師・ 保健師	必修科目	2年生 相当	通し番号
ナンバー	K	0	1	B	1	2	006

健康科学部看護学科

【卒業要件単位数】

■平成 27～24 (2015～2012) 年度入学生

科目区分		卒業必要単位	内必修単位と科目数	
基礎・教養科目		26 単位	12 単位	6 科目
専門教育科目	専門基礎科目	24 単位	24 単位	12 科目
	専門実践科目	65 単位	65 単位	37 科目
	統合科目	9 単位	9 単位	5 科目
	関連科目	—	—	—
合 計		124 単位	110 単位	60 科目

平成 27～24（2015～2012）年度入学者

基礎科目・教養科目

カリキュラム年次配当表

看護学科 平成27年度（2015年度）入学者対象
（ ）は兼任、[]は兼任講師

授業 科目 区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業 方法	単位数		看護 師	保健 師	養護 教諭 一種	学年配当(数字は週当り授業時間)								平成27年度の 担 当 者	ページ	
				必修	選択				1年		2年		3年		4年				
									I	II	I	II	I	II	I	II			
基 礎 科 目	日本語（読解と表現）	KBAS11001	演習	2		◇	□		2								[野田]・[辻本]	20	
	英語	KBAS11002	演習	2		◇	□		2								(平本幸治)	21	
	英語	KBAS11002	演習	2		◇	□	○	2								[小泉毅]	22	
	英語	KBAS11002	演習	2					2								[Michael. H. FOX]	23	
	英語	KBAS11002	演習	2					2								[廣間準一]	24	
	コンピュータ演習	KBAS11003	演習	2					2								(堀池聡)	25	
	コンピュータ演習	KBAS11003	演習	2		◇	□	○	2								[佐竹邦子]	26	
	コンピュータ演習	KBAS11003	演習	2					2								(西田悦雄)	27	
	化学基礎	KBAL11004	講義	2		◇	□		2								[谷口]・[大藤]・[立谷]	28	
生物基礎	KBAL11005	講義	2		◇	□		2								[市村]・[立谷]・[田中]・[田村]	29		
教 養 科 目	宗教と人生	KHUL11001	講義	2		◇	□		2								(本多彩)	30	
	生命倫理学	KHUL11002	講義	2		◆	■			②							[古庄匡義]	31	
	哲学	KHUL11003	講義	2		◆	■			②							[三浦摩美]	32	
	文学	KHUL11004	講義	2		◆	■		②	②							(安井重雄)	33	
	芸術	KHUL11005	講義	2		◆	■			②							[柳楽節子]	34	
	芸術	KHUL11005	講義	2		◆	■			②							[岩見健二]	35	
	心理学	KHUL11006	講義	2		◆	■		②	②							(北島律之)	36	
	仏教と現代社会	KHUL11007	講義	2		◆	■			②							(本多彩)	37	
	国際理解と宗教Ⅰ（キリスト教）	KHUL11008	講義	2		◆	■		②	②							[根川幸男]	38	
	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）	KHUL11009	講義	2		◆	■		②	②							[重親知左子]	39	
	色彩とデザイン	KHUL11010	講義	2		◆	■		②	②							[浜島]・(稲富)	40	
	法と社会	KSOL21011	講義	2		◆	■			②							[豊福]	41	
	日本国憲法	KSOL21012	講義	2		◆	■	○	②	②							[笹田哲男]	42	
	人権の歴史	KSOL21013	講義	2		◆	■		②	②							[岩本智依]	43	
	政治学	KSOL21014	講義	2		◆	■		②	②							(斎藤正寿)	44	
	社会学	KSOL21015	講義	2		◆	■		②	②							(吉原恵子)	45	
	経済学	KSOL21016	講義	2		◆	■		②	②							(石原敬子)	46	
	化学	KNAL21017	講義	2		◆	■		②	②							[阿部真幸]	47	
	生物学	KNAL21018	講義	2		◆	■			②							(佐藤隆)	48	
	食と健康	KNAL21019	講義	2		◆	■			②							(嶋津裕子)	49	
	実用英語（初級）	KLAS21020	演習	2		◆	■			②							[松盛美紀子]	50	
	実用英語（中級）	KLAS22021	演習	2		◆	■			②									
	中国語（初級）	KLAS21022	演習	2		◆	■		②	②								[佟曉寧]	52
	中国語（中級）	KLAS21023	演習	2		◆	■			②								[佟曉寧]	53
	韓国語（初級）	KLAS21024	演習	2		◆	■		②	②								[高秀美]	54
	韓国語（中級）	KLAS21025	演習	2		◆	■			②								[高秀美]	55
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	KPHL21026	講義	2		◆	■			②								(三宅一郎)	56
	健康・スポーツ科学Ⅰ（演習）	KPHL21026	演習	2		◆	■	○		②								(矢野琢也)	57
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	KPHS21027	演習	2		◆	■		②	②								(三宅-)・(徳田)・(樽本)・(矢野)	58
健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	KPHS21028	演習	2		◆	■			②								(三宅-)・(徳田)・(樽本)	59	
私のためのキャリア設計	KCAL21029	講義	2		◆	■		②	②								[三上嘉代子]	60	

◇は看護師国家試験受験資格必修科目、◆は看護師国家試験受験資格選択科目（14単位以上必要）

□は保健師国家試験受験資格必修科目、■は保健師国家試験受験資格選択科目（12単位以上必要）

○は養護教諭免許必修科目

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

カリキュラム年次配当表

看護学科 平成26年度（2014年度）入学者対象
（ ）は兼担、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		看護師	保健師	養護教諭一種	学年配当 (数字は週当り授業時間)								平成27年度の担当者	ページ
			必修	選択				1年		2年		3年		4年			
								I	II	I	II	I	II	I	II		
基礎科目	日本語（読解と表現）	演習	2		◇	□	○	2									
	英語	演習	2		◇	□	○	2									
	コンピュータ演習	演習	2		◇	□	○	2									
	化学基礎	講義	2		◇	□		2									
	生物基礎	講義	2		◇	□		2									
教養科目	宗教と人生	講義	2		◇	□		2									
	生命倫理学	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[古荘匡義]	31
	哲学	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[三浦摩美]	32
	文学	講義	2		◆	■		②		②		②		②	(安井重雄)	33	
	芸術	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[柳楽節子]	34
	芸術	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[岩見健二]	35
	心理学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		(北島律之)	36
	仏教と現代社会	講義	2		◆	■		②		②		②		②		(本多彩)	37
	国際理解と宗教Ⅰ（キリスト教）	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[根川幸男]	38
	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[重親知左子]	39
	色彩とデザイン	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[浜島]・[稲富]	40
	法と社会	講義	2		◆	■			②		②		②		②	[豊福]	41
	日本国憲法	講義	2		◆	□	○	②		②		②		②		[笹田哲男]	42
	人権の歴史	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[岩本智依]	43
	政治学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		(斎藤正寿)	44
	社会学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		(吉原恵子)	45
	経済学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		(石原敬子)	46
	化学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[阿部真幸]	47
	生物学	講義	2		◆	■			②		②		②		②	(佐藤隆)	48
	食と健康	講義	2		◆	■			②		②		②		②	(嶋津裕子)	49
実用英語（初級）	演習	2		◆	■			②		②		②		②	[松盛美紀子]	50	
実用英語（中級）	演習	2		◆	■				②		②		②		[松盛美紀子]	51	
中国語（初級）	演習	2		◆	■		②		②		②		②		[佟曉寧]	52	
中国語（中級）	演習	2		◆	■			②		②		②		②	[佟曉寧]	53	
韓国語（初級）	演習	2		◆	■		②		②		②		②		[高秀美]	54	
韓国語（中級）	演習	2		◆	■			②		②		②		②	[高秀美]	55	
健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2		◆	■			②		②		②		②	(三宅一郎)	56	
健康・スポーツ科学Ⅰ（演習）	演習	2		◆	■			②		②		②		②	(矢野琢也)	57	
健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習	2		◆	■	○	②		②		②		②		(三宅-)・(徳田)・(橋本)・(矢野)	58	
健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習	2		◆	■			②		②		②		②	(三宅-)・(徳田)・(橋本)	59	
私のためのキャリア設計	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[三上嘉代子]	60	

◇は看護師国家試験受験資格必修科目、◆は看護師国家試験受験資格選択科目（14単位以上必要）
 □は保健師国家試験受験資格必修科目、■は保健師国家試験受験資格選択科目（12単位以上必要）
 ○は養護教諭免許必修科目
 ※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

カリキュラム年次配当表

看護学科 平成25年度（2013年度）入学者対象
（ ）は兼担、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		看護師	保健師	養護教諭一種	学年配当(数字は週当り授業時間)								平成27年度の担当者	ページ
								1年		2年		3年		4年			
								I	II	I	II	I	II	I	II		
基礎科目	日本語(読解と表現)	演習	2		◇	□	○	2									
	英語	演習	2		◇	□	○	2									
	コンピュータ演習	演習	2		◇	□	○	2									
	化学基礎	講義	2		◇	□		2									
	生物基礎	講義	2		◇	□		2									
教養科目	宗教と人生	講義	2		◇	□		2									
	生命倫理学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[古荘匡義]	31
	哲学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[三浦摩美]	32
	文学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		(安井重雄)	33
	芸術	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[柳楽節子]	34
	芸術	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[岩見健二]	35
	心理学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		(北島律之)	36
	仏教と現代社会	講義	2		◆	■		②		②		②		②		(本多彩)	37
	国際理解と宗教Ⅰ(キリスト教)	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[根川幸男]	38
	国際理解と宗教Ⅱ(イスラム教)	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[重親知左子]	39
	色彩とデザイン	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[浜島]・[稲富]	40
	法と社会	講義	2		◆	■		②		②		②		②		豊福	41
	日本国憲法	講義	2		◆	□	○	②		②		②		②		[笹田哲男]	42
	人権の歴史	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[岩本智依]	43
	政治学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		(斎藤正寿)	44
	社会学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		(吉原恵子)	45
	経済学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		(石原敬子)	46
	化学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[阿部真幸]	47
	生物学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		(佐藤隆)	48
	食と健康	講義	2		◆	■		②		②		②		②		(嶋津裕子)	49
	実用英語(初級)	演習	2		◆	■		②		②		②		②		[松盛美紀子]	50
	実用英語(中級)	演習	2		◆	■		②		②		②		②		[松盛美紀子]	51
	中国語(初級)	演習	2		◆	■		②		②		②		②		[佟曉寧]	52
	中国語(中級)	演習	2		◆	■		②		②		②		②		[佟曉寧]	53
	韓国語(初級)	演習	2		◆	■		②		②		②		②		[高秀美]	54
	韓国語(中級)	演習	2		◆	■		②		②		②		②		[高秀美]	55
	健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)	講義	2		◆	■		②		②		②		②		(三宅一郎)	56
	健康・スポーツ科学Ⅰ(演習)	演習	2		◆	■		②		②		②		②		(矢野琢也)	57
	健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)	演習	2		◆	■	○	②		②		②		②		(三宅-)・(徳田)・(橋本)・(矢野)	58
健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)	演習	2		◆	■		②		②		②		②		(三宅-)・(徳田)・(橋本)	59	
私のためのキャリア設計	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[三上嘉代子]	60	

◇は看護師国家試験受験資格必修科目、◆は看護師国家試験受験資格選択科目(14単位以上必要)
 □は保健師国家試験受験資格必修科目、■は保健師国家試験受験資格選択科目(12単位以上必要)
 ○は養護教諭免許必修科目
 ※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

カリキュラム年次配当表

看護学科 平成24年度（2012年度）入学者対象
（ ）は兼担、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		看護師	保健師	養護教諭一種	学年配当 (数字は週当り授業時間)								平成27年度の担当者	ページ
			必修	選択				1年		2年		3年		4年			
								I	II	I	II	I	II	I	II		
基礎科目	日本語（読解と表現）	演習	2		◇	□	○	2									
	英語	演習	2		◇	□	○	2									
	コンピュータ演習	演習	2		◇	□	○	2									
	化学基礎	講義	2		◇	□		2									
	生物基礎	講義	2		◇	□		2									
教養科目	宗教と人生	講義	2		◇	□		2									
	生命倫理学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[古荘匡義]	31
	哲学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[三浦摩美]	32
	文学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		(安井重雄)	33
	芸術	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[柳楽節子]	34
	芸術	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[岩見健二]	35
	心理学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		(北島律之)	36
	仏教と現代社会	講義	2		◆	■		②		②		②		②		(本多彩)	37
	国際理解と宗教Ⅰ（キリスト教）	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[根川幸男]	38
	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[重親知左子]	39
	色彩とデザイン	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[浜島]・[稲富]	40
	法と社会	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[豊福]	41
	日本国憲法	講義	2		◆	□	○	②		②		②		②		[笹田哲男]	42
	人権の歴史	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[岩本智依]	43
	政治学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		(斎藤正寿)	44
	社会学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		(吉原恵子)	45
	経済学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		(石原敬子)	46
	化学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[阿部真幸]	47
	生物学	講義	2		◆	■		②		②		②		②		(佐藤隆)	48
	食と健康	講義	2		◆	■		②		②		②		②		(嶋津裕子)	49
実用英語（初級）	演習	2		◆	■		②		②		②		②		[松盛美紀子]	50	
実用英語（中級）	演習	2		◆	■		②		②		②		②		[松盛美紀子]	51	
中国語（初級）	演習	2		◆	■		②		②		②		②		[佟曉寧]	52	
中国語（中級）	演習	2		◆	■		②		②		②		②		[佟曉寧]	53	
韓国語（初級）	演習	2		◆	■		②		②		②		②		[高秀美]	54	
韓国語（中級）	演習	2		◆	■		②		②		②		②		[高秀美]	55	
健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2		◆	■		②		②		②		②		(三宅一郎)	56	
健康・スポーツ科学Ⅰ（演習）	演習	2		◆	■		②		②		②		②		(矢野琢也)	57	
健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習	2		◆	■	○	②		②		②		②		(三宅-)・(徳田)・(橋本)・(矢野)	58	
健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習	2		◆	■		②		②		②		②		(三宅-)・(徳田)・(橋本)	59	
私のためのキャリア設計	講義	2		◆	■		②		②		②		②		[三上嘉代子]	60	

◇は看護師国家試験受験資格必修科目、◆は看護師国家試験受験資格選択科目（14単位以上必要）

□は保健師国家試験受験資格必修科目、■は保健師国家試験受験資格選択科目（12単位以上必要）

○は養護教諭免許必修科目

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	日本語(読解と表現)	科目ナンバリング	KBAS11001
担当者氏名	野田 直恵、辻本 恭子		
授業方法	演習	単位・必修	2・必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-E 社会・文化について理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

大学での学習、就職活動、および日常生活、社会生活などにおいて必要な、漢字・慣用表現・主語と述語・助詞・敬語の用法などの日本語の基礎的知識と表現のあり方を学ぶ。毎回、配布プリントの問題を解いていく演習形式で行い、教員の説明のあと、実際に辞書などを引きながら問題を解いていく。

《テキスト》

授業時に、設問形式のプリントを配布する。

《参考図書》

授業時に、指示する。

《授業の到達目標》

漢字・慣用表現、主語と述語の呼応、適切な助詞の使い方、敬語を適切な用法など、日本語の基本的な表現方法を身につける。それによって、日本語の教養とコミュニケーション能力を高める。

《授業時間外学習》

当日の授業で不明であった点を辞書で調べ、あるいは先生に質問して不審箇所を明らかにしておく。また、次回の授業のプリントを読み、内容を確認しておく。

《成績評価の方法》

10回以上出席しないと単位を与えない。授業時に複数回実施する課題の提出(50%)と定期試験(50%)によって評価する。

《備考》

毎回、設問を解くなどの課題を行うので、国語辞典(電子辞書も可)を必ず持参すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の流れの説明・漢字の書き取り	15回の授業の進行と学習する内容の説明をする。
2	漢字の書き取り・四字熟語	漢字の音読み・訓読みを理解し、同音異義語・同訓異義語を書き分ける。
3	漢字の書き取り・四字熟語	四字熟語には日本文化のエッセンスが凝縮されている。多くの四字熟語を知り、それらを理解する。
4	ことわざ・故事成語	ことわざ・故事成語には、古くから伝わる生活の知恵や社会生活を送る上での教訓が詰まっている。現代にも生きているそれらの表現を学ぶ。
5	慣用句	現代でも、「気がおけない」「悪びれないで」など、よく使われるけれど、間違いやすい慣用句がある。それらの意味と使い方を学ぶ。
6	主語と述語	主語と述語を関係づけて文を理解することにより、正確に文章を読解する。
7	主語と述語	述語には、動詞・形容詞・形容動詞・～ある(ない)などの型があることを学ぶ。
8	修飾語と被修飾語、接続詞と副詞の用法	修飾語を被修飾語に近づけてわかりやすく書くことを学ぶ。文と文、語と語との接続や、副詞による用言の修飾について学ぶ。
9	助詞の用法	「は」と「が」の意味の違い、「に」と「へ」の意味の違いなど、助詞を正しく使い分けることを学ぶ。
10	助詞の用法	「は」と「が」の意味の違い、「に」と「へ」の意味の違いなど、助詞を正しく使い分けることを学ぶ。
11	敬語	尊敬語、謙譲語・、丁寧語、美化語という敬語の5分類について学ぶ。
12	敬語	尊敬語と謙譲語の動詞について学ぶ。
13	敬語	現代では通用しているが、本当は誤った敬語である過剰敬語について学ぶ。
14	敬語	社会的な場における敬語の使い方について学ぶ。
15	授業のまとめ	授業全体について振り返り、授業内容をまとめる。

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	英語	科目ナンバリング	KBAS11002
担当者氏名	平本 幸治		
授業方法	演習	単位・必修	2・必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-E 社会・文化について理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

学生生活に密着した英語表現とTOEIC Test形式の練習問題を中心に編集されたテキストを利用して、実際的なコミュニケーション能力を養成します。テキストを着実に読み進み、内容、語義、文法事項、発音などを確認します。CDを用いて音声面の練成を試みます。小テストにより基本的な知識が定着するように努めます。

《テキスト》

『TOEIC Test Fundamentals』クリストファー・ブルスミス他（南雲堂）

《参考図書》

適宜参考となる文献や資料を紹介します。

《授業の到達目標》

日常生活や職場で遭遇する英語による情報を理解でき、実際のコミュニケーションに必要な表現を使いこなせる、実用的な英語を身につけることを目標とします。

《授業時間外学習》

次回の学習範囲の単語や慣用句などの意味を調べ、テキストを精読しておいて下さい。

《成績評価の方法》

期末レポート（50％）、授業中に実施する小テスト（50％）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Unit 1 Campus Life	学生生活を始めるにあたって、友人達との日常会話表現を学ぶ。
2	Unit 2 Homestay	外国のホームステイ先での日常会話表現を学ぶ。
3	Unit 3 Making Friends	学生生活での新しい友人との出会いの日常会話表現を学ぶ。
4	Unit 4 At a Party	パーティーでの日常会話表現を学ぶ。
5	Unit 5 In the Cafeteria	大学内のカフェテリアでの日常会話表現を学ぶ。
6	Unit 6 In the Library	大学内の図書館での日常会話表現を学ぶ。
7	Unit 7 Talking about the Weather	天候に関する日常会話表現を学ぶ。
8	Unit 8 Making Telephone Calls	電話における日常会話表現を学ぶ。
9	Unit 9 Weekend Activities	学生生活の週末の過ごし方に関する日常会話表現を学ぶ。
10	Unit 10 Driving	自動車の運転に関する日常会話表現を学ぶ。
11	Unit 11 At a Bank	銀行の窓口での日常会話表現を学ぶ。
12	Unit 12 Shopping	買い物に関連する日常会話表現を学ぶ。
13	Unit 13 Internet Shopping	インターネットに関連する日常会話表現を学ぶ。
14	Unit 14 At a Photo Shop	写真屋さんでの日常会話表現を学ぶ。
15	Unit 15 At a Campus Bookstore	大学内の本屋さんでの日常会話表現を学ぶ。

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	英語	科目ナンバリング	KBAS11002
担当者氏名	小泉 毅		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-E 社会・文化について理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

リスニングの基礎から総復習をはかる。Phonicsによる基本の音を勉強し、歌、会話と発展していく。

《テキスト》

プリントを配布しますから、専用のバインダーと辞書を持ってきてください。〔Enjoy English〕(長崎出版)

《授業の到達目標》

英語に親しませる事を目標とし、とくに基礎から聞いて話す事に力点をおき、英語が聴けるようになったと自信を持たせたい。そして、将来、英検、TOEIC、TOEFLにチャレンジする自信をつけさせたい。

《参考図書》

NHKラジオの「新基礎英語」を家で聴く事を宿題とします。本の購入は問いません。とにかく聴いて英語になれることです。

《成績評価の方法》

英検ノートづくり、クラスでの発表、小テスト、宿題を総合して評価する。定期テストはしない。なぜなら英語学習は毎日コツコツ聞くことが大切だからです。発表(40%)、宿題(30%)、小テスト(30%)

《授業時間外学習》

毎回宿題を出します。宿題内容は、音読をして、丁寧にノートに書いて、暗唱までです。又、図書館の参考図書をよく利用してください。この他、DVD、VIDEO、TV等で生の英語にどんどん触れて感銘を受けた作品などの紹介や、感想文を英語で記録する。

《備考》

1.出席重視です。2.席を決めていつもパートナーと一緒に発表する。3.恥ずかしがらないで、英語で話して下さい。4.授業は英語力アップのため全て英語で話します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	自己紹介	授業の説明、自己紹介、評価の説明
2	初めての人に会う ありがとう	小テスト、会話(挨拶)、Phonics(Alphabet)英検5級リスニングテスト
3	場所を聞く いつ練習するの?	小テスト、会話、Phonics(Alphabet)英検5級リスニングテスト
4	何時ですか?	小テスト、会話、Phonics(子音)英検4級リスニングテスト
5	電話で話す	小テスト、会話、Phonics(子音)英検4級リスニングテスト
6	なぜと理由を聞く	小テスト、会話、Phonics(母音)英検3級リスニングテスト
7	体調を聞く	小テスト、会話、Phonics(母音)英検3級リスニングテスト
8	計画を聞く	小テスト、会話、Phonicsを使った読解練習 英検5級(全体)
9	許しを得る	小テスト、会話、Phonicsを使った読解練習 英検5級(全体)
10	~しましょうか? ~しませんか?	小テスト、会話、Phonics(silent E) 英検4級(全体)
11	値段を聞く	小テスト、会話、Phonics(silent E) 英検3級(全体)
12	~はいかがですか?と物をすすめる	小テスト、会話、Phonics(polite vowels) 英検準2級(全体)
13	乗り物で行き先を尋ねる 道を尋ねる	小テスト、会話、Phonics(polite vowels) 英検5、4級の総復習
14	いい考えねと自分の考えをいう	小テスト、会話総復習、Phonics総復習 英検3級総復習
15	総復習	小テスト、会話総復習、Phonics総復習 英検準2級総復習

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	英語	科目ナンバリング	KBAS11002
担当者氏名	Michael.H.FOX		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-E 社会・文化について理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

日本の英語教育制度の目標は、受験合格に他ならない。大学受験英語は非常に難しく、英語が嫌いと言う学生も多い。しかしながら、受験英語の成績と英会話の能力は一切関係なく、受験英語がどうしてもできないと言う人でも、英会話を修得することができる。このコースの主な特徴は、外国人講師からゆっくりと親切な指導を受け、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する生きている。英語を楽しみながら身につける。

《成績評価の方法》

成績評価は、毎回の講義における参加意欲・学力伸張を80パーセント、学期末に行う試験を20パーセントとする。外国語を修得するためには、できるだけその言語を集中して勉強する必要がある。そこで出席を重視する。試験なしの評価もあるのでぜひ精一杯に努力すること。

《テキスト》

教科書『Talk Time Student Book2』を購買部で購入。先輩から古本を受けることは禁止。

《参考図書》

毎週、英語の曲を聴取し、プリントを配布。

《授業時間外学習》

宿題以外、テレビの広告・電車内のポスター・T-シャツ等の英語をよく注目せよ。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction & Orientation	自己紹介をする
2	Describing People	人を述べる事
3	Everyday Activities	毎日の活動・習慣を喋る
4	Food and Drinks	食べ物と飲み物の話
5	Snacks	スナックの世界
6	Housing	家・住宅をデザインし、話す事
7	Free Time Activities	暇と活動
8	Popular Sports	人気なスポーツは？
9	Life Events	一生の一大事な行事
10	Weekend Plans	週末を過ごす
11	Movies	映画が好きですか？
12	TV Programs	テレビとその番組
13	Health Problems	健康と病気
14	On the telephone	電話の言葉
15	まとめ or 自己評価	まとめ or 自己評価

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	英語	科目ナンバリング	KBAS11002
担当者氏名	廣間 準一		
授業方法	演習	単位・必修	2・必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

昨今、急速なグローバル化の拡大は、最低限必要とされる英語でのコミュニケーション力の必要性が求められている。当授業は受験英語ではなく、自然に英語に親しみ、楽しみながら話せる英語を身に付ける授業とする。

《テキスト》

My First Trip Key Phrases for Traveling Abroad Tae Kudo センゲージラーニング株式会社

《参考図書》

各授業毎に適宜プリントを配布予定。上記テキストに加え、色々なケーススタディを実施する。

《授業の到達目標》

英語でコミュニケーションする為の基礎(土台)をつくることを目標とし、日常の生活の中で出会う場面を想定し、話せる英語を目的とする。また国際理解と英語でのコミュニケーション力の上達も目指すものとする。

《授業時間外学習》

NHKのラジオ、TVの英会話を活用する方法を授業中に指導予定。

《成績評価の方法》

期中試験:20% 授業態度・積極性:20% 期末試験:60%とする。

《備考》

積極的に授業に参加し積極的取りくみを重視 授業は英語でやります 個人、ペアワーク、チームでの作業、自主的な発表

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction	授業の説明、授業の進め方、自己紹介、評価説明等
2	Unit 1: On the Plane	想定場面/機内・Key Phraseの紹介・Key Phraseを使って会話練習・Key Vocabulary(基本語句や表現)の練習
3	Unit 2: At the Currency Exchange	想定場面/両替所・Key Phraseの紹介・Key Phraseを使って会話練習・Key Vocabulary(基本語句や表現)の練習
4	Unit 3: At the Hotel(1)	想定場面/ホテル・Key Phraseの紹介・Key Phraseを使って会話練習・Key Vocabulary(基本語句や表現)の練習
5	Unit 4: At the Hotel(2)	想定場面/ホテル・Key Phraseの紹介・Key Phraseを使って会話練習・Key Vocabulary(基本語句や表現)の練習
6	Unit 5: On the Train/Bus	想定場面/電車・バス・Key Phraseの紹介・Key Phraseを使って会話練習・Key Vocabulary(基本語句や表現)の練習
7	Unit 6: Sightseeing(1)	想定場面/観光(1)・Key Phraseの紹介・Key Phraseを使って会話練習・Key Vocabulary(基本語句や表現)の練習
8	Unit 1-6: の復習	ユニット1~6までの復習
9	Unit 7: Shopping(1)	想定場面/買い物(1)・Key Phraseの紹介・Key Phraseを使って会話練習・Key Vocabulary(基本語句や表現)の練習
10	Unit 8: Shopping(2)	想定場面/買い物(2)・Key Phraseの紹介・Key Phraseを使って会話練習・Key Vocabulary(基本語句や表現)の練習
11	Unit 9: At the Post Office	想定場面/郵便局・Key Phraseの紹介・Key Phraseを使って会話練習・Key Vocabulary(基本語句や表現)の練習
12	Unit 10: Sightseeing(2)	想定場面/観光(2)・Key Phraseの紹介・Key Phraseを使って会話練習・Key Vocabulary(基本語句や表現)の練習
13	Unit 11: At the Restaurant	想定場面/レストラン・Key Phraseの紹介・Key Phraseを使って会話練習・Key Vocabulary(基本語句や表現)の練習
14	Unit 12: At the Hospital/Pharmacy	想定場面/病院・薬局・Key Phraseの紹介・Key Phraseを使って会話練習・Key Vocabulary(基本語句や表現)の練習
15	Unit 13: Unit 7-12の復習	ユニット7-12の復習

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	コンピュータ演習	科目ナンバリング	KBAS11003
担当者氏名	堀池 聡		
授業方法	演習	単位・必修	2・必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-B 情報リテラシー（情報処理能力、情報収集・発信力） 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

コンピュータを活用し、自分が調べたことや自分が考えたことなどを他者に正確に伝える報告書や発表用スライドなどを作成する技術を学びます。具体的にはMicrosoft Officeのワード、エクセル、パワーポイントについて演習を行います。

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布します。

《参考図書》

適宜紹介します。

《授業の到達目標》

まず、本学計算機実習室の基本的な使い方とコンピュータに関する基本的な知識を身につけます。そのうえで文書作成、表計算、発表用のスライドの作成技術などを身につけます。

《授業時間外学習》

課題が出されたときは、まずその課題を行ってください。授業で習った操作は、その時はできてもすぐに忘れます。復習に力を入れ、操作に慣れるようにしてください。

《成績評価の方法》

・毎回の提出課題の提出状況(20%)と課題内容(80%)を総合的に評価します。

《備考》

授業の課題だけでなく普段の生活の中でもコンピュータを活用し、授業で習った内容を自分のものにするよう心がけてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	授業の概要説明、計算機実習室利用の手続きと初期設定等
2	文書作成の基本	文字入力、課題提出方法
3	情報ネットワークと社会	ネットワークにおける法と倫理、情報セキュリティ
4	文書作成(1)	ページレイアウトや書式設定の基礎
5	文書作成(2)	表や図形の挿入
6	文書作成(3)	応用課題
7	表計算(1)	表計算における簡単なデータ処理と表の作成
8	表計算(2)	表計算における関数の活用、絶対参照と相対参照
9	表計算(3)	表計算におけるIF関数
10	表計算(4)	表計算におけるテーブル検索
11	表計算(5)	表計算における書式設定
12	プレゼンテーション(1)	プレゼンテーションの作成
13	プレゼンテーション(2)	プレゼンテーションにおけるアニメーションの活用
14	プレゼンテーション(3)	発表の仕方と発表の準備
15	プレゼンテーション(4)	発表演習

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	コンピュータ演習		科目ナンバリング	KBAS11003	
担当者氏名	佐竹 邦子				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-B 情報リテラシー（情報処理能力、情報収集・発信力） 基教-G 論理的思考力				

《授業の概要》

パソコンなどの情報機器やインターネットを使えることは現在の社会では必須の能力となっています。この授業では、学生生活のために必要な情報技術・知識を習得し、さらには将来にわたって長く役立つ知識を習得することも目指します。授業は毎回演習形式で行います。

《授業の到達目標》

コンピュータやインターネットが広く利用されている現在の社会で、将来にわたってそれらを使いこなしていくための基礎知識を身につけられる。メールやインターネット、各種ソフトウェアの基本的な使い方から、ネットワーク社会でのマナーも身につけられる。

《成績評価の方法》

- (1)平常点（20%）
- (2)提出課題（80%）

《テキスト》

「学生のためのアカデミック情報リテラシー（2013対応）」、noa出版

《参考図書》

- ・情報モラル&情報セキュリティ、FOM出版
- ・Microsoft Word 2013 ドリル、FOM出版
- ・Microsoft Excel 2013 ドリル、FOM出版
- ・Microsoft PowerPoint 2013 応用、FOM出版

《授業時間外学習》

- 1)予習の方法：次回の授業範囲のテキストに読んでおくこと。分からない専門用語等が出てきた場合には、メモをして可能な限り事前に調べておくこと。
- 2)復習の方法：授業範囲のテキスト・配布プリントを読み返すこと。分からない内容があるときは、関連図書を読んだり直接質問したりすること。

《備考》

- 1)欠席した場合、次回までに自習する。プリントはオフィスアワーなどに受け取りに来る。2)質問等はオフィスアワーなどに来る。授業時間直前は、質問や欠席回プリント要求は控える。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	授業概要の説明、学内情報システムに関する理解 実習室サインインアカウントの確認、パスワード管理方法の理解
2	Windowsの基礎、インターネットとメール(1)	Windowsの基本操作、 Webメールの送受信、署名の設定、連絡先機能の利用
3	インターネットとメール(2)	ファイル添付、メールに関するマナー 検索サイトの利用、検索オプションの活用
4	情報モラル	情報モラル、著作権・肖像権の理解 個人情報保護の理解
5	レポートをまとめる(1)	Wordの画面構成、ページ設定、表紙の作成、フッター、 フォントの装飾、インデント
6	レポートをまとめる(2)	表の作成、参考文献、脚注、全体の形式を整える、 印刷
7	Word演習課題	Wordを用いる演習課題
8	データを整理する(1)	Excelの画面構成、範囲指定、四則演算、SUM関数、AVERAGE関数等。 相対参照・絶対参照等。
9	データを整理する(2)	各種関数の利用。 セル書式の設定、罫線設定、グラフ作成、データの並べ替え、シート操作
10	Excel演習課題	Excelを用いる演習課題
11	スライド資料を作る(1)	目的、PowerPointの画面構成、スライド作成とプレゼンテーションの流れ、 テーマ、アウトラインペイン、入力
12	スライド資料を作る(2)	SmartArt、画面切り替え効果、アニメーション、スライドショー、 ノートの入力、スライドの印刷、リハーサル
13	PowerPoint演習課題	PowerPointを用いる演習課題
14	総合課題(1)	これまでのまとめとなる課題を行なう。
15	総合課題(2)	これまでのまとめとなる課題を行なう。

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	コンピュータ演習		科目ナンバリング	KBAS11003	
担当者氏名	西田 悦雄				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-B 情報リテラシー（情報処理能力、情報収集・発信力） 基教-G 論理的思考力				

《授業の概要》

本学計算機実習室のコンピュータを使うための基礎的な知識や技術の習得を目指します。

また、情報化社会の通信基盤である「コンピュータ・ネットワーク」の利用に際しての利便性や危険性など情報化社会で必要とされる「情報モラル」などの知識の獲得も目指します。

《授業の到達目標》

1. 情報収集のためのWebブラウザを使った検索等の操作ができる。
2. レポート作成に用いるワードプロセッサソフト・表計算ソフトや発表のためのプレゼンテーションソフトの操作が行え、活用できる。
3. 情報の共有やコミュニケーションのための電子メールが活用できる。

《成績評価の方法》

提出課題の提出状況(20%)と課題内容(70%)，平常点(10%)を総合的に評価します。

欠席回数が全授業実施回数の1/3以上あるときには単位認定できないことがあります。

《テキスト》

教科書は使用しません。必要に応じて適宜配布します。

《参考図書》

小柳・小野・平井・宮本編著(教師を目指す人のための)「教育方法・技術論」学芸図書，2012. など。
必要に応じて適宜授業内で紹介します。

《授業時間外学習》

授業内で配付する資料は学期終了まで自由に閲覧できますから，配付資料を熟読し理解を深めて下さい。
課題作成は授業時間内を基本としていますが，不足分は時間外学習で対応して下さい。

《備考》

「便利な文房具や道具」としてのコンピュータの積極的な利用を希望します。また，より深い理解を促すために授業計画の順序等を変更・修正するときがあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要 利用のための手続き	計算機実習室利用のための手続きと初期設定
2	Windowsの基礎と電子メール	Windowsのパスワード変更，電子メールの概要と活用
3	Webブラウザ	Webブラウザの操作方法，検索サイト，情報化の光と影
4	文書作成(1)	ワードプロセッサソフトの基本知識・操作
5	文書作成(2)	Webブラウザとの連携(検索エンジンを利用した情報検索/収集)
6	文書作成(3)	Webブラウザとの連携，情報の引用，参照のつけ方，文書作成
7	表計算ソフト(1)	表計算ソフトの基本知識，セル，罫線，表組の活用，基本的な関数の活用
8	表計算ソフト(2)	グラフ描画方法，有効なグラフの形状
9	プレゼンテーションソフト(1)	プレゼンテーションソフトの基礎知識，発表テーマの設定と作成
10	プレゼンテーションソフト(2)	アニメーションとデザインの活用
11	プレゼンテーション資料の発表/総合的な演習(1)	資料を用いての発表，レポート，課題作成のための実践...テーマ設定
12	総合的な演習(2)	レポート，課題作成のための実践...表計算ソフトとワープロソフトの連携
13	総合的な演習(3)	レポート，課題作成のための実践...表計算ソフトとプレゼンテーションソフトの連携
14	総合的な演習(4)	レポート，課題作成のための実践...見栄えする資料作成のコツ
15	総合的な演習(5)	まとめ...総合的な演習とその他補足

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	化学基礎		科目ナンバリング	KBAL11004	
担当者氏名	谷口 武、大藤 隆彦、立谷 正樹				
授業方法	講義	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-F 自然・健康について理解する力 基教-G 論理的思考力				

《授業の概要》

授業期間の2/3を用いて、原子の構造や化学結合、化学反応や分子の状態などについて学び、物質への理解を深めます。その後の1/3の期間で、生命に関連の深い有機化学の基礎について学び、健康・医療・栄養科学を学ぶための導入となる講義を行います。

《授業の到達目標》

大学で健康・医療・栄養の関連分野を学ぶためには、化学の基礎知識が必要となります。化学的な知識があつてこそ、これらの学問の理解を速やかに進め、応用することができると考えます。本講義では、高校で履修する化学と同程度の基本的な知識を、生体成分や栄養成分の知識と密に関連して授業を進めることによって、健康・医療・栄養という各専門分野での勉強が確かな土台の上でおこなえるようにします。

《成績評価の方法》

アチーブメントテストの成績を主とし、この他に授業中に行う小テスト及び受講態度を含めた平常点を加味して総合的に評価します。(アチーブメントテスト70%、平常点30%)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	原子の構造	物質を構成する原子と、原子を構成する陽子・電子・中性子
2	原子の結合	いろいろな結合 イオン・共有・配位・水素結合
3	溶液の濃度	重量百分率(%)、モル、モル濃度
4	化学反応式	$CH_4 + 2O_2 \rightarrow CO_2 + 2H_2O$ の意味
5	熱化学反応式	ガスコンロ・・・都市ガスを燃やすと熱が出るのは？
6	酸と塩基	酸味の原因、PH
7	酸化・還元	物質が電子を得ること・失うこと
8	水の三態	氷・水・水蒸気、違いはなにか？ アチーブメントテスト
9	溶解・浸透圧・コロイド	ナメクジに塩をかけると・・・ コロイドとはなにか？
10	有機化学 有機化合物	炭素を中心とする化学
11	有機化学 官能基の働き	良い匂い・悪い臭い
12	有機化学 糖質・脂質	人間の活動をもたらすエネルギー源
13	有機化学 タンパク質	酵素の働き
14	ビタミン・ミネラル	化学と栄養 この講義全体のポイント再チェック
15	まとめ	学習の総括とアチーブメントテスト

《テキスト》

「化学図録」(数研出版)

《参考図書》

上記のテキストで十分ですが、さらに進んだ化学の学習を望む者には次の書籍を推薦します。
「化学の基礎 化学入門コース1」竹内敬人著(岩波書店)

《授業時間外学習》

授業中に指摘したポイントをしっかり復習し、次回の授業で行う確認テストで満点を目指してください。

《備考》

食品や健康について専門的に学ぶためには化学の基礎知識は不可欠です。この化学基礎講義で、専門分野の勉強の基礎をしっかり築きましょう。化学の予備知識は不要です。

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	生物基礎	科目ナンバリング	KBAL11005
担当者氏名	市村 豊、立谷 正樹、田中 貞之、田村 淳		
授業方法	講義	単位・必修	2・必修
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-F 自然・健康について理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

本講義では、毎回の授業ごとに異なるテーマを設けています。特に生体・生命のしくみに関する知識に重点を置いて、まず生物の基本単位である細胞の機能と構造から学習を進め、最後の免疫系の学習に至るまで、全体の授業で生体・生命のしくみの概要を幅広く網羅した内容となっています。

《授業の到達目標》

健康・医療・栄養の専門家を目指す学生に必須となる生物の基礎知識を身につけることを目標としています。今後履修する専門科目の受講に先立って、幅広く生命・生体についての理解を深めるガイダンス的な講義です。

《成績評価の方法》

アチーブメントテストの成績を主とし、この他に授業中に行う小テスト及び平常点を加味して総合的に評価します。
(アチーブメントテスト70%、平常点30%)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	細胞の構造と機能 細胞膜の性質	細胞は生物の基本単位。 細胞膜は半透膜・・・半透膜はどんな膜？
2	細胞をつくる物質	主役はタンパク質。 生体元素と生体を構成する化合物
3	酵素の機能と性質 体細胞分裂	酵素は働き者。生命現象と化学反応。 遺伝情報の分配。
4	小テスト 呼吸と光合成	生きるにはエネルギーがいる。 細胞がエネルギーを得る仕組み。
5	多様な生殖法 減数分裂	生物は寿命があるが、子孫を残す。生物はどのように増えるのか？ 染色体と遺伝子。遺伝的なバラエティーはどのようにして生まれるか？
6	発生	たった一つの細胞から、複雑な生物体ができるまで。
7	遺伝 メンデルの遺伝の法則	遺伝の基本的なしくみ。
8	遺伝 様々な遺伝・ヒトの遺伝	親の形質の伝わり方。 あなたの耳あかは乾いていますか、湿っていますか？
9	小テスト 核酸の構造と複製	遺伝情報の複製のしくみ。
10	タンパク質の合成	遺伝子からタンパク質へ。転写と翻訳。
11	神経細胞と伝導・伝達のしくみ	体の中の情報ネットワーク。
12	小テスト 血液・肝臓・腎臓の働き	体内の物質の移動・循環。 ものを作り、貯え、分解する化学工場（肝臓）、そして排出する浄化装置（腎臓）。
13	自律神経系と内分泌系	自律神経系はアクセルとブレーキ。内分泌系で持続的な調節。 自律神経とホルモンの連携で体内環境を調節。
14	免疫系	体を外敵から守るしくみ。
15	アチーブメントテスト	学習の総括。評価。

《テキスト》

「新課程版 フォトサイエンス生物図録」
数研出版編集部編（数研出版）

《参考図書》

「タンパク質の一生 生命活動の舞台裏」
永田和宏（岩波新書）
「細胞のはたらきがわかる本」伊藤明夫（岩波ジュニア新書）
「DNAがわかる本」中内光昭（岩波ジュニア新書）
「カラー図説アメリカ版大学生物の教科書」全5巻
グレイグ・H・ヘラー他著（ブルーバックス）

《授業時間外学習》

授業中に指摘したポイントをしっかり復習し、3回行う小テストで満点を目指してください。

《備考》

生物だからこそ必要な栄養と健康。今後履修する栄養や健康の専門分野に関連する生物学上の話題を取り入れながら、広く生物全般にわたる基礎的な知識を習得します。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	宗教と人生	科目ナンバリング	KHUL11001		
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 基教-E 社会・文化について理解する力				

《授業の概要》

この講義は、まず宗教へ多角的にアプローチすることによって、宗教に対する理解を深めることから始める。この場合の宗教とは、制度化された体系だけを指すのではない。宗教心や宗教性も含んだ広義の宗教である。さらに、いくつかの宗教（とくに仏教）の体系を知ることによって、“価値”や“意味”といった計量化できない問題に取り組む力を養う。兵庫大学の建学の精神と仏教の理念についての学びを深める。

《授業の到達目標》

われわれの日常生活領域に潜むさまざまな宗教のあり方を通して、人間や世界や生や死を考える。自分自身を見つめなおす手掛かりや、異文化や他者理解へのきっかけとしてほしい。さらに現在、社会で起こっている様々な課題を宗教という視点からとらえなおしていく視点を養う。

《成績評価の方法》

受講態度 約30%
 小テスト・レポート 約20%
 定期テスト 約50%
 この3項目で評価する。講義中に質問するのである程度程度の予習・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教とは何か	誤解されがちな宗教について、正の面や負の面、その機能についての理解を目指す
2	宗教の種類	分布や性格によって分けられる宗教の種類を理解することを目指す
3	世界の宗教：諸宗教の価値体系と意味体系	世界の諸宗教がもつ価値観を学び、その多様性の理解を目指す
4	建学の精神	建学の精神である「和」や「睦」の精神を理解し、兵庫大学生としての誇りが持てるよう仏教思想の理解を目指す
5	建学の精神：学内宗教ツアー	学内にある宗教施設をまわり、体験を通して建学の精神についての学びを深めることを目指す
6	キリスト教を知る	キリスト教の歴史や教えの理解を目指す
7	キリスト教を知る	キリスト教が現代社会に与えた影響とユダヤ教について学ぶ
8	イスラームを知る	イスラームの歴史や教えの理解を目指す
9	イスラームを知る	イスラームの広がりやムスリムの生活についての理解を目指す
10	仏教を知る	建学の精神の基盤でもある仏教について、釈尊の生涯とその教えを理解することを目指す
11	仏教を知る	仏教の伝播と仏教が人間や社会とのかかわりをどのように考えてきたのかを学ぶ
12	仏教を知る	日本に伝来した仏教とその展開について学ぶ
13	日本の仏教を知る	身近にある日本仏教の特性を理解することを目指す 建学の精神と関連の深い仏教の教えについて理解を目指す
14	日本の仏教を知る	仏教を中心に、日本宗教の特性を理解することを目指す
15	建学の精神	建学の精神と仏教について理解を深め自ら考える

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への積極的な参加
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～
 宗教セミナー
 宗教ツアー
 花まつり法要 など

《備考》

身の回りの「宗教的なもの」をさがしてみよう。
 仏教の本を読んでみよう。

科目名	生命倫理学	科目ナンバリング	KHUL11002		
担当者氏名	古庄 匡義				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-F 自然・健康について理解する力				

《授業の概要》

近年格段に進歩した生命科学や医療技術は、一方で私たちの生命の質を大幅に向上させましたが、他方で生や死、人間、家族などに関するこれまでの考え方を根底から揺るがしています。今後、科学技術の一層の進歩が見込まれる中で、私たち自身の生命についてどのように考えていけばよいかを、生命倫理学の立場から検討していきます。

《授業の到達目標》

- (1)生命倫理学の主要概念を説明できる。
- (2)倫理学の考え方をを用いて、生命倫理の具体的な問題を分析することができる。

《成績評価の方法》

- (1)授業中に作成するミニ・レポート(50%)
 - (2)学期末の試験(持ち込み不可、50%)
- ただし、授業の出席回数が授業実施回数の2/3を満たしていない場合は、定期試験の受験資格はありません。

《テキスト》

毎回配布するレジユメや資料を用いて授業を行います。

《参考図書》

田上孝一『本当にわかる倫理学』日本実業出版社、2010年；三井美奈『安楽死のできる国』新潮新書、2003年；E・キューブラー・ロス『死ぬ瞬間』中公文庫、2001年；村上喜良『基礎から学ぶ生命倫理学』勁草書房、2008年；F・ブルジェール『ケアの倫理』白水社、2014年；赤林朗『入門・医療倫理』勁草書房、2005・2007年。

《授業時間外学習》

授業に関連する小説や映画などの紹介も行いますので、気になった作品を鑑賞し、授業内容を参考にしつつ、その作品に関する自分の考えをまとめておいてください。学期中に、参考図書を少なくとも1冊読み通してください。

《備考》

受講者の関心に合わせて、講義で取り扱う学習内容や順序を適宜変更することがあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	この授業の進め方を説明する。倫理学がどのような学問なのかを理解する。
2	生命倫理学とは何か	医療資源の配分の問題を取り上げながら、生命倫理学がどのような考え方に基いて、何を考察しているのかを理解する。
3	医療倫理の4原則	臓器移植などを例に、医療現場における倫理問題を考えるときの指針となる「医療倫理の4原則」を理解する。
4	自己決定権	現代の生命倫理学において重視されている「自律の尊重」と、それに対立する「パターナリズム」について理解する。
5	インフォームドコンセント	過去の事例を分析しながら、インフォームドコンセントの重要性と課題を理解する。
6	安楽死・尊厳死(1)	さまざまな事例をもとに、安楽死と尊厳死を2つの視点から分類して理解する。
7	安楽死・尊厳死(2)	海外と日本の安楽死の実情を把握し、各国が安楽死をめぐる抱えている問題を理解する。
8	人工妊娠中絶と出生前診断(1)	日本における人工妊娠中絶をめぐる状況や歴史的経緯を把握し、生命の尊厳や女性の自己決定権について理解する。
9	人工妊娠中絶と出生前診断(2)	出生前診断の発達によって生じてきた選択的人工妊娠中絶の問題を把握し、パーソン論の議論を理解する。
10	人工生殖技術(1)	人工生殖技術や生殖ビジネスの発展がもたらした現実を把握する。
11	人工生殖技術(2)	人工生殖技術が人間の生や家族について再考を迫っていることを理解し、これからの人間や家族のあり方を考える。
12	脳死と臓器移植	脳死や臓器移植に関するこれまでの議論を把握し、死を定義することの困難さを理解する。
13	ターミナルケア(1)	終末期におけるターミナルケアの方法や現状を把握し、終末期ケアの課題を理解する。
14	ターミナルケア(2)	終末期医療を例として、ケアの倫理の立場から生命倫理の考え方を再考する。
15	まとめ	これまでの授業内容を振り返りつつ、理解不十分な箇所がないか確認する。

科目名	哲学	科目ナンバリング	KHUL11003		
担当者氏名	三浦 摩美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 基教-G 論理的思考力				

《授業の概要》

哲学は、言語活動を通して概念的に把握しようとする知的営みである。講義では、原因や根拠の探求として開かれた古代ギリシャの哲学から近代哲学までの間に提出された哲学上のいくつかの問題について概観しつつ、哲学とは何かについて理解できるようにする。また、哲学的真理の探究者である人間の認識の働きと言語の関係について、さらに、行為と言語の関係について、現代哲学のテーマをもとに考察したい。

《授業の到達目標》

- ・「哲学」とはどのような知的営みであるかについて理解できるようにする。
- ・人間が持ち得る「知識」の成り立ちについて、分析的に把握できるようにするとともに、心身問題や思考と言語の関係といった哲学的問題について理解できるようにする。
- ・粘り強く考察できるようにする。

《成績評価の方法》

平常の課題レポート（60%）および学期末のレポート（40%）で評価する。

《テキスト》

板書を中心とした講義を行う。

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業時間外学習》

- ・授業で紹介する哲学者の思想について復習するとともに、参考図書や各哲学者の著作に触れてみることでさらに理解を深めるように努める。
- ・レポートをまとめる。

《備考》

- ・提出するレポートは必ずホッチキス止めをすること。
- ・その他受講上必要な注意事項については、最初の授業およびその都度授業内で伝達する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	～哲学への誘い～ 哲学とは何か	ガイダンス 「哲学」の創始および定義
2	哲学とは何か	古代自然哲学から近代の知識論へ
3	「知識」に関する自然主義と反自然主義	人間が何かについて「知る」ということについての2つの異なる態度
4	「知識」とは何か	「知識」とは何であり、どのようにして成立するのか
5	「知識」の二つのあり方について	ア・プリオリな知識とア・ポステリオリな知識
6	ア・プリオリな知識の問題	知識論におけるプラトニズムおよび心理主義の問題
7	ア・プリオリな知識の問題	知識論における規約主義の問題
8	ア・ポステリオリな知識の問題	知識論における素朴实在論の問題
9	ア・ポステリオリな知識の問題	知識論における表象主義的实在論の問題
10	ア・ポステリオリな知識の問題	知識論における観念論と科学的实在論の問題
11	ア・ポステリオリな知識の問題	知識論における基礎付け主義の問題
12	ア・ポステリオリな知識の問題	知識論と整合説の問題
13	心身問題における自然主義と反自然主義	心の現象と志向性の問題
14	心身問題における異なる立場	心身問題における随伴現象説、同一説および機能主義の問題
15	まとめ	これまでの議論の特徴について

科目名	文学	科目ナンバリング	KHUL11004		
担当者氏名	安井 重雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 基教-E 社会・文化について理解する力				

《授業の概要》

古典文学について講義し、「古典」とは何かを考える。日本の古典文学作品は数百年、あるいは千年以上もの間読み継がれてきている。なぜその作品が現代まで残り、「古典」となるのか。「古典」とはただ古い作品ということではない。授業では、いくつかの作品を取り上げて少しずつ読みながら、テーマや構想、文章、また作者と制作された時代について説明し、如上の問題を考える。

《授業の到達目標》

文学作品の言葉を読み解き、作品のテーマについて考え、また作者と時代について考えること。および、そのことによって文学および「古典」について深く理解することを目指す。

《成績評価の方法》

10回以上出席しないと単位を与えない。その上で、授業時に提出する課題やレポートによる平常点(40%)、及び、定期試験(60%)によって評価する。

《テキスト》

毎回、プリントを配布する。

《参考図書》

授業中に指示する。

《授業時間外学習》

配布したプリントを熟読しておくこと。分からない言葉は辞書を引いて確認しておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	全体の授業の流れの説明	15回の授業でどのような作品を扱うか、どのように授業を進めるかを説明する。
2	『万葉集』を読む	最古の歌集である『万葉集』は8世紀半ばに成立した。内容は、宮廷を中心としたもの、防人や東歌など労働に関するものなどさまざまである。その歌を考える。
3	『古今和歌集』を読む	905年に成立し、和歌を春夏秋冬に分類して日本の四季の認識を確立するなど以降の文学や人間生活に大きな影響を及ぼした作品である。その歌を考える。
4	『伊勢物語』を読む	主人公在原業平が東国に下ったり、高貴な女性を盗んだりなど、当時としては驚かされる行動をとる。すべての章段に和歌がある物語であり、歌をめぐる面白さを読む。
5	『源氏物語』を読む	『源氏物語』第一部・第二部の、主人公光源氏の女性たちとの恋愛、またさまざまな困難を乗り越えて栄華に至り、さらに死を迎えるまでの物語を読む。
6	『源氏物語』を読む	『源氏物語』第三部の、光源氏死後、その子薫と孫匂宮が宇治を舞台として浮舟など女性たちをめぐる争い、恋のはかなさを認識するに至る物語を読む。
7	『新古今和歌集』を読む	最高権力者後鳥羽院が自ら撰集した勅撰和歌集である。藤原定家らの歌は、古典和歌との関係によって制作され、古典とは何かを考えさせる。
8	『方丈記』を読む	鴨長明作『方丈記』は無常をテーマとして災害の記述で有名である。災害は住居の破壊に繋がる。住居とはどうあるべきかを語る長明の思考について考える。
9	『愚管抄』を読む	著者慈円は撰家出身である。時代は鎌倉幕府を無視できない歴史の転換期にきている。そのとき貴族は歴史をどのように捉えるのか、考える。
10	『宇治拾遺物語』を読む	文学の担い手は貴族層から、武士や庶民に広がっていく。優雅さだけが価値ではなく、時代は俗を取り込み変化する。貴族文学とは異なる美意識や価値観について考える。
11	『奥の細道』を読む	江戸時代に入り、平和が訪れ、安全な旅が可能になる。松尾芭蕉の旅を追いながら、俳諧と紀行について考える。
12	『五輪書』『葉隠』を読む	『五輪書』は宮本武蔵が兵法の極意について語ったもの、『葉隠』は鍋島藩士山本常朝が、理想的武士像について説いたものである。江戸時代の武士について考える。
13	『雨月物語』を読む	江戸時代に書かれた上田秋成作の怪異小説を二回に分けて読む。恐怖の中にも人間を見つめたテーマ設定がなされている。この回は「白峯」「菊花の契り」を読む。
14	『雨月物語』を読む	女性や異類を主人公とした怪異譚である、「吉備津の釜」「蛇性の姪」を読む。
15	授業のまとめ	授業で取り上げた古典文学についてふりかえり、「古典」とは何かについて考える。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	芸術	科目ナンバリング	KHUL11005		
担当者氏名	柳楽 節子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-E 社会・文化について理解する力				

《授業の概要》

日本の美術を知ることは、日本について考えることでもあります。この講義では、現代美術作家の紹介とともに日本美術の歴史をたどりながら、日本美術の特質とは何か、過去に存在したものと現在あるものがどのような関連性をもっているか、について探ります。実物の資料をはじめ、視聴覚資料を多く提示し、受講生が日本美術の面白さを発見する手がかりとなる授業をめざします。

《授業の到達目標》

日常生活にある行事や習慣のなかに日本の美を見出すことができる。日本の文化について広く関心を持ち、自ら学ぶことができる。芸術全般を楽しむことができる。

《成績評価の方法》

日本美術及びそれに関連する内容をテーマとしたレポートの提出（100%）により評価します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	担当教員自己紹介 授業内容説明	教員の版画制作の経験と日本美術との関連性について聞くとともに、授業のこれからのありかたと計画の説明を理解する。
2	現代の美術作家紹介-1	現代の美術作家を知り、作品を鑑賞しながら、過去の日本美術及び西洋美術との関連性を理解する。
3	現代の美術作家紹介-2	現代の美術作家を知り、作品を鑑賞しながら、過去の日本美術及び西洋美術との関連性を理解する。
4	現代の美術作家紹介-3	現代の美術作家を知り、作品を鑑賞しながら、過去の日本美術及び西洋美術との関連性を理解する。
5	現代の美術作家紹介-4	現代の美術作家を知り、作品を鑑賞しながら、過去の日本美術及び西洋美術との関連性を理解する。
6	現代の美術作家紹介-5	現代の美術作家を知り、作品を鑑賞しながら、過去の日本美術及び西洋美術との関連性を理解する。
7	日本人の信仰	自然崇拜 神道 仏教が美術に及ぼした影響を知り、日常生活にあるしきたりや習慣のなかにある日本の美を発見することができる。
8	仏教美術-1	仏教伝来から天平時代までの仏像を中心に鑑賞し、中国から朝鮮を経て日本に伝えられた仏像が、日本に定着していく過程の変化と魅力を感じ取ることができる。
9	仏教美術-2	平安時代の密教と鎌倉時代の禅宗について知り、それぞれに大きく異なる仏教信仰のありかたと、美術への表れを、鑑賞から感じ取ることができる。
10	日本の美術-1	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。倭絵 水墨画
11	日本の美術-2	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。狩野派 等伯
12	日本の美術-3	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。琳派
13	日本の美術-4	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。奇想の絵師
14	日本の美術-5	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。浮世絵
15	日本の美術-6	日本美術の特質について、そのいくつかをイメージすることができる。

《テキスト》

なし。

《参考図書》

『日本美術の特質』矢代幸雄（岩波書店）他

《授業時間外学習》

各授業時に所定の内容を指示します。

《備考》

レポートの作成と提出の要領については、12月中旬の授業時に連絡する予定です。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	芸術	科目ナンバリング	KHUL11005		
担当者氏名	岩見 健二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-E 社会・文化について理解する力				

《授業の概要》

人は何故創作活動をするのか[芸術]とは何なのかを、画家一人一人に焦点をあてその創作の過程・時代との係わりなどを探りながら、解き明かしていく

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する

《参考図書》

授業中に随時紹介

《授業の到達目標》

1. 画家それぞれの内面を探ることにより創造のすばらしさや厳しさを知り、芸術の存在意義を理解する事が出来る。
2. 芸術的感性を養う

《授業時間外学習》

毎回学習した作家について、各自でより深く調べておく事。

《成績評価の方法》

- ・ 課題レポート (100%)

《備考》

特になし

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習の内容・目的を理解する。
2	佐伯祐三とブラマンク	大正時代末期パリで制作し、死した佐伯祐三の人生を辿る事により、絵を描く意味を理解することができる。
3	古代 ルネッサンス	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
4	ルネッサンス 印象派	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
5	印象派 現代	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
6	ジョット	中世の象徴主義を打破したジョットの制作意図について理解することができる。
7	ヴェロネーゼ	宗教と画家との関係及び相克について理解することができる。
8	カラヴァッジョ	リアルとは何かを理解することができる。
9	ハルスとレンブラント	市民と画家との関係について理解することができる。
10	ゴヤ	ゴヤの人間洞察の深さについて理解することができる。
11	ダヴィッド・アングル・ドラクロア	政治と画家との関係について理解することができる。
12	クールベとマネ	ロマン主義・写実主義など、印象派以前の画家の絵画的主張について理解することができる
13	モネとセザンヌ	印象派の絵画理論について理解することができる。
14	エゴン・シーレ	人間存在の核心に触れるシーレの絵画を理解することができる。
15	岩見健二	自信と責任を持って表現する事の大切さを理解することができる

科目名	心理学	科目ナンバリング	KHUL11006		
担当者氏名	北島 律之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 基教-G 論理的思考力				

《授業の概要》

人間を理解すること、とりわけ「心」について理解することは、社会において適応的な生活を行う上でとても重要です。本授業では、心の学問である心理学の科学的な考え方に基づき、これまでにわかっている知見を整理し、人間の心の多様性を理解します。プロジェクトにより図や映像を多く示すとともに、簡単にできる実験的観察を取り入れながら説明を行い、視覚的、体験的理解を重視します。

《授業の到達目標》

「心理学」にはどのような領域があるか類別できる。
 種々のデータを基に、心を科学的な視点から説明できる。
 心に関する共通的な性質と個人差を説明できる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト80%，レポート・小テストなど10%，受講態度10%

《テキスト》

『図説心理学入門 第2版』齋藤勇(編)/誠信書房

《参考図書》

『心理学』無藤隆, 森敏昭, 遠藤由美, 玉瀬耕治/有斐閣
 (より深く勉強したい人向き)

『イラストレート心理学入門』齋藤勇/誠信書房
 (内容が難しすぎると感じる人向き)

《授業時間外学習》

・予習の方法：下の授業計画にはテキストの該当する箇所を記載しています。読んでおくようにしてください。この段階では必ずしも内容を理解できている必要はありません。前もって内容を意識することが大切です。
 ・復習の方法：授業中に整理するプリントを中心に復習してください。

《備考》

・心理学を学ぶには、日頃から自分の心や他人の行動について関心をもつことが大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	心理学とはどんな学問なの？	心の科学的な考え方や心理学の各分野について《序章 §1~9》
2	情報, 入ります(知覚)	情報の入り口である知覚が成立するまでの流れ《第1章 §1~2, §6~7》
3	覚えているって, どういうこと?(記憶)	記憶過程と記憶の分類 各記憶の特徴《第3章 §4》
4	どうやって, 学んでいくのだろう?(学習)	学習についての基本的な考え方 条件づけやモデリング《第3章 §1》
5	笑ったり怒ったり(感情)	喜怒哀楽に関する科学的な見方《第2章 §5~9》
6	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション)	欲求の分類 各欲求の性質《第2章 §1~3》
7	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション)	欲求の階層 思うようにいかないときの行動《第2章 §2~4》
8	君って, どんな人?(性格)	性格の基本的考え方 類型論と特性論
9	君って, どんな人?(性格)	性格テストの体験 生得説と経験説《第4章 §1, 第5章》
10	私たちは大人になってきた(発達)	生涯にわたる心の発達 エリクソンの発達段階《第4章 §2~3》
11	あの人が, きっとこうなんだ(社会的認知)	ステレオタイプ 原因帰属 印象形成《第6章 §1~2》
12	人が周りにいるから(社会的影響)	説得や無言の圧力に関する効果《第6章 §4》
13	無意識って何だろう?(無意識と深層の心理)	無意識に関するいくつかの理論・心理療法《第5章 §4, 第8章》
14	心理学アラカルト	身近にある心理学の様々なテーマ
15	心理学はどんな学問か?(まとめ)	「心の共通性」と「心の多様性」を基にした心理学の理解。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	仏教と現代社会		科目ナンバリング	KHUL11007	
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 基教-E 社会・文化について理解する力				

《授業の概要》

宗教研究は民俗学や人類学や社会学など多くの領域とも関連する学際的性格をもつ。我々の周りを観察すると、いかに仏教が生活や思想に関わっているかに気付くだろう。講義では幅広く仏教文化を解説する。そして仏教と人間、グローバル社会、生と死、医療、環境についての理解を深める。現代社会や文化を通して仏教を学び、他者理解、異文化理解につなげるとともに自分自身を見つめるきっかけとしてほしい。

《授業の到達目標》

比較文化の視点を学んだうえで身近な宗教について考える
 現代仏教についての理解をめざす
 仏教と社会の関係から仏教が社会問題などにどう向き合ってきたかについての理解をめざす
 浄土系仏教と環境問題、社会問題についての理解をめざす

《成績評価の方法》

受講態度 約30%
 小テスト・レポート 約25%
 期末プロジェクト 約45%
 この3項目で評価する。講義中に質問するのである程度の手習・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教文化と社会の多様性	宗教と文化の関係について学び多様な宗教文化についての理解をめざす
2	宗教の理念とその影響	基本となる教えについての理解をめざし社会や文化への影響について学ぶ
3	仏教・仏教文化の概説	仏教の基礎と仏教が育んできた文化についての理解をめざす
4	仏教・仏教文化の概説	仏教の基礎と仏教が育んできた文化についての理解をめざす
5	現代日本の仏教文化	現代の日本文化を取りあげて仏教の与えた影響を理解することをめざす
6	現代社会における仏教	社会を読み解くカギとして仏教を学び両者の関係を理解することをめざす
7	現代社会における仏教	社会で起きている問題について仏教からのアプローチを学ぶ
8	仏教と社会	現代日本社会における仏教や仏教施設と人々との関わりについて学ぶ
9	浄土仏教の展開と日本浄土仏教	浄土仏教の教えの源泉とその展開について学ぶ
10	現代社会と浄土仏教	社会で起きている問題について浄土仏教の理解を学ぶ
11	宗教多元世界と仏教	海外でみられる仏教の広がりについて学ぶ
12	宗教多元世界と仏教	海外で展開される仏教と日本仏教について理解する
13	宗教多元世界と仏教	グローバル社会における日本仏教と教えについて学ぶ
14	仏教の生命観	仏教の死生観についての理解をめざす
15	仏教の生命観	仏教の死生観についての理解をめざす

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への積極的な参加
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～
 宗教セミナー
 宗教ツアー
 花まつり法要 など

《備考》

科目名	国際理解と宗教 (キリスト教)		科目ナンバリング	KHUL11008	
担当者氏名	根川 幸男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 基教-E 社会・文化について理解する力				

《授業の概要》

本講義では、キリスト教の教義、歴史、現在、キリスト者などについて学ぶとともに、それを通じて国際理解を深める。キリスト教をめぐるさまざまな事柄を手がかりに、教師と学生がコミュニケーションを深めながら、自分たちの人生や将来、それを取りまく世界や社会、文化、人間関係などについて考える。

《授業の到達目標》

- *キリスト教について学ぶことによって、世界の歴史や国際関係、人間関係について理解できるようになる。
- *キリスト教について学ぶことによって、自分たちと異なる地域や集団の人々の文化や生き方が理解できるようになる。
- *復習シートやレポート作成を通じて、自覚的にテーマを選び、資料を探し、考え、発信する能力を獲得する。

《成績評価の方法》

- *毎回の講義後に提出する復習シート(40%)と期末レポート(40%)、授業参加態度(20%)を合算して評価する。
- *授業の性格上、講義を聞き、教師とコミュニケーションすることが大切です。

《テキスト》

講義の際に適宜資料を配布する。

《参考図書》

- 『よくわかるキリスト教』土井かおる著(PHP研究所)2004、
- 『ふしぎなキリスト教』橋爪大三郎X大澤真幸(講談社現代新書)2011、
- 『岩波キリスト教辞典』大貫隆他編(岩波書店)2002

《授業時間外学習》

- *その日の復習シートと質問(400字程度)をまとめ、次回の授業に提出する。用紙は授業ごとに配布する。
- *キリスト教の正典である聖書にふれておく。
- *配布資料が散在しないように整理しておく。
- *新聞・雑誌等でキリスト教に関する記事があれば目を通し、できればコメント付きのコピーを提出

《備考》

- *授業進行は概ね授業計画に拠るが、学生の理解度やニーズに応じて変更していく。
- *携帯電話・メール使用、食事の禁止

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	何のためにキリスト教について学ぶのか? 講義の目的とシラバスの説明。履修学生のキリスト教との関わり、イメージについて問う。
2	国際問題と宗教1	宗教対立や民族対立、環境問題、人口問題など国際問題を取り上げつつ、人間社会とキリスト教をはじめとする宗教との関係を読み解いていく。
3	国際問題と宗教2	宗教対立や民族対立、環境問題、人口問題など国際問題を取り上げつつ、人間社会とキリスト教をはじめとする宗教との関係を読み解いていく。
4	聖書の世界観・人間観1	旧約聖書の物語を追いながら、ユダヤ・キリスト教の世界観・人間観を読み解いていく。
5	聖書の世界観・人間観2	新約聖書、特に福音書に書かれた物語を追いながら、イエスの生涯と教えを読み解いていく。
6	聖書の世界観・人間観3	新約聖書、特に福音書に書かれた物語を追いながら、イエスの生涯と教えを読み解いていく。
7	キリスト教の歴史1	イエスと彼の弟子たちによるキリスト教の成立からローマ帝国での国教化、東西教会の分裂とイスラム教との接触を概観する。
8	キリスト教の歴史2	宗教改革による旧教と新教の分裂、キリスト教会の変容・再編成、日本への伝道を世界的視野で概観する。
9	キリスト教の歴史3	近現代におけるキリスト教の歴史と変遷、位置づけについて学び、その影響について考える。レポートのテーマ中間発表。
10	キリスト教と文化・芸術	キリスト教と西洋の文化・芸術について概観し、それが非西洋、特に日本の文化・芸術とどのように交渉をもったのかについて学ぶ。レポートのテーマ中間発表。
11	キリスト教と国際人口移動1	大航海時代以降の歴史を、宗教改革とキリスト教伝道の観点から読み解き、自分たちの生活との関係を考えてみる。レポートのテーマ中間発表。
12	キリスト教と国際人口移動2	19~20世紀の人口移動をキリスト教の観点から読み解き、日本人の海外移民も含めて、自分たちの生活との関係を考えてみる。レポートのアウトライン発表。
13	キリスト教と日本	日本に伝わったキリスト教がどのような影響を与えたのかを時系列的に概観し、自分たちの生活とどう関係しているのかを考える。レポートのアウトライン発表。
14	キリスト教の現在	生命、ジェンダー、中絶、同性愛、戦争、環境問題など、現代社会が抱えている問題を取り上げ、キリスト教との関係で読み解き、考える。
15	まとめとふりかえり	今まで学習してきたことをふりかえり、キリスト教がどのような宗教であり、自分たちとどう関わっているか、また国際理解をどのように深めていけばよいのかを整理する。

科目名	国際理解と宗教 (イスラム教)		科目ナンバリング	KHUL11009	
担当者氏名	重親 知左子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 基教-E 社会・文化について理解する力				

《授業の概要》

世界におけるムスリム（イスラム教徒）の数は約16億人、総人口の1/5以上を占める。ムスリム訪日人数や国内のモスク（イスラムの礼拝所）も増加している。この授業を通してイスラムに関心を持ち、激動期に入ったイスラムをめぐる内外の情勢への理解を深めることを目的とする。日本とイスラムの関係史にも触れる。授業においては毎回VTRを視聴し、新聞記事等も利用して、具体的なイメージの把握に役立てたい。

《授業の到達目標》

- ・イスラムの基本的な信仰内容と信仰行為を説明できる。
- ・イスラムにおける日常生活の規範について説明できる。
- ・政治経済面からイスラムに関わる国際問題を把握できる。
- ・日本におけるイスラムをめぐる歴史と現状を把握できる。
- ・イスラムに関わるニュースについて主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》

- ・全授業終了後に課すレポート(60%)と、VTR視聴ごとに課すレポート(40%)で評価する。
- ・レポートの提出遅れについては減点する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	世界と日本のイスラム	今日のイスラムをめぐる世界情勢を概観するとともに、日本におけるイスラムの現状を把握する。
2	イスラムの成立と発展	イスラムの成立した状況とその後の発展、また「スンナ派とシーア派」について学ぶ。
3	イスラムの基本的信仰内容(1)	イスラムの根本原理とともに、基本的信仰内容である「アッラー」「預言者」「天使」について学ぶ。
4	イスラムの基本的信仰内容(2)	基本的信仰内容である「啓典」「来世」「運命」について学ぶ。
5	イスラムの信仰行為(1)	信仰行為である「信仰告白」「礼拝」「喜捨」について学ぶ。
6	イスラムの信仰行為(2)	信仰行為である「断食」「巡礼」について学ぶ。
7	日常生活の中のイスラム(1)	飲食におけるイスラムの規範について学ぶ。
8	日常生活の中のイスラム(2)	服装におけるイスラムの規範について学ぶと同時に、イスラム社会における女性をめぐる状況について考察する。
9	日常生活の中のイスラム(3)	結婚、葬礼におけるイスラムの規範について学ぶ。
10	日常生活の中のイスラム(4)	離婚、遺産相続、血縁関係におけるイスラムの規範について学ぶ。
11	イスラム圏の映画鑑賞	イスラム圏の映画を鑑賞し、その生活様式や価値観に触れる機会を持つ。
12	国際理解とイスラム(1)	経済面からイスラム金融について、社会面からイスラム暦について学ぶ。
13	国際理解とイスラム(2)	政治面から近現代史を中心に、帝国主義によるイスラム世界の衰退とその影響について考察する。
14	日本とイスラム(1)	奈良時代から江戸時代における日本とイスラム圏の関係を、歴史的に検証する。
15	日本とイスラム(2)	明治時代から現在に至る日本とイスラム圏の関係を、歴史的に検証する。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

《参考図書》

白杵陽『世界史の中のパレスチナ問題』講談社、2013/小杉泰・長岡慎介『イスラムを知る12 イスラム銀行』山川出版社、2010/ 杉田英明『日本人の中東発見 逆遠近法のなかの比較文化史』東京大学出版会、1995/辻上奈美江『イスラム世界のジェンダー秩序』明石書店、2014/樋口真人他『国境を越える 滞日ムスリム移民の社会学』青弓社、2007

《授業時間外学習》

- ・授業計画を参照し、次回の授業範囲を参考文献等により予習する。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問もしくは自分で調べる。
- ・イスラムに関する内外のニュースをチェック、考察する。
- ・可能な範囲でイスラムと接点を持つ（例：モスク見学）。

《備考》

- ・私語をはじめ、他の受講者の迷惑になる行為は慎むこと。
- ・第一回講義にて、連絡用のメールアドレスを知らせます。

科目名	色彩とデザイン		科目ナンバリング	KHUL11010	
担当者氏名	浜島 成嘉、稲富 恭				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-E 社会・文化について理解する力				

《授業の概要》

「デザイン」とは技術、芸術、経済にまたがる複合的な生産物、生産行動を表す。文化的な成熟期に入った現代社会において、デザインに関する知識は分野を問わず非常に重要性を増している。本講義においては、まずデザインを色彩、かたち、素材の側面から考察し、さらにデザインの様々な分野について理解する。

《授業の到達目標》

- ・一般教養としてのデザインに関する知識を身につける。
- ・色、かたち、素材に関する基礎的な知識を身につける。
- ・社会とデザインの関わりについて理解する。
- ・デザインを分析的に理解する能力を身につける。

《成績評価の方法》

毎回の授業で示されるレポート、課題(70%)、及び、学期末レポート(30%)によって評価する。授業ノートの提出が必要である。

《テキスト》

テキストは使用しないが、「新配色カード129a」日本色研事業(株)(<参考>¥500程度)の購入が必要である。

《参考図書》

- ・『生活と色彩』(朝倉書店)
- ・『カラーコーディネーター入門・色彩』(日本色研事業)
- ・『世界デザイン史』(美術出版社)

《授業時間外学習》

- ・予習の方法:シラバスに従い、事前に文献、雑誌、インターネット等を利用して基礎的な用語、知識を調査する。
- ・復習の方法:授業中に指示された課題を行う。授業後は授業内容に従い、授業ノートを制作する。
- ・学期末レポート:「学期末レポート」の執筆を行う。課題は第11週(予定)に提示する。

《備考》

出欠規準については「栄養マネジメント学科」の申し合わせを用いる。出欠管理端末を利用するため、学生証の持参が必要である。授業態度によって出席確認を取り消す場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス、デザインの基礎(1):色 色の知覚	色彩は光が眼球に入り、それが網膜の視細胞により生じた刺激が、大脳に伝達され最終的には脳で感じているという色知覚について学ぶ。(担当:浜島)
2	デザインの基礎(2):色色の表示	色彩学の基礎である色の三属性を基に、各国のカラースステムの違いについて説明する。(担当:浜島)
3	デザインの基礎(3):色配色調和	色の調和の歴史、配色調和の基本原則を学び、それによって配色を考える。イメージを基に色相、トーンで美しく調和を得る方法を解説する。(担当:浜島)
4	デザインの基礎(4):かたち	「かたち」について、比例、プロポーション、シンメトリーといった幾何学的側面から解説する。(担当:稲富)
5	デザインの基礎(5):素材	「素材」について椅子を分析対象として、材料、質感、科学技術の発展、機能といった点から多面的に解説する。(担当:稲富)
6	デザインの基礎(6):デザインの歴史	19世紀以降のデザインの歴史(アーツ・アンド・クラフツ~モダニズム)について概観し、近代国家の成立と工業化の影響について考察する。(担当:稲富)
7	デザインの各分野(1):グラフィック	ポスター、広告、パッケージのデザインについて解説する。(担当:浜島)
8	デザインの各分野(2):映像デザイン	映画・ドラマを対象に、映像作品の内容・形式・撮影技法について分析的に理解する。(担当:稲富)
9	デザインの各分野(3):建築	建築・インテリアを取り上げ、「実用的価値」、「美的価値」、「社会的価値」の表現について考察する。(担当:稲富)
10	デザインの各分野(4):ファッション	19世紀後半以降のファッションを取り上げ、デザインと色彩の関わりを中心に解説する。(担当:浜島)
11	デザインの各分野(5):ファッション	20世紀のファッション(ポール・ポワレ~コムデギャルソン)を取り上げ、社会の大衆化に伴うデザインの変遷について考察する。(担当:稲富)
12	デザインの各分野(6):都市	造形物としての都市に注目し、その発生要因と社会の状況について解説する。サステイナブルな都市のあり方について考察する。(担当:稲富)
13	デザインと社会(1):社会体制とデザイン	アメリカ、南欧、北欧のプロダクトデザインを例に、国家の社会体制とデザインの関係について考察する。(担当:稲富)
14	デザインと社会(2):和風のデザイン	建築、茶、生け花、書画等における真行草の概念について考察し、和風デザインの歴史的な系譜について理解する。(担当:稲富)
15	課題の発表と講評	学期末レポートのプレゼンテーション、および講評を実施する。(担当:浜島、稲富)

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	法と社会	科目ナンバリング	KSOL21011
担当者氏名	豊福 一		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-E 社会・文化について理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

現在の日本社会において生活するうえで、法との関わりは避けて通ることのできないものである。そこで、日常生活と密接に関係すると思われる法制度について、その概略を紹介し、基礎的な法律知識への理解を深める。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

授業中、適宜紹介する。

《授業の到達目標》

日常生活において目にしたり、耳にしたりする法律用語、あるいは遭遇した法律问题やトラブルにおいて、その最低限の意味を理解できるようになること。

《授業時間外学習》

予習は不要であるが、授業内容の性質上、講義を聞くことによって初めて知識を得ることができるので、積極的に出席するように。

《成績評価の方法》

レポート課題の提出 (100%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	法と社会の関わり	日本の法制度の概略について理解し、今後の授業の流れも理解する。
2	土地・建物の賃貸借契約	賃貸借契約の内容、土地や建物を賃貸借する際に決めておくべきことやその注意点について理解する。
3	クレジット・キャッシング	クレジットカードやキャッシュカードを利用した金銭のやり取りに関する法律関係について理解する。
4	住宅・自動車ローン	住宅や自動車を購入する際に締結される売買契約とそれに関する法律関係、さらには不動産や自動車の登記・登録制度等について理解する。
5	住宅・自動車ローン	住宅や自動車を購入する際に金融機関からお金を借りる場合の法律関係とその注意点等について理解する。
6	債務の整理・清算	負担した債務（ローン）の返済が困難になった場合のその清算方法について、私的整理・公的整理に分けてその制度について理解する。
7	刑事事件	犯罪が発生し、その被疑者（容疑者）が逮捕された場合の刑事手続きの流れについて理解する。
8	刑事事件	逮捕された被疑者（容疑者）が起訴された場合の刑事裁判手続きについて理解する。
9	婚姻・離婚	結婚・離婚する場合の法律関係、注意点、さらに養子縁組や離縁についても理解する。
10	相続	相続人の範囲や順位、相続割合、遺言の書き方等相続に関する一般的知識を理解する。
11	成年後見制度	自らの財産を自らの意思で管理することが困難になった場合の主として高齢者保護のための成年後見の制度の概略を理解する。
12	交通事故	交通事故に遭遇した場合、どのような損害が発生し、それをどの程度賠償する必要があるのか、交通事故に関する一般的知識を理解する。
13	各種保険制度	日常生活に馴染みの深い自動車保険・生命保険・傷害保険・火災保険等の一般的知識を理解する。
14	民事訴訟制度	刑事訴訟とは別に日常生活で市民が利用できる民事訴訟制度についてその概略を理解する。
15	知的財産権	著作権・特許権・意匠権・商標権等知的財産権の種類とその内容について、概略を理解する。

科目名	日本国憲法	科目ナンバリング	KSOL21012
担当者氏名	笹田 哲男		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-E 社会・文化について理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

日本国憲法の基本項目（「国民主権」「平和主義」「基本的人権の保障」など）について講義する。大学生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意するが、「男女の平等」「子どもの学習権」及び「日本の防衛と国際貢献」については、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えている。

《テキスト》

『改訂 現代の法学—法学・憲法—』野口寛編著、建帛社、2009

《参考図書》

『憲法学教室 全訂第2版』浦部法穂、日本評論社、2006
 『憲法 第4版』辻村みよ子、日本評論社、2012

《授業の到達目標》

1. 「憲法（国家の基本法）とは何か」「日本の憲法のおいたち」について理解する。
2. 日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
3. 日本国憲法と現代社会とのかわりについて、裁判例の研究を通じ具体的に理解する。

《授業時間外学習》

授業中、その都度、指示する。

《成績評価の方法》

定期試験期間中に実施する筆記試験（テキスト持込可）の結果で100%評価する。

《備考》

法的思考を培い、現代社会を見る眼を養ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	憲法とは何か	社会の規範、法の種類、法システム、国家と法、憲法の意味・分類などについて説明することができる。
2	日本の憲法のおいたち	明治憲法の成立過程と特質、日本国憲法の成立過程と特質について説明することができる。
3	平和主義(1)	前文の「平和主義」関係部分、第9条の内容について説明することができる。第9条関係の主要な裁判例について説明することができる。
4	平和主義(2)	「日本の防衛と国際貢献」のあり方を巡る議論について説明することができる。
5	人権の性格と歴史(1)	人権の特色・種類、「消極的国家と自由権保障」「積極的国家と社会権保障」、「人権の制約」などについて説明することができる。
6	人権の性格と歴史(2)	日本国憲法下で、近代私法の3原則（「契約の自由」「所有権の絶対的保障」「過失責任主義」）に修正が加えられる例について説明することができる。
7	基本的人権の保障(1)	「法の下での平等」原則について、また、「雇用労働と男女の平等」「家族生活と男女の平等」などの現状と課題について、説明することができる。
8	基本的人権の保障(2)	精神的自由権（「思想・良心の自由」「信教の自由」「表現の自由」「学問の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。
9	基本的人権の保障(3)	経済的自由権、身体的自由権の意義・内容、また、国務請求権の意義・内容などについて説明することができる。
10	基本的人権の保障(4)	社会権（「生存権」「教育を受ける権利」「労働権」）の意義・内容などについて説明することができる。国民の義務について説明することができる。
11	基本的人権の保障(5)	「子どもの学習権と『教育内容を決定する権能』」、「子どもの学習権と『教育の中立性』」を巡る議論、裁判例について説明することができる。
12	国民主権(1)	「象徴天皇制」の意義・内容、選挙制度の内容、「地方自治」の意義・内容について説明することができる。
13	国民主権(2)	国会の組織・権能、内閣の組織・権能、議院内閣制の内容などについて説明することができる。
14	国民主権(3)	司法権独立の意義、裁判所の組織・権能、司法の民主的統制、また、「憲法の保障と改正」について説明することができる。
15	まとめ	これまでの学修内容を再確認するとともに、その学修成果を具体的に説明することができる。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	人権の歴史	科目ナンバリング	KSOL21013
担当者氏名	岩本 智依		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

人権とは歴史の中で培われ、広がり深まってきた。「人権の世紀」といわれるが現代社会の人権の現状を理解し、今後人権がどのように発展していくのかを考える。

《授業の到達目標》

多様な視点をもって自己と他者との人権をとらえられるようになる。現代社会に生きる上で、身の回りの差別を見抜く力をつける。

《成績評価の方法》

定期試験80% 課題提出20%

《テキスト》

レジメを配布し、レジメによって授業を行う。また適時に必要な資料を配布する。

《参考図書》

毎日新聞「境界を生きる」取材班 『境界を生きる 性と生のはざままで』毎日新聞社
 長野ひろ子・姫岡とし子『歴史教育とジェンダー 教科書からサブカルチャーまで』青弓社
 岩本孝樹『「いのち」の保育 一人ひとりの人権をまもる』京都阿吽社

《授業時間外学習》

レジメや資料、また参考図書などで学習し、不明な点は質問するように。

《備考》

今日的な課題を取り上げるため、普段から社会問題について関心を持っておくように。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	差別とは何か	現代社会における人権を通して「差別とは何か」を考える。
2	ライフタイムと人権	自分自身の生涯に人権がどのように関わっているかを考える。
3	部落差別と現代社会	「部落差別とは何か」を学ぶ。
4	部落差別と現代社会	部落差別と部落解放運動の歴史を学ぶ。
5	部落差別と現代社会	「身元調査」を通じて部落差別の現代的な課題を学ぶ。
6	教育と差別	いじめや体罰等、教育現場における差別の現実と反差別の教育としての「同和教育」を学ぶ。
7	いのちと人権	ハンセン病やHIV等、医療における差別の歴史と現実の課題を学ぶ。
8	いのちと人権	障がい者差別について学ぶ。
9	いのちと人権	戦争やヘイト・クライムなど差別によっていのちを奪われた歴史を学び、人権といのちについて考える。
10	宗教と差別	主に仏教と差別について学ぶ。
11	宗教と差別	主に仏教と差別について学ぶ。
12	性差別と現代社会	性差別の歴史とジェンダーについて学ぶ。
13	性差別と現代社会	セクシャル・ハラスメントを中心に現代の性差別の現実を学ぶ。
14	性差別と現代社会	セクシャル・マイノリティの差別の現実を学ぶ。
15	まとめ	現代社会の中に生きる人間として人権とはなにか、を考える。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	政治学	科目ナンバリング	KSOL21014
担当者氏名	斎藤 正寿		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-E 社会・文化について理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

この講義では、私達の身近にある小さな政治現象から出発して、少しずつ政治学的なボキャブラリーを身に付けてもらいながら、次第にプロの大きな政治の世界の理解へと進んでいくこととしたい。政治学的な考え方の修得を主たる目標とするが、プロの政治の理解には業界特有の事情を知る必要もあるので、それらの知識の獲得も同時並行して行うことにしたい。

《授業の到達目標》

政治学のボキャブラリーを使用して、現実には起こっている、小さな、あるいは大きな政治現象を分析し説明できるようになる。

現代の日本政治について鳥瞰図を手にすることができる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《テキスト》

テキストは使用しない。講義中に必要な資料を配布する。

《参考図書》

『現代政治学・新版』加茂利男他、有斐閣、2003年
 『政治学』久米郁男他、有斐閣、2003年
 他の参考文献は講義をすすめるながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：毎日の政治に関するニュースに関心をもって接すること。
- (2) 復習の方法：授業内容を再確認し、講義で配布された参考資料を熟読しておくこと。

《備考》

・政治現象を解剖し、その生理（病理）を明らかにしたいと考えています。私達がよりよく生きるためには、現実の「現実的」理解から出発すべきというのが私のスタンスです。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	A. 素人の政治 小さな政治と大きな政治	政治のイメージ、大きな政治と小さな政治、政治の定義、政治と政治学
2	制度・原理・状況	人間思考の3側面、制度・状況・原理の発想法、官僚、ジャーナリスト、知識人
3	ノモス・コスモス・カオス	社会生活の3局面、ノモス・コスモス・カオス
4	権力と正統性	権力の定義、実体的見方、関係的見方、伝統・カリスマ・合法的正統性
5	リーダーとフォロワー	権威の発生、服従の調達、強制・買収・説得
6	B. 玄人の政治 様々なアクター・利益	アクター、役割、葛藤、利益集団、鉄の三角同盟
7	職業政治家	地盤・看板・鞆、族議員、派閥、政党
8	官僚	国家公務員試験、キャリア、昇進、天下り、官高政低、政高官低
9	マスコミ	世論、マスメディア、アナウンスメント効果
10	C. 政治の制度 政党と選挙	衆議院、参議院、小選挙区、中選挙区、比例代表
11	政治体制と政権	保守・革新、右・左、
12	政策・イデオロギー	イデオロギー、1955年体制、小さい政府・大きな政府
13	政治と文化	体制の変動、政権の交代
14	国家と国民	ナショナリズム、民族
15	まとめ	日本政治の鳥瞰図

科目名	社会学	科目ナンバリング	KSOL21015
担当者氏名	吉原 恵子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-E 社会・文化について理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

本講義は、社会学をはじめて学ぶ人に、社会的ものの見方のおもしろさや有効性について理解してもらうことを目的とする。目の前の現実について、いろいろな見方ができること、裏を返せば、自分からみた社会は一つの見え方にすぎないという感覚を身につけてほしい。授業では、社会学の専門用語を解説しながら、現代社会における個人と社会の関係やしぐみについて見抜く理論的道具を使えるようになることをめざす。

《授業の到達目標》

- (1) 社会的ものの見方ができるようになる
- (2) 社会を理解するために、社会的道具を使うことができるようになる
- (3) みんなで共に生きていくために、人間がどんな工夫をしているのか説明できるようになる

《成績評価の方法》

授業内レポート1-2回およびミニ・テストを数回実施する。
 (配点：文章作成能力および知識の定着度45点)
 定期試験(持ち込み不可)により学習達成度を評価する。
 (配点：理論体系の理解度、データを読む力、社会問題に取り組もうとする意欲、批判的視点等の獲得度：55点)

《テキスト》

『社会学のエッセンス』友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵(2013, 有斐閣アルマ)

《参考図書》

『社会学がわかる事典』森下伸也(2000, 日本実業出版社)、厚生労働白書その他、適宜提示します。

《授業時間外学習》

- (1) 毎回、該当する章を読んでから授業に臨んでください。
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジメを配布します。授業のふり返りに活かしてください。
- (3) 毎回のレジメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会的ものの見方	社会学の成立、個人と社会
2	行為の分析 (1)意味と相互主観性	意味、慣習的行為、役割行為、役割取得、ステレオタイプ、相互主観性、自己と他者
3	行為の分析 (2)アイデンティティ	アイデンティティ、役割、アイデンティティの確立、重要な他者、近代社会
4	行為の分析 (3)スティグマ	スティグマ、レイベリング、パッシング
5	行為の分析 (4)正常と異常	正常、異常、コンテキスト、分類(社会的カテゴリー)
6	行為の分析 (5)予言の自己成就	予言の自己成就、ポジティブ・フィードバック、ネガティブ・フィードバック、社会的世界
7	行為の分析 (6)社会構築主義	社会構築主義、社会構成主義、社会問題の構築、クレーム申し立て活動、対抗クレーム
8	学習の総まとめ(1)	「行為の分析」についてふりかえる
9	学習の総まとめ(2)	「秩序の解読」「社会の構想」についてふりかえる
10	秩序の解読 (1)ジェンダー	性別認知、らしさの役割、性別役割分業、フェミニズム、メンズリブ
11	秩序の解読 (2)規範と制度	規範、文化の恣意性、慣習・道徳・法、価値と制度、社会形成と維持
12	秩序の解読 (3)社会のなかの権力	姿を見せる権力、姿を見せない権力、情報の受容を促すメディア、強制力としての権力、伝統的支配、カリスマ的支配、合理的支配、官僚制組織
13	秩序の解読 (4)不平等と正義	社会構造、社会階層、属性主義、業績主義、機会の平等、結果の平等、集団的平等、格差、格差社会、不平等、階級社会
14	社会の構想 (1)共同体	近代家族、核家族、親密性、国民、国家、家父長制、家事労働、主婦の誕生、ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、コミュニティ、アソシエーション
15	社会の構想 (2)国家と市民社会	個人と社会、自由と連帯、市民社会、共同体、私的領域と公的領域、福祉国家論、アナーキズム

科目名	経済学	科目ナンバリング	KSOL21016
担当者氏名	石原 敬子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-E 社会・文化について理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

「経済学」というと、「企業」「お金儲け」などの言葉を連想し、ビジネスに携わらなければあまり関係がないと思う人もあるかもしれませんが、たしかに、ビジネスの世界と密接にかかわる分野であることに違いありませんが、皆さんが日ごろ行っているモノを買う行動（消費）も重要な経済活動です。この授業では、経済学とはどのような学問か、私たちに身近な経済の仕組みについてわかりやすく解説します。

《授業の到達目標》

- ・私たちが暮らしている市場経済の仕組みについて理解する。
- ・身近な問題を通して「経済学的考え方」を学ぶ。
- ・需要と供給、交換の利益、貨幣の役割など、経済学入門レベルの基礎知識を身につける。

《成績評価の方法》

平常点（授業時に取り組む課題についての評価）と学習のまとめとして学期末に行う筆記試験をもって評価します。評価の割合は、平常点40%、学期末の試験60%とします。

《テキスト》

特に指定しません。毎時間プリントを配布します。

《参考図書》

授業時に適宜紹介します。

《授業時間外学習》

- ・毎回1つのテーマについて解説する予定です。授業ごとにしっかりと内容を復習してください。わかりにくいこと、疑問に思うことがあるときには、そのままにせず、質問して理解を深めるように努めてください。
- ・第11週目を終わった頃に復習用教材(自習用)を配布する予定です。授業内容を理解できているか、振り返ってみましょう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要 「経済学」とは	「経済学」とはどのような学問かを説明します。 授業の概要と受講上の注意事項についても説明します。
2	市場のはたらきについて考えよう	経済の基本問題（資源配分問題）を解決するうえで、市場は重要な役割を演じています。そのメカニズムについてわかりやすく解説します。
3	交換の利益・分業の利益・協業の利益	私たちの暮らしを支える基本的な経済の仕組みについて解説します。 「比較優位の理論」をとりあげ、貿易の利益についても考察します。
4	貨幣の歴史と役割	貨幣がどのような役割を演じているかをわかりやすく解説します。 IT革命が生み出した「電子マネー」の特徴と可能性についても考察します。
5	IT革命がもたらしたもの	情報技術革命により、私たちの暮らしやビジネスの世界にどのような変化が生じたか、最近注目されている「ビッグデータ」の活用などについて考察します。
6	企業戦略について考えよう(1)	「需要曲線」を用いて、企業の価格戦略について考察します。
7	企業戦略について考えよう(2)	身近な販売戦略の1つである「セット販売」がなぜ行われるのか、経済学の基礎理論を用いて分析します。
8	市場経済での競争の役割(1)	競争的市場と独占市場を比較し、経済の領域での競争の意味について考察します。
9	市場経済での競争の役割(2)	市場経済で根本的に重要な経済政策の1つである競争政策の役割について解説します。
10	「市場の失敗」について考えよう(1)	市場のはたらきでは解決できない問題にはどのようなものがあるのかを解説します。 その1つである「格差問題」について考察します。
11	「市場の失敗」について考えよう(2)	地球温暖化にかかわる問題、その解決策にはどのようなものがあるかを経済学の考え方を 用いて考察します。
12	「市場の失敗」について考えよう(3)	食の安全を守るにはどのような制度が必要か、子どもから高齢者まで安心して消費活動 を行える社会にするためにどのような制度が求められるかを経済学的に考察します。
13	景気の問題について考えよう	マクロ経済学の基礎的概念について解説しながら、景気に関する問題、景気対策について 考察します。
14	少子高齢化問題について考えよう	少子高齢化社会が抱える問題、少子高齢化社会での政府の役割について考察します。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返り、理解度を確認してみましょう。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	化学	科目ナンバリング	KNAL21017
担当者氏名	阿部 真幸		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

化学は個々の化合物の性質や構造、反応の様子を明らかにする学問であり、食品や健康、医療や看護に関わりの深い学問です。専門領域に関連する学問を本格的に学ぶ前に、その基礎となる化学的知識を、一年次における導入として解説します。私たちの身の回りの物質と化学知識のつながりを通して、物質を科学的に見る眼を養って欲しいと考えます。

《授業の到達目標》

溶液の濃度の表し方を理解し、これらの濃度を互に変換できる。
 代表的なアルキル基と官能基について構造と特徴（性質）を理解している。
 有機化学反応の生成物を構造式で示し、反応を説明できる。
 生体に関わりのある代表的化合物の種類および働きを説明できる。

《成績評価の方法》

定期試験（80%）および授業中に行う小テスト（20%）を加味して総合的に判断します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	化学で扱う数値	授業方針の説明 指数・有効数字、物理量と単位
2	化学結合と分子	イオン結合、金属結合、共有結合、配位結合、結合の極性、水素結合と分子間力
3	物質の量と状態	原子量と分子量、モル、濃度
4	酸・塩基	酸と塩基の定義、価数と強弱、中和反応と塩の生成、水素イオン濃度とpH、緩衝液
5	酸化・還元	酸化と還元、酸化・還元反応、電池の原理
6	有機化合物の構造（1）	有機化合物の結合、炭化水素の種類、構造式の表示法
7	有機化合物の構造（2）	置換基の種類、有機化合物の種類と性質
8	異性体と立体構造	構造異性体、立体異性体、光学異性体、シス・トランス異性体
9	有機化学反応（1）	化学反応とエネルギー、反応速度、律速段階、酸化・還元反応
10	有機化学反応（2）	置換反応、脱離反応と付加反応
11	糖類	単糖類、二糖類、多糖類
12	脂質類	単純脂質、複合脂質、生体膜、石けん（両親媒性分子）
13	アミノ酸とタンパク質	アミノ酸の種類、（ポリ）ペプチド、タンパク質の立体構造、酵素
14	核酸（DNAとRNA）	核酸の構造、DNAの機能と複製、遺伝子とRNA合成、RNAの機能、ATP・ADP・AMP・リン酸
15	高分子化合物	高分子の種類、高分子化合物の分子構造、イオン交換樹脂

《テキスト》

『コ・メディカル化学』
 齋藤勝裕、荒井貞夫、久保助二 共著（裳華房）

《参考図書》

特に指定しません（授業時に適宜紹介します）。

《授業時間外学習》

授業前に、テキストの学習する範囲を読んでおくこと。
 各自で演習問題を解くなど、授業の復習を行い、理解に努めること。

《備考》

授業中分からないところが有れば、その都度、挙手をして質問してください。
 他の履修者に迷惑になる行動はしないこと。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	生物学	科目ナンバリング	KNAL21018
担当者氏名	佐藤 隆		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

生物の構造と機能および環境との関わりについてプリントやスライドを使用して解説する。また、質問時間を設けるとともに、理解を深めるために試問を行う。

《テキスト》

やさしい基礎生物学 第2版（南雲保編、羊土社）

《参考図書》

カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第1巻～第5巻（デイビッド・サダヴァ 他：著、石崎泰樹 他：監訳）

《授業の到達目標》

生物や環境についての知識を深めるとともに、自然の中におけるヒトの位置づけについて理解することを目標とする。

《授業時間外学習》

授業内容の予習と復習

《成績評価の方法》

定期試験（100%）により評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	細胞	細胞の構造と機能
2	生命体を構成する物質	アミノ酸、タンパク質、糖質
3	生命体を構成する物質	脂質、核酸、ビタミン
4	遺伝子の構造と機能	DNA・RNAの構造、DNA複製・転写、翻訳
5	生体とエネルギー	解糖系、トリカルボン酸回路、電子伝達系
6	光合成	光合成の機構
7	細胞分裂と細胞の分化	体細胞分裂、減数分裂、細胞の分化、がん化
8	生命体の受精と成長	生殖の仕組み、初期発生、アポトーシス、老化
9	多細胞生物の自己維持機構	細胞間情報伝達システム
10	多細胞生物の自己維持機構	恒常性（ホメオスタシス）、生体防衛機構
11	遺伝のしくみ	メンデルの法則、遺伝病
12	生態系	生物と環境
13	生態系	環境問題、動物の行動
14	生物の進化と多様性	生物の誕生と進化、系統分類
15	生命科学技術と社会	生命倫理、遺伝子組み換え技術、クローン技術、再生医療

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	食と健康	科目ナンバリング	KNAL21019
担当者氏名	嶋津 裕子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-E 社会・文化について理解する力 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

本授業では、食と健康をキーワードに 食を中心に消費生活全般における消費者力の向上を目指す。

《テキスト》

進行にあわせて適宜プリントを配布する。

《参考図書》

「くらしの豆知識2015年版」 国民生活センター
 「ハンドブック消費者2015」 消費者庁

《授業の到達目標》

基礎的な暮らしの知識、食品の機能性や食文化、食の安全・安心に関する知識、ライフサイクルに応じた消費生活のあり方について理解し、説明できる。

現在の日本の消費者問題を理解し、健全な消費生活のあり方について情報発信することができる。

自らの消費生活を見つめ直し、改善する能力を身につけることができる。

《授業時間外学習》

ニュース、新聞などにより、健康や栄養、消費生活に関する施策、制度変更や時事問題などに注目しておくこと。

《成績評価の方法》

課題レポート・提出物（50%）、定期試験（50%）

《備考》

授業初回に授業内容や成績評価について詳しく説明する。できるだけ出席すること。

課題レポートは指定した書式や内容のものを作成すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	授業内容や成績評価について説明する。食に関する法律や資格について理解する。
2	消費者問題と歴史	消費者被害と事例、消費者の権利を理解する。
3	消費者政策と行政	消費者行政と行政の対応、消費生活センターの業務等を理解する。
4	消費者教育とコンプライアンス経営	消費者教育の意義・必要性を理解し、教育企画（案）を作成できる。
5	食品表示	食品の表示（法律による表示、保健機能食品、マークによる表示等）を理解し、選食力を修得する。
6	食品表示	食品の表示（法律による表示、保健機能食品、マークによる表示等）を理解し、選食力を修得する。
7	食の安全・安心	脅かされる食の安全（BSE、鳥インフルエンザ、農薬、食品添加物、寄生虫、食物アレルギー）について理解する。
8	食の安全・安心	脅かされる食の安全（BSE、鳥インフルエンザ、農薬、食品添加物、寄生虫、食物アレルギー）について理解する。
9	食の安全・安心	食中毒の予防（細菌性食中毒、ウイルス性食中毒、自然毒食中毒、化学性食中毒、寄生虫）について理解する。
10	食の安全・安心	食中毒の予防（細菌性食中毒、ウイルス性食中毒、自然毒食中毒、化学性食中毒、寄生虫）について理解する。
11	食の安全・安心	食品の流通・製造での安全安心（コールドチェーン、HACCP、トレーサビリティシステム）について理解する。景品表示法について理解する。
12	日本と世界の食料事情	食料自給率や食品ロス（食品廃棄）を通して、日本および世界の食料事情を理解する。
13	日本と世界の食料事情	フードマイレージ、食とエコ等食と環境について理解する。
14	消費者教育とコンプライアンス経営	消費者教育の意義・必要性を理解し、教育企画（案）を修正し、情報発信ができる。
15	まとめ	消費者教育の意義・必要性を理解し、教育企画（案）を修正し、情報発信ができる。情報交換ができる。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	実用英語（初級）	科目ナンバリング	KLAL21020
担当者氏名	松盛 美紀子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

テキストの各ユニットの学習を通して、実際のTOEICテストの問題形式に慣れるとともに、TOEICでよく用いられる語いや表現を身につけ、文法事項を再確認する。

《テキスト》

水本篤、Mark D. Stafford 『Successful Keys to the TOEIC TEST Intro レベル別TOEICテスト総合トレーニングINTRO』（桐原書店、2015年）

《参考図書》

必要に応じて授業で紹介する。

《授業の到達目標》

TOEICテストの問題形式に慣れ、スコア400点以上の取得を目標にする。

《授業時間外学習》

授業で取り上げる内容について予習復習をすること。リスニング問題の音声は専用ウェブサイトからダウンロードできるので、予習復習の際に活用すること。

《成績評価の方法》

小テスト 30%、発表・課題 30%、定期試験 40%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習内容全体の説明。TOEIC Pre-Test。
2	Unit 1 Daily Life	日常生活で使われる単語や表現を身につける。文法事項：品詞を区別しそれぞれの働きを学ぶ。
3	Unit 2 Places	場所を表す単語や表現を身につける。文法事項：日常的によく使われるフレーズを身につける。
4	Unit 3 People	職業を表す単語やそれに関連する表現を身につける。文法事項：代名詞を正しく使う。
5	Unit 4 Travel	出勤・出張・休暇など旅行関連の単語や表現を身につける。文法事項：再帰代名詞を正しく使う。
6	Unit 5 Business	ビジネスシーンで使われる用語やフレーズを身につける。文法事項：文脈に応じた動詞を選ぶ。
7	Unit 6 Office	オフィスで使われる単語や表現を身につける。文法事項：時制について理解を深める。
8	Unit 7 Technology	テクノロジー関連の単語や表現を身につける。文法事項：類語を整理する。
9	Unit 8 Personnel	雇用、昇進、異動、退職など人事に関する単語や表現を身につける。
10	Unit 9 Management	経営に関する単語や表現を身につける。文法事項：接続詞について理解を深める。
11	Unit 10 Purchasing	商品の生産、請求、支払いなど売買に関する表現を身につける。文法事項：接続詞について理解を深める。
12	Unit 11 Finances	金融に関する単語や表現を身につける。文法：不定詞（to do）や動名詞（～ing）について理解を深める。
13	Unit 12 Media	メディアに関する単語や表現を身につける。文法事項：助動詞について理解を深める。
14	Unit 13 Entertainment	娯楽に関する単語や表現を身につける。文法事項：前置詞について理解を深める。
15	Review	Review Test

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	実用英語（中級）	科目ナンバリング	KLAS22021
担当者氏名	松盛 美紀子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

TOEICに必要な語いを強化し、文法事項を再確認する。リスニングでは、応答問題や会話問題の聞き取りを重点的に行う。各テーマに沿った練習問題を繰り返し学習することで、必要な情報を的確に捉える力をつける。

《テキスト》

水本篤、Mark D. Stafford 『Successful Keys to the TOEIC TEST 1(3rd Edition) レベル別TOEICテスト総合トレーニング1(第3版)』（桐原書店、2015年）

《参考図書》

必要に応じて授業で紹介する。

《授業の到達目標》

TOEICテストの問題形式に慣れ、スコア500点以上の取得を目標にする。

《授業時間外学習》

授業で取り上げる内容について予習復習をすること。リスニング問題の音声は専用ウェブサイトからダウンロードできるので、予習復習の際に活用すること。

《成績評価の方法》

小テスト 30%、発表・課題 30%、定期試験 40%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習内容全体の説明、TOEIC Pre-Test
2	Unit 1 Daily Life	品詞の違い 広告を読む
3	Unit 2 Places	カードを読む
4	Unit 3 People	代名詞 図表と手紙を読む(1)
5	Unit 4 Travel	案内を読む
6	Unit 5 Business	動詞の形 通知・メモを読む
7	Unit 6 Office	手紙を読む
8	Unit 7 Technology	語い関連 図表と手紙を読む(2)
9	Unit 8 Personnel	記事を読む(1)
10	Unit 9 Management	接続詞 通知を読む
11	Unit 10 Purchasing	手紙とレシートを読む
12	Unit 11 Finances	時制 レシピを読む
13	Unit 12 Media	記事を読む(2)
14	Unit 13 Entertainment	前置詞 Eメールを読む
15	Review	Review Test

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	中国語（初級）	科目ナンバリング	KLAL21022
担当者氏名	佟 曉寧		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この講義は中国語の入門クラスで、発音、基礎文法、挨拶の言葉、会話文を勉強します。発音段階にDVD（発音要領）などを見ながら勉強し、同時にあいさつも勉強します。その後、日本人留学生中西くんの話を中心に、自己紹介から、ホテルの宿泊、買い物など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。この勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。

《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。

《成績評価の方法》

- ・ 授業態度30%
- ・ 課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・ 期末試験50%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』
陳 淑梅・劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考図書》

特に使いません。
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業時間外学習》

- ・ 予習の方法
CDを聞くこと
新出単語をチェックすること
- ・ 復習の方法
CDを聞くこと
会話文を暗誦すること

《備考》

- ・ 「中国語（初級）」と「中国語（中級）」をペアでとるのがお勧めです
- ・ 毎回出席をとる、授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第1課 こんにちは 発音1	挨拶の言葉1 中国語の音節 声調 ドリル（発音のDVD視聴）
2	第2課 また明日 発音2	挨拶の言葉2 単母音 複母音 ドリル（発音のDVD視聴）
3	第3課 ありがとう 発音3	挨拶の言葉3 子音1 ドリル（発音のDVD 視聴）
4	第4課 お久しぶり 発音4	挨拶の言葉4 子音2 鼻音 ドリル（発音のDVD 視聴）
5	発音のまとめ	発音についての総復習
6	第5課 名前の言い方とたずね方	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
7	第6課 動詞、助詞	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
8	第5課・第6課の復習	第5・6課についてのまとめと練習
9	第7課 中国語語順	基本語順・連動文 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
10	第8課 助動詞、動詞、指示代名詞	助動詞の位置・動詞「有」 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
11	第7課・第8課の復習	第7・8課についてのまとめと練習
12	第9課 動詞、方位詞	動詞「在」・方位詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
13	第9課 前置詞、場所代名詞	前置詞・場所代名詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
14	まとめ	発音・文法についての総復習
15	まとめ	会話・作文についての総復習

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	中国語（中級）	科目ナンバリング	KLAL21023
担当者氏名	佟 曉寧		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この講義は「中国語（初級）」の続きで基礎文法、会話文を勉強します。日本人留学生中西くんの話を軸に、買い物、料理の注文など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。一年間の勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。中国語の検定試験準4級を受けるレベルをも目指します。

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』
陳 淑梅・劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考図書》

特に使いません。
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業の到達目標》

発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
会話 簡単な日常会話ができる。
中国語検定試験準4級を受けるレベルに達することができる。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
CDを聞くこと
新出単語をチェックすること
- ・復習の方法
CDを聞くこと
会話文を暗誦すること

《成績評価の方法》

- ・授業態度30%
- ・課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・期末試験50%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

《備考》

- ・「中国語（初級）」と「中国語（中級）」をペアでとるのがお勧めです
- ・毎回出席をとる、授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第10課 文法	数の言い方 ・ お金の言い方 形容詞の文
2	第10課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
3	第11課 文法	年月日、曜日の言い方 年齢の言い方
4	第11課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
5	第12課 文法	量詞（ものの数え方） 動詞の重ね方
6	第12課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
7	第13課 文法	時刻の言い方 状態の変化の「了」（～になる）
8	第13課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
9	第14課 文法	時間量の言い方 完了の「了」の使い方
10	第14課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
11	第15課 文法	前置詞「給」 助動詞「可以」「能」
12	第15課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
13	第16課 文法	現在進行形の言い方 助動詞「会」
14	第16課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
15	まとめ	総復習

科目名	韓国語（初級）	科目ナンバリング	KLAL21024
担当者氏名	高 秀美		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

韓国語(ハングル)の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》

1. ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2. 簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3. 韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%、レポート20%、小テスト10%、期末テスト40%

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語（文法編）』
 金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考図書》

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』
 油谷幸利 他編著 小学館、2004年
 『パスポート朝鮮語小事典』
 塚本勲 監修・熊谷明泰編集 白水社、2011年
 『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』
 木内 明著、国書刊行会、2004年

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することを願います。

《備考》

テキストに付いているCDを良く聞きながら発音の練習をすることが必要です。又は出席及び積極的授業参加、復習・予習が求められます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業ガイダンス・文字と発音 基本母音	授業のガイダンスを始め、簡単に韓国文化、韓国語の歴史や文字について説明する。そして、韓国語の基本母音(10個)について説明する。
2	文字と発音 子音(平音)	韓国語の基本母音を復習後、基本子音(10個)を学ぶ。
3	文字と発音 子音(激音・濃音)	韓国語の基本子音を復習後、激音と濃音を学ぶ。
4	文字と発音 二重母音	韓国語の子音を復習後、基本母音字の組み合わせで作られた複合母音を勉強する。
5	文字と発音 子音(終声子音)・読み方の法則	子音と母音の組み合わせを単語を使って練習後、パッチム(子音+母音の後に来る子音、支えろと意味)について勉強する。
6	文化項目(1): 韓国の映画感想	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第1課 私は吉田ひかるです。	～です・ですか(합니체)、～は(助詞)について学習する。
8	第2課 お名前は何か。	～です・ですかの(해요체)、～が(助詞)について学習する。
9	第3課 ここは出口ではありません。	～ではありません(名詞文の否定)、～も(助詞)について学習する。
10	Review 1	第1課から第3課まで復習、練習問題を通じて確認する。 自己紹介の練習を行う。
11	第4課 近くに地下鉄の駅ありますか。	～います・～あります又は～いません・ありません、～に(助詞)について学習する。
12	第5課 学校の図書館でアルバイトをします。	～をします又は～で(場所+에서)を学習する。
13	第6課 私の誕生日は10月9日です。	漢数字: 日本語のいち、に、さんに相当する年、月、日、値段、電話番号、何人前、学年、階、回、号室などに使う。漢数字を学習する。
14	Review 2	第5課と第6課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

科目名	韓国語（中級）		科目ナンバリング	KLAL21025
担当者氏名	高 秀美			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

韓国語(ハングル)の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》

- 1.ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
- 2.簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
- 3.韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%、レポート20%、小テスト10%、期末テスト40%

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語（文法編）』
金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考図書》

- 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』
油谷幸利 他編著 小学館、2004年
- 『パスポート朝鮮語小事典』
塚本勲 監修・熊谷明泰編集 白水社、2011年
- 『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』
木内 明著、国書刊行会、2004年

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することを願います。

《備考》

発音の練習やペアで応用会話の練習をしながら楽しく話せる語学授業を考えています。特に、「韓国語（初級）」を必ず受講してから「韓国語（中級）」を受講するのをおすすめします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	復習及び数字の活用	「韓国語（初級）」の学習内容を再確認し、質疑応答
2	第7課 友達とランチを食べます。	用言の『です・ます形』 『～합니다体』、～と(助詞)について学習する。
3	第8課 日本の冬はあまり寒くありません。	動詞や形容詞の否定表現と覚えておきたい動詞を文章を作りながら学習する。
4	第9課 キムチは辛いけどおいしいです。	接続語尾～して、～くて、～であり、～が、～けれどについて学習する。
5	Review 3	第7課から第9課まで復習、練習問題を通じて確認する。
6	文化項目(2)：韓国の映画を通しての文化理解	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第10課 今日は天気がとても良いです。	用言の『です・ます形』、『～해요体』～と不可能の表現について学習する。
8	第11課 公園で友達を待ちます。	用言の『です・ます形』、『～해요体』を復習し、縮約形の『～해요体』を学習する。
9	第12課 合コンは今日の夕方6時です。	固有数字：日本語の一つ、二つに当たる数字、～歳、時間、個、名、枚、台などに使う、固有数字を学習
10	Review 4	第10課から第12課まで復習、練習問題を通じて確認する。
11	第13課 KTXで3時間かかりました。	動詞の過去形を学習する。又は～から～までと手段を表す助詞を学ぶ。
12	第14課 韓国の映画は好きですか。	様々な尊敬の表現を学習する。
13	第15課 道を教えてください。	お願い表現、丁寧な命令形について学習する。
14	Review 5	第14課と第15課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

科目名	健康・スポーツ科学（講義）	科目ナンバリング	KPHL21026
担当者氏名	三宅 一郎		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-F 自然・健康について理解する力 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進める。体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深める。健康については、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等について探る。スポーツも見る楽しさやスポーツを实践する際の効果的な方法を学ぶ。健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、“生涯を通して積極的に健康づくりができる力” “自己の健康管理ができる力”を身につける事をめざす。

《参考図書》

『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦（大修館書店）、『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）、『からだの‘仕組み’のサイエンス』運動生理学の最前線 加賀谷淳子他（杏林書院）、『生涯スポーツ実践論』川西正志・野川春夫（市村出版）、『運動発達科学』～幼児の運動発達を考える～三宅一郎（大阪教育図書）

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間与えるテーマに対するミニレポート（50%）、受講に取り組む姿勢等の平常点（20%）、学期末に課題に対するレポート（30%）の総合で評価する。

《授業時間外学習》

<予習方法>
下記の授業計画における次時の授業内容をあらかじめ参考文献等で確認しておくことでより理解が深まる。
<復習方法>
学んだ内容を配付資料等で再確認することによって今後の自己の健康管理に生かして欲しい。

《備考》

この授業を受講することによって、自分自身の健康づくりや体力づくりを再確認して欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方や方法・評価方法・その他注意事項等について
2	体力の考え方と構造	体力とは何か？体力の分類等の考え方とその構造について学ぶ
3	体力の測定と評価	体力の測定方法と評価の意義について学ぶ。さらに測定結果の活用方法についても併せて学ぶ。
4	体力の加齢変化と性差	発育発達と体力。また加齢による体力の変化について学ぶ。
5	運動生理学の基礎	運動生理学の基礎知識を学ぶ。
6	バイオメカニクスの基礎	バイオメカニクスの基礎意識を学ぶ。
7	運動栄養学の基礎	運動栄養学の基礎知識を学ぶ。
8	トレーニング論の基礎	トレーニングの種類と実施方法等を学ぶ。
9	健康の考え方	様々な健康の捉え方や考え方について学ぶ。
10	健康づくりと運動処方	健康づくりに必要な運動処方の考え方について学ぶ。
11	健康づくりと運動実践	健康づくりの為の運動実践を考えると共に実践の仕方を学ぶ。
12	健康と体力の関係	健康と体力の関係について学び、必要な体力づくり等を学ぶ。
13	今後の健康づくりについて考える	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その1）。
14	今後の健康づくりについて考える	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その2）。
15	まとめ	学んだ内容の確認と評価

科目名	健康・スポーツ科学（講義）		科目ナンバリング	KPHL21026
担当者氏名	矢野 琢也			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-F 自然・健康について理解する力 基教-G 論理的思考力			

《授業の概要》

健康で生き生きとした生活を送るためやスポーツにおける競技力向上には科学的な事実に基づく知識が必要条件です。健康運動科学の入門にあたって、1.運動(トレーニング)、2.栄養、3.休養の3つの科学的根拠に基づいた適切な知識を身につけ、適切に組み合わせる事で、より効果的な健康・スポーツ活動が行えるようにします。そうした基礎知識の習得を行います。

《授業の到達目標》

健康運動科学の入門として、1.運動(トレーニング)、2.栄養、3.休養の3つの基礎知識を身につけます。健康や運動に関する興味関心の向上や運動実施の動機付けも目標とします。

《成績評価の方法》

ほぼ毎回の「授業のまとめ」の提出60%、期末の課題レポート20%、小テスト20%で評価します。出席回数が授業回数の2/3未満は評価対象外とします。

《テキスト》

指定しません。必要に応じて資料を配布します。

《参考図書》

「健康づくりのための運動科学」化学同人、「スポーツ生理学」化学同人、「エクササイズ科学」文光堂

《授業時間外学習》

事前に関連の箇所を参考図書等で学ぶこと。新聞、雑誌、テレビ等から関連の情報を入手し、基礎知識を増やす事。

《備考》

受講態度に問題がある場合は、注意、警告の上、退出等の指導を行います。時間厳守で授業に望むことを強く希望します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の展開方法や評価等について説明します。受講者希望者は必ず出席する事。
2	健康科学の現状について	健康運動科学の現状を最新の情報も交えながら解説する。
3	健康づくりと運動について1	健康づくりのためのレジスタンストレーニング(筋トレ)の必要性や効果を理解する。
4	健康づくりと運動について2	高齢者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング(筋トレ)の必要性や効果を理解する。
5	健康づくりと運動について3	中高年者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング(筋トレ)の必要性や効果を理解する。
6	健康づくりと運動について4	若者、特に女性における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング(筋トレ)の必要性や効果を理解する(減量など)。
7	健康づくりと運動について5	年少者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング(筋トレ)の必要性や効果を理解する。
8	健康づくりと運動について6	有酸素系運動の効果と重要性について理解する。
9	健康づくりと栄養について1	栄養素の働きと重要性について理解する。
10	健康づくりと栄養について2	栄養素の働きと重要性について。特にサプリメントの活用方法とその意義について理解する。
11	健康づくりと栄養について3	運動と栄養の関係について。効果的な運動処方について理解する。
12	休養について1	コンディショニングとしての積極的休養について理解する。
13	休養について2	休養における睡眠の意義と重要性について理解する。
14	休養について3	スポーツにおける休養(リカバリー)の方法とそのメカニズムの基礎について理解する。
15	まとめ	まとめを行い、小テストでその理解度を確認する。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学（演習）		科目ナンバリング	KPHS21027
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ、矢野 琢也			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 基教-F 自然・健康について理解する力			

《授業の概要》

授業の最初に身体組成の計測と体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握する。次に、各自が取り組むスポーツ種目を選択し、その間の積極的な行動が授業の最終日に行う体力テストに反映できるようなプログラムを構築していく。さらには、ルールに基づいた各種のスポーツ活動を行っていくなかで、技術、体力、戦術などについて理解を深めるとともに、生涯スポーツ実践の能力を身につける事を目的とする。

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)随時テーマに対するレポート提出(20%)学期末にまとめのレポート提出(30%)

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）
『からだロジック入門』宮下充正（大修館）

《授業時間外学習》

<予習方法> シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
<復習方法> 実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	屋内種目（体育館）	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球 等の中から1種目実施。
4	屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ターゲットパードゴルフ・ベタンク 等の中から1種目実施。
5	屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール 等の中から1種目実施。
6	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
7	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
8	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
9	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
10	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
11	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
12	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
13	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
14	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
15	体力テスト（2回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学 (演習)	科目ナンバリング	KPHS21028
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

屋内と屋外スポーツを同時に進行する。時間単位で種目を選択し、毎時間ゲームを取り入れて各種目の応用技能を習得する。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）
 『からだロジック入門』宮下充正（大修館）

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しむことを目的とする。

《授業時間外学習》

<予習方法>
 シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
 <復習方法>
 実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。
 毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)
 随時テーマに対するレポート提出(20%)
 学期末にまとめたレポート提出(30%)

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	屋内種目（体育館）	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球等の中から1種目実施。
4	屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ターゲットパードゴルフ・ベタンク等の中から1種目実施。
5	屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール等の中から1種目実施。
6	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
7	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
8	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
9	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
10	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
11	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
12	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
13	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
14	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
15	体力テスト（2回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	私のためのキャリア設計		科目ナンバリング	KCAL21029
担当者氏名	三上 嘉代子			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	基教-A コミュニケーション力 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力			

《授業の概要》

この講義では、みなさん自身が学生生活の目的や目標を明確にし、それを実現するための考え方を学びます。さらに社会で求められる、マナーやコミュニケーション能力、課題解決能力等の養成にも取り組みます。

《授業の到達目標》

キャリアについて理論や演習を通じて学び、有意義な大学生活を過ごすための力や将来の自分自身について主体的に考え、行動することができる。

《成績評価の方法》

平常点(授業への取組姿勢) 50%、各分野の学習後に課するレポート 50%

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

平木典子『自分の気持ちをきちんと伝える技術』PHP研究所(2011年)、小樽商科大学キャリア教育開発チーム+キャリアバンク編『大学ノムコウ』日本経済評論社(2008年)、寿山泰二『社会人基礎力が身につくキャリアデザインブック~自己理解編~』金子書房2012年

《授業時間外学習》

シラバスの進行に合わせて予習する内容を伝えます。毎回の授業の課題等を整理し、まとめて復習することが必要です。

《備考》

コミュニケーションの基本は「あいさつ」です。授業は「あいさつ」から始め「あいさつ」で終わります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の狙い、授業の進め方、現在の自己全体を考える
2	マナー	基本編：挨拶の重要性・言葉づかい
3	マナー	実践編：面接時のマナー
4	コミュニケーションについて	聴く力、傾聴について考える
5	コミュニケーションについて	伝える力、アサーショントレーニングについて考える
6	自分自身を理解する	自我状態や対人関係の基本的な姿勢を知り自己理解を深める
7	自分自身を理解する	自他評価を分析する
8	自分自身を理解する	相互理解を深める
9	人を選ぶ・選ばれる	学生時代に力をいれたこと
10	自分の将来設計	これから就きたい仕事
11	社会が求める力を考える	採用会議～自律性・自立性を高める
12	社会が求める力を考える	考える力を身につける～適正を知る～
13	社会が求める力を考える	総合力を身につける
14	行動計画：プレゼンテーション	準備(自分を語るシート記入)、発表
15	行動計画：プレゼンテーション	発表

平成 27（2015）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

看護学科 平成27年度（2015年度）入学者対象
 ()は兼担、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業方法	単位数		看護師	保健師	看護教諭一種	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成27年度の担当者	ページ	
				必修	選択				1年		2年		3年		4年				
									I	II	I	II	I	II	I	II			
専門基礎科目	I群 (健康支援と社会保障制度)	社会福祉論	K01D21001	講義	2					2							竹内 一夫	64	
		人間関係論 (カウンセリングを含む)	K01X22002	講義	2						2								
		家族関係論	K01D21003	講義	2						2							竹内 一夫	65
		精神保健	K01F21004	講義	2						2							[南川 博康]	66
		環境保健学	K01F23005	講義	1								1						
		保健医療福祉行政論	K01B12006	講義	2								2						
		公衆衛生学 (疫学含)	K01C12007	講義	2								2						
		保健統計学	K01C12008	講義	2								2						
	II群 (人体の構造と機能)	基礎生物学	K02X21009	講義	2					2								不開講	
		形態機能論 I	K02C11010	講義	2					2								伊藤 純	67
		形態機能論 II	K02C11011	講義	2					2								伊藤 純	68
		生化学	K02X21012	講義	2					2								[片山 俊郎]	69
		栄養学 (食品学を含む)	K02C11013	講義	2					2								(真鍋 祐之)	70
		薬理学	K02C12014	講義	2							2							
		免疫・微生物学	K02C12015	講義	2							2							
	III群 (疾病の成立及び回復の促進)	臨床病理病態学 I (内科系)	K03B12016	講義	2							2							
		臨床病理病態学 II (内科系)	K03B12017	講義	2								2						
		臨床病理病態学 III (外科系)	K03B12018	講義	2									2					
		臨床病理病態学 IV (周産期・小児科系)	K03B12019	講義	2								2						
専門科目	IV群 (基礎看護学)	看護学概論	K04C11020	講義	2				2								小林 廣美	71	
		看護理論	K04C11021	講義	1					1							小林 廣美	72	
		ヘルスアセスメント	K04C11022	演習	1					1							小林・森崎・西山・掛川	73	
		看護技術論 I (生活技術援助)	K04C11023	演習	2					4							小林・森崎・西山・掛川	74	
		看護技術論 II (診療技術援助)	K04C12024	演習	2						4								
		看護技術論 III (看護過程)	K04B12025	演習	1							2							
		基礎看護学実習 I	K04C11026	実習	1						3							小林・森崎・西山・掛川	75
		基礎看護学実習 II	K04C12027	実習	2							6							
		看護教育学	K04B14028	講義	1										1				
		看護倫理	K04B14029	講義	1										1				
	看護管理学	K04B13030	講義	1									1						
	V群 (成人・老年看護学)	成人看護学概論	K05C12031	講義	2						2								
		成人看護援助論 I (生命危機状態にある人)	K05C13032	演習	2								4						
成人看護援助論 II (常態の維持・増進が困難な人)		K05C13033	演習	2								4							
成人看護学実習 I		K05B13034	実習	3									9						
成人看護学実習 II		K05B13035	実習	3									9						
老年看護学概論		K05B12036	講義	2						2									
老年看護援助論		K05B13037	演習	2								4							
老年看護学実習 I		K05B13038	実習	2									6						
老年看護学実習 II		K05B13039	実習	2									6						
VI群 (小児看護学)	母性看護学概論	K06C12040	講義	2						2									
	母性看護援助論	K06C13041	演習	2								4							
	母性看護学実習	K06B13042	実習	2									6						
	小児看護学概論	K06C12043	講義	2							2								
	小児看護援助論	K06C13044	演習	2								4							
	小児看護学実習	K06C13045	実習	2									6						

カリキュラム年次配当表

看護学科 平成27年度（2015年度）入学者対象
（ ）は兼担、[]は兼任講師

授業 科目の 区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業 方法	単位数		看護師	保健師	養護 教諭 一種	学年配当 (数字は週当り授業時間)								平成27年度の 担当者	ページ				
				必修	選択				1年		2年		3年		4年							
									I	II	I	II	I	II	I	II						
専 門 実 践 科 目	Ⅶ群 (精神・在宅・地域看護学)	精神看護学概論	K07C12046	講義	2		◇	□	○					2								
		精神看護援助論	K07C13047	講義	2		◇	□	○							2						
		精神看護学実習	K07C13048	実習	2		◇	□	○								6					
		在宅看護概論	K07B12049	講義	2		◇	□							2							
		在宅看護援助論	K07B13050	講義	2		◇	□								2						
		在宅看護実習	K07B14051	実習	2		◇	□									6					
		公衆衛生看護学概論	K07B12052	講義	2		◇	□							2							
		健康教育論	K07B13053	講義	1		◇	□								1						
		学校保健概論	K07C12054	講義	1		◇	□	○							1						
		国際看護学	K07B13055	講義	1		◇	□								1						
		災害看護学(災害保健を含む)	K07B14056	講義	1		◇	□										1				
		専 門 教 育 科 目	Ⅷ群 (統合と実践の看護)	基礎ゼミ	K08B11057	演習	2		◇	□					2						*1	76
				看護研究Ⅰ(基礎編)	K08B13058	講義	2		◇	□							2					
看護研究Ⅱ(応用編)	K08B14059			演習	2		◇	□									2					
リスクマネジメント論	K08B13060			講義	1		◇	□							1							
看護の統合と実践実習	K08B13061			実習	2		◇	□								6						
関 連 科 目	Ⅸ群 (保健師関連)	疫学	K09D23062	講義	2			□							2							
		公衆衛生看護学活動展開論	K09D23063	演習	2			□							4							
		健康相談活動の理論と実践	K09F23064	講義	2			□	○						2							
		産業保健論	K09D23065	講義	1			□							1							
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	K09D23066	実習	1			□								3						
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	K09D24067	実習	4			□									12					
		公衆衛生看護学特論	K09X24068	講義	1													1				
	Ⅹ群 (養護)	学校保健活動論	K10E23069	講義	2					○					2							
		学校保健演習	K10E23070	演習	2					○					2							
		養護概説	K10E22071	講義	2					○					2							

◇は看護師国家試験受験資格必修科目、□は保健師国家試験受験資格必修科目、○は養護教諭免許必修科目

*1 看護学科全教員

授業 科目の 区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業 方法	単位数		看護師	保健師	養護 教諭 一種	学年配当 (数字は週当り授業時間)								平成27年度の 担当者	ページ		
				必修	選択				1年		2年		3年		4年					
									I	II	I	II	I	II	I	II				
教 職 に 関 す る 科 目	教職概論	KTAL41001	講義	2				○	2										[砂子 滋美]	77
	教育原理	KTAL41002	講義	2				○	2										(古田 薫)	78
	教育心理学	KTAL42003	講義	2				○			2								(古田 薫)	79
	教育制度論	KTAL42004	講義	2				○	2											
	教育課程論(道徳、特別活動を含む)	KTAL42005	講義	2				○			2									
	教育方法・技術論	KTAL42006	講義	2				○			2									
	生徒指導論	KTAL42007	講義	2				○			2									
	教育相談(カウンセリングを含む)	KTAL42008	講義	2				○	2										(原 志津)	80
	養護実習(事前事後指導を含む)	KTY014001	実習	5				○									5			
	教職実践演習(養護教諭)	KTY014002	演習	2				○										2		

○は養護教諭免許必修科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法(2単位)、体育(2単位)、外国語コミュニケーション(2単位)、情報機器の操作(2単位)について、指定の科目を修得すること。

科目名	社会福祉論		科目ナンバリング	K01D21001	
担当者氏名	竹内 一夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力 ○ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ○ 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力				

《授業の概要》

いま医療も福祉も利用者の自己決定権を尊重し、支援をしていくことが求められている。社会福祉は、人々がいかなる状況に置かれようとも、より良き生活が確保されることを保証していくための方法であり、そのためには彼らのニーズを全人格的にとらえることが不可欠な要素となる。社会福祉論では、医療チームの一員として人々に関わる看護師に不可欠な社会福祉の視点、支援方法について学ぶ。

《テキスト》

系統看護学講座 専門基礎分野
 社会福祉－健康支援と社会福祉③－ 医学書院 2011

《参考図書》

新・社会福祉士養成講座 4
 現代社会と福祉－社会福祉原論 中央法規出版 2009

《授業の到達目標》

- ①我々を含め、利用者が持つ生活課題を多面的に分析、理解できるようにする。
- ②利用者の生活を支援することと、看護がどのように関わるかが理解できるようにする。
- ③対人援助専門職に不可欠な価値態度が理解でき、人の全人格的な痛みに対する共感性を養うことができる。

《授業時間外学習》

常に社会の動き、医療の動き、社会福祉の動きに関心を持つべく、新聞、専門雑誌に目を通すこと。原則シラバスと教科書に沿って授業を進めます。授業の該当箇所はあらかじめ目を通して授業に参加してください。

《成績評価の方法》

講義への出席は必須とする。成績評価は、受講態度、定期試験、課題レポート等の提出でおこない、各項目の成績への関与率は、受講態度30%、定期試験50%、課題レポート等20%とする。

《備考》

授業時間中の質問は大歓迎です。わかるまで聞いてください。自分だけがと思わないで、授業に参加してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会福祉を学ぶ	貧困とは、社会福祉援助とは、社会福祉の必要性とは、社会福祉の今日的意味とはなど、社会福祉を学ぶ上での基本的概念について学習する。
2	社会福祉の歴史的発展と課題	社会福祉のこれまでの発展過程でみられた問題の整理をし、社会福祉が現代社会でどのような役割、どのような専門性を期待されているのかを概観する。
3	現代社会の変化と社会福祉、社会保障の動向	大きく変化した現代社会で、社会福祉が求められた変化と、生活問題に対応する社会保障制度が果たすべき役割と課題について学習する。
4	生活に関わるの医療保障制度と健康保険	医療保障制度としての健康保険制度が我々の健康を守り、保険事故（疾病状況）が起こった時にはどのように対応がなされるのかを学習する。
5	生活にかかわるその他の保障制度	高齢、災害、失業など、疾病以外で、我々の経済状況に大きな影響を及ぼす問題に対応する社会保障の仕組みと施策について学ぶ。
6	貧困と社会福祉	現代社会の新しい貧困の実情、セーフティネットとしての所得補償と公的扶助の現状を学ぶことで、社会福祉支援の在り方を検討する。
7	次世代を担う子供たちの福祉	地域、家族の介護力、教育力、保育力が著しく衰退している現代社会の中で、子供たちの人権を守り、子供たちの福祉を確保していくためには何が必要かを検討する。
8	超高齢社会と介護保険	人口減少に歯止めがかからないわが国での、高齢社会対策がどのようになされ、介護保険がどのような役割を果たしているのかを学ぶ
9	障害を持つ人々を支える福祉 その1	社会福祉 6法に規定されている身体障害者福祉法、知的障害者福祉法での障害者支援の現実と問題点について学ぶ。
10	障害を持つ人々を支える福祉 その2	障害者総合支援法、精神障害者福祉法、発達障害者支援法という後発の障害者支援の法律での支援の現状と課題について学ぶ。
11	社会福祉援助の方法 その1 個別援助技術	個人や家族を対象とした社会福祉援助技術であるケースワーク、カウンセリングについて、特に近年要求される、エビデンスに基づいた支援の在り方について学ぶ。
12	社会福祉援助の方法 その2 集団援助技術	当事者グループや子供たちのグループ支援をはじめとして、集団過程を通じての支援が有効な人々を対象とした援助技術であるグループワークについて学ぶ。
13	社会福祉援助の方法 その3 ケアマネジメント	介護保険のサービス提供の方法として認知されたケアマネジメントは、本来種々の領域での複雑化した問題を持つ利用者支援に優れた方法である。その支援の仕組みを学ぶ。
14	社会福祉援助の方法 その4 その他の援助技術	専門職がその能力を発揮するにはスーパービジョンが、また自分の支援の効果を評価するためには調査という技術が必要とされる。ここではその内容について学ぶ。
15	社会福祉・看護実践でのチームアプローチと連携	人を支援する仕事を現すキーワードには、チームケア、連携、協働という語があげられる。ここでは医療現場、福祉現場、地域での連携、チームケア、協働について学ぶ。

科目名	家族関係論	科目ナンバリング	K01D21003
担当者氏名	竹内 一夫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ◎ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ○ 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力		

《授業の概要》

現代家族は、少子・超高齢社会の中で、伝統的に培ってきた様々な機能が果たせなくなるとともに、DV、非行、虐待、介護問題、離婚率の増加など、様々な新しい問題を抱えてきた。ここでは家族の機能、構造を考えるとともに、現代家族の抱える問題についても検討を加え、看護師として必要な家族ケアの視点を養うとともに、家族支援の在り方、個々の患者へのアプローチ方法についても検討を加える。

《テキスト》

系統看護学講座 基礎分野「家族論・家族関係論」医学書院 2011

《参考図書》

千田有紀「日本型近代家族—どこからきてどこに行くのか」勁草書房 2011

《授業の到達目標》

- ①現代家族の直面している問題を理解できるようになる。
- ②地域社会や社会構造の変化と関連だてて、家族が直面している問題を理解できるようになる。
- ③家族内での人間関係(夫婦、親子)の形成と、維持について理解できるようになり、解決課題へ取り組む家族の保持力を、家族の発達段階に合わせて理解できるようになる。

《授業時間外学習》

報道などに常に興味を払い、家族に関わる問題が提起されている状況に必ず目を通しておくこと。また各自の地域の中で地域社会と家族の関わり合いがみられる行事などが存在するかどうか、またそれへの参加状況に注目しておくこと。授業はシラバスに準じて行われるので、教科書には目を通して出席すること。

《成績評価の方法》

この授業での評価は、受講態度、定期試験、課題達成の3項目で行う。その関与率は、受講態度30%、定期試験50%、課題達成20%とし、その合計で、評価点とする。

《備考》

授業への積極的関与を歓迎する。質問は授業中でも歓迎する。理解できるまで質問すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	家族を考える	家族をめぐる諸概念の検討と、現代家族の直面している問題を概観する。
2	家族の発生—パートナー選択と結婚—	家族発生の出発点である配偶者の選択がどうなされ、夫婦関係がどのように形成されて行くのかを検討する。
3	夫の役割、妻の役割	伝統的な家族から現代家族まで、その役割は社会の変化とともに変化してきている。今家族はどこに向かって進もうとしているのかを検討する。
4	父なること、母になること	DINKと DEWK、子育てでの夫婦の役割、地域の役割、祖父母の役割について考える。
5	子供の成長と父母の役割	夫と妻から、父親と母親へ、そして祖父と祖母へ、夫婦の成長の過程と老いの過程、そこでの対処課題について検討する。
6	夫婦での看取りと、両親の看取り	必然のこととして、家族というシステムも老いの過程を経て、看取りの過程に直面し、消滅していく。現代社会における看取りの過程での問題点についても検討を加える。
7	伝統的な家族機能と現代家族	伝統的な家族機能から現代家族までの家族機能とそこでの人間関係の特徴を検討する。
8	社会の変化と都市型家族の問題点	地域機能が衰退化してきている現代都市社会において、縮小した家族機能で生活問題に対処を迫られている現代家族の問題点と地域の福祉社会化について検討する。
9	家族員が病んだ時	患者家族としては、どのような精神的、肉体的問題に直面するのか、患者との人間関係、家族間の人間関係にどのような変化が起こるのかを概観する。
10	在宅ケアでのストレスマネジメント	患者へのケアの質を高めるとともに、家族の生活の質を高める家族のストレスマネジメントと課題への対処力の保持について検討する。
11	家族支援者に必要な専門職としての態度	バイスティックの7原則を基本として、対人援助の専門職に必要な価値、態度を学ぶ。
12	家族支援の方法—システム理論からのアプローチ	家族療法の中でシステム理論を用いたシステムズアプローチの概要、アセスメントの方法を学ぶ。
13	家族支援の方法—家族の発達段階と危機の理解	家族問題を理解するために必要な、家族の発達段階および各段階で遭遇する可能性の高い危機状況についての理解、それへの対処方法を学ぶ。
14	家族支援の方法—教育的アプローチ	家族の課題への対処能力がある程度認められる場.に、プログラム化された訓練としてそれらの能力を強化していく教育的プログラムについて概観する。
15	家族支援の方法—心理学的アプローチ	家族援助の心理的諸技法について概観し、援助方法による関わり方の差異、評価方法の特徴を学ぶ。

科目名	精神保健		科目ナンバリング	K01F21004
担当者氏名	南川 博康			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
	ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ○ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ○ 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力 		

《授業の概要》

成長発達段階や各人の健康レベルに応じた心理状態を、その人だけでなく周りの生活を含めた幅広い視点から捉え、看護に必要な援助的人間関係について理解を深める。

《テキスト》

「精神看護学 I 精神保健学」 吉松和哉他編
ヌーヴェルヒロカワ

《参考図書》

《授業の到達目標》

さまざまな視点から心の健康を理解し、健康の保持・増進についての的確な指示ができる。

《授業時間外学習》

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を整理して理解しておくこと。

《成績評価の方法》

筆記試験70% 平常評価30%(レポート、受講態度など)

《備考》

将来メンタルヘルスに関わらなくても、看護という特殊な専門職を志す人々には病者を全人的に看ていこうとする上で、是非とも修得して頂きたい学問であろう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会とメンタルヘルス	様々な社会病理現象：アルコールおよび薬物依存、虐待やDV、自殺の増加、PTSDなど。
2	社会とメンタルヘルス	様々な社会病理現象：離婚、モンスターペアレント、移住、宗教体験など。精神医学的問題と社会的要因。
3	現在の精神保健	精神保健とは。心の健康とは。精神力動的な考え方。
4	現在の精神保健	脳の機能とその障害。
5	現在の精神保健	ストレス。リスクマネジメント。
6	ライフサイクルと精神保健	胎生期、乳幼児期、学童期、思春期・青年期。
7	ライフサイクルと精神保健	成人期、中年期、老年期。
8	生活の場と精神保健	家族、家庭の精神保健。学校における精神保健。
9	生活の場と精神保健	職場における精神保健。地域保健活動と精神保健。
10	心の健康と不健康	病むという体験。病気になることによるストレス。支える家族の心の健康。
11	心の健康と不健康	さまざまな状態における心の健康。看護師のメンタルヘルス。
12	リエゾン精神医学・精神看護	リエゾンとは。
13	集団力動論、地域精神保健活動	チームワークとリーダーシップ。地域精神保健活動の目標や今後の課題。
14	精神保健の歴史と倫理的問題	精神医療の歴史や関連事件。倫理基準とインフォームドコンセント。
15	総括	精神保健の総括

科目名	形態機能論 I		科目ナンバリング	K02C11010
担当者氏名	伊藤 純			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
	ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ◎ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ○ 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力		

《授業の概要》

病気のことを学ぶ前に、正常な人間の構造と機能を理解する必要があります。
この部分をきちんと理解できているかどうか、今後の成長の大きな鍵となります。

《テキスト》

系統看護学講座 解剖生理学（医学書院）

《参考図書》

みるみる解剖生理 第3版（医学評論社）

《授業の到達目標》

病理・病態の理解に必要な解剖学、生理学の基礎知識を身につける。

《授業時間外学習》

その日のうちに授業内容を15分程度復習すること。

《成績評価の方法》

定期試験のみで評価する。

《備考》

特記すべきことなし。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	総論：解剖生理の基礎知識①	細胞の構造と機能、エネルギー産生、遺伝子
2	総論：解剖生理の基礎知識②	組織学、生命維持と運動調節の概略
3	消化器①	口腔、食道、胃、十二指腸の構造と機能
4	消化器②	小腸、大腸の構造と機能
5	消化器③	肝臓、胆嚢、膵臓の構造と機能
6	呼吸器①	気管、気管支、肺の構造
7	呼吸器②	呼吸機能
8	血液・造血器	血液の組成と機能
9	循環器①	心臓の構造と機能
10	循環器②	血管の構造と機能
11	腎臓・泌尿器①	腎臓の構造と機能
12	腎臓・泌尿器②	体液、電解質
13	腎臓・泌尿器③	酸塩基平衡、尿路の構造と機能
14	まとめ①	消化器・呼吸器のまとめ
15	まとめ②	循環器・腎臓のまとめ

科目名	形態機能論II		科目ナンバリング	K02C11011
担当者氏名	伊藤 純			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
	ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ◎ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ○ 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力		

《授業の概要》

病気のことを学ぶ前に、正常な人間の構造と機能を理解する必要があります。
この部分をきちんと理解できているかどうか、今後の成長の大きな鍵となります。

《テキスト》

系統看護学講座 解剖生理学（医学書院）

《参考図書》

みるみる解剖生理 第3版（医学評論社）

《授業の到達目標》

病理・病態の理解に必要な解剖学、生理学の基礎知識を身につける。

《授業時間外学習》

その日のうちに授業内容を15分程度復習すること。

《成績評価の方法》

定期試験のみで評価する。

《備考》

特記すべきことなし。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	自律神経	交感神経と副交感神経
2	内分泌①	視床下部・下垂体ホルモン
3	内分泌②	体液調節に関与するホルモン
4	内分泌③	甲状腺ホルモン、消化器系ホルモン
5	筋・骨格①	体幹の筋と骨格
6	筋・骨格②	上肢の筋と骨格
7	筋・骨格③	下肢の筋と骨格
8	筋・骨格④	頭頸部の筋と骨格
9	神経①	中枢神経の構造と機能
10	神経②	末梢神経の構造と機能
11	神経③	運動と感覚
12	神経④	視覚、聴覚、嗅覚、味覚
13	生殖と加齢	生殖器の構造と機能、加齢
14	まとめ①	内分泌、筋・骨格まとめ
15	まとめ②	神経、生殖と加齢まとめ

科目名	生化学	科目ナンバリング	K02X21012
担当者氏名	片山 俊郎		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ◎ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ○ 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力		

《授業の概要》

医療の進歩に伴い、看護師に要求される知識、技術は高レベルのものとなり、知識の詰めだけでは得るものが限られる。生化学の本質は、全ての医療医学の基本で、正しく理解し応用することで、疾患の病因・病態の解明と合理的な治療の実践が初めて可能と成る。講義では、ヒトが食物からエネルギーを取り出して、それを利用して生命活動を営むための基本的な原理と代謝機序を学習し、様々な疾患との関連について理解する。

《授業の到達目標》

目標1：生物の基本となる生体高分子(核酸・タンパク質(酵素)・糖質・脂質)やその構成単位(ヌクレオチド, アミノ酸, 単糖, 脂肪酸など)の基本構造や性質についての知識を習得する。
 目標2：系統的な知識の習得により代謝機序の説明ができるように知識を構築する。
 目標3：様々な疾患との関連について説明できるようになる。

《成績評価の方法》

成績は、課題レポート10%、定期試験70%、講義参加の評価20%の比率で総合評価する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	細胞の基本構造と機能	生体細胞を構成する各種細胞内小器官の構造と機能
2	単糖の化学的性質と反応	単糖の構造D, L-の区別、 α 、 β -の区別、二糖類の構造、糖の還元性
3	単糖と多糖類の構造と機能	多糖類の構造、デンプン、グリコーゲン、セルロース、糖の誘導體
4	脂質の構造と機能	中性脂肪、リン脂質、糖脂質、コレステロール、リポ蛋白質の機能
5	脂肪酸の構造と機能	脂肪酸の構造と機能
6	アミノ酸の構造と機能	アミノ酸の構造 20種のアミノ酸の構造と性質
7	タンパク質の構造と機能	蛋白質の1~4次構造、核酸の構成成分、DNA, RNAの構造と機能
8	酵素の分類と性質	酵素の一般的性質、補酵素、酵素の分類
9	解糖系における諸反応	糖質の消化と吸収、グルコースの代謝、糖新生
10	クエン酸回路と酸化リン酸化	エネルギー産生
11	脂質の代謝	脂質の代謝 脂肪酸合成、 β 酸化、コレステロール、胆汁酸の合成
12	アミノ酸と蛋白の代謝	アミノ酸の代謝、蛋白質の栄養学的意義、消化と吸収、代謝
13	ホルモンの構造	ホルモンの構造、生理的意義、生体内分子機能
14	ホルモンの機能	ホルモンの代謝過程、分泌と制御機構、欠乏症と過剰症
15	ビタミンの構造と意義	ビタミンの生理的意義・代謝過程・生体内での分子機能、欠乏症と過剰症

《テキスト》

『わかりやすい生化学-疾病と代謝・栄養の理解のために』石黒伊三雄 監修 (ノーヴェルヒロカワ)

《参考図書》

『シンプル生化学』林典夫 編 (南江堂)
 『トコトンわかる図解基礎生化学』池田和正 著 (オーム社)

《授業時間外学習》

講義はスライドにて行い、講義ごとの資料を配布するので、テキストによる内容確認を確実にを行うために予習・復習の自己学習を行い、講義に臨む。また、講義進行に伴い実施する課題等を確実に熟し、重要事項の把握と理解に努める。

《備考》

化学反応の羅列や丸暗記でなく、統合的な理解を必要とするので、予習、復習等の自主的学習を行ってください。

科目名	栄養学（食品学を含む）		科目ナンバリング	K02C11013
担当者氏名	真鍋 祐之			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
				1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ◎ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ○ 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 			

《授業の概要》

より豊かな人生にとって健康は重要な要素であり、その健康を維持・増進あるいは逆に悪化させるのは栄養である。したがって、栄養を知ることが、健康あるいは疾患時のケアを行う上で必要不可欠である。そこで本講義では、栄養の基本から学習を進め、人のライフステージごとの栄養、さらに疾患時の栄養管理の基本について学び、看護における栄養の重要性への関心を高め、食事への感性や問題意識を育むことを目的とする。

《授業の到達目標》

- (1) 栄養と栄養素の関係について説明できる。(2) 健康の維持・増進と栄養の関係について、基本的事項を説明できる。
- (3) 食事摂取基準や運動基準について、その意義を説明できる。
- (4) 種々の評価指標から対象者の栄養状態を推測できる。(5) 各ライフステージごとにその生理的特徴と栄養管理について、要点を簡潔に説明できる。

《成績評価の方法》

定期試験(100%)

《テキスト》

『コンパクト栄養学 改訂第3版』 脊山洋右、廣野治子編

《参考図書》

『保健・医療・福祉のための栄養学』 渡辺早苗、寺本房子、丸山千寿子、藤尾ミツ子編、医歯薬出版

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：次回講義の該当部分に目を通し、全体的な学習内容の把握しておくこと。(2) 復習の方法：その日の講義内容を見直し、ノートの不十分な箇所は教科書を参考に追記するなど、内容を再確認すること。忘れることを恐れず、一度は理解しておくことが重要です。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	栄養とは何か	栄養とはどのような状態を指すのかという定義、さらには栄養を支える栄養素について簡単に説明できる。
2	日常生活と栄養	より豊かな人生に必要な健康の維持・増進と栄養の関係を日常生活の中から話題を取り上げて説明できる。
3	栄養素とその働き(1)	糖質・たんぱく質・脂質の種類と働きについて、基本となる知識を学び、生体内でのエネルギー源としての役割を理解する。
4	栄養素とその働き(2)	ビタミン・ミネラルの種類及び食物繊維とその働きの基本的事項を学び、これら栄養素が体内で果たす役割について理解する。
5	食品群と食事バランスガイド	食品群という概念と日常での活用法を学び、その展開として食事バランスガイドの考え方と活用法を理解する。
6	食事摂取基準と運動指針	「日本人の食事摂取基準」と「健康づくりのための運動指針」を健康の維持・増進にどのように活用することができるかを理解する。
7	ライフステージと栄養(1)	妊娠期の栄養の意義と特徴について母体と胎児の両面から学び、妊娠期の栄養の重要性について説明できる。
8	ライフステージと栄養(2)	授乳期及び乳児期の母子の栄養について基本事項を中心に学び、授乳婦の母体管理及び乳児の栄養管理の重要性を理解する。
9	ライフステージと栄養(3)	発育期の栄養が成人期以降の身体状況にどのような関わりを持ち、かつ影響を及ぼすかについて説明できる。
10	ライフステージと栄養(4)	成人期における栄養上の問題点とその栄養管理について学び、生活習慣病等と栄養の関わりについて理解する。
11	ライフステージと栄養(5)	高齢期の栄養素代謝の特徴と栄養管理の必要性を学び、高齢者の食事と調理のポイントについて理解する。
12	栄養補給と治療食	栄養状態の評価法、栄養補給のための治療食の種類と内容、さらに補給法の種類と特徴について学び、ベッドサイドでの活用をすすめる。
13	治療食の実際(1)	胃腸疾患、肝疾患、膵疾患等の消化器系疾患治療で利用される治療食の基本的事項を学び、各疾患と栄養素の関わりを理解する。
14	治療食の実際(2)	糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症等の代謝疾患治療で用いられる治療食の基本的事項を学び、これら疾患に栄養が深く関わっていることを理解する。
15	治療食の実際(3)	循環器疾患、腎疾患等で用いられる治療食の基本的事項を学び、将来の実習に活用できる。

科目名	看護学概論	科目ナンバリング	K04C11020
担当者氏名	小林 廣美		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 ○ 1-2 実施する看護について説明し同意を得る能力 ◎ 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 ○ 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力		

《授業の概要》

看護の基本的概念(人間、健康、環境、看護)の理解を踏まえ、看護学の知識体系(理論)の概念をつかみ、専門職としての看護の役割と機能について理解する。看護サービスの利用者である人間(対象)について成長、発達、ライフサイクルの側面、生活主体としての側面から考察し、ニーズの充足と自立、適応に焦点を当てた看護活動について理解する。生命倫理上の諸問題について考察する。

《授業の到達目標》

①社会の中で健康問題を持って生活する人間について、全人的な存在であることを説明できる。②人間の欲求行動を看護学的視点で理解し、生活支援としての看護の重要性について説明することができる。③科学的思考に基づいた看護の重要性を具体的に述べるができる。④生命・人間の尊厳や人権についての知識を修得し、看護と倫理的・法的问题について説明できる。

《成績評価の方法》

筆記試験70%、レポート20% 学習態度10%

《テキスト》

- ①志自岐康子編：ナースンググラフィカ看護学概論/メディカ出版
- ②F. ナイチンゲール, 薄井坦子訳：看護覚え書/現代社
- ③小林廣美：あなたと共に歩むリウマチ看護/中央法規

《参考図書》

- ・Mメイヤロフ著：田村真・向野宣之訳：ケアの本質一生きることの意味一ゆるみ出版2006
- ・日本看護協会：看護白書、日本看護協会出版会2013
- ・V. ヘンダソン：看護の基本となるもの/日本看護協会出版会

《授業時間外学習》

- ・教科書の指定箇所を読み、専門用語の意味をノートに整理し、理解しておくこと。
- ・授業終了後、課題を出すので復習すること。

《備考》

- ・配布資料は必ずファイルしておくこと。
- ・講義中の携帯電話、メールを禁止する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	看護への導入 看護って何だろう	看護とは、看護の役割、ケアとキュアの考え方 ケア/ケアリングの概念
2	専門的看護の発展	近代看護の歴史の変遷、わが国の看護改革と看護の専門職化
3	看護の対象とその理解	統合体としての人間、人間の欲求と行動、人間の基本的ニーズ、マズローのニーズの階層、健康障害を持つ対象の理解、
4	看護の対象とその理解	ストレスと適応、ストレスコーピング、危機状態と介入、リラクゼーション
5	看護の対象とその理解	グループワークとプレゼンテーション
6	健康と病気におけるウェルネスの促進	健康、病気、ウェルネス(安寧)の定義 健康と病気
7	ライフサイクルと健康	成長・発達の概念 小児期から成人期の概念 老年期の概念
8	看護実践のための理論的根拠	看護理論の分類 看護理論の変遷 ささまざまな看護理論
9	看護における倫理と価値	看護における倫理の必要性 看護倫理とは 倫理的課題の対応
10	看護ケア(看護援助)の基本的役割	コミュニケーターとしての役割 教育者およびカウンセラーとしての役割 看護における基本的援助技術
11	看護過程	看護過程とは 看護実践における看護過程の展開
12	看護過程	具体的な事例の展開
13	看護における法的側面	法 の概念 看護実践の職業的および法的規制 保健師助産師看護師法
14	保健・医療・福祉システム	保健・医療・福祉の概念 保健・医療・福祉サービス提供の場 保健・医療・福祉チーム
15	看護ケアのマネジメント	看護のマネジメント 質の高い看護ケアを行うために 医療安全への取り組み

科目名	看護理論	科目ナンバリング	K04C11021
担当者氏名	小林 廣美		
授業方法	講義	単位・必選	1・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 ○ 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力 ◎ 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力 ○ 5-2 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力		

《授業の概要》

看護理論家が看護をどのようにみているかを知ることによって看護の質を向上させることをねらいとする。看護理論をわかりやすく学ぶための枠組みに沿って授業を進める。例えば「看護理論家は理論を書くとき何を材料にしたのだろうか」「看護の中心的概念、人間・環境・健康・看護をどのようにとらえているのか」等を考える。看護過程と理論との関係を理解することができる。

《授業の到達目標》

1. 看護実践を支える看護理論の重要性が説明できる。
2. 実践・理論・研究の関係を説明できる。
3. 看護に用いる主要な看護理論を述べ、各看護理論家の理論の特徴について説明できる。
4. 看護理論を看護過程に応用できる。

《成績評価の方法》

積極的・創造的な授業参加及びプレゼンテーション20%、レポート提出10%、筆記試験70%

《テキスト》

V. ヘンダソン：看護の基本となるもの/日本看護協会出版会
 フローレンスナイチンゲール：看護覚え書(購入済み)
 看護学概論、メディカ出版(購入済み)

《参考図書》

佐藤栄子編著：中範囲理論入門、日総研。
 IJオーランド、稲田八重子訳：看護の探求、メジカルフレンド社。
 パトリシアベナー、伊部俊子訳：ベナー看護論。シスターカリスト・ロイ、松井光子訳。ロイ適応看護論、トラベルビー長谷川浩訳。

《授業時間外学習》

看護理論家の著書を読む。ナイチンゲールの「看護覚え書」、V. ヘンダーソンの「看護の基本となるもの」は必ず読む。グループでの課題に積極的に参加すること。

《備考》

配布資料は必ずファイルしておくこと。
 90分×7.5回分の授業時間となります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	看護理論の開発の歴史	重要用語の定義：理論、パラダイム、メタパラダイム、概念モデル、理論の分類（大理論、中範囲理論、小理論）看護理論の開発の歴史について説明する。
2	各看護理論家について	各看護理論家についての枠組みや看護の中心的概念より看護理論から理論を読む。
3	グループ学習と発表準備	看護理論家の枠組みや看護の中心的概念より看護理論を考える。
4	看護理論について	看護理論についての説明 危機理論
5	看護理論についての共有	看護理論家についてグループ毎に学んだことを発表し全員で共有する。
6	各理論家の理論の特徴	ヘンダーソン、ナイチンゲール、ペプロウ、ロイ
7	各理論家の理論の特徴	オレム、オーランド、ロジャーズ、パトリシアベナー
8	看護理論と看護過程の関係	看護理論と看護過程の関係について説明する。
9	-	-
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-

科目名	ヘルスアセスメント		科目ナンバリング	K04C11022
担当者氏名	小林 廣美、森崎 由佳、西山 忠博、掛川 静代			
授業方法	演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ○ 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力 ○ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力			

《授業の概要》

「看護の対象となる人の健康状態を理解する」をねらいとして、「生活者としての人のとらえ方」「身体診査の技術」を修得することができる。

《テキスト》

小野田千枝子：フィジカルアセスメント、金原出版

《参考図書》

山内豊明：フィジカルアセスメントガイドブック、医学書院
 藤崎郁：フィジカルアセスメント完全ガイド、学研

《授業の到達目標》

- ヘルスアセスメントの概念がわかる。
- 看護の対象の健康状態を把握するために必要な、アセスメント技術としての健康歴の聴取方法がわかる。
- 身体診査の基本技術の問診、視診、触診、打診、聴診を基礎的な知識のもとで実施ができる。

《授業時間外学習》

- 各単元に関連する形態機能論の事前学習をする。
- 演習の予習復習をする。
- 演習事後課題の提出をする。

《成績評価の方法》

筆記試験60% 課題やレポート20% 演習態度20%

《備考》

実習室は病室と同じに考えて、服装など整えた上で清潔感あるようにして演習に臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ヘルスアセスメントの概念（講義）	1.ヘルスアセスメントの意義 2.ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント 3.ヘルスアセスメントの基本技術
2	健康歴の聴取（問診）	1.健康歴の聴取の方法 2.問診・インタビューの方法 3.発達課題について理解できる。
3	感覚器系のアセスメント（講義）	1.感覚器系のアセスメントに必要な解剖学的構造がわかる。 2.感覚器系のフィジカルアセスメントの基本的な技術がわかる。
4	感覚器系のアセスメント（演習）	フィジカルアセスメントの体験をする。1.頭部・顔面・頸部 2.視聴覚系（眼） 3.視聴覚系（耳）4.鼻・口・咽頭
5	呼吸器のアセスメント（講義）	1.呼吸器のアセスメントに必要な解剖学的構造が理解できる。2.視診・触診・打診・聴診に必要な基礎的知識が理解できる。
6	呼吸器のアセスメント（演習）	1.呼吸器のアセスメントに必要な解剖学的構造が理解できる。 2.呼吸器の視診・触診・打診・聴診の技術が実施できる。
7	心臓・血管・乳房のアセスメント（講義）	1.心臓・血管系の解剖学的構造が理解できる。2.心臓・血管系の問診・視診・触診・打診の基礎的知識が理解できる。3.乳房の自己検診法がわかる。
8	心臓・血管系のアセスメント（演習）	1.心臓・血管系のアセスメントに必要な解剖学的構造を理解し、問診・視診・触診・打診の技術が実施できる。
9	腹部のアセスメント（講義）	1.腹部のアセスメントに必要な解剖学的構造が理解できる。 2.腹部の視診・触診・打診・聴診の基礎的知識がわかる。
10	腹部のアセスメント（演習）	1.腹部のアセスメントに必要な解剖学的構造を理解し、腹部の視診・触診・打診・聴診の技術が実施できる。
11	筋・骨格のアセスメント（講義）	1.筋・骨格系の形態機能の基礎知識が理解できる。 2.関節・四肢の筋力・脊柱および下肢の形態と歩行についての基礎的知識が理解できる。
12	筋・骨格のアセスメント（演習）	1.筋・骨格構造をイメージしながら、全身の左右対称性、姿勢、歩行、骨格筋・関節の機能や可動性を査定できる。 2.アセスメント所見を記録できる。
13	神経系のアセスメント（講義）	1.脳・神経系の形態機能の基礎知識が理解できる。 2.深部腱反射・表在反射・病的反射・小脳機能についての基礎的知識がわかる。
14	神経系のアセスメント（演習）	1.脳・神経系の形態機能の基礎知識をイメージしながら、深部腱反射の査定が実施できる。 2.小脳機能の査定が実施できる。
15	事例演習	既習した身体診査の方法を活用して、事例に基づいて演習を実施し、アセスメントできる。

科目名	看護技術論 I（生活技術援助）		科目ナンバリング	K04C11023
担当者氏名	小林 廣美、森崎 由佳、西山 忠博、掛川 静代			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
				1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ○ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ◎ 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力			

《授業の概要》

看護者が行う技術とは何かを理解した上で、看護を提供するために必要な看護技術と健康的な日常生活を促進する援助技術についての基礎的知識・基本的技術および看護者としての態度について学ぶ。看護実践に必要な基本的看護技術、特に生活援助について学習する。

《授業の到達目標》

1. 看護技術の特徴、看護技術の範囲、看護技術の基本原則を説明できる。
2. 看護の対象者に、安全・安楽をふまえた看護技術を提供するための基本的な知識を説明できる。
3. 看護の対象に安全・安楽をふまえた看護技術を提供するための基本的な技術が実施できる。
4. 看護者としての倫理的態度を身につけることができる。

《成績評価の方法》

定期試験（60%） 実技試験（20%） 演習での学習態度・意欲（10%） レポート課題（10%）

《テキスト》

○系統看護学講座専門分野 I 基礎看護技術 I：医学書院 茂野香おる ○系統看護学講座専門分野 I 基礎看護技術 II：医学書院 任 和子

《参考図書》

○写真でわかる実習で使える看護技術：インターメディカ 吉田みつ子 ○考える基礎看護技術II 看護技術の実際：ヌーヴェルヒロカワ 坪井良子 ○ケア技術のエビデンス：へるす出版 深井喜代子 ○なぜ？わかる看護技術LESSON：学研 大岡良枝 ○基礎看護技術：メディカ出版 志自岐康子 ○看護技術プラクティス第3版：学研 竹尾恵子 ○他講義の中で提示

《授業時間外学習》

- (1) 事前にテキストの講義内容部分を予習する。
- (2) 予習時には、既習学習の形態機能論など講義に必要な知識を復習する。
- (3) 講義・演習・その後の課題レポートと学習を統合できるよう、復習を必ず行う。

《備考》

実習室は病室と同じと考え、服装など整えた上で清潔感があるようにして入室してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	看護技術の特徴 環境調整技術	看護技術とは 看護技術の特徴 看護技術の範囲 看護技術の基本原則 環境の概念 ボディメカニクスとその目的
2	環境調整技術 (演習)	病床環境の調整 ベッドメーカー (クローズドベッド・オープンベッド) の技術
3	バイタルサイン① (講義・演習)	バイタルサインとは バイタルサインのメカニズム バイタルサインを観察する意義 脈拍・体温・呼吸の基礎知識と観察・アセスメント
4	バイタルサイン② (講義・演習)	バイタルサイン (血圧) の基礎知識と観察・アセスメント、測定方法 意識に関する基礎知識 意識の観察・アセスメント
5	バイタルサイン③ (演習)	バイタルサイン (血圧、脈拍、体温、呼吸) の測定とアセスメント
6	感染防止の技術① (講義・演習)	感染防止の基礎知識 スタンダードプリコーション 感染経路別予防策 感染性廃棄物の取り扱い
7	感染防止の技術② (講義・演習)	洗浄・消毒・滅菌 無菌操作の原理・方法
8	学習のまとめ (技術の確認)	学習内容と得られた知見を再確認する
9	活動・休息援助技術 (講義・演習)	基本的活動の基礎知識 体位変換 移動 移乗・移送
10	食事援助技術 (講義・演習)	食事援助の基礎知識 食事の意義 基本的な食事の援助方法
11	清潔・衣生活援助技術① (講義)	清潔援助の基礎知識 清潔の意義・目的 清潔援助の実際
12	清潔・衣生活援助技術② (講義・演習)	全身清拭・足浴の援助の基礎知識 援助の実際
13	清潔・衣生活援助技術③ (講義・演習)	洗髪・口腔ケアの援助の基礎知識 援助の実際
14	排泄援助技術 (講義・演習)	排泄援助の基礎知識 排泄援助の実際
15	学習のまとめ (技術演習)	事例展開 (これまでの学習内容と得られた知見を再確認する)

科目名	基礎看護学実習 I		科目ナンバリング	K04C11026
担当者氏名	小林 廣美、森崎 由佳、西山 忠博、掛川 静代			
授業方法	実習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期 1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 ○ 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力 ○ 4-2 安全なケア環境を提供する能力			

《授業の概要》

医療施設に入院している対象者の意思や権利を尊重した関わりを通して、対象理解を深める。また、対象者の健康上のニーズにあった日常生活援助の方法を見学を通して学ぶ。

《テキスト》

看護学概論・看護技術論 I で指定されている図書

《参考図書》

川野雅資編集：実践に活かす看護コミュニケーション
Gakken
竹尾恵子：看護技術プラクティス第3版、学研

《授業の到達目標》

1. 看護の視点を持ち対象者に接近することができる。
2. 対象者の意思や権利を尊重した関わりを通して対象理解を深め対象者の看護上のニーズを理解し日常生活援助が実施できる。
3. 看護活動が理解できる。

《授業時間外学習》

- ・事前のオリエンテーションを受けて、事前学習を充分行う
- ・夏期休暇の課題を達成すること（リフレクション、看護理論家の要約と感想）

《成績評価の方法》

実習要項の実習評価表に基づいて行う。実習終了後の発表、記録、出席、実習態度等総合的に評価する。
実習目標到達度60%、実習態度15%、グループ発表15%、レポート10%

《備考》

事前に看護学概論・看護技術論 I で学習した内容を復習し、自分が観る視点をもって、積極的にかつ効果的な実習を行うこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	内容の詳細は実習要項で提示する。	-
2	-	-
3	-	-
4	-	-
5	-	-
6	-	-
7	-	-
8	-	-
9	-	-
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-

科目名	基礎ゼミ	科目ナンバリング	K08B11057
担当者氏名	看護学科全教員		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力		

《授業の概要》

看護学科における学士力を養うために、コミュニケーションスキル、クリティカルシンキング、スタディスキル、問題解決能力、ソーシャルスキル等の基本的学習技術を習得することを目的とする。

《授業の到達目標》

- 1) ノートテイキング、文献検索、レポートの書き方等の実際を活用して小論文を記述することが出来る。
- 2) コミュニケーションスキルを活かしたグループワークを実践し、パワーポイントを用いてプレゼンテーションを行うことができる。

《成績評価の方法》

- 1) 1・2・7週（各3%）、3・4週（15%）、5・6週（15%）、8～12週（各5%）、13・14週（20%）15週（16%）計100%とし、100点満点で採点する。
※3～6週及び8～15週は、グループワーク参加点、レポート点、発表内容含む

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス・学習の方法	ガイダンス・看護学科ポリシーについて、大学生活について（健康管理・心の健康管理）、学習の方法（時間管理）
2	コミュニケーション	対人コミュニケーションとアサーティブな人間関係（自己紹介 アサーティブな自己表現）
3	ノートテイキング①	講義とノート（講義）・高校の授業と大学の講義の違いについて・講義の受け方・ノートの取り方・ノートとメタ認知・ノートの構造化
4	ノートテイキング②	講義とノート（演習）
5	文献検索①	資料の探し方、図書館・蔵書検索、インターネット検索、文献検索方法、文献カードの作成
6	文献検索②	兵庫大学図書館所蔵文献検索・その他の文献検索の実際（演習）
7	レポートの書き方①	大学で求められるレポートの書き方
8	グループワークの方法・プレゼンテーション①	グループワークとは、看護カンファレンスとは、グループワークの方法
9	グループワークの方法・プレゼンテーション②	プレゼンテーションとは、スライド作成の方法、プレゼンテーションの方法（講義）・個人の小論文作成について（説明）
10	グループワークの方法・プレゼンテーション③	テーマの決定・グループ単位でプレゼンテーションの準備（文献検索）
11	グループワークの方法・プレゼンテーション④	グループ単位でプレゼンテーションの準備（演習）
12	グループワークの方法・プレゼンテーション⑤	グループ単位でプレゼンテーションの準備（演習）
13	プレゼンテーション発表①	グループ別プレゼンテーション・講評
14	プレゼンテーション発表②	グループ別プレゼンテーション・講評
15	レポートの書き方②	レポート作成・提出

《テキスト》

フレッシュマンセミナーテキスト 大学新生のための学び方ワークブック（初年次教育テキスト編集委員会）東京電機大学出版局 2009年

《参考図書》

大学 学びのことはじめ—初年次セミナーワークブック，佐藤智明・他（編集），ナカニシヤ出版，新編版 2011年
知のツールボックス—新入生援助(フレッシュマンおたすけ)集，専修大学出版企画委員会（編集），専修大学出版局 改訂版 2009年

《授業時間外学習》

講義と演習（グループワーク含む）科目となっており、学習内容も多いため、時間外での学習時間を確保し、計画的な学習作業を進めていくこと。
特に演習では、グループで力を合わせて課題に取り組んでいく必要がある。7週目以降は、各自で小論文の作成準備を行うこと。

《備考》

講義と演習によって授業を進めていくため、欠席すると学習内容習得に影響する。欠席しないこと。

《教職に関する科目》

科目名	教職概論		科目ナンバリング	KTAL41001	
担当者氏名	砂子 滋美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教員になりたい人、教職課程を歩むことを考えている人、教員になることを迷っている人にとって、最終的に教員になることを決意するための動機づけがこの授業である。その時々教育という営みがいかに大きな影響力を子どもたちに与えているか考える必要がある。教員になるための基礎的なものを身につける。また、教職課程履修の意思を再確認し、教師以外の進路についても考察する。

《授業の到達目標》

教員に必要な資質、知識、能力を身につけ、教師としてそれらを幅広く活用する人間を育成する。また、あわせて教師以外の職種に関する進路選択についても、受講生各自の資質との関係で考える機会を提供する。

《成績評価の方法》

積極的な授業参加40%、定期試験50%、課題10%、これらの評価を総合して評価する。

《テキスト》

広岡義之編著 『新しい教職概論・教育原理』
関西学院大学出版会 2008年

《参考図書》

「小・中・高等学校学習指導要領」（文部科学省）
『解説教育六法』（三省堂）
『教職論』（宮崎和夫編著）ミネルヴァ書房
『現代教職論』（土屋基規編著）学文社
『教育基礎論・教職論』（唐澤勇編著）学事出版

《授業時間外学習》

多くの質的体験をすることを心がける必要がある。具体的には、教育関係のボランティア活動を遂行するよう常日頃から心がけておく必要がある。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教職概論オリエンテーション	本講義の概要や目標を示し、授業の進め方について解説する。進路選択に資する各種の機会の提供等。
2	教職観と理想の教師像	さまざまな観点から理想の教師像を探っていく。
3	教職の意義と教員の役割	教職の意義、教員の適性と社会的使命について考察し、教師の使命を理解する。
4	教員の資質・能力	教員として求められる基本的な資質・能力について理解するとともに、教員を希望する自己の適正について考察する。
5	進路指導の意義と課題	教員組織を理解し、キャリア教育の指導における教師力とは何かを理解する。
6	教員養成と免許制度	師範学校制度と戦後の開放性教員養成との比較を試み、現代日本において求められる教員養成とは何かを吟味し、求めるべき教員像について考えてみる。
7	教育職員の服務	教育職員の服務の根本基準、職務上の義務、身分上の義務、身分保障と分限、懲戒等について理解する。
8	教師の仕事と役割Ⅰ	教員の種類と階層、カリキュラムと教師の役割、学習指導について考察する。
9	教師の仕事と役割Ⅱ	生徒指導と生活指導、教育相談、カウンセリング、学校・学級経営について考察する。
10	初等・中等教育と教員	初等教育と中等教育の連続一貫性が強調される時代・社会の特徴を十分に理解して、それぞれの教員の役割分担を明確にする。
11	管理職・主任の役割	学校組織の改革後多くの種類の教員が設けられた。それらの役割について理解する。
12	教員の採用と研修について	教員採用に至るまでの就職活動と教員採用試験の制度について探究するとともに教員研修にはどのようなものがあるのか理解する。
13	現代の教員養成の課題と今後の発展について	教員養成の資質・能力の向上が常に望まれるが、今後取り組むべき課題について考える。
14	教育の今日的課題	道徳教育、特別活動、キャリア教育、開かれた学校づくり、家庭、地域との連携、幼・小・中間の接続等を考察する。
15	講義全体のまとめをする	教師に求められる適性と資質について再度考察すると共に、自己の教職への意欲と適性について再度、省察・確認する。講義全体のまとめをする。

《教職に関する科目》

科目名	教育原理	科目ナンバリング	KTAL41002
担当者氏名	古田 薫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

教育をさまざまな視点から検討し、教育と社会との関連や現代社会状況の中で直面する諸問題を考察することにより、教育の本質や基本原理に対する理解を深める。

《テキスト》

プリント（資料）を適宜配布

《参考図書》

中村弘行『人物で学ぶ教育原理』三恵社、2010年。
 広岡義之（編著）『新しい教育原理』ミネルヴァ書房、2011年。

《授業の到達目標》

- 教育の概念と本質を理解し、これらに基づいて現代の教育問題を分析できる。
- 主な教育思想、教育観を理解し、さまざまな教育方法や教育課程のありかたと関連づけることができる。
- 児童の権利と福祉について理解している。
- 生涯学習の理念について理解している。

《授業時間外学習》

参考図書・資料の関連する部分を読んで講義の予習をすること。わからない用語は、事前に調べて授業に臨むこと。

《成績評価の方法》

- ①受講態度（ディスカッションへの参加度、発表回数等）30%
- ②課題の提出と完成度 30%
- ③授業中のミニテスト 40%

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を禁止します。ルール違反に対しては厳格に対処します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教育とは何か、人間の特性と教育
2	教育の概念と本質	・教育の概念と本質 ・教育の必要性と可能性・限界
3	子どもの発達と教育	・発達とは何か ・発達における教育の役割
4	教育の目的、形態と機能	・教育の目的、形態と機能 ・教育における教師の役割
5	主な西洋教育思想とその系譜①	・子ども観の変遷 ・主な教育思想、教育哲学の系譜：代表的思想家とその教育思想の内容
6	主な西洋教育思想とその系譜②	・主な教育思想、教育哲学の系譜：代表的思想家とその教育思想の内容 ・教育思想、教育哲学が現代の教育に与えている影響
7	公教育制度の成立と発展①	・学校の起源と歴史 ・近代公教育の誕生
8	公教育制度の成立と発展②	・日本における明治期以前の教育 ・日本における近代学校制度の成立と発展
9	教育の内容と方法	・教授と学習の理論 ・さまざまな教育方法
10	日本における教育思想と教育方法の発展	・学校制度の発展と教育思想、教育方法（戦前まで）
11	日本における教育思想と教育方法の発展	・学校制度の発展と教育思想、教育方法（戦後）
12	教育における「ケア」	・「ケア」の定義、「ケア」の要素 ・教育における「ケア」、教育における公正と「ケア」
13	児童の福祉と保護	・児童の権利と福祉 ・児童虐待の防止と早期発見、早期対応
14	生涯学習	・生涯学習社会の成立とその背景 ・生涯学習の重要性、自分のライフコースのデザイン
15	まとめと振り返り	・学習マップの完成と発表による、学習のまとめと振り返り

《教職に関する科目》

科目名	教育制度論	科目ナンバリング	KTAL42004
担当者氏名	古田 薫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

教育行政の組織と機能および学校教育に必要な法令や制度の基本、キーワードについての理解を深め、教育制度や学校経営についての体系的な知識を獲得することを目的とする。教育制度の意義や概要を学習するとともに、最近の教育問題や教育改革の動向を、学校制度・学校経営の視点から考察する。

《授業の到達目標》

○教育法規の体系を理解し、主な教育関係法規名とその概要を説明できる。○教育の理念や目的・目標について理解し、義務教育の意義および特別支援教育の特質を説明できる。○教育行政の仕組みや学校制度について理解している。○学校運営について理解している。○今日の教育の課題と教育改革の動向を理解し、自分自身の考えを述べるができる。

《成績評価の方法》

- ①受講態度（ディスカッションへの参加度、発表回数等）20%
- ②課題の提出と完成度 20%
- ③定期試験 60%（持ち込み不可）

《テキスト》

授業中に指示します。

《参考図書》

- 1) 『解説教育六法 2013年度版』三省堂。
- 2) 坂田 仰、黒川 雅子、河内 祥子『図解・表解 教育法規―“確かにわかる”法規・制度の総合テキスト』教育開発研究所、2012年。
- 3) 高見茂・宮村裕子・開沼太郎（編）『教育法規スタートアップ 教育行政・政策入門 ver.2』昭和堂、2012年。

《授業時間外学習》

授業で配布したプリントに基づいてまとめノートを作り復習すること。授業でわからなかった点について調べたり、質問を用意したりすること。

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を禁止します。ルール違反に対しては厳格に対処します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 教育行政と教育制度	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教育行政の基本原則
2	法体系と教育関係法規の概要	・法規の体系 ・教育制度の中心的な法規とその内容
3	憲法教育基本法制：憲法、教育基本法①	・憲法における教育に関する規定、教育制度の法的基盤 ・教育基本法の性質
4	憲法教育基本法制：教育基本法②	・教育基本法改正のポイント ・教育基本法の意義と内容
5	学校制度①：学校に関する法規	・法規上の学校の定義 ・日本と諸外国の学校体系の特徴
6	学校制度②：学校の設置と管理	・学校とその公共性 ・学校の設置と管理に関する原則
7	教育行政の仕組み①：文部科学省	・文部科学省と地方の教育委員会の関係と役割分担 ・中央教育審議会やその他の諮問機関の役割と影響
8	教育行政の仕組み②：教育委員会制度	・教育委員会制度の歴史 ・教育委員会制度の概要
9	教育を受ける権利の保障①：義務教育1	・教育を受ける権利、教育を受けさせる義務と義務教育制度 ・義務教育の意義と義務の内容
10	教育を受ける権利の保障②：義務教育2	・教育を受ける権利を保障するための制度 ・就学援助、教育扶助の概要
11	教育を受ける権利の保障③：特別支援教育1	・特別支援教育の理念および特殊教育との違い ・特殊教育から特別支援教育に移行した背景
12	教育を受ける権利の保障④：特別支援教育2	・特別支援教育に関する諸制度
13	学校運営①：開かれた学校	・開かれた学校の意義 ・地域との連携とコミュニティ・スクール制度
14	学校運営②：アカウンタビリティと学校評価	・学校アカウンタビリティとマネジメント・サイクル ・学校評価の意義と評価の形態
15	学習のまとめと振り返り	・学習マップの完成と発表による学習のまとめと振り返り

《教職に関する科目》

科目名	教育相談（カウンセリングを含む。）	科目ナンバリング	KTAL42008
担当者氏名	原 志津		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

近年の学校教育の重大問題として学力低下とこころの教育をめぐめる問題があげられる。このような状況に対して日常的に子どもたちと接する教師にできることは何だろう。しっかり見て、耳を傾けて子どもたちの声を聴き、子どもたちの気持ちを汲み取り、短い言葉で要約して返すというやりとり、すなわちカウンセリングの技術を学ぶことは、現在の教育現場においても、古くて新しい意味があるように思われる。

《授業の到達目標》

- ・カウンセリングの基本技術を学ぶ
- ・自分自身のこころに焦点を当てる方法を学ぶ
- ・子どもたちのサインに気づく
- ・こころの成長・変化のプロセスを知る

《成績評価の方法》

授業への取り組み30% レポート・確認テスト20%
 授業内容の理解 50%

《テキスト》

指定しない。必要な資料は毎回配布する。

《参考図書》

『スクールカウンセラーがすすめる112冊の本』 滝口俊子・田中慶江編 創元社
 『特別支援教育のための100冊』 特別支援プロジェクトチーム 創元社

《授業時間外学習》

こころについて学ぶための本のリストを配布するので、できるだけ多くの本を手にとって読んでほしい。自分の最も興味ある一冊を選んで、用紙は問わないが、手書きで5枚の感想文を最終授業日までに提出すること。

《備考》

教職をとらない学生も受講可能である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	15回の授業のオリエンテーション	「人の話をきく」ということについて考える
2	カウンセリングの基礎	カール・ロジャーズのクライエント中心療法について知る
3	カウンセリングの実習	カウンセリングの実習（ロールプレイ）を行う
4	カウンセリングのプロセスについて	カウンセリングのプロセスについて、カール・ロジャーズの理論から学ぶ
5	フォーカシングについて	カウンセリングの「体験過程」から、自分の内面に焦点化することを学ぶ フォーカシングの実習も含む
6	自分自身のテーマを知る	心理テストを体験する
7	こころと身体	身体に異常がないのに起こる症状について学ぶ
8	精神的な問題の分類と概説	精神的な問題の全体像を把握し、病態水準や自我の強さについて学ぶ
9	こころの発達理論	思春期以降の生徒のこころの問題を理解するために、関係性について学ぶ
10	子どもたちの育つ環境の問題	大人が子どもたちの発達を妨げている事例について学ぶ
11	箱庭療法について	箱庭療法が生まれた背景との理論について学ぶ
12	こころの治癒過程を知る	箱庭療法のDVDから、こころの治療過程についての理解を深める
13	専門機関との連携	教師に、できることと・できないことは何かを知り、専門機関と連携する上でたいせつなことを知る
14	様々な事例	学校現場での事例を聴いて自分なりの対処の仕方を考える
15	まとめ	授業での学びをふり返り、今後活かすべきことは何かを考える

平成 26（2014）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

看護学科 平成26年度（2014年度）入学者対象
 ()は兼任、[]は兼任講師

業 科 目 区 分	授業科目の名称	ナンバリング	授業 方法	単位数		看護師	保健師	養護 教諭 一種	学年配当(数字は週当り授業時間)								平成27年度の 担 当 者	ページ
				必修	選択				1年		2年		3年		4年			
									I	II	I	II	I	II	I	II		
専 門 基 礎 科 目	I群(健康支援と 社会保障制度)	社会福祉論	K01D21001	講義	2		□		2							竹内 一夫	84	
		人間関係論(カウンセリングを含む)	K01X22002	講義	2				2									
		家族関係論	K01D21003	講義	2			□		2								
		精神保健	K01F21004	講義	2			□	○	2								
		環境保健学	K01F23005	講義	1			□	○			1						
		保健医療福祉行政論	K01B12006	講義	2		◇	□				2			(河野真)・久井			
		公衆衛生学(疫学含)	K01C12007	講義	2		◇	□	○			2			長尾 光城			
		保健統計学	K01C12008	講義	2		◇	□	○			2			(湯瀬 晶文)			
		保健統計学	K01C12008	講義	2		◇	□	○			2			[平井 尊士]			
	II群(人体の 構造と機能)	基礎生物学	K02X21009	講義	2					2								
		形態機能論I	K02C11010	講義	2		◇	□	○	2								
		形態機能論II	K02C11011	講義	2		◇	□	○	2								
		生化学	K02X21012	講義	2					2								
		栄養学(食品学を含む)	K02C11013	講義	2		◇	□	○	2								
		薬理学	K02C12014	講義	2		◇	□	○			2			兒玉 拓			
		免疫・微生物学	K02C12015	講義	2		◇	□	○			2			兒玉 拓			
	III群(疾病の成立 及び回復の促進)	臨床病理病態学I(内科系)	K03B12016	講義	2		◇	□			2				伊藤 純			
		臨床病理病態学II(内科系)	K03B12017	講義	2		◇	□			2				伊藤 純			
		臨床病理病態学III(外科系)	K03B12018	講義	2		◇	□			2				伊藤・[織戸,他]			
		臨床病理病態学IV(周産期・小児科系)	K03B12019	講義	2		◇	□			2				中村・[米谷]			
	IV群(基礎看護学)	看護学概論	K04C11020	講義	2		◇	□	○	2								
		看護理論	K04C11021	講義	1		◇	□	○		1							
		ヘルスアセスメント	K04C11022	演習	1		◇	□	○		1							
		看護技術論I(生活技術援助)	K04C11023	演習	2		◇	□	○	4								
		看護技術論II(診療技術援助)	K04C12024	演習	2		◇	□	○			4			小林 謙・森崎・西山・掛川			
		看護技術論III(看護過程)	K04B12025	演習	1		◇	□				2			小林 謙・森崎・西山・掛川			
		基礎看護学実習I	K04C11026	実習	1		◇	□	○	3								
		基礎看護学実習II	K04C12027	実習	2		◇	□	○			6			小林 謙・森崎・西山・掛川			
看護教育学		K04B14028	講義	1		◇	□					1						
看護倫理		K04B14029	講義	1		◇	□					1						
看護管理学		K04B13030	講義	1		◇	□					1						
V群(成人・老年看護学)		成人看護学概論	K05C12031	講義	2		◇	□	○		2				白神・[小野]			
		成人看護援助論I(生命危機状態にある人)	K05C13032	演習	2		◇	□	○			4						
	成人看護援助論II(常態の維持・増進が困難な人)	K05C13033	演習	2		◇	□	○			4							
	成人看護学実習I	K05B13034	実習	3		◇	□					9						
	成人看護学実習II	K05B13035	実習	3		◇	□					9						
	老年看護学概論	K05B12036	講義	2		◇	□			2				瀧本 茂子				
	老年看護援助論	K05B13037	演習	2		◇	□				4							
	老年看護学実習I	K05B13038	実習	2		◇	□					6						
	老年看護学実習II	K05B13039	実習	2		◇	□					6						
VI群(母性・ 小児看護学)	母性看護学概論	K06C12040	講義	2		◇	□	○		2				中村・天本				
	母性看護援助論	K06C13041	演習	2		◇	□	○			4							
	母性看護学実習	K06B13042	実習	2		◇	□					6						
	小児看護学概論	K06C12043	講義	2		◇	□	○		2				小島 賢子				
	小児看護援助論	K06C13044	演習	2		◇	□	○			4							
小児看護学実習	K06C13045	実習	2		◇	□	○				6							

カリキュラム年次配当表

看護学科 平成26年度（2014年度）入学者対象
 （ ）は兼任、[]は兼任講師

授業 科目の 区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業 方法	単位数		看護師	保健師	養護 教諭 一種	学年配当(数字は週当り授業時間)								平成27年度の 担 当 者	ページ		
				必修	選択				1年		2年		3年		4年					
									I	II	I	II	I	II	I	II				
専 門 実 践 科 目	VII 群 (精神・在宅・地域看護学)	精神看護学概論	K07C12046	講義	2		◇	□	○				2					加藤知・[南川]	102	
		精神看護援助論	K07C13047	講義	2		◇	□	○				2							
		精神看護学実習	K07C13048	実習	2		◇	□	○					6						
		在宅看護概論	K07B12049	講義	2		◇	□					2						新田 幸子	103
		在宅看護援助論	K07B13050	講義	2		◇	□					2							
		在宅看護実習	K07B14051	実習	2		◇	□						6						
		公衆衛生看護学概論	K07B12052	講義	2		◇	□					2						久井 志保	104
		健康教育論	K07B13053	講義	1		◇	□					1							
		学校保健概論	K07C12054	講義	1		◇	□	○				1						柴田 順子	105
		国際看護学	K07B13055	講義	1		◇	□					1							
		災害看護学(災害保健を含む)	K07B14056	講義	1		◇	□							1					
専 門 教 育 科 目	VIII 群 (看護の 統合と実践)	基礎ゼミ	K08B11057	演習	2		◇	□		2										
		看護研究Ⅰ(基礎編)	K08B13058	講義	2		◇	□				2								
		看護研究Ⅱ(応用編)	K08B14059	演習	2		◇	□						2						
		リスクマネジメント論	K08B13060	講義	1		◇	□				1								
		看護の統合と実践実習	K08B13061	実習	2		◇	□					6							
専 門 関 連 科 目	IX 群 (保健師関連)	疫学	K09D23062	講義	2			□					2							
		公衆衛生看護学活動展開論	K09D23063	演習	2			□					4							
		健康相談活動の理論と実践	K09F23064	講義	2			□	○				2							
		産業保健論	K09D23065	講義	1			□					1							
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	K09D23066	実習	1			□						3						
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	K09D24067	実習	4			□							12					
		公衆衛生看護学特論	K09X24068	講義	1											1				
	教 諭 関 連 科 目	X 群 (養護 教諭 関連)	学校保健活動論	K10E23069	講義	2							2							
			学校保健演習	K10E23070	演習	2								2						
			養護概説	K10E22071	講義	2							2						柴田 順子	106

◇は看護師国家試験受験資格必修科目、□は保健師国家試験受験資格必修科目、○は養護教諭免許必修科目

授業 科目の 区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業 方法	単位数		看護師	保健師	養護 教諭 一種	学年配当(数字は週当り授業時間)								平成27年度の 担 当 者	ページ	
				必修	選択				1年		2年		3年		4年				
									I	II	I	II	I	II	I	II			
教 職 に 関 す る 科 目	教職概論	KTAL41001	講義	2				○	2										
	教育原理	KTAL41002	講義	2				○	2										
	教育心理学	KTAL42003	講義	2				○			2							(大平 曜子)	107
	教育制度論	KTAL42004	講義	2				○	2										
	教育課程論(道徳、特別活動を含む)	KTAL42005	講義	2				○			2							[新井野 久男]	108
	教育方法・技術論	KTAL42006	講義	2				○			2							(河野 稔)	109
	生徒指導論(進路指導を含む)	KTAL42007	講義	2				○			2							[新井野 久男]	110
	教育相談(カウンセリングを含む)	KTAL42008	講義	2				○	2										
	養護実習(事前事後指導を含む)	KTYO14001	実習	5				○						5					
	教職実践演習(養護教諭)	KTYO14002	演習	2				○							2				

○は養護教諭免許必修科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法(2単位)、体育(2単位)、外国語コミュニケーション(2単位)、情報機器の操作(2単位)について、指定の科目を修得すること。

科目名	人間関係論 (カウンセリング含む)		科目ナンバリング	K01X22002
担当者氏名	竹内 一夫			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期 2年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 ○ 2-2 看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力 ○ 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力 ○ 基教-A コミュニケーション力			

《授業の概要》

対人援助専門職について、特に医療現場で働く看護師にとって不可欠なコミュニケーションでの留意点について、事例を通して、体験を通し学びを進めていく。各自の積極的な授業参加が期待される。

《テキスト》

長谷川 浩編 系統看護学講座「人間関係論」医学書院 2004

《参考図書》

岡堂哲雄編 人間関係論入門 金子書房 2000

《授業の到達目標》

自分という人間の理解をはじめとし、コミュニケーションの重要性、特に療養を余儀なくされている患者、それを支える家族の心理状態が理解でき、それにより添える基礎的な知識と技術が身に付けられる。

《授業時間外学習》

コミュニケーションの勉強のフィールドは、諸君の生活域である。常に人々のコミュニケーションの在り方、話の継続のさせかたなど、周りの人々の観察から学びを深めていくこと。言葉の数、表現方法のレパートリーを増やすことに取り組んでください。

《成績評価の方法》

出席、授業中の関与度 (30%)、小テスト、課題提出 (20%)
定期試験 (50%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	コミュニケーションの基礎	人とかかわりの本質、情報交換としてのコミュニケーションの種類とその特質について検討する。
2	援助的コミュニケーションの特性	援助を必要としている人、問題を抱えてはいるが、それに気づいていない人たちへの支援の在り方、そこでのコミュニケーションの特質について検討する。
3	カウンセリングの原則とコミュニケーション	対人援助専門職が必要とされる価値、倫理を中心に検討し、対人援助専門職としての態度形成を図る。
4	対人援助の諸理論	自我心理学、学習心理学、認知行動理論など対人援助に取り入れやすい諸理論について概観し、援助とは何かを考える。
5	保健医療チームのコミュニケーションの特質	患者の治療、療養の支援を目的に結成される保健医療チームにおけるコミュニケーションと、普段のコミュニケーションとの相違から、その特質を検討する。
6	リーダーシップとメンバーシップ	チームが成果を上げていくためには、それを取りまとめるリーダーと、そのリーダーを支えるメンバーの連携が不可欠である。ここではその在り様をけんとうする。
7	療養中の患者・家族とのコミュニケーション I	患者と家族がどのように情報交換がなされているかは、療養状況の安定に大きく影響する。患者・家族それぞれの情報量の確認と修正を医療者がどのように行うかを検討する。
8	療養中の患者・家族とのコミュニケーション II	医療者側と患者・家族のコミュニケーションの取り方、そこでの留意点について検討する。
9	ターミナルケアにおけるコミュニケーション	終末期の患者の心理、家族の心理を理解するとともに、専門職としての留意点について検討する。
10	患者を失った家族への支援	患者との死別を経験した、遺族の心理、それに伴う心理的な反応について理解し、支援の在り方について検討する。
11	支援の技術 その1 問題と課題を見つける	適切な支援を実施するためには、患者家族のおかれている状況、抱えている問題の質等を適切に把握する技術 (アセスメント力) の確認と養成を行う。
12	支援の技術 その2 課題解決の方法を見つける	課題を解決するには、患者家族の能力と、おかれている状況、用いられる支援の内容を検討することが重要であり、そのため求められる視点について検討する。
13	支援の技術 その3 支援開始とフォローアップ	支援は状況変化を生み、かんじゃの・家族の新たな対応を求めることになる。両者の適応状況を確認しつつ支援を進めていく必要性について確認する。
14	患者・家族との面接演習 I、聴き取るとは	話を聴き取るとを、模擬面接という手法を通して体得するとともに、そのむつかしさについてもしっかりと自覚し、今後の学習に結び付けていく自覚を要請する。
15	患者・家族との面接演習 II、伝えるとは	考えを伝えることを、模擬面接という手法を通して体得するとともに、そのむつかしさについてもしっかりと自覚し、今後の学習に結び付けていく自覚を要請する。

科目名	保健医療福祉行政論		科目ナンバリング	K01B12006	
担当者氏名	河野 真、久井 志保				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ◎ 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力 ○ 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力			

《授業の概要》

保健福祉サービスの役割や基本的な制度枠組について解説するとともに、保健福祉制度の運営や政策過程に関する理解を深めることを目的とする。地域保健行政（公衆衛生看護）における保健師の役割とその責務を学習する。看護師国家試験出題基準「社会保障制度と生活者の健康」と、保健師国家試験出題基準「保健医療福祉行政論」の受験対策も併せて行う。

《テキスト》

保健医療福祉行政論（標準保健師講座別巻1）医学書院

《参考図書》

国民衛生の動向 厚生統計協会
 その他講義時に紹介するもの

《授業の到達目標》

1. 国・都道府県・市町村等、行政のしくみとその役割、保健医療福祉行政の要点、社会保障の役割・理念・機能・制度の体系について理解できる。
2. 公衆衛生行政における保健師の役割とその責務を理解できる。

《授業時間外学習》

本教科は看護師・保健師国家試験に対応する科目であり、受験対策を意識した講義を実施する。限られた講義時間で、幅広い知識を身につけなければならないため、予習・復習が単位取得の必須の要件となる。講義受講に先立ち教科書は必ず熟読しておくこと。また授業中に配布するプリントを用いて講義内容を復習すること。

《成績評価の方法》

筆記試験 100%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保健医療福祉行政のめざすもの	保健医療福祉行政の目的について理解する
2	保健医療福祉制度の変遷	保健医療福祉制度の変遷について理解する
3	保健医療制度と医療資源	保健医療制度の概要と医療資源について理解することができる
4	公衆衛生看護活動に関する法規	公衆衛生看護活動と関連する法規について理解することができる
5	国・都道府県・市町村等、行政のしくみ	地方自治、行政のしくみの概要について理解することができる
6	地域保健行政と保健師活動	地域保健行政における保健師活動の位置づけについて理解することができる
7	保健医療福祉の計画と評価	保健医療福祉計画および評価の目的と実施について理解することができる
8	社会保障の理念・保健医療福祉活動の基本的方向	社会保障の定義、目的、範囲、体系等について学ぶ
9	社会保険制度1 社会保険の変遷・医療保険制度	医療費の動向、医療供給システムについて学ぶ
10	社会保険制度2 社会保険の変遷・医療保険制度	医療保険制度、医療制度改革について学ぶ
11	社会保険制度3 介護保険制度	介護保険の目的、仕組み、制度改正について学ぶ
12	社会保険制度4 年金制度その他の社会保険制度	年金保険制度と労働保険制度（労働者災害補償保険・雇用保険）について学ぶ
13	社会福祉諸法の理念と施策1	社会福祉の法制度、動向、実施体制、社会福祉制度形成史について学ぶ
14	社会福祉諸法の理念と施策2	社会福祉施策（子福祉、老人福祉、生活保護、児童福祉、障害者福祉）について学ぶ
15	保健医療福祉行政論の要点整理	保健師国家試験対策講座

科目名	公衆衛生学 (疫学含)		科目ナンバリング	K01C12007
担当者氏名	長尾 光城			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ○ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 ◎ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ○ 4-2 安全なケア環境を提供する能力 ○ 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力			

《授業の概要》

公衆衛生学は人間集団を対象とし、国民の疾病の予防や、健康増進に役立てることを目的とする学問である。疫学、疾病の広義の予防、医療・福祉・社会保障、国・地方公共団体による保健行政、及びこれらの活動に関連する衛生統計や疫学手法等集団の健康を維持するための基本的知識とその方法論を学ぶ。

《テキスト》

「標準保健師講座 別巻2 疫学・保健統計学」 医学書院
 「シンプル衛生・公衆衛生学2015」 鈴木庄亮・久道茂

《参考図書》

国民衛生の動向：厚生統計協会編 (校正統計協会)
 各単元毎に必要なに応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 1 公衆衛生の概念を理解する
- 2 基本的な保健統計指標について説明できる
- 3 疫学的な思考や手法を理解する
- 4 主要な生活習慣病の疫学や危険因子を説明できる

《授業時間外学習》

- 1 次回の授業範囲を予習し、概要を把握すること
- 2 毎回授業後、ノートを整理し、重要なポイントを理解すること
- 3 健康に関するトピックス・ニュースの情報収集に努めること

《成績評価の方法》

定期試験70%、小テスト30%の割合で評価する

《備考》

衛生統計を検討しながら、保健行政の在り方を自ら考える力をつけられるように頑張ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	公衆衛生の概念・定義、歴史	公衆衛生学の概念、公衆衛生学がカバーする領域、公衆衛生の発展の歴史について理解する。
2	保健統計・人口統計	国勢調査、人口動態調査、患者調査、国民生活基礎調査、国民健康・栄養調査等の保健統計について、調査実施方法、法的根拠、調査内容について説明できる。
3	保健統計指標	罹患率と有病者率との相違、出生率、合計特殊出生率、老年化率、老年化指数、死亡率、年齢調整死亡率、平均寿命、平均余命等の保健統計指標について説明できる。
4	疫学の概念・バイアス・交絡因子	疫学の概念、疫学における因果関係、バイアスと交絡因子、研究デザインにおける交絡因子のコントロールについて説明できる。
5	疫学の方法・疫学の指標	各疫学的研究法 (記述疫学、コホート調査、症例対照研究、介入研究等) の手法、特徴、利点欠点を説明でき、オッズ比や相対危険度を求めることができる。
6	感染症	感染症の感染経路、免疫、アウトブレイクの種類や疫学的調査、院内感染について説明できる。
7	感染症予防対策	感染症予防対策として予防接種ワクチンの種類や予防接種法の変遷、感染症拡大防止対策として、新感染症法及び学校安全衛生法に基づく感染者の隔離について説明できる。
8	小テスト	第1週～第7週までの内容の範囲から試験を行う。
9	予防・健康増進・生活習慣病対策	疾病予防の段階 (一次～三次予防)、集団検診におけるスクリーニングの精度を示す指標 (感度、特異度、カットオフ値)、健康づくりの変遷について説明できる。
10	地域保健	地域保健の変遷及び地域保健法施行後の保健所と保健センターの業務の相違について説明できる。
11	主要疾患の疫学と予防対策 (悪性新生物)	がん死亡と罹患状況、主要な悪性腫瘍 (胃がん、肺がん、子宮がん、乳がん、大腸がん等) の疫学、リスク要因、一次予防、二次予防について説明できる。
12	主要疾患の疫学と予防対策 (循環器疾患)	循環器疾患による死亡や罹患状況、主要な循環器疾患 (高血圧、虚血性心疾患、脳血管疾患) についてリスク要因や予防法について説明できる。
13	主要疾患の疫学と予防対策 (糖尿病)	代謝性疾患による死亡や罹患状況、主要な代謝性疾患 (糖尿病、高脂血症、痛風) についてリスク要因や予防法について説明できる。
14	主要疾患の疫学と予防対策 (その他)	メタボリックシンドローム、小児疾患、精神疾患、歯科疾患等の発生状況やリスク要因について説明できる。
15	医療制度、保険の種類、医療施設	医療制度の仕組み、医療法、医療圏、医療計画、医療提供施設、医療従事者、社会保障、社会保険、公的扶助、社会福祉、医療保険給付制度について説明できる。

科目名	保健統計学		科目ナンバリング	K01C12008	
担当者氏名	湯瀬 晶文				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ◎ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力				

《授業の概要》

統計学あるいは統計的視点は、非常に広範な領域で不可欠のものとなっており、当然看護・保健分野もその例外ではない。統計学は、大きく「記述統計学」と「推測統計学」の2つに分けることができる。この授業ではそれぞれのごく基礎の部分、とりわけ記述統計学の基礎に重点を置き、講義だけでなくコンピュータを用いた演習も併用する。なお、受講生の状態や他のクラスの進捗状況により、内容を多少変更することもある。

《授業の到達目標》

本授業は、保健分野におけるデータの基本的な分析で利用される初歩的な統計的手法や考え方について学ぶ。それにより、
 (1) 記述統計学の基礎的な内容に基づき、データの特徴を要約統計量で記述できるようになる、
 (2) 推測統計学の基礎的な内容に基づき、標本データから母集団全体の簡単な特徴を推測できるようになる、
 ことを目標とする。

《成績評価の方法》

毎回の課題への取り組みとレポート（70%）および筆記試験（30%）を主として評価する予定であるが、詳細はオリエンテーション（初回）における履修者の意見も交え決定する。
 なお、私語や携帯機器の利用、授業に不必要な作業など、授業・他者へ悪影響を与える行為は特に厳しく評価を行う。

《テキスト》

使用しない。

《参考図書》

必要に応じて、適宜指示する。

★注意事項★：教学システムの不備のために、予期しない表示や内容のずれが生じています。そのためこのシラバスも正しく表示されるかどうか分かりませんので、シラバスに関する疑問については初回授業時に直接確認してください。

《授業時間外学習》

毎回のように入課題が出るので、時間をかけて取り組む必要がある。授業は前回までの内容を十分に理解し、課題を完成させていることを前提に行われる。
 万一授業を欠席する場合は、次回授業までに授業内容を十分確認し、課題を完成させておくこと。

《備考》

ひとこと：統計もコンピュータもすぐに理解できなくても、粘り強くせめて卒業するまで使い続けてください。そうするうちに慣れも手伝って次第に使えるようになってくるはずですよ。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	講義の進め方についての説明および評価方法の決定 統計学とは (大切なので履修希望者は必ず出席のこと)
2	表計算ソフトの基礎(1)	表計算ソフトの簡単な復習(1)
3	表計算ソフトの基礎(2)	表計算ソフトの簡単な復習(2)
4	統計データについて	統計データの種類と体系、統計データの見方
5	データの可視化(1)	データの分布の分析(度数分布表)
6	データの可視化(2)	データの分布の分析(ヒストグラム、集中や不均衡)
7	データの要約(1)	代表値とは代表値を用いて要約する
8	データの要約(2)	いくつかの代表値とその特性(統計データの種類と代表値)
9	データの要約(3)	いくつかの散布度とその特性
10	確率と分布	確率とは確率分布とは
11	正規分布(1)	正規分布の重要性と中心極限定理
12	正規分布(2)	正規分布等を用いた推定
13	正規分布(3)	正規分布等を用いた検定(2つの仮説と統計的検定)
14	2次元データ	データ間の関係を可視化と分析(2次元データの可視化)
15	まとめ	実際に用いられるいくつかの統計これまでの成果確認

科目名	保健統計学		科目ナンバリング	K01C12008	
担当者氏名	平井 尊士				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ○ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 ◎ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ○ 4-2 安全なケア環境を提供する能力 			

《授業の概要》

本授業はデータ解析で用いる基本的な手法を習得する統計習得コースであり大きく2つの部分より構成する。授業全体を通し授業計画に基づき幅広く講義と演習の繰り返しを実施します。

- ①保健医療福祉統計のための記述統計学入門
- ②保健医療福祉統計のための推測統計学入門
- ※②についても可能な限り触れることとする
- ※授業計画の授業は順不同とする。

《授業の到達目標》

データ解析は、予測、評価、管理等の目的で広く利用されている。本授業では、保健医療福祉統計のためのデータ解析の場面で利用される基本的な統計的手法・考え方について学習するための統計である。学生は、各種標本データを解析・整理・要約するための記述統計学、その解析結果から母集団における状況を推測するための推測統計学等について、具体的に基づいて、基礎的内容を学習し、習得できることを目標とする。

《成績評価の方法》

評価方法：毎回、各授業後に課すレポートや課題
 評価の割合：毎回、各授業後に課すレポートや課題（100点）

《テキスト》

使用しません。

《参考図書》

適宜使用します。

《授業時間外学習》

毎回配布する資料は学内システム（新統合HUMANS）に電子ファイルとしておいておきます。毎回出す課題をするために必ず熟読して取り組むこと。

《備考》

表計算を用いた演習を行うので、その基本的な操作を必ずコンピュータ演習等もあわせて習得することを心がける。国家試験（保健師）等でも扱う範囲なので理解できるよう心がける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保健医療福祉のための統計学とは何か	統計学とは？、統計分析のプロセスについて。国家試験についても少し触れる。
2	統計データについて	統計資料の種類と体系、統計の作り方、統計データの見方・考え方（1）
3	統計データについて	統計資料の種類と体系、統計の作り方、統計データの見方・考え方（2）
4	1次元のデータの分析と視覚化（演習1-1）	データの分布の分析。度数分布表によるデータのまとめ方
5	1次元のデータの分析と視覚化（演習1-2）	データの分布の分析。度数分布表によるデータのまとめ方、ヒストグラムの作成
6	1次元のデータの視覚化（演習2-1）	ローレンツ曲線（集中度や不平等の度合の分析）、棒・円・折れ線グラフによるデータのまとめ方
7	1次元のデータの視覚化（演習2-2）	平均値と標準偏差によるデータのまとめ方、具体的には、代表値の計算とその性質、平均・中央値・最頻値の計算、代表値に視覚化、代表値の性質（強みと弱点、使い方）
8	1次元のデータの要約（演習3-1）	平均値と標準偏差によるデータのまとめ方
9	1次元のデータの要約（演習3-2）	平均値と標準偏差によるデータのまとめ方、具体的には、代表値の計算とその性質、平均・中央値・最頻値の計算、代表値に視覚化、代表値の性質（強みと弱点、使い方）
10	1次元のデータの要約（演習4-1）	分散と標準偏差の計算
11	1次元のデータの要約（演習4-2）	様々な散らばり具合の尺度とその性質、分散と標準偏差の計算、標準偏差の性質、偏差値とは何か？
12	2次元のデータの分析	データ間の関係の分析
13	2次元のデータの視覚化（演習5-1）	散布図の作成（連続データ）
14	2次元のデータの視覚化（演習5-2）	散布図の作成（連続データ）、クロス集計表（分割表）の作成とグラフ化（質的データ）
15	まとめ	相関係数の計算とその性質、散布図・相関係数によるデータのまとめ方、回帰直線によるデータのまとめ方、推定と仮説検定

科目名	薬理学	科目ナンバリング	K02C12014
担当者氏名	兒玉 拓		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修 開講年次・開講期 2年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ○ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ○ 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 ◎ 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力		

《授業の概要》

病気の治療には運動療法や食事療法とともに薬物治療は重要な役割を担う。臨床実地での患者ケアや健康指導には、医薬品の薬理学の知識は必要不可欠である。本講義では、薬物療法の基本・薬物の作用メカニズム・薬物による副作用等を理解した後、感染症や免疫系・神経系等の種々の疾患治療薬についての作用のしくみ・特徴・使用時の注意点などを各論として学習し、看護の臨床現場で必要とされる薬理学的知識を習得する。

《授業の到達目標》

- ①医薬品の適用方法や剤形などと関連付けて薬物の体内動態や医薬品の有効性と安全性の考え方が概説できる。
- ②各種疾患に用いられる薬物を系統的に種別できるとともに、主な薬物の名称と薬効機序などが概説できる。
- ③薬物の副作用、使用方法、使用上の注意などを理解し、患者への対応を主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》

定期試験60%、平常評価40%（授業における質問への対応、課題への取り組み）なお講義中の受講姿勢に問題がある学生は必要に応じて減点される。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	薬理学総論1 薬物治療の基礎知識	薬物療法の目的、薬物の作用・副作用の仕組み、薬物の投与経路など。
2	薬理学総論2 薬効に与える因子	薬物の体内動態、薬物耐性、薬物依存、薬効に対する影響因子など。
3	薬理学総論3 薬の管理と治療	薬物の有益性と有害性、薬物管理の方法、新薬開発における薬効評価法など。
4	抗感染症薬	感染症治療における基礎知識、抗菌薬各論、感染症治療の問題点など。
5	抗腫瘍薬	癌治療の問題点、抗癌剤の種類と作用機序など。
6	免疫治療薬	免疫反応のメカニズム、免疫抑制薬、予防接種など。
7	抗アレルギー薬・抗炎症薬	抗アレルギー薬、抗ヒスタミン薬、非ステロイド性抗炎症薬など。
8	末梢神経に作用する薬	交感神経作用薬、副交感神経作用薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬など。
9	中枢神経に作用する薬	パーキンソン症候群治療薬、抗てんかん薬、鎮静薬など。
10	心疾患治療薬	抗狭心症薬、抗不整脈薬、強心薬など。
11	メタボリック症候群治療薬	抗高血圧薬、血糖降下薬、インシュリン製剤、脂質異常症治療薬など。
12	物質代謝に作用する薬	ステロイド性抗炎症薬、関節リウマチ治療薬、痛風治療薬など。
13	呼吸器・消化器・生殖器に作用する薬	気管支喘息治療薬、鎮咳薬・去たん薬、消化性潰瘍治療薬、性ホルモン薬など。
14	皮膚科用薬・眼科用薬・漢方薬	皮膚感染症に用いる薬、アトピー性皮膚炎に用いる薬、白内障・緑内障に用いる薬、漢方薬など。
15	救急時使用薬・消毒薬	呼吸促進薬、循環改善薬、麻薬など。

《テキスト》

『看護学生のための薬理学ワークブック』（医学書院）

《参考図書》

『新薬理学』安原 一著（日本医事新報社）、『やさしい薬理のメカニズムー薬のはたらきを知る』中原保裕著（学研メディカル秀潤社）

《授業時間外学習》

講義の進行に応じて実施する課題に真剣に取り組み、重要事項の把握と理解に努めること。必要に応じてグループによる課題作成等の学習を加える予定である。

《備考》

課題の提出は期限を厳守すること。私語、携帯電話、飲食、出入り等の迷惑行為は厳禁である。

科目名	免疫・微生物学	科目ナンバリング	K02C12015
担当者氏名	兒玉 拓		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	2年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ◎ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ○ 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 ○ 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力		

《授業の概要》

グローバル社会の進展から種々の新興感染症の拡大が懸念されている。本講義では医療現場で身近に遭遇する感冒等の感染症から近年注目されているデング熱・鳥インフルエンザ等輸入感染症などトピックスを加えながら基礎的な感染症の知識と対策を理解する。また生体防御としての人間の免疫反応や過剰免疫であるアレルギー反応等についての知識も合わせて学習する。

《授業の到達目標》

①微生物の種類とその性質について基本的な知識を説明できる。②代表的な微生物とその感染症について理解し説明できる。③「ヒト」の防御反応である免疫について説明できる。④感染症の成り立ち、診断、治療、予防、現状について説明できる。⑤懸念される新興感染症についての知識を獲得する。

《成績評価の方法》

定期試験60%、平常評価40%（授業における質問への対応、課題への取り組み）なお講義中の受講姿勢に問題がある学生は必要に応じて減点される。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生体防御（1）	食細胞と自然免疫について理解する。
2	生体防御（2）	リンパ球と獲得免疫について理解する。
3	生体防御（3）	種々の免疫の異常やアレルギー疾患について理解する。
4	生体防御（4）	生体防御に重要なリンパ器官について理解する。
5	微生物学総論	細菌・真菌・原虫・ウイルス等の生物の特徴を理解する。
6	感染症とその診断法	感染源や感染経路、病原体分離診断法の基礎を理解する。
7	感染症の予防とコントロール	感染症に対する対策、治療法について理解する。
8	微生物学各論（1）	グラム陽性球菌等の特徴と治療方法について理解する。
9	微生物学各論（2）	グラム陰性球菌等の特徴と治療方法について理解する。
10	微生物学各論（3）	グラム陰性桿菌等の特徴と治療方法について理解する。
11	微生物学各論（4）	マイコプラズマ・リケッチア等の特徴と治療方法について理解する。
12	微生物学各論（5）	真菌・原虫・寄生虫等の特徴と治療方法について理解する。
13	微生物学各論（6）	飛沫感染するウイルス等の特徴と治療方法について理解する。
14	微生物学各論（7）	経口感染するウイルス等の特徴と治療方法について理解する。
15	微生物学各論（8）	血液感染するウイルス等の特徴と治療方法について理解する。

《テキスト》

『ナースのための微生物学』（南山堂）

《参考図書》

『新クイックマスター 微生物学』（医学芸術社）
『人体の正常構造と機能VII 血液・免疫・内分泌』（日本医事新報社）

《授業時間外学習》

講義の進行に応じて実施する課題に真剣に取り組み、重要事項の把握と理解に努めること。必要に応じてグループによる課題作成等の学習を加える予定である。

《備考》

課題の提出は期限を厳守すること。私語、携帯電話、飲食、出入り等の迷惑行為は厳禁である。

科目名	臨床病理病態学 I（内科系）	科目ナンバリング	K03B12016
担当者氏名	伊藤 純		
授業方法	講義	単位・必修	2・必修 開講年次・開講期 2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ◎ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ○ 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力		

《授業の概要》

患者様の看護を行うためには、それぞれの疾患の病理と病態を理解する必要があります。
形態機能論で学んだ正常な人間の構造と機能の理解の上に成り立つ分野です。

《テキスト》

系統看護学講座「腎・泌尿器」、「血液・造血器」、「アレルギー・膠原病・感染症」、「内分泌・代謝」、「脳・神経」（医学書院）

《参考図書》

特になし。

《授業の到達目標》

各疾患の病理、病態、診断、治療に関する知識を身につける。

《授業時間外学習》

その日のうちに授業内容を15分程度復習すること。

《成績評価の方法》

定期試験のみで評価する。

《備考》

特記すべきことなし。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	内科学総論①	生命維持のしくみ
2	内科学総論②	バイタルサインのみかた、内科的検査・診断方法
3	腎臓・泌尿器疾患①	腎疾患の総論
4	腎臓・泌尿器疾患②	腎疾患の各論
5	腎臓・泌尿器疾患③	泌尿器科疾患、透析、腎移植
6	血液・造血器疾患①	血液・造血器の機能
7	血液・造血器疾患②	血液・造血器疾患の各論
8	アレルギー疾患・膠原病①	アレルギー疾患
9	アレルギー疾患・膠原病②	リウマチ・膠原病
10	内分泌・代謝疾患①	内分泌疾患の総論
11	内分泌・代謝疾患②	内分泌疾患の各論
12	内分泌・代謝疾患③	代謝疾患
13	脳・神経疾患①	脳・神経疾患の総論
14	脳・神経疾患②	脳血管疾患
15	脳・神経疾患③	その他の脳・神経疾患（中枢神経感染症、変性疾患など）

科目名	臨床病理病態学Ⅱ（内科系）	科目ナンバリング	K03B12017
担当者氏名	伊藤 純		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修 開講年次・開講期 2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ◎ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ○ 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力		

《授業の概要》

患者様の看護を行うためには、それぞれの疾患の病理と病態を理解する必要があります。
形態機能論で学んだ正常な人間の構造と機能の理解の上に成り立つ分野です。

《テキスト》

系統看護学講座「呼吸器」、「消化器」、「循環器」

《参考図書》

特になし

《授業の到達目標》

各疾患の病理、病態、診断、治療に関する知識を身につける。

《授業時間外学習》

その日のうちに授業内容を15分程度復習すること。

《成績評価の方法》

定期試験のみで評価する。

《備考》

特記すべきことなし。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	呼吸器疾患①	呼吸機能と呼吸器疾患総論
2	呼吸器疾患②	呼吸器系感染症
3	呼吸器疾患③	その他呼吸器疾患（肺がんなど）
4	呼吸器疾患④	呼吸器疾患まとめ
5	消化器疾患①	消化機能と消化器疾患総論
6	消化器疾患②	上部消化管疾患
7	消化器疾患③	下部消化管疾患
8	消化器疾患④	肝・胆・膵疾患①
9	消化器疾患⑤	肝・胆・膵疾患②
10	消化器疾患⑥	消化器疾患まとめ
11	循環器疾患①	循環器系の構造と循環器疾患総論
12	循環器疾患②	高血圧、虚血性心疾患
13	循環器疾患③	心不全、不整脈など
14	循環器疾患④	循環器疾患まとめ
15	まとめ	アクティブラーニングによる臨床病理病態学全体のまとめ

科目名	臨床病理病態学Ⅲ（外科系）		科目ナンバリング	K03B12018
担当者氏名	伊藤 純、織戸 弘行、他			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
				2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力			

《授業の概要》

患者の看護を適切に行うためには、看護援助の知識に加え、その患者の身体にどのような異常が生じているのか、その異常が患者にどのような苦痛や障害を起しているのか理解しなければならぬ。臨床病理病態学を学ぶことで、損なわれた生理機能を回復したり、失われた機能を補填するにはどうしたらよいかを知り治療や援助にどうつなげるのか考える根拠を知ることができる

《授業の到達目標》

1. 外科的治療を行う各疾患に必要な基礎知識、病態、検査、診断、治療について理解できる
2. 整形外科疾患について、器官の機能上の特徴と、疾患により生じる機能障害、運動障害について述べる事ができる
3. リハビリテーションの基礎的知識について理解できる

《テキスト》

系統看護学講座：臨床外科看護総論、医学書院
 系統看護学講座：臨床外科看護各論、医学書院 整形外科疾患
 ビジュアルブック：学研

《参考図書》

病気が見える1 消化器 : メディックメディア
 病気が見える7 脳・神経 : メディックメディア
 病気が見える4 呼吸器 : メディックメディア

《授業時間外学習》

教科書と参考図書を中心に予習・復習を十分すること

《成績評価の方法》

筆記試験100%

《備考》

授業中の携帯電話の使用を禁ずる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	運動器の構造と機能	骨、関節、筋肉・腱・靭帯、神経、上肢、下肢、脊椎、脊髄の構造と機能
2	症状と診断	主な症状と徴候 診断と検査
3	整形外科治療	保存療法 手術療法
4	疾患の理解	骨折 関節リウマチ 変形性膝関節症(基礎知識 病態 検査 診断 治療)
5	疾患の理解	脊椎疾患 脊椎性側湾症 椎間板ヘルニア 脊柱管狭窄症(基礎知識 病態 検査 診断 治療)
6	外科的治療を行う患者の病態の基礎	手術侵襲と生体反応、炎症、感染症、腫瘍、外傷とショック
7	外科的治療を支える分野	麻酔法、呼吸管理、体液・栄養管理 輸血管理
8	肺および胸部	肺がん、自然気胸：基礎知識、外科呼吸器領域の検査、診断、治療
9	肺および胸部	乳がん：基礎知識、外科呼吸器領域の検査、診断、治療
10	消化器および腹部	胃がん：基礎知識、外科消化器領域の検査、診断、治療
11	腸・腹膜疾患	虫垂炎、大腸がん、急性腹症：基礎知識、外科消化器領域の検査、診断、治療
12	腸・腹膜疾患	イレウス、直腸肛門疾患：基礎知識、外科消化器領域の検査、診断、治療
13	肝・肝外胆道系	肝がん、胆石：基礎知識、外科消化器領域の検査、診断、治療
14	肝・肝外胆道系	膵臓がん：基礎知識、外科消化器領域の検査、診断、治療
15	まとめ	まとめと復習

科目名	臨床病理病態学Ⅳ（周産期・小児科系）		科目ナンバリング	K03B12019
担当者氏名	中村 朋子、米谷 昌彦			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
	ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ◎ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 ○ 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力		

《授業の概要》

人間のライフサイクルにおける妊娠・分娩・産褥各期の母体の生理的変化と胎児の発育状態および新生児の生理を学び、正常からの逸脱（異常）やリスクについて考える。
 さらに、出生から成人に至るまでのさまざまな発達段階における主要な疾患の病態と治療やケアについて学び、周産期・小児看護の実践に必要な基礎的知識を習得することを目的とする。

《テキスト》

- ①『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護各論』医学書院
- ②『系統看護学講座 専門分野ⅠⅠ小児看護学2第12版』2011
- ③『系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論』医学書院

《参考図書》

- ・『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 女性生殖器』医学書院

《授業の到達目標》

1. 人体の発生から正常な妊娠・分娩・産褥経過および胎児の発育状態・新生児の生理について説明することができる。
2. ハイリスク妊娠、分娩時の異常、産褥の異常について学び、予防するための看護を考えることができる。
3. 小児の成長・発達について理解できる。
4. 主要な小児疾患の病態生理を理解し、それらの治療やケアについて説明できる。

《授業時間外学習》

各講義の前にその日の講義内容についてあらかじめ教科書を読んで予習しておくこと。講義の際には可能な限りプリント配布を行うが、講義中に説明できなかった部分については読んで復習しておくこと。

《成績評価の方法》

- ・各担当者が実学期末の筆記試験（周産期）30%（小児科系）50%
- ・小テスト（周産期）7回目 20%

《備考》

- ・授業中は携帯電話の使用を禁ずる。
- ・講義開始時間を厳守すること。
- ・15分以上の遅れは遅刻とし、3回遅刻で1回の欠席扱い。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	妊娠の成立・妊娠期における母体の生理	生殖器系の形態機能、妊娠の成立、母体の生理的変化
2	胎児の発育	妊娠週数における胎児の発育
3	ハイリスク妊娠と検査および治療	ハイリスク妊娠とは、妊娠期の感染症、妊娠中の併症、多胎妊娠、子宮外妊娠、胎児胎盤機能検査、NST、不妊治療と看護
4	分娩経過	分娩の3要素、分娩経過、分娩機転、胎児心形機能、分娩中胎児心拍モニタリング
5	分娩の異常と産科処置と手術	産道・娩出力の異常、胎児および胎児付属物の異常、分娩時損傷、分娩時異常出血、産科的処置、吸引分娩、帝王切開術、麻酔方法
6	産褥経過（正常・異常）	産褥期の身体的変化、産褥の異常（子宮復古不全、産褥熱、産褥血栓症、精神障害）
7	まとめ	妊娠・分娩・産褥経過の要点整理、まとめ（小テスト）
8	新生児の生理と疾患	新生児の出生後の生理的適応とその障害について学ぶ。
9	先天異常とそのケア	主な染色体異常症とその他の先天異常症についての概略を学ぶ。
10	免疫疾患・アレルギー疾患	気管支喘息、食物アレルギーなどの小児によく見られるアレルギー疾患と免疫疾患について学ぶ。
11	感染症	小児感染症の特徴と代表的疾患について症状・治療・予防について学ぶ。
12	呼吸器・循環器疾患	小児期によく見られる呼吸器疾患と心疾患、川崎病について学ぶ。
13	血液・腎・泌尿器疾患	貧血、出血性疾患、ネフローゼ症候群や腎炎など腎疾患について学ぶ。
14	神経筋疾患・発達障害	てんかんをはじめとするけいれん性疾患、性麻痺、筋ジストロフィーなどの神経筋疾患、小児に特有の発達障害などについて学ぶ
15	小児の事故・救急疾患	小児の事故・救急疾患について、それらの特徴や対応の仕方について学ぶ。

科目名	看護技術論Ⅱ（診療技術援助）		科目ナンバリング	K04C12024
担当者氏名	小林 廣美、森崎 由佳、西山 忠博、掛川 静代			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期 2年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ○ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ◎ 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力			

《授業の概要》

健康上の問題により生じる治療や検査を受ける対象を理解し、診療の補助業務における知識・技術を身につけることを目的とする。安全かつ正確に与薬および検査を提供できる能力、身体侵襲を伴う看護技術について、その適応と意義・目的、原理・原則、安全・安楽への配慮などについて基本的な知識と技術を修得する。

《授業の到達目標》

1. 検査・治療における看護技術について、目的、原理・原則、安全・安楽・自立、個別性への配慮など基本的な知識を説明できる。
2. 検査・治療における看護技術の基本的な技術を実施できる。
3. 看護技術についてエビデンスを考えクリティカルに思考できる。

《成績評価の方法》

定期試験（60%） 実技試験（20%） 演習での学習態度・意欲（10%） レポート課題（10%）

《テキスト》

○系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ：医学書院 茂野香おる ○系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ：医学書院 任 和子

《参考図書》

○安全で確かな与薬①②：インターメディカ 高屋尚子○看護技術プラクティス：学研 竹尾恵子 ○写真でわかる実習で使える看護技術：インターメディカ 吉田みつ子 ○考える基礎看護技術Ⅱ 看護技術の実際：ヌーヴェルヒロカワ 坪井良子 ○ケア技術のエビデンス：へるす出版 深井喜代子 ○なぜ？わかる看護技術LESSON：学研 大岡良枝

《授業時間外学習》

- (1) 事前にテキストの講義内容部分を予習する。
- (2) 予習時には、既習学習の形態機能論や臨床病理病態学、薬理学など講義に必要な知識を復習する。
- (3) 講義・演習・その後の課題レポートと学習を統合できるよう、復習を必ず行う。

《備考》

実習室は病室と同じと考え、服装など整えた上で清潔感があるようにして入室してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	与薬の技術①（講義）	与薬の基礎知識 看護師の役割 与薬の実際（経口与薬 点眼 点鼻 経皮的与薬 直腸内与薬）安全な与薬について
2	与薬の技術②（講義）	注射の基礎知識（目的・方法・種類・物品）筋肉内注射 皮下注射（目的・特徴・安全に実施するための方法）
3	与薬の技術③（演習）	筋肉内注射・皮下注射の実施
4	与薬の技術④（講義）	静脈内注射（法的解釈と看護師の役割 種類・目的・特徴・注射部位・安全に実施するための方法） 輸血管理の基礎知識と援助の実際
5	与薬の技術⑤（演習）	静脈内注射の実施
6	呼吸・循環を整える技術 食事援助技術①（講義）	経管栄養法の基礎知識と援助の実際 ネブライザー・吸引・酸素吸入療法・末梢循環促進ケアの基礎知識と援助方法
7	呼吸・循環を整える技術 食事援助技術②（演習）	経管栄養法の基礎知識と援助の実際 ネブライザー・吸引・酸素吸入療法・末梢循環促進ケアの基礎知識と援助方法
8	呼吸・循環を整える技術 食事援助技術③（演習）	体温管理の技術 罨法の基礎知識と援助の実際
9	学習のまとめ（技術の確認）	学習内容の確認
10	排泄援助技術①（講義）	導尿、浣腸の基礎知識と援助の実際
11	排泄援助技術②（演習）	導尿の援助の実際
12	排泄援助技術③（演習）	浣腸の援助の実際
13	診察・検査・処置の介助技術①（講義・演習）	看護師の役割 検体検査の基礎知識と援助の実際 生体検査の基礎知識と援助の実際 侵襲的処置の介助技術
14	診察・検査・処置の介助技術②（講義・演習）	採血の目的・適応 採血の種類 静脈血採血の安全な注射部位 安全な採血の方法 採血の実施
15	創傷管理技術（講義・演習）	創傷管理の基礎知識 包帯法 褥創予防の技術

科目名	看護技術論Ⅲ（看護過程）		科目ナンバリング	K04B12025
担当者氏名	小林 廣美、森崎 由佳、西山 忠博、掛川 静代			
授業方法	演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期 2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ○ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ○ 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力			

《授業の概要》

看護過程は、知識や技術を包括的に再編成し、方向性を示しながら看護を科学的に実践するために重要なものである。本科目は、看護の対象者に対して有効な看護援助を行う看護技術としての看護過程とその段階を学ぶ。

《テキスト》

○系統看護学講座専門分野Ⅰ 看護技術論Ⅰ 基礎看護学② 医学書院 茂野香おる ○他：資料配布

《参考図書》

○病期・病態・重症度からみた 疾患別看護過程+病態関連図 第2版 井上 智子 学研 ○看護理論 理論と実践のリンゲージ 松木光子 ヌーベルヒロカワ ○看護過程に沿った対症看護—病態生理と看護のポイント市村 久美子 医学書院 ○看護の基本となるもの ヴァージニアヘンダーソン 日本看護協会出版会 ○看護過程展開ガイド 任和子 照林社

《授業の到達目標》

1. 看護過程の意義を説明できる。
2. 看護過程の構成要素を説明できる。
3. 看護過程の各段階を説明できる。
4. 問題解決過程としての看護過程の考え方を説明できる。
5. ペーパーペーシェンとでの看護過程の展開ができる。

《授業時間外学習》

1. 事例の疾患や治療・看護について基本的な知識は復習してから授業に望む。
2. グループワークを効果的に行い、課題について意見交換した上で授業に参加する。
3. 今後の実習で使う思考過程の学習であるため、自己学習で課題を進めるとともに思考過程を理解していく。

《成績評価の方法》

筆記試験（60%）レポート（30%）グループワーク（10%）

《備考》

本科目で学ぶ看護過程の技術は、基礎看護学実習Ⅱや各専門領域で必須の思考過程です。看護過程の展開を実践するため知識・技術が習得できるよう学習してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	看護過程とは	問題解決過程としての看護過程、看護過程の意義、看護理論と看護過程、看護過程の構成要素、看護過程の基本となる考え方（問題解決過程、クリティカルシンキングなど）
2	看護過程の各段階 (事例A)①アセスメント	看護情報とは、情報の種類、情報源、情報収集の方法、情報の整理・分類 (事例Aを用い展開する)
3	看護過程の各段階 (事例A)②アセスメント	情報の分析・解釈
4	看護過程の各段階 (事例A)③アセスメント	課題の発表（情報の分析・解釈）、情報の統合と看護問題の明確化（看護問題の種類、看護問題と看護診断、看護問題の表記方法、看護問題の優先順位）
5	看護過程の各段階 (事例A)④問題の明確化	情報の統合と看護問題の明確化（看護診断）
6	看護過程の各段階 (事例A)⑤計画立案	課題の発表（情報の統合と看護問題の明確化） 看護計画立案（期待される成果の明確化（目標の設定）、看護計画の立案）
7	看護過程の各段階 (事例A)⑥実施・評価	課題の発表（看護計画立案）、実施、評価 看護記録とは、看護記録の記載管理における留意点、
8	看護過程の各段階 (事例A)⑦指導技術	指導技術（看護における教育・指導とは 健康に生きることを支える教育・指導 健康状態の変化に伴う教育・指導 看護の中に含まれる教育・指導
9	看護過程の各段階 (事例B)①アセスメント	情報の整理・分類、解釈・分析、統合
10	看護過程の各段階 (事例B)②アセスメント	情報の整理・分類、解釈・分析、統合
11	看護過程の各段階 (事例B)③問題の明確化	課題の発表（情報の解釈・分析） 情報の統合と看護問題の明確化
12	看護過程の各段階 (事例B)④計画立案	情報の統合と看護問題の明確化、看護問題の優先順位 計画立案（目標の設定、系統的な計画立案）
13	看護過程の各段階 (事例B)⑤計画立案	計画立案（目標の設定、系統的な計画立案）
14	看護過程の各段階 (事例B)⑥実施・評価	課題の発表（計画立案）、実施、評価
15	看護過程の各段階 (事例B)⑦ 実施・評価	計画の実施（実際に計画立案した技術を実施し振り返るグループ演習）

科目名	基礎看護学実習Ⅱ		科目ナンバリング	K04C12027
担当者氏名	小林 廣美、森崎 由佳、西山 忠博、掛川 静代			
授業方法	実習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 ○ 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 ◎ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ○ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力			

《授業の概要》

基礎看護学実習Ⅰを踏まえ、看護の対象である患者の全体像を捉え、その人に応じた基本的な日常生活援助ができる。また、看護過程の展開を通じて対象者に応じた援助の関係を形成し、科学的かつ論理的な問題解決能力を養う。

《授業の到達目標》

1. 対象者とのかかわりを通じて、人間関係の成立・発展を図る。
2. 対象者に応じた看護過程（問題解決過程）を展開する。
3. 看護学生として倫理的に行動する。
4. 自己の看護実践を言語化し評価することができる。

《成績評価の方法》

実習目標達成度（80％） 学習態度（10％） レポート（10％）

《テキスト》

看護技術論Ⅲで使用したテキスト・参考文献および配布資料
既習科目で使用したテキスト・参考書

《参考図書》

- 看護のための病態ハンドブック：医学芸術社 山田 幸宏
- 疾患別看護過程の展開：学研 山口 瑞穂子
- 看護に役立つ検査値の読み方・考え方：総合医学社 西崎統
- 看護過程に沿った対症看護：学研 高木永子
- 他随時紹介

《授業時間外学習》

1. 事前に、看護過程の展開について復習し理解する。
2. 事前に、日常生活援助の実施が安全に行えるよう看護技術の復習を行い実技の練習する。
3. 既習の学習内容を使用し、問題解決に向けた看護の展開が行えるようにする

《備考》

患者様に直接接することができる機会です。予防接種を行うなど体調管理をしておいてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	-	内容の詳細は実習要項で提示する
2	-	-
3	-	-
4	-	-
5	-	-
6	-	-
7	-	-
8	-	-
9	-	-
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-

科目名	成人看護学概論		科目ナンバリング	K05C12031
担当者氏名	白神 佐知子、小野 晴子			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
				2年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 ○ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ◎ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 ○ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 			

《授業の概要》

成人期は心身の機能の成熟期で、また社会的役割が大きく、生産活動に従事する中で社会的責任や様々なストレスを抱えつつ生活を送っている。こうした成人期にある人の健康と、健康障害の特徴、健康障害を起こす誘因を理解し、健康上の問題の予防と回復に向けての看護援助を考えていく。また、成人を対象とした保健医療の動向と対策、保健活動を理解する。

《テキスト》

「系統看護学講座 成人看護学総論」小松弘子他、医学書院、
「国民衛生の動向2014/2015」厚生労働統計協会

《参考図書》

「成人看護学概論」大西和子・岡部聡子編、ヌーヴェルヒロカワ
「ナーシング・グラフィカ 成人看護学概論」メディカ出版

《授業の到達目標》

- (1) ライフサイクルにおける成人期の特徴が理解できる。
- (2) 労働者、生活者としての成人を理解することができる。
- (3) 成人期にある人の健康と特有な健康問題の特徴が理解できる。
- (4) 健康保持・増進・疾病の予防にむけた援助内容が理解できる。
- (5) 成人看護に有用な概念を理解する。

《授業時間外学習》

自己学習ノートを作成し、参考書等を用いて單元ごとに復習をすること。また次回の授業範囲の教科書を読んで予習をしておくこと。

《成績評価の方法》

(1) (2) (3) (4)については筆記試験とレポート(提出遅れは減点する)で評価する。(5)についてはレポートとグループワーク参加度で評価する。
評価割合は筆記試験60%、レポート20%、グループワーク20%で、100点満点で60点以上を合格とする。

《備考》

成人看護学の基礎となる授業であり、まず成人である自分を理解することが重要。成人期の健康問題に関心を持ち、自主的、積極的に学ぶこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス、成人期にある人の特徴と理解	成人であること、ライフサイクルにおける成長、発達からみた成人を理解する。また身体機能の特徴と看護が説明できる。
2	成人期にある人の生活と健康状況の特徴	労働者、生活者としての成人を理解し、現代の労働や生活状況、健康状況の特徴、健康問題が説明できる。
3	生活行動からみた健康問題	就業、労働形態の変化がもたらす職業、生活ストレス、余暇に関する健康問題を取り上げ、発生状況やその課題が説明できる。
4	生活行動からみた健康問題	生活習慣に関する健康問題を取り上げ、発生状況や課題が説明できる。グループワークとする。
5	生活行動からみた健康問題	発表と討議
6	医療、看護における看護倫理	医療、看護場面での倫理的問題を取り上げ、倫理的アプローチを考える
7	ヘルスプロモーションと看護	ヘルスプロモーションの概念や大人の健康行動を促進する看護アプローチを理解する。
8	保健、医療、福祉システム	成人期の人々の生活を支え、健康を守るための対策の概要を知る。
9	健康レベルに応じた看護	急性期、リハビリ期にある人の特徴と看護が説明できる。
10	健康レベルに応じた看護	慢性期、終末期にある人の特徴と看護が説明できる。
11	成人看護に有能な概念	成人看護に有用な理論、概念の理解と実践の関連が理解できる。
12	成人看護に有能な概念	理論についてのグループワーク
13	成人看護に有能な概念	理論についてのグループワーク
14	成人看護に有能な概念	理論について発表会
15	成人看護に有能な概念まとめ	理論について発表会

科目名	老年看護学概論		科目ナンバリング	K05B12036
担当者氏名	瀧本 茂子			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期 2年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 ○ 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 ◎ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 			

《授業の概要》

老年期にある患者について理解を深め、高齢社会へ適応し対応できる基礎的能力を培うことができる。老年期にある患者の加齢変化とQOLなどを考慮した看護展開ができるための基礎的知識を得て、老年看護の専門性を理解できるようにする。また、老年看護における倫理的責務について考えることができる。

《テキスト》

「老年看護学 概論と看護の実践」「老年看護技術」ヌーベルヒロカワ、「国民衛生の動向」厚生労働統計協会

《参考図書》

「系統看護学講座 老年看護学」「系統看護学講座 老年看護病態疾病論」医学書院、「厚生労働白書」厚生労働省

《授業の到達目標》

老年看護の概念、加齢現象、高齢者のQOL、老年看護の専門性について理解できる。老年看護における看護職者の倫理的責務について考えることができる。高齢社会における現状と課題が理解できる。高齢者に対する保健・医療・福祉について理解できる。

《授業時間外学習》

グループワークに積極的に参加すること。
加齢変化について、自己学習ノートを作成する。
高齢者が歩んだ人生をグループで調べて発表する。

《成績評価の方法》

グループワークでの参加態度や発表、課題提出：20%
小テスト：20%
筆記試験：60%

《備考》

高齢者疑似体験は高齢者のことを知る体験です。積極的に参加すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	老年看護学序説	老年看護の概念、高齢者のQOLと老年看護・倫理的課題 「加齢変化」「理論」についてグループ学習の課題
2	高齢者をとりまく社会 1)	人口の高齢化現象と課題
3	高齢者をとりまく社会 2)	高齢者保健、福祉政策
4	高齢者をとりまく社会 3)	長寿を生きる生活・家族形態と社会問題 ★小テスト
5	高齢者の理解1)	加齢変化(身体的・生理的側面から) 【グループ発表】
6	高齢者の理解2)	加齢変化(心理・スピリチュアル的・社会的・発達段階の側面から) 【グループ発表】
7	看護活動に活用できる理論1)	セルフケア理論、自己効力理論、エンパワーメント理論【グループ発表】 「高齢者が歩んだ人生」についてグループ学習の課題
8	看護活動に活用できる理論2)	コンプライアンス、アドヒアランス、危機理論【グループ発表】 高齢者疑似体験について
9	高齢者疑似体験1)	高齢者疑似体験 ①G(②Gは高齢者の歴史について年表を纏める)
10	高齢者疑似体験2)	高齢者疑似体験 ②G(①Gは高齢者の歴史について年表を纏める)
11	老年看護の対象とのかかわり1)	高齢者の看護過程の展開、機能的健康パターン(ゴードンの理論) ヘルスアセスメント ★加齢変化自己学習ノート提出 ★小テスト
12	老年看護の対象とのかかわり2)	健康段階に応じた看護、高齢者とのコミュニケーションの基本
13	高齢者の歴史	高齢者が歩んだ人生【グループ発表】
14	老年看護の実践1)	老年症候群・寝たきり、薬物療法とその看護、事故の予防と対応
15	老年看護の実践2)	視覚障害者の看護(桂先生)

科目名	母性看護学概論		科目ナンバリング	K06C12040
担当者氏名	天本 都、中村 朋子			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
				2年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 ◎ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ○ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ○ 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力 			

《授業の概要》

女性の一生を通じた健康の維持・増進、疾病の予防のために、ライフステージにおける社会的・身体的・心理学的特性を学ぶ。さらに母性看護の目的、役割と意義について考え、女性のライフステージにおいて、必要な看護を実践できるための基礎的知識を養うことを目的とする。

《テキスト》

- ・「系統看護学講座専門分野Ⅰ 母性看護学概論」医学書院
- ・「系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学概論」医学書院

《参考図書》

- ・「新体系看護学32 母性看護学概論・母性保健」新道幸恵他
- ・「国民衛生の動向」

《授業の到達目標》

1. 女性のライフステージおよび新生児の生理的变化について学び、対象の各期における必要な看護を説明することができる。
2. 女性がおかれている社会的状況、生活・家族に関する事象を多角的に考察することができる。

《授業時間外学習》

- ・受講前、必ずテキストを読んでください。
- ・国家試験の出題傾向を講義中に述べます。自己学習でも確認しテキストを開いて調べ、理解を深めましょう。

《成績評価の方法》

定期試験（90%）、レポート（10%）：提出遅れは評価しない。

《備考》

- ・授業中は携帯電話の使用を禁ずる。
- ・講義開始時間を厳守すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	母性看護の目的と役割	母性看護の概念について学び、母性看護で用いられる理論について説明することができる。
2	女性の健康とリプロダクティブヘルス/ライツ	女性を取り巻く社会環境を学び、リプロダクティブヘルス/ライツについて説明することができる。
3	人間の性と生殖/セクシャリティ	性の価値観、あり方の多様性を理解し、対象の性の健康リスクに対するアセスメントおよび問題解決のための具体的な支援を考えることができる。
4	性に関する健康課題	ヒトの発生、遺伝、生殖器の疾病、ライフサイクルにおける健康障害およびDVなどの課題を理解し、健康支援について考えることができる。
5	思春期における特性と健康課題	思春期の特徴と健康状態を学び、この時期に起こりやすい健康課題への支援を理解することができる。
6	成熟期における特性と健康課題	成熟期の特徴と健康状態を学び、この時期に起こりやすい健康課題への支援を理解することができる。
7	更年期・老年期における特性と健康課題	更年期・老年期の特徴と健康状態を学び、この時期に起こりやすい健康課題への支援を理解することができる。
8	妊娠期にある女性の健康と課題	妊娠初期・中期・後期の経過、起こりやすい異常について学び、妊婦の健康状態をアセスメントするために必要な情報の根拠が分かる。
9	分娩期にある女性の健康と課題	分娩第Ⅰ期～第Ⅳ期の経過、起こりやすい異常について学び、産婦の健康状態をアセスメントするために必要な情報の根拠が分かる。
10	産褥期にある女性の健康と課題	産褥期の進行性変化・退行性変化、起こりやすい異常について学び、産婦の健康状態をアセスメントするために必要な情報の根拠が分かる。
11	新生児の健康と課題	新生児の生理的变化、起こりやすい異常について学び、新生児の健康状態をアセスメントするために必要な情報の根拠と看護を説明することができる。
12	ハイリスク妊婦①・産婦	妊婦・産婦のハイリスクについて学ぶ。帝王切開術・吸引分娩が理解できる。
13	ハイリスク産婦②・新生児	産婦・新生児のハイリスクについて学ぶ。
14	母性看護における倫理的問題	母性看護職者の法的責任と倫理、生殖医療について学び、自己の倫理観を深めると共に対象の意思決定をサポートするための倫理的看護活動を考えることができる。
15	母性看護の動向・変遷	母子保健統計、母子保健行政の変遷と母子を取り巻く社会の現状と課題について学び、女性のライフスタイルに応じた社会的資源について説明できる。

科目名	小児看護学概論		科目ナンバリング	K06C12043
担当者氏名	小島 賢子			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期 2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 ○ 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 ○ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ◎ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力			

《授業の概要》

小児と小児を取り巻く社会を理解し、子どもの健康や成長発達を支える小児看護の特質を考える。子どもの権利を尊重する考え方と小児の成長・発達を学ぶ。また、小児看護で用いられる理論、小児看護と法律・施策、小児看護の歴史と変遷について考える。

《テキスト》

小児看護学1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
 小児看護学2 小児臨床看護各論 医学書院
 小児看護技術 南江堂

《参考図書》

子どものフィジカルアセスメント 金原出版
 子どもの病気の地図帳 講談社
 入院のための遊びとおもちゃ 中央法規

《授業の到達目標》

1. 小児看護の対象を理解し、小児看護の目標と役割について説明することができる。2. 子どもの権利を尊重する考え方を知り、自分の考えを述べることができる。3. 子どもの成長・発達について説明することができる。4. 小児看護の歴史と変遷について考えることができる。5. 小児と家族に関する法律や施策について知ることができる。6. 小児看護で用いられる理論について知り、子どもの理解につなげることができる。

《授業時間外学習》

講義内容や課題学習について、復習を行うこと。
 子どもの理解に活用すること。

《成績評価の方法》

定期試験70%レポート提出や課題の発表内容30%で評価する。

《備考》

課題やグループ学習を行うため、自主的な学習への取り組みが必要になる。自覚を持ち授業に臨むこと。自分なりの子どもイメージを持つこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス 子どもとは	子どもとは何かを幅広い視点で考える。また、世界の子どもの状況から家族・社会における子どもの位置づけについて考える。
2	子どもと家族	少子化によって変化する家族の機能と特徴について具体的に理解する。
3	小児の成長・発達	子どもの成長・発達の原則、影響因子と評価方法を理解する。
4	乳児期の成長・発達と看護1	各時期の成長・発達を理論をもとに理解し、時期に応じた看護を理解する。乳児期の形態的特徴、身体生理特徴、発達の評価を学ぶ。
5	乳児期の成長・発達と看護2	乳児期の反射と発達の変化、発達課題と看護について理解する。
6	幼児期の成長・発達と看護1	幼児期の形態的特徴、身体生理特徴、運動機能、認知機能、情緒・社会的機能を学ぶ。
7	幼児期の成長・発達と看護2	幼児期の基本的な生活習慣の獲得過程と発達段階、遊びを通して看護を理解する。
8	学童期の成長・発達と看護1	学童期の形態的特徴と身体生理の特徴、諸機能を学ぶ。
9	学童期の成長・発達と看護2	学童期の社会的機能、発達課題や社会的問題を通して看護を理解する。
10	思春期の成長・発達と看護	思春期の身体生理の特徴、発達課題や社会的問題を通して看護を理解する。
11	子どもの生活から学ぶ1	子どもの生活を知り、展開学習をすることで、子どもの理解を深める。
12	子どもの生活から学ぶ2	子どもの生活を知り、展開学習を発表することで、子どもの理解をより深める。
13	小児と家族を取り巻く社会	小児と家族への社会制度と施策について、実際の家族の状況を基に学ぶ。
14	子どもの権利と小児看護における倫理	子どもの権利について具体的事例を用いて考える。また、小児看護と倫理について理解する。
15	小児看護の変遷と今後の課題	現在の子どもと家族が置かれている状況を踏まえながら小児看護の変遷とともに今後の課題を考える。

科目名	精神看護学概論			科目ナンバリング	K07C12046
担当者氏名	加藤 知可子、南川 博康				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 ○ 2-2 看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力 ◎ 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力				

《授業の概要》

精神看護学の対象は、精神を病む人のみならず、生を受けて間もない新生児から死の訪れを間近にした人まで、成長発達過程のあらゆる段階の人を含んでいる。社会生活における精神の健康と危機的状況およびそれらに影響を与える様々な要因を幅広い視野をもって理解し、健康な精神発達への援助を思考するために必要な知識や概念を理解することを目的とする。

《テキスト》

「精神看護学Ⅰ 精神保健学」第5版 吉松和哉他 編（ヌーヴェルヒロカワ）
 「精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学」第5版 川野雅資 編（ヌーヴェルヒロカワ）

《参考図書》

「精神看護学ノート」第2版 武井麻子 著（医学書院）
 「精神科医療看護の歩」 宮内充著（医学書院）

《授業の到達目標》

- 心の健康を保持・増進するために必要な基礎知識を説明できる。
- 精神看護学や精神医療に関連する基本的な概念を説明できる。
- 精神看護学の役割について説明できる。○精神障がい者の人権に関連する法律について説明できる。○心の障がいを持つ対象者への看護に関する基本的概念について説明できる。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：次回の講義内容について、テキストを読んでおく。
- (2) 復習の方法：講義内容を再確認し、不明な点は資料や図書を用いて調べたり、質問する。

《成績評価の方法》

特別な理由がない場合の大幅な遅刻は、出席として扱わない。定期試験70%、平常評価30%（小テスト、レポート、出席状況、受講態度）により総合的に判断する。

《備考》

受講者の興味関心、受講者数、講義の進行状況などにより授業計画や成績評価法には変更を加えることはある。授業中の進行や周囲の迷惑となる行為は、退席を求める

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	精神保健・精神看護学の定義	精神保健・精神看護学の定義について基本的な概念を説明できる。
2	精神保健医療の歴史	精神保健医療の歴史について、基本的な知見を説明できる。
3	臨床における心の健康と不健康	臨床における心の健康と不健康について、基本的な概念を説明できる。
4	患者・家族のこころ	精神障がいを持つ患者・家族の背景について説明できる。
5	精神神経医学各論1 統合失調症	統合失調症に関する基本的な概念を説明できる。
6	精神神経医学各論2 感情障害	感情障害に関する基本的な概念を説明できる。
7	ライフサイクルと精神保健 危機的状況	ライフサイクルと精神保健について、危機的状況の視点から説明できる。
8	看護師のメンタルヘルス	看護師のメンタルヘルスに関する基本的な概念を説明できる。
9	精神障がい者に関する法と 関連事件	精神障がいに関する法の変遷について説明できる。
10	精神神経医学各論3 神経症性障害	神経症性障害に関する基本的な概念を説明できる。
11	精神神経医学各論4 癲癇 器質性障害	癲癇や器質性障害に関する基本的な概念を説明できる。
12	精神神経医学各論5 物質障害	物質障害、パーソナリティ障害等に関する基本的な概念を説明できる。
13	精神神経医学各論6 リエゾン精神医学	リエゾン精神医学に関する基本的な概念を説明できる。
14	ストレスと危機	ストレスと危機に関する基本的な概念を説明できる。
15	総括・小テスト	これまでの学習内容を再確認し、精神看護学に関する基本的な概念を説明できる。

科目名	在宅看護概論		科目ナンバリング	K07B12049
担当者氏名	新田 幸子			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
				2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 ◎ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ○ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ○ 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力			

《授業の概要》

2025年に向けて、地域包括ケアシステムがどのように構築されていくのか概要を理解する。その中で、在宅で療養する人々や病気や障害を持ちながら社会で暮らす人とその家族の生活をケアする看護の役割と機能を理解する。質の高い療養生活を安定して継続できるように支援するために必要な看護の基礎的知識・技術・態度を学習する。

《テキスト》

「在宅看護論」河原加代子、医学書院、2013

《参考図書》

在宅看護論「地域療養を支えるケア」
 ナーシング・グラフィカ メディカ出版 2015
 「国民衛生の動向」

《授業の到達目標》

- ・在宅看護の現状から在宅看護がめざすものやその目的を知る
- ・在宅看護の対象(療養者とその家族)が理解できる
- ・在宅看護の提供される場とその広がりについて説明できる
- ・QOLを考えた在宅看護について考察できる
- ・在宅看護を実践する看護師の役割と機能が説明できる
- ・介護保険制度が理解でき説明できる
- ・地域包括ケアシステムについて説明できる

《授業時間外学習》

在宅看護は、広く地域に暮らす生活者を対象に、あらゆる健康レベルへの看護を提供します。あなたが居住している地域の特徴(高齢化率等)を調べておくこと。在宅看護は、家族が身近でかつ重要な部分を占めます。あなたにとっての家族とはなにかを考えておくこと。

《成績評価の方法》

定期試験による評価(100%)

《備考》

身近にいる高齢者はどのように生活をされているのだろうか。また、どのような社会資源があるのだろうかなど興味を持って下さい。テレビや新聞からもたくさんの情報が得られます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	在宅看護とはなにか 導入	病院から在宅へ療養の場を移行する方向へ国の動き・日本の在宅医療の動向と地域ケアシステムの構築
2	在宅看護の対象者	年齢疾患・障害・在宅療養状態別・訪問看護制度の経緯からみた対象者の特徴
3	在宅看護における看護師の倫理 対象の権利保障	看護師の職業倫理を基に、事例を取り上げ「家族介護者が発した言葉」、「訪問看護師の本音の言葉」から考える。在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源
4	在宅療養者とその家族	システム理論を用いた家族のとらえ方
5	在宅療養者とその家族	事例を用いて家族をシステムを理解する
6	在宅看護の制度	社会保障制度が在宅でどのように使われているか。憲法第25条の条文を柱に具体的に説明。国民皆保険、社会保険、医療保険制度と介護保険制度
7	介護保険制度とは	介護保険制度での訪問看護制度 介護サービスの利用
8	第1章～第3章のまとめ	講義の重要ポイントを振り返る。併せて過去の国家試験問題を解答し出題内容を理解する
9	在宅看護過程の展開方法	在宅看護過程の特徴
10	在宅看護過程の展開方法	医療機関からの退院調整と訪問看護との看看連携について在宅ケアにおけるケアマネジメント、他職種との連携方法
11	在宅看護過程の展開方法	要介護状態にある高齢者の事例から、365日24時間安心して生活していくためのマネジメントの過程を理解する
12	在宅看護における安全性の確保	感染防止 医療事故防止
13	在宅看護における安全性の確保	災害時の在宅看護(災害時の対応 訪問看護師の防災教育・訓練(被災時の対応・家族への安全対策指導))
14	総合リハビリセンター・多機能型事業所見学	障害者支援施設自立生活訓練センター、福祉用具展示ホール、障がい者就労支援施設多機能型の概要を見学し、社会復帰に必要な一貫したサービスを理解する
15	総合リハビリセンター・多機能型事業所見学	障害者支援施設自立生活訓練センター、福祉用具展示ホール、障がい者就労支援施設多機能型の概要を見学し、社会復帰に必要な一貫したサービスを理解する

科目名	公衆衛生看護学概論		科目ナンバリング	K07B12052
担当者氏名	久井 志保			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 ◎ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ○ 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力			

《授業の概要》

公衆衛生看護の基本について理解し、保健師としての基本的な視座を身につける。

《テキスト》

標準保健師講座1「公衆衛生看護学概論」第4版

《参考図書》

保健師業務要覧 日本看護協会出版会
公衆衛生看護学. j p改訂第2版(インターメディカ)

《授業の到達目標》

公衆衛生看護学の理念について理解できる。
地域看護が行われる場と活動内容の概要が理解できる。

《授業時間外学習》

課題レポートにより学習を深める。

《成績評価の方法》

筆記試験（60%）、小テスト（20%）、課題（20%）で総合評価する。

《備考》

保健師国家試験受験資格の必修科目です。保健師とは何かについて一緒に学びましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	公衆衛生看護とは何か	公衆衛生看護の理念・目的・機能について理解する。また公衆衛生看護と保健師活動の関連について理解する。
2	公衆衛生・公衆衛生看護の歴史	時代変遷と保健師活動の歴史について理解する。
3	保健師活動の基盤となるもの	保健師活動の基盤となるものには、どのようなものがあるのかについて理解する。
4	公衆衛生におけるヘルスプロモーション	公衆衛生看護の活動を支えるヘルスプロモーションの概念について理解する。
5	公衆衛生看護活動の場と活動	行政、産業、学校、在宅にの場における公衆衛生看護活動の特性について理解する。
6	ヘルスケアシステム	地域保健システムについて理解する。また生活・生活者の視点とは何かについて理解する。
7	地域の人々と健康（個人）	個人の健康について、発達段階・性・生活・健康信念・保健行動の視点から理解する。
8	地域の人々と健康（家族）	家族の構造、家族看護理論などについて理解する。
9	地域の人々と健康（集団・組織）	集団・組織の特性について理解し、ケア技術としてのグループダイナミクスについて理解する。
10	地域の人々と健康（社会）	地域社会、文化と健康との関係について理解する。
11	国際保健活動、災害保健活動	国際保健活動に関するシステム、活動の特徴について理解する。災害時の保健活動について理解する。
12	公衆衛生看護学管理、地域診断・地区診断	公衆衛生看護学管理、地域診断・地区診断、地域保健計画の基本的な概念について理解する。
13	保健指導とは	保健指導の種類とその活用について理解する。
14	公衆衛生看護活動の展開	プリシード・プロシードモデル、ヘルスピリブモデル、ステージ理論などの理論・モデルについて理解する。
15	公衆衛生看護研究	公衆衛生看護研究の基盤について理解する。

科目名	学校保健概論		科目ナンバリング	K07C12054
担当者氏名	柴田 順子			
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 ○ 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 ○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ◎ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力			

《授業の概要》

公衆衛生看護学領域の一分野である学校保健分野は、教育を受ける権利を保障するため心身ともに健康な国民の育成を図ることにより人格の形成を目指している。学校保健の基本と関係法規について学習する。

《テキスト》

テキストは使用しない。
必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

学校保健マニュアル 改訂8版(南山堂)江藤隆・岡田加奈子編
国民衛生の動向 厚生労働統計協会 2013・2014年
公衆衛生看護学 第3版(インターメディカル)2013年

《授業の到達目標》

- 学校保健の概念が理解できる。
- 学校保健の領域構造と内容が理解できる。
- 学校保健に関連する法規について理解できる。

《授業時間外学習》

配布したプリントの内容について理解しておく。
講義終了後、課題レポートを提出する。

《成績評価の方法》

- (1) 受講態度、レポート等の提出30%
- (2) 定期試験70% (テキスト、資料等は持ち込み不可)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	学校保健の概念	学校保健の理念と目的、学校保健制度とシステムについて理解する。
2	学校保健の歴史と現状	学校保健の歴史の変遷について理解する。
3	保健室の機能と養護教諭の職務	保健室の機能と保健管理の中心的役割を担う養護教諭の職務について理解する。
4	学校保健のしくみ①	学校保健の領域構造における保健管理について理解する。
5	海外における学校保健	JICA経験者から学校保健について学び、国際的視野を広げる。
6	学校保健のしくみ②	学校保健の領域構造における保健教育について理解する。
7	学校保健のしくみ③	健康課題、組織活動、学校安全、学校給食、学校環境衛生等について理解する。
8	学校保健と地域連携について	学校保健では地域との連携は重要であり、社会資源の積極的活用が必要であることを理解する。
9	-	-
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-

科目名	養護概説	科目ナンバリング	K10E22071
担当者氏名	柴田 順子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 ○ 2-2 看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力 ○ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ◎ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 		

《授業の概要》

養護教諭に関する関係法令等の基本事項を理解し、養護教諭の専門性と役割及び職務について学習する。学校保健活動には学校内外との連携が重要であり、学校保健関係者の役割と職務についても理解する。既習の看護学を体系的に概観し児童生徒等の健康課題を理解し対応について学ぶ。

《テキスト》

『新養護概説』第7版 采女智津江編、少年写真新聞社、2013年
『教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応』文部科学省 少年写真新聞社 2009年

《参考図書》

『四訂養護概説』三木とみ子編、ぎょうせい、2010年
『学校保健マニュアル』江藤隆・岡田加奈子編、南山堂2010年
『児童生徒の健康診断マニュアル改定版』文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課監修（財）日本学校保健会

《授業の到達目標》

- 養護教諭に関する関係法令等の基本事項が理解できる。
- 養護教諭の専門性と役割及び職務について説明ができる。
- 児童生徒等の健康課題に対する対応について理解できる。

《授業時間外学習》

養護教諭の職務を理解するために既習科目を復習しておく。

《成績評価の方法》

- (1) 受講態度、小テスト、課題レポート等の提出50%
- (2) 定期試験50%（テキスト、資料等は持ち込み不可）

《備考》

教育関係に関連する課題について関心を持ち、主体的に授業に臨んで欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育関係法規と教育行政	オリエンテーション 養護教諭に関する教育関係法令と教育行政について理解する。
2	学校教育と学校保健	教育の目的、教育課程、学習指導要領、健康教育、精神保健について理解する。
3	養護教諭制度の変遷	養護教諭制度の変遷について理解する。
4	養護教諭の職務	養護教諭の専門領域における職務内容について理解する。
5	養護教諭の職務 保健管理①	法的根拠、学校における救急処置活動等について理解する。
6	養護教諭の職務 保健管理②	法的根拠、定期健康診断、就学時健康診断、臨時の健康診断、職員の健康診断について理解する。
7	養護教諭の職務 保健管理③	法的根拠、健康観察、疾病管理について理解する。
8	養護教諭の職務 保健管理④	学校における感染症の予防、学校環境衛生等について理解する。
9	養護教諭の職務 保健教育①	教育課程における保健教育の位置付けと保健学習について理解する。
10	養護教諭の職務 保健教育②	特別活動における保健指導について理解する。
11	養護教諭の職務 保健教育③	学校保健安全法、個別の保健指導について理解する。
12	養護教諭の職務 保健管理⑤	学校における健康相談及び学校医・学校歯科医・学校薬剤師の役割と職務内容について理解する。
13	保健室の機能と保健室経営	法的根拠、保健室の機能と役割、保健室経営について理解する。
14	安全管理と危機管理	学校における危機管理、子どもの心のケアについて理解する。
15	現代的な健康課題とその対応	中央教育審議会答申を踏まえ、健康課題とその対応について理解する。

《教職に関する科目》

科目名	教育心理学	科目ナンバリング	KTAL42003
担当者氏名	大平 曜子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

教育科学の一分野として、人間形成に関わる独自の理論と方法を提示する実践的な学問である。受講者は、心理学的領域の理解をめざすとともに、人間科学的な視点を養う。

授業では、「発達」と「学習」を中心に、パーソナリティと適応、測定と評価、そして学級集団や教師の心理などの学びを通して、教育実践に役立つ教育心理学の知識の習得と専門領域の教育に応用する方法を学習する。

《授業の到達目標》

- 教育に関する心理学的事実や法則を説明できる。
- 自らの専門領域に教育心理学の基礎知識を役立てることができるか、考えをまとめる。
- 教育効果の検証（評価）ができる。
- 教育心理学の知識を基に、自らの学習態度や教職志望者としての態度形成にむけて考えをまとめることができる。

《成績評価の方法》

授業内課題等の提出物（30%）、定期試験（70%）

《テキスト》

テキストは使用しない。
必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

『絶対役立つ教育心理学』藤田哲也編著 ミネルヴァ書房
その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

プリントに基づいて授業内容を整理し、専門用語等の整理をする。
授業の中で提示された課題について、参考文献等に目を通し、期限内に作成して提出する。

《備考》

目的意識を持ち、主体的に授業に臨むこと。プリントやノートに書き込みをし、自分のノートをつくること。「本時の振り返り」の記入提出で、出席を確認する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション教育心理学とは	授業の進め方を理解し、自らの学習方法を確認する。教職における教育心理学の位置づけを理解し、学習の意味を説明することができる。
2	教育心理学の課題	教育心理学の定義を理解する。現代的教育課題や教室における子どもの様子や学習課題を理解し、教育心理学の意義や役割、教育方法とのかかわりについて理解する。
3	発達の基礎理論（1）	発達原理、発達の学説について理解する。
4	発達の基礎理論（2）	発達の様相、成熟と発達
5	発達の基礎理論（3）	発達課題
6	学習の基礎理論（1）	学習の成立、学習の過程、知能と学力
7	学習の基礎理論（2）	学習の理論、学習の概念
8	学習の基礎理論（3）	記憶と学習
9	学習の基礎理論（4）	効果的な学習の理解、動機づけとやる気、意欲と学習活動
10	教育評価（1）	教育評価の概念、意義と役割、評価方法の理解、課題の提示
11	教育評価（2）	測定と評価の実際
12	教授過程	学習指導法、授業の最適化
13	パーソナリティ理論	パーソナリティと性格、パーソナリティの形成、養育態度とパーソナリティ
14	不適応行動	問題行動の現状、欲求と欲求不満、適応と適応障害
15	教育における心理学の働き、まとめ	教育相談、集団の機能と構造、人間関係 これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《教職に関する科目》

科目名	教育課程論（道徳・特別活動を含む）		科目ナンバリング	KTAL42005	
担当者氏名	新井野 久男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育課程全般についての知識や学習指導要領に沿ってどのように教育内容を展開していくかを学ぶ。学習指導要領がどのように歴史の変遷を経て改訂されたかも学ぶ。各校種別の教育課程の内容や編成の手順、実際にどのように実施されているかについて学ぶ。また、特別活動、道徳教育の目標や意義について講義する。実際に学校現場での教育課程の具体的実施事例について提示する。

《授業の到達目標》

教育課程全般についての知識と幼小中高における教育課程の内容を理解し、教員として教育課程を編成、評価、改善していくための基礎を培うことを目標とする。また、教育課程を実施していく上での具体的事項を実際の事例をもとに研究するなかで、学校現場の実情を理解する。

《成績評価の方法》

筆記試験（40%）、レポート（40%）、その他（提出物、出席状況、授業への取り組み姿勢等）（20%）を基本に総合的に評価する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	養育課程について(1)	教育課程の目的、方針、評価等や教育課程の意義と今日的課題について学ぶ。
2	教育課程について(2)	教育課程に関する法律、学校教育の目的、目標について理解する。
3	教育課程の歴史の変遷	学習指導要領改訂の歴史並びに改訂の経緯や基本方針について理解する。
4	我が国の教育施策と教育課程	教育施策の具体例の提示から教育行政について知る。
5	教育課程編成の手順	教育課程編成の具体的手順について学び、指導計画の事例の研究をする。
6	小学校教育課程の編成と実施	小学校（幼稚園含む）教育課程の目標と目的、特徴を理解し、編成の手順と具体例を知る。
7	中学校教育課程の編成と実施	中学校（高等学校含む）教育課程の目標と目的、特徴を理解し、編成の手順と具体例を知る。
8	総合的な時間の取り扱い	趣旨、ねらい、計画、具体的な学習活動について学び、学習活動展開上の配慮事項を理解する。
9	道徳教育について	道徳教育の意義、目標と内容について学ぶ。
10	特別活動について	特別活動の意義、目標と内容について学ぶ。
11	教育課程実施上の配慮事項	小学校配慮事項（12項目）、中学校配慮事項（14項目）について理解する。
12	教育課程実施上の具体例(1)	生徒指導の充実（いじめ問題の対応を事例研究する）
13	教育課程実施上の具体例(2)	生徒指導の充実（不登校の現状と課題を理解し、不登校生への対応について事例研究する）
14	教育課程実施上の具体例(3)	気になる児童生徒への対応について学校現場の実情を学ぶ。
15	新学習指導要領のポイント	学習指導要領の改訂の動向やポイントなどについて理解する。

《テキスト》

- ・小学校学習指導要領解説 総則編 H20.8 文科省 東洋館出版
- ・中学校学習指導要領解説 総則編 H20.9 文科省 ぎょうせい

《参考図書》

自作した教材や教育課程に関する資料を提供する。「授業ノート」をこちらで用意する。

《授業時間外学習》

毎時間の最後に「授業のまとめ」として、簡単なレポートを課す。これを提出することで出席を確認する。また、この「授業のまとめ」が試験やレポートの資料になるのできちんとファイリングをしておくこと。

《備考》

受講する要件として、教員免許を必ず取得し、教師を目指す意志と意欲が、授業のなかで感じられる学生であること。受講態度については大学生として常識を持って臨むものとする。

《教職に関する科目》

科目名	教育方法・技術論	科目ナンバリング	KTAL42006
担当者氏名	河野 稔		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

現代的な教育の方法や技術について扱う。何かを教える方法をどのように計画し、そのための材料をどのように準備し、成功したかどうかをどのように確かめるかを体験的に学習する。授業設計の系統的アプローチに基づいて教材を自作するための方法を解説し、毎回の授業で段階的に教材を作成し、受講生が相互に教材をチェックすることで、「独学を支援する教材」を設計・作成・評価・改善ができることを目指す。

《授業の到達目標》

- 教材作成に関わる専門用語と手法について説明できるようになる。
- 授業設計の系統的アプローチを、自分の専門となる領域での個別学習教材の自作に活用できる。
- 独学を支援する教材の自作体験を通して、他の形態の指導にも系統的アプローチを応用できる。

《成績評価の方法》

- 自作した教材、および、教材企画書・作成報告書（50%）
- 小テストの結果（30%：3回実施予定）
- ワークシート作成等の作業、討論への参加態度（20%）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業全体の説明／教材をイメージする／キャロルの学校学習モデル
2	教材作りをイメージする	系統的な教材設計・開発の手順／キャランドラのたとえ話
3	教材のアイデアを交換する	独学を支援する教材のアイディア交換／教材企画書の書き方
4	教材の責任範囲を明らかにする	小テスト①（第3、4章）／学習目標と3つのテスト
5	テストを作成する	学習課題の種類／教材企画書の作成
6	教材企画書を作成する	教材企画書の作成／教材企画書の相互チェック
7	教材の構造を見きわめる	小テスト②（第5～7章）／教材企画書の提出／課題分析
8	独学を支援する作戦をたてる	ガニエの9教授事象と指導方略表
9	教材パッケージを作成する(1)	形成的評価の7つ道具
10	教材パッケージを作成する(2)	形成的評価の7つ道具の相互チェック
11	教材パッケージを作成する(3)	7つ道具チェックリストの提出
12	形成的評価を実施する(1)	小テスト③（第8、9章）／形成的評価の方法
13	形成的評価を実施する(2)	形成的評価の実施／教材作成報告書の書き方
14	教材を改善する	教材の改善とその手順／教材作成報告書の作成
15	情報活用能力と独学を支援する教材／まとめ	情報活用能力と独学を支援する教材／教材作成報告書の提出／学習の振り返り

《テキスト》

鈴木克明(2002)『教材設計マニュアル — 独学を支援するために』北大路書房。

《参考図書》

- 稲垣忠・鈴木克明編著(2011)『授業設計マニュアル — 教師のためのインストラクショナルデザイン』北大路書房。
- 向後千春(2014)『教師のための「教える技術」』明治図書。
- 中学校・高等学校の学習指導要領等及び解説書
- その他の文献や資料は、適宜、授業中に紹介する。

《授業時間外学習》

予習として、教科書の次の回の授業範囲を読んで、教材の企画・作成・評価の手順と方法を把握しておくこと。復習としては、授業で学習した成果をもとに、教材および教材企画書・報告書の作成の作業を進めておく。また、小テストでは教材作成に関する専門知識や手法について出題するので、教科書を自学自習しておくこと。

《備考》

パソコンで教材および教材企画書・報告書を作成するので、ワープロなど各種ソフトや情報システムを日ごろから利用し、活用方法を習得しておくこと。

《教職に関する科目》

科目名	生徒指導論（進路指導を含む。）		科目ナンバリング	KTAL42007
担当者氏名	新井野 久男			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
	履修カルテ参照			
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力				

《授業の概要》

生徒指導は学習指導要領に以下のように定められている。一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めるよう指導・援助するものである。生徒指導の意義と課題を確認した上で、学校における指導体制や問題行動の指導、生徒指導に関係する法的制度、家庭、地域、関係機関との連携など生徒指導全般について学ぶ。さらに生徒指導上の諸問題について具体的事例をもとに研究していく。

《授業の到達目標》

小学校から高等学校までの生徒指導の理論や考え方、実際の指導方法等について、学校現場で教職員が共通理解を図り、組織的な取り組みが実践できるための内容について知る。将来教員を目指す者として、生徒指導上、求められる資質や能力は何かを自分のものとする必要がある。

《成績評価の方法》

筆記試験（40%）、レポート（40%）、その他（提出物、出席状況、授業への取り組み姿勢等）（20%）を基本に総合的に評価する。

《テキスト》

「生徒指導提要」平成22年3月（文部科学省）。

《参考図書》

「生徒指導提要」平成22年3月（文部科学省）。毎回、自作の「講義用テキスト」を提供しそれをもとに講義を進めていく。また、生徒指導に関する様々な情報資料をその都度提供する。

《授業時間外学習》

毎時間の最後に「授業のまとめ」として、簡単なレポートを課す。これを提出することで出席の確認とする。「授業のまとめ」は試験やレポートの資料となるのできちんとファイリングしておくこと。

《備考》

受講する要件として、教員免許を必ず取得し、教師を目指す強い意志と意欲が授業の中で感じられる学生であること。受講態度については大学生としての常識を持って臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生徒指導の意義と課題	学校生活がすべての児童生徒にとって有意義で充実したものなることを目指し、学校の教育目標を達成するための生徒指導の意義と課題について学ぶ。
2	教育課程における生徒指導の位置づけ	生徒指導は、教育課程のすべての領域において機能することが求められる。教育課程における生徒指導の位置づけについて詳しく学ぶ。
3	学校における生徒指導体制と組織	個々の児童生徒に対し、組織的な生徒指導を展開していくため、校内の生徒指導体制をどのように構築していくかなどを考察する。
4	生徒指導の方法と進め方	生徒指導を実際に進めていくためには、生徒指導の意義や課題、組織などの考え方を踏まえて学校などの実態に応じて、どのように進めるか学ぶ。
5	生徒指導と進路指導	生徒自らの生き方を考え、将来に対する目的意識を持ち、自らの意志と責任で進路を選択する能力を身につけさせるための指導・援助について学ぶ。
6	道徳教育における生徒指導	児童生徒の道徳性の育成を目的とする道徳教育と、生徒指導との関係について考えていく。
7	生徒指導に関する法規について	校則や懲戒、体罰、出席停止や非行少年の処遇など、生徒指導との関連について、法的にどのような制度になっているかについて学ぶ。
8	生徒指導と家庭・地域・関係機関との連携	生徒指導は、学校だけで実践するのではなく、常に家庭・地域との連携を欠かせない。学校としてどのように学校・家庭・地域と関わっていくか考える。
9	問題行動の指導について	様々な問題行動に対し、一人一人の児童生徒応じた効果的な生徒指導とは何かについて考察する。
10	生徒指導上の諸問題（1）	「いじめ」についての実態や構造などを研究し、いじめ問題の対応などについて考察する。
11	生徒指導上の諸問題（2）	「不登校」の実態を学び、不登校生への対応など、関わりや対策などについて考察する。
12	生徒指導上の諸問題（3）	「規範意識」の醸成のために必要とされる指導などについて考察する。
13	生徒指導上の諸問題（4）	「保護者対応」学校と家庭が連携して児童生徒が健全に育成していくための方策などを考える。また、理不尽な要求など指導困難な保護者等への対応についても考える。
14	事例研究（1）	学校現場で起こった生徒指導上の具体的事例をもとに、実際にどのように指導し対応したかを学ぶ。
15	事例研究（2）	具体事例をもとに、生徒指導上の問題が起こったとき、どう対応するかなどを、小グループで事例研究をする。

平成 25（2013）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

看護学科 平成25年度（2013年度）入学者対象

（ ）は兼担、[]は兼任講師

業 の 区 分	授 業 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		看 護 師	保 健 師	養 護 教 諭 一 種	学 年 配 当 (数字は週当り授業時間)								平 成 27 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ				
			必 修	選 択				1年		2年		3年		4年							
								I	II	I	II	I	II	I	II						
専 門 基 礎 科 目	I群 (健康支援と 社会保障制度)	社会福祉論	講義	2				2													
		人間関係論 (カウンセリングを含む)	講義	2				2													
		家族関係論	講義	2				2													
		精神保健	講義	2				2													
		環境保健学	講義	1						1							長尾 憲樹	114			
		保健医療福祉行政論	講義	2		◇	□				2										
		公衆衛生学 (疫学含)	講義	2		◇	□	○			2										
		保健統計学	講義	2		◇	□	○			2										
		保健統計学	講義	2		◇	□	○			2										
	II群 (人体の 構造と機能)	基礎生物学	講義	2				2													
		形態機能論 I	講義	2		◇	□	○	2												
		形態機能論 II	講義	2		◇	□	○	2												
		生化学	講義	2					2												
		栄養学 (食品学を含む)	講義	2		◇	□	○	2												
		薬理学	講義	2		◇	□	○		2											
		免疫・微生物学	講義	2		◇	□	○			2										
	III群 (疾病の 回復の促進)	臨床病理病態学 I (内科系)	講義	2		◇	□				2										
		臨床病理病態学 II (内科系)	講義	2		◇	□				2										
		臨床病理病態学 III (外科系)	講義	2		◇	□				2										
		臨床病理病態学 IV (周産期・小児科系)	講義	2		◇	□				2										
	専 門 教 育 科 目	IV群 (基礎看護学)	看護学概論	講義	2		◇	□	○	2											
			看護理論	講義	1		◇	□	○	1											
			ヘルスアセスメント	演習	1		◇	□	○	1											
			看護技術論 I (生活技術援助)	演習	2		◇	□	○	4											
			看護技術論 II (診療技術援助)	演習	2		◇	□	○		4										
			看護技術論 III (看護過程)	演習	1		◇	□				2									
			基礎看護学実習 I	実習	1		◇	□	○	3											
			基礎看護学実習 II	実習	2		◇	□	○		6										
			看護教育学	講義	1		◇	□								1					
			看護倫理	講義	1		◇	□									1				
			看護管理学	講義	1		◇	□					1					小林 廣美	115		
			専 門 実 践 科 目	V群 (成人・老年看護学)	成人看護学概論	講義	2		◇	□	○		2								
					成人看護援助論 I (生命危機状態にある人)	演習	2		◇	□	○			4					白神・弘中・廣田・塩・大塚	116	
成人看護援助論 II (常態の維持・増進が困難な人)	演習	2				◇	□	○			4					塩・大塚・廣田	117				
成人看護学実習 I	実習	3				◇	□					9				白神・大塚・塩・弘中・廣田	118				
成人看護学実習 II	実習	3				◇	□					9				白神・大塚・塩・弘中・廣田	119				
老年看護学概論	講義	2				◇	□			2											
老年看護援助論	演習	2				◇	□					4				高見・西原	120				
老年看護学実習 I	実習	2				◇	□					6				瀧本・高見・西原	121				
老年看護学実習 II	実習	2				◇	□					6				瀧本・高見・西原	122				
VI群 (母性・小児看護学)	母性看護学概論	講義			2		◇	□	○		2										
	母性看護援助論	演習	2		◇	□	○			4					天本・中村	123					
	母性看護学実習	実習	2		◇	□					6				天本・中村	124					
	小児看護学概論	講義	2		◇	□	○		2												
	小児看護援助論	演習	2		◇	□	○			4					小島・渋谷・藤井	125					
小児看護学実習	実習	2		◇	□	○				6				小島・渋谷・藤井	126						

カリキュラム年次配当表

看護学科 平成25年度（2013年度）入学者対象
（ ）は兼担、[]は兼任講師

授業 の 区 分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		看護師	保健師	養護 教諭 一種	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成27年度の 担 当 者	ページ													
								1年		2年		3年		4年																
								I	II	I	II	I	II	I	II															
専 門 実 践 科 目	VII群 (精神・在宅・地域看護学)	精神看護学概論	講義	2		◇	□	○				2																		
		精神看護援助論	講義	2		◇	□	○						2							加藤 知可子	127								
		精神看護学実習	実習	2		◇	□	○							6							加藤 知可子	128							
		在宅看護概論	講義	2		◇	□						2																	
		在宅看護援助論	講義	2		◇	□							2									星・東	129						
		在宅看護実習	実習	2		◇	□									6														
		公衆衛生看護学概論	講義	2		◇	□						2																	
		健康教育論	講義	1		◇	□							1										久井 志保	130					
		学校保健概論	講義	1		◇	□	○					1																	
		国際看護学	講義	1		◇	□							1											弘中 陽子	131				
		災害看護学 (災害保健を含む)	講義	1		◇	□																							
		専 門 教 育 科 目	VIII群 (統合と実践の看護)	基礎ゼミ	演習	2		◇	□					2																
看護研究Ⅰ (基礎編)	講義			2		◇	□							2											*1	132				
看護研究Ⅱ (応用編)	演習			2		◇	□																							
リスクマネジメント論	講義			1		◇	□							1													塩 霧都恵	133		
看護の統合と実践実習	実習			2		◇	□									6											*2	134		
関 連 科 目	IX群 (保健師関連)	疫学	講義	2			□								2												伊藤 純	135		
		公衆衛生看護学活動展開論	演習	2			□								4													久井 志保	136	
		健康相談活動の理論と実践	講義	2			□	○								2												(大平 曜子)	137	
		産業保健論	講義	1			□									1												久井 志保	138	
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	実習	1			□																					久井 志保	139	
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	実習	4			□																							
		公衆衛生看護学特論	講義	1																										
		学校保健活動論	講義	2				○								2													柴田 順子	140
教 育 科 目 関 連	X群 (養護)	学校保健演習	演習	2				○																				柴田 順子	141	
		養護概説	講義	2				○							2															

◇は看護師国家試験受験資格必修科目、□は保健師国家試験受験資格必修科目、○は養護教諭免許必修科目

*1 看護学科全教員

*2 新田、加藤知、小林廣、瀧本、白神、小島、久井、森崎、高見、塩、弘中、星、天本、中村、大塚、渋谷、東、西山、廣田、掛川、藤井、西原

授業 の 区 分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		看護師	保健師	養護 教諭 一種	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成27年度の 担 当 者	ページ												
								1年		2年		3年		4年															
								I	II	I	II	I	II	I	II														
教 職 に 関 す る 科 目	教職概論	講義	2				○	2																					
	教育原理	講義	2				○	2																					
	教育心理学	講義	2				○				2																		
	教育制度論	講義	2				○		2																				
	教育課程論 (道徳、特別活動を含む)	講義	2				○				2																		
	教育方法・技術論	講義	2				○				2																		
	生徒指導論 (進路指導を含む)	講義	2				○				2																		
	教育相談 (カウンセリングを含む)	講義	2				○				2																		
	養護実習 (事前事後指導を含む)	実習	5				○																						5
	教職実践演習 (養護教諭)	演習	2				○																						2

○は養護教諭免許必修科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法 (2単位)、体育 (2単位)、外国語コミュニケーション (2単位)、情報機器の操作 (2単位) について、指定の科目を修得すること。

科目名	環境保健学				
担当者氏名	長尾 憲樹				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ○ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 ○ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ◎ 4-2 安全なケア環境を提供する能力				

《授業の概要》

我々は、かけがいのない太陽系第三惑星に生存しています。ジェームズ・ラブロックが提案したガイア仮説をご存じでしょうか。端的にいえば、地球そのものが生命体である仮説であります。産業革命以来、地球上に人口爆発が生じてきました。人間の行為と環境の関わりを真剣に考えます。

《テキスト》

「シンプル衛生・公衆衛生学2015」鈴木庄亮、久道茂

《参考図書》

国民衛生の動向：厚生統計協会編

《授業の到達目標》

環境と人間の関わりを理解し、これからの生活に生かせる努力を始める。

《授業時間外学習》

環境問題に関して、新聞を読み、TV等のニュースを視聴する。

《成績評価の方法》

定期試験70%
レポート30%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	環境保健の始めに	人から宇宙へいたる旅を観る。
2	放射線	放射能、放射線の基礎的知識を理解する。
3	大気・空気Ⅰ	喫煙について、再度考えてみる。
4	大気・空気Ⅱ	アスベスト、PM2.5が問題になっている。
5	化学物質	レイチェルカーソンとテオ・コロボーンを知っていますか。
6	水	生命を育む水環境の大切さを学ぶ。
7	天災について	危機管理における役割を考える。
8	防災・減災	未だ、だれも試みたことのない道を目指して話します。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	看護管理学				
担当者氏名	小林 廣美				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	3年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ○ 4-2 安全なケア環境を提供する能力 ○ 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力 ○ 5-2 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力 				

《授業の概要》

看護管理は、看護システムをつくり患者に質の高いサービスを提供するしくみや、他部門との協働・連携や、看護を見えるものとして評価されるようにすること等が基礎となっている。保健医療システムの中での看護管理の位置づけ、看護管理関係法規、看護管理の基礎知識、看護管理の実際と看護の責務等について理解することができる。

《テキスト》

看護管理 看護の統合と実践① 医学書院
あなたと共に歩むリウマチ看護 小林廣美 中央法規

《参考図書》

看護業務基準集 日本看護協会出版会
私たちの拠りどころ保健師助産師看護師法 日本看護協会出版会

《授業の到達目標》

1. 看護管理とは何か、なぜ学ぶのか、サービスとしての医療について理解できる。2. リーダシップとマネジメントについて理解できる。3. 看護管理と倫理について理解できる。4. 看護の質の保証について理解できる。5. 他部門との協働・連携の必要性について理解できる。6. 専門職としての展望について理解を深めることができる。

《授業時間外学習》

1. 授業計画にそって教科書を読み予習をする。
2. 授業終了後は必ず復習をして理解を深める。

《成績評価の方法》

筆記試験70% レポート30%

《備考》

看護管理の授業内容が、看護の統合と実践実習につながるように学びを深める。
90分×7.5回分の授業時間となります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	看護管理とは何か	1. 看護管理とは何か定義がわかる。 2. マネージメントプロセスが説明できる。 3. 看護におけるマネージメントが説明できる。
2	看護ケアのマネージメント	1. 看護ケアのマネージメントのプロセスがわかる。 2. 看護ケアの提供者としての役割がわかる。 3. 患者の権利を守るための概念がわかる。
3	看護ケアのマネージメント	1. 看護職が協働するための看護ケア提供システムが説明できる。 2. 他職種がわかる。 3. 情報の管理がわかる。 4. 研究の成果の活用がわかる。
4	看護サービスのマネージメント	1. 看護サービスのマネージメントの対象がわかる。 2. 組織目標のマネージメントがわかる。 3. 協働のためのマネージメントがわかる。
5	看護サービスのマネージメント	1. 勤務体制について理解できる。 2. 看護職の安全について理解できる。 3. 質の高い看護を提供するための方法について理解できる。
6	看護を取り巻く諸制度	1. 保健師助産師看護師法、看護師等の人材確保促進の法律について理解することができる。
7	マネージメントに必要な知識と技術	1. 組織の原則が理解できる。 2. マネージメントの対象と機能が理解できる。 3. リーダシップとマネージメントについて理解できる。
8	専門職としての展望	専門職の展望について理解を深めることができる。
9	-	-
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-

科目名	成人看護援助論Ⅰ（生命危機状態にある人）				
担当者氏名	白神 佐知子、弘中 陽子、廣田 真里、塩 霧郁恵、大塚 千秋				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ○ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力 ◎ 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力				

《授業の概要》

急性期は急激な健康状態の変化が起こり、身体的侵襲や心理的動揺が大きい時期である。急性期にある成人期の患者、家族の特徴と課題を中心に、看護の役割を学ぶ。また生命の危機的状況にある患者を理解するための理論を学んでいく。さらに周手術期各期の患者の身体的、心理的、社会的影響や外科看護の特徴について理解し、回復過程への援助を考えていく。

《授業の到達目標》

- (1) 急性状態にある患者、家族の特徴と看護が説明できる。
- (2) 周手術期各期の特徴と必要な援助内容が説明できる。
- (3) 主要な手術を受ける患者の看護が理解できる。
- (4) 周手術期患者の看護過程の展開ができる。
- (5) 周手術期患者に必要な援助内容と看護技術がわかる。

《成績評価の方法》

評価は試験70%、演習・レポート課題30%とし、100点満点で60点以上を合格とする。
演習を欠席した場合は、減点とする。

《テキスト》

(1)「臨床外科看護総論」矢永勝彦他編 医学書院 (2)「成人看護学 2, 3, 5, 7, 9, 10」医学書院 (3)「実践看護アセスメント」渡辺トシ子編 ノーベルヒロカワ

《参考図書》

- (1)看護観察のキーポイントシリーズ 急性期・周手術期、富田幾枝 著、中央法規
- (2)写真で見る整形外科看護、山元恵子、インターメディカ
- (3)疾患別看護過程 医学書院
- (4)症状別看護過程 医学書院
- (5)看護診断ハンドブック 医学書院

《授業時間外学習》

- ・毎回授業の復習をし、小テストに備えておくこと
- ・次回の授業範囲を予習し、専門用語や疑問点など、調べてノートに整理しておくこと
- ・看護過程の演習では、次回の授業までに指定範囲は自己学習してこること

《備考》

成人看護援助論Ⅰでは、講義、演習はA, B クラスに分かれて行います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	急性期看護の特徴 外科患者の病態の基礎	急性期の概念と特徴を理解し、急性状態にある患者と家族の看護の特徴、手術を受ける患者の身体侵襲や生体反応などの病態について学ぶ。
2	手術期看護：手術前 手術期看護：手術中	手術を受ける患者の身体準備、術前処置等の援助内容が理解できる。手術室の環境管理や手術室における看護師の役割について理解できる。
3	手術期看護：手術直後 手術期看護：手術後	術後観察やアセスメント、疼痛への援助が理解できる。術後の回復促進ため、術後合併症の予防への看護が説明できる。
4	消化器・排泄機能の障害のある患者の看護	胃全摘、低位前方切除術を受ける患者の周手術期看護の展開を学び、援助方法を理解する。
5	循環器、呼吸器機能の障害患者の看護	肺切除術、バイパス手術を受ける患者の周手術期看護の展開を学び、援助方法を理解する。
6	脳神経機能・運動器の障害患者の看護	開頭術、人工骨頭置換術を受ける患者の周手術期看護の展開を学び、援助方法を理解する。
7	生殖器機能障害、集中治療時患者の看護	乳房切除術を受ける患者の周手術期看護の展開（化学療法、放射線療法含）を学び、援助方法を理解する。集中治療室の環境や看護師の役割を理解する。
8	救急時看護と実際：演習	健康破綻をきたした患者の緊急性と原因のアセスメントができ、救急看護の役割が説明できる。救命救急に必要な心肺蘇生法の実践が理解でき実践できる。
9	事例による看護過程の展開	患者の事例をもとに、看護過程のプロセスを学習する。
10	事例による看護過程の展開	患者の事例をもとに、看護過程のプロセスを学習する。
11	事例による看護過程の展開	患者の事例をもとに、看護過程のプロセスを学習する。
12	事例による看護過程の展開	患者の事例をもとに、看護過程のプロセスを学習する。
13	周手術期看護：技術演習	自動輸液ポンプ、シリンジポンプ、ドレーンの管理、創傷処置等外科看護で用いる基本技術について学ぶ。術後患者の状態を観察する視点が説明できる。
14	周手術期看護：技術演習	自動輸液ポンプ、シリンジポンプ、ドレーンの管理、創傷処置等外科看護で用いる基本技術について学ぶ。術後患者の状態を観察する視点が説明できる。
15	周手術期看護：事例演習	周手術期患者事例を基に演習を行う。

科目名	成人看護援助論Ⅱ（常態の維持・増進が困難な人）				
担当者氏名	塩 霧郁恵、大塚 千秋、廣田 真里				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 ◎ 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力 ○ 3-8 終末期にある人々を援助する能力 ○ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力				

《授業の概要》

慢性的な健康問題をもつ人々を理解するための基礎的な概念や理論を学習し、対象がセルフケア能力を高め、病氣と折り合いをつけながら、その人らしい生活が営めるような看護援助の考え方と方法を学ぶ。

《テキスト》

成人看護学 慢性期看護論 ニューヴェルヒロカワ
 がん看護学 医学書院
 緩和ケア [第2版] 医学書院

《参考図書》

「病氣がみえる」シリーズ:メディックメディア

「なぜ? どうして?」シリーズ:メディックメディア

《授業の到達目標》

1. 慢性的な健康障害をもつ人・家族の身体的、心理的、社会的特徴を説明できる。
2. 慢性的な健康障害をもつ人・家族への看護援助を具体的に述べるができる。
3. 様々な問題を有する慢性的な健康障害をもつ人・家族への看護を立案できる。

《授業時間外学習》

成人看護学では、解剖学、生理学、病態学、治療学、看護援助論等の知識が必須です。これらの知識は既習していることを前提に授業は進みます。自己学習がとても重要です。

《成績評価の方法》

総合的に評価します。
 出席10%、授業への参加・課題レポート30%、試験60%

《備考》

◎講義はA・B合同で行う。演習はA・Bに分かれる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	慢性期看護の考え方	ガイダンス、①慢性期とは、②慢性疾患・治療の特徴、③生活習慣病の予防とヘルスプロモーション、④慢性的な健康問題をもつ人の治療・療養環境
2	慢性的な健康問題をもつ人の特徴と理解	①慢性的な健康問題をもつ人の体験(心理・社会的特徴)、②病みの軌跡、③慢性的な健康問題がライフサイクルに及ぼす影響
3	慢性的な健康問題をもつ人への看護援助	①慢性的な健康問題をもつ人のQOL、②慢性的な健康問題をもつ人を支援するための基盤となる理論・諸概念、③慢性的な健康問題とともに生きる生活の支援
4	慢性的な健康問題をもつ人への看護援助	①セルフケア能力を高めるための教育的支援と看護援助、②慢性的な健康問題を持つ人の家族への支援、③慢性的な健康問題をもつ人を支える社会資源の活用
5	慢性的な健康問題をもつ人への看護援助	症状マネジメント(IASM)：①各症状の機序とあらわれ方、②各症状をマネジメントするための看護援助 事例を提示する：展開
6	慢性的な健康問題をもつ人への看護援助	症状マネジメント(IASM)：①各症状の機序とあらわれ方、②各症状をマネジメントするための看護援助症 事例を提示する：展開
7	慢性的な健康問題をもつ人への看護援助Ⅰ	症状マネジメント(IASM)：①各症状の機序とあらわれ方、②各症状をマネジメントするための看護援助 事例を提示する：展開
8	慢性的な健康問題をもつ人への看護援助	症状マネジメント(IASM)：①各症状の機序とあらわれ方、②各症状をマネジメントするための看護援助 事例を提示する：展開
9	慢性的な健康問題をもつ人への看護：がん看護	がん医療の特徴と緩和ケアの概念 わが国におけるがん対策の歩み、がんの予防、がんの種類と転移、H I V、緩和ケアの概念
10	慢性的な健康問題をもつ人への看護：がん看護	「がんの主な治療」・放射線療法、・化学療法
11	慢性的な健康問題をもつ人への看護：がん看護	「がんとともに生きる人・家族の理解」 がんの受け止め方：患者の心理(DVD)、死に行く患者の心理プロセス(危機理論)、トータルペイン(スピリチュアルペイン)
12	慢性的な健康問題をもつ人への看護：がん看護	「がんとともに生きる人・家族の理解」・トータルペイン(身体的・精神的・社会的)
13	終末期にある人・家族、遺族への看護援助	「終末期の症状緩和と看取りのケア」医療者のグリーフケア、セルフケア、終末期に起こる症状とケア、補完代替療法、エンゼルケア
14	終末期にある人・家族、遺族への看護援助	事例を提示する：展開
15	まとめ	まとめ

科目名	成人看護学実習 I				
担当者氏名	白神 佐知子、塩 霧郁恵、弘中 陽子、大塚 千秋、廣田 真里				
授業方法	実習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 ○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ◎ 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 ○ 4-2 安全なケア環境を提供する能力				

《授業の概要》

病院施設における急性期病棟において、健康生活の突然の破綻や手術の侵襲的な治療を体験する成人の対象者や家族の身体、心理、社会的側面を理解し、その状況や変化に応じた看護援助の実際を学ぶ。

《授業の到達目標》

成人看護学実習 I の実習要項に準じる。

《成績評価の方法》

成人看護学実習 I の評価表に基づいて評価する（100％）。

《テキスト》

成人看護学概論、成人看護援助論 I で使用したテキストに準じる

《参考図書》

- ・「消化器疾患ビジュアルブック」、「脳神経疾患ビジュアルブック」、「循環器疾患ビジュアルブック」、「呼吸器疾患ビジュアルブック」、「整形外科疾患ビジュアルブック」、学研
- ・写真でわかる臨床看護技術①② インターメディカ
- ・疾患別看護過程 医学書院
- ・症状別看護過程 医学書院

《授業時間外学習》

講義内容や演習について復習する。
解剖整理、疾患の病態生理を復習する。

《備考》

実習前に成人実習要項を熟読しておくこと
授業内容や資料、事前学習をしっかりと実習内容に活かすこと

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	臨地実習	詳細内容や方法等は成人看護学実習 I の実習要項を参照
2	-	-
3	-	-
4	-	-
5	-	-
6	-	-
7	-	-
8	-	-
9	-	-
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-

科目名	成人看護学実習Ⅱ				
担当者氏名	白神 佐知子、塩 霧郁恵、弘中 陽子、大塚 千秋、廣田 真里				
授業方法	実習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 ○ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 ◎ 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力 ○ 3-8 終末期にある人々を援助する能力				

《授業の概要》

病院施設における慢性期病棟において、慢性的な健康問題を持つ患者、家族を理解し、健康の保持増進と健康障害の予防にむけた支援の実践を学ぶ。

《テキスト》

成人看護学概論、成人看護援助論Ⅱで使用したテキストに準じる。

《参考図書》

- ・「糖尿病・代謝・栄養疾患ビジュアルブック」、「呼吸器疾患ビジュアルブック」、「腎・泌尿器疾患ビジュアルブック」学研
- ・疾患別看護過程 医学書院
- ・症状別看護過程 医学書院

《授業の到達目標》

成人看護学実習Ⅱの実習要項に準じる。

《授業時間外学習》

講義内容や演習について復習をする。
解剖整理、疾患の病態生理を復習する。

《成績評価の方法》

成人看護学実習Ⅱの評価表に基づいて評価する（100％）。

《備考》

実習前に成人実習要項を熟読しておくこと
授業内容や資料、事前学習をしっかりと実習内容に活かすこと

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	臨地実習	詳細内容や方法等は成人看護学実習Ⅱの実習要項を参照
2	-	-
3	-	-
4	-	-
5	-	-
6	-	-
7	-	-
8	-	-
9	-	-
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-

科目名	老年看護援助論				
担当者氏名	高見 清美、西原 かおり				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 ○ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 ◎ 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力				

《授業の概要》

老年期特有の健康障害について病態・症状・検査・治療過程について教授する。加齢に伴う身体的・精神的に起こりうる様々な加齢現象について教授し、そのことが生活機能に及ぼす影響、またそれらに必要な援助方法について教授する。

《授業の到達目標》

老年期特有の健康障害について病態・症状・検査・治療過程に伴う援助方法を理解できる。
 疾患及び加齢現象から生じる症状が生活機能に及ぼす影響について理解でき、必要な援助方法について考えることができる。

《成績評価の方法》

レポート：20%
 健康教室の準備と出席：10%
 小テスト：20%
 筆記試験：50%

《テキスト》

「老年看護学 概論と看護の実践」「老年看護技術」ヌーベルヒロカワ、「看護診断ハンドブック」医学書院

《参考図書》

「ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく 実践 看護アセスメント」ヌーベルヒロカワ、「系統看護学講座 老年看護学」「系統看護学講座 老年看護学 病態疾病論」医学書院、「看護過程に沿って対症看護」学研、「生活機能からみた老年看護過程」医学書院、「疾患別/看護ケアのための病態関連図」医学芸術社、『マンガ教材BPSD別認知症ケア』日総研

《授業時間外学習》

健康教室の準備：グループで積極的にまとめる
 技術演習前DVD視聴：口腔ケア、排泄援助
 おむつの体験

《備考》

技術演習前は、eラーニング学習システムを利用して積極的に予習をすること。
 1週2コマの授業形態（一部変更）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	特徴的な症状疾患を持つ高齢者への看護1)	呼吸機能の変調および閉塞性肺疾患、感染症患者の看護
2	特徴的な症状疾患を持つ高齢者への看護2)	循環機能の変調および心不全、脳梗塞患者の看護
3	特徴的な症状疾患を持つ高齢者への看護3)	運動機能の変調および大腿骨頸部骨折患者の看護 【技術演習】骨密度、体組成測定、筋力保持エクササイズ
4	特徴的な症状疾患を持つ高齢者への看護4)	認知症患者の看護
5	特徴的な症状疾患を持つ高齢者への看護5)	うつ症状、せん妄患者の看護
6	特徴的な症状疾患を持つ高齢者への看護6)	感覚機能の変調および白内障、難聴、老人性掻痒症患者の看護 健康教室準備
7	事例による看護過程の展開1)	高齢者の看護過程の展開、ゴードンの機能的健康パターン
8	事例による看護過程の展開2)	高齢者の看護過程の展開：慢性疾患の事例
9	事例による看護過程の展開3)	高齢者の看護過程の展開
10	事例による看護過程の展開4)	高齢者の看護過程の展開
11	事例による看護過程の展開5)	高齢者の看護過程の展開
12	健康教室	高齢者の健康測定と指導
13	特徴的な症状疾患を持つ高齢者への看護7)	排泄機能の変調および看護 誤嚥性肺炎患者の看護
14	特徴的な症状疾患を持つ高齢者への看護8)	【技術演習】陰部洗浄・おむつ交換
15	特徴的な症状疾患を持つ高齢者への看護9)	【技術演習】口腔ケア

科目名	老年看護学実習 I				
担当者氏名	瀧本 茂子、高見 清美、西原 かおり				
授業方法	実習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	3年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 ○ 2-2 看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力 ○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ◎ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 				

《授業の概要》

病院で療養生活を送る老年期にある対象とその家族を総合的に理解し、疾患や機能障害を持つ対象の生活に影響を及ぼす健康上の問題についてアセスメントを行い、対象の生活機能を維持し、拡大していくことを支援するために必要な専門知識・技術・態度を習得する。

《テキスト》

老年看護学概論・老年看護援助論で用いたテキストに準ずる

《参考図書》

老年看護学概論・老年看護援助論で紹介したもの
授業資料および自己学習ノート

《授業の到達目標》

詳細は老年看護学実習要項（老年看護学実習 I）を参照

《授業時間外学習》

老年看護学概論・老年看護援助論での学習内容の復習、学習課題に沿った実習前準備を行う。

《成績評価の方法》

老年看護学実習 I の評価表(100%) に準じて評価する

《備考》

高齢者の強みを発見し、その人が自立できるような関わりを工夫しましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	老年看護学実習 I	詳細内容や実習方法は、老年看護学実習要項（老年看護学実習 I）を参照
2	老年看護学実習 I	詳細内容や実習方法は、老年看護学実習要項（老年看護学実習 I）を参照
3	老年看護学実習 I	詳細内容や実習方法は、老年看護学実習要項（老年看護学実習 I）を参照
4	老年看護学実習 I	詳細内容や実習方法は、老年看護学実習要項（老年看護学実習 I）を参照
5	老年看護学実習 I	詳細内容や実習方法は、老年看護学実習要項（老年看護学実習 I）を参照
6	老年看護学実習 I	詳細内容や実習方法は、老年看護学実習要項（老年看護学実習 I）を参照
7	老年看護学実習 I	詳細内容や実習方法は、老年看護学実習要項（老年看護学実習 I）を参照
8	老年看護学実習 I	詳細内容や実習方法は、老年看護学実習要項（老年看護学実習 I）を参照
9	老年看護学実習 I	詳細内容や実習方法は、老年看護学実習要項（老年看護学実習 I）を参照
10	老年看護学実習 I	詳細内容や実習方法は、老年看護学実習要項（老年看護学実習 I）を参照
11	老年看護学実習 I	詳細内容や実習方法は、老年看護学実習要項（老年看護学実習 I）を参照
12	老年看護学実習 I	詳細内容や実習方法は、老年看護学実習要項（老年看護学実習 I）を参照
13	老年看護学実習 I	詳細内容や実習方法は、老年看護学実習要項（老年看護学実習 I）を参照
14	老年看護学実習 I	詳細内容や実習方法は、老年看護学実習要項（老年看護学実習 I）を参照
15	老年看護学実習 I	詳細内容や実習方法は、老年看護学実習要項（老年看護学実習 I）を参照

科目名	老年看護学実習Ⅱ				
担当者氏名	瀧本 茂子、高見 清美、西原 かおり				
授業方法	実習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 ○ 2-2 看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力 ○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ◎ 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力 				

《授業の概要》

介護老人保健施設または特別養護老人ホームで生活する高齢者とその家族の健康および健康問題を理解し、その人がより健康的な生活を送ることができるような支援について考えることができる。また、高齢者をとりまく家庭・病院・様々な介護サービスの中で継続的な支援体制について理解できる。

《テキスト》

老年看護学概論・老年看護援助論で用いたテキストに準ずる

《参考図書》

老年看護学概論・老年看護援助論で紹介したもの
授業資料および自己学習ノート

《授業の到達目標》

詳細は老年看護学実習要項(老年看護学実習Ⅱ)を参照

《授業時間外学習》

老年看護学概論・老年看護援助論での学習内容の復習、学習課題に沿った実習前準備を行う。

《成績評価の方法》

老年看護学実習Ⅱの評価表(100%)に準じて評価する。

《備考》

高齢者にとってプラスの刺激となるような関わりを工夫しましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	老年看護学実習Ⅱ	詳細内容や実習方法は老年看護学実習要項(老年看護学実習Ⅱ)を参照
2	老年看護学実習Ⅱ	詳細内容や実習方法は老年看護学実習要項(老年看護学実習Ⅱ)を参照
3	老年看護学実習Ⅱ	詳細内容や実習方法は老年看護学実習要項(老年看護学実習Ⅱ)を参照
4	老年看護学実習Ⅱ	詳細内容や実習方法は老年看護学実習要項(老年看護学実習Ⅱ)を参照
5	老年看護学実習Ⅱ	詳細内容や実習方法は老年看護学実習要項(老年看護学実習Ⅱ)を参照
6	老年看護学実習Ⅱ	詳細内容や実習方法は老年看護学実習要項(老年看護学実習Ⅱ)を参照
7	老年看護学実習Ⅱ	詳細内容や実習方法は老年看護学実習要項(老年看護学実習Ⅱ)を参照
8	老年看護学実習Ⅱ	詳細内容や実習方法は老年看護学実習要項(老年看護学実習Ⅱ)を参照
9	老年看護学実習Ⅱ	詳細内容や実習方法は老年看護学実習要項(老年看護学実習Ⅱ)を参照
10	老年看護学実習Ⅱ	詳細内容や実習方法は老年看護学実習要項(老年看護学実習Ⅱ)を参照
11	老年看護学実習Ⅱ	詳細内容や実習方法は老年看護学実習要項(老年看護学実習Ⅱ)を参照
12	老年看護学実習Ⅱ	詳細内容や実習方法は老年看護学実習要項(老年看護学実習Ⅱ)を参照
13	老年看護学実習Ⅱ	詳細内容や実習方法は老年看護学実習要項(老年看護学実習Ⅱ)を参照
14	老年看護学実習Ⅱ	詳細内容や実習方法は老年看護学実習要項(老年看護学実習Ⅱ)を参照
15	老年看護学実習Ⅱ	詳細内容や実習方法は老年看護学実習要項(老年看護学実習Ⅱ)を参照

科目名	母性看護援助論				
担当者氏名	天本 都、中村 朋子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 ◎ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ○ 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力				

《授業の概要》

周産期における母子の健康と看護について学び、対象に適した看護過程を展開する能力を養う。
 周産期における母子に必要な看護援助技術を安全に実施するための能力を養う。

《テキスト》

母性看護学各論 医学書院
 ナーシンググラフィカ30母性看護実践の基本 メディカ出版
 ナーシンググラフィカ31母性看護技術 メディカ出版

《参考図書》

病気が見える 10 産科 メディックメディカ
 ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 医歯薬出版K.K
 母性看護学Ⅱ 南江堂
 母性看護過程 医学書院

《授業の到達目標》

妊婦・産婦・褥婦・新生児のヘルスアセスメントができる。
 妊婦・産婦・褥婦・新生児および家族を対象とした看護過程を展開できる。
 妊婦・産婦・褥婦・新生児に必要な看護技術を科学的な根拠に基づき、安全に実施できる。
 妊婦・産婦・褥婦に個別性を踏まえて、保健指導案の作成と指導を実施できる。

《授業時間外学習》

自ら進んで理解を深める努力を行う。
 国家試験問題に随時取り組む。
 沐浴実技試験には、教材を活用し練習をしてから臨む。

《成績評価の方法》

定期試験 80%
 保健指導 10%
 沐浴実技試験 10%
 小テスト・レポート点考慮（提出遅れは評価しない）

《備考》

授業中の携帯電話の操作禁止。
 演習時は白衣を着用し、時間厳守で行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	妊婦の看護	妊娠期の身体的・心理的・社会的な変化を理解し、必要な看護について理解できる。
2	妊婦のヘルスアセスメント	事例を通して妊婦・胎児に関する必要な情報収集を行い、観察項目をもとに、アセスメントを行うことができる。
3	産婦の看護	分娩の3要素・経過を理解し、産婦と胎児のケアを行うことができ、分娩Ⅰ期からⅣ期までの必要な看護援助について理解できる。
4	産婦のヘルスアセスメント	事例を通して分娩進行状況に応じたアセスメントを行い、産婦・家族を含めた必要な看護援助が理解できる。
5	褥婦の看護	産褥期の進行性・退行性・心理的・社会的変化を理解し、必要な看護について考えることができ、さらに、母児に合わせた保健指導を考えることが出来る。
6	褥婦のヘルスアセスメント	事例を通して、褥婦の観察項目を理解し、アセスメントを行い、褥婦と家族を含めた看護援助を考えることが出来る。
7	新生児の看護	新生児期の特徴、生理的変化、起こりやすい異常について理解でき、母子相互作用を含めて新生児・家族に必要な看護が理解できる。
8	新生児のヘルスアセスメント	事例を通して新生児の観察項目を理解でき、対象に応じたアセスメントを行い、看護援助を考えることが出来る。
9	妊婦・産婦の看護技術（演習）	妊婦体験・妊婦健康診査（腹囲測定・子宮底測定・レオボルド触診法・胎児心音聴取）・模型による胎児付属物の観察・分娩機転などについて理解が出来る。
10	褥婦・新生児の看護技術（演習）	子宮・乳房の観察方法・授乳方法・抱き方・抱き方・沐浴・光線療法・保育器の取り扱いなどを学ぶ。
11	看護過程の展開	事例を通して、情報収集・アセスメント・関連図・課題・問題点・計画立案・実施・評価ができ、さらに、妊娠期から産褥期までの要約を行うことが出来る。
12	妊娠期・分娩期のハイリスクについて	妊娠期・分娩期のハイリスク要因・予防・治療・看護が理解できる。
13	産褥期・新生児期のハイリスクについて	産褥期・新生児期のハイリスク要因・予防・治療・看護が理解できる。
14	沐浴実技試験	新生児の観察・アセスメントを行い、安全に沐浴を実施することが出来る。沐浴実施後、修正部分が理解できる。
15	保健指導発表	グループワークで、対象者の個別性をふまえた、指導計画立案・教材作成を行い、ロールプレイングで発表を行う。

科目名	母性看護学実習				
担当者氏名	天本 都、中村 朋子				
授業方法	実習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ◎ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ○ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力				

《授業の概要》

妊娠・分娩・産褥各期の経過と新生児の特徴を理解し、実習を通して対象者の健康回復への看護およびより健康な生活に向けて家族を含めて、援助を実践するための基礎的能力を養うことを目的とする。

《授業の到達目標》

1. 妊娠・分娩・産褥各期の経過と新生児の生理的特徴や変化を理解できる。2. 児と母親を取り巻く育児環境の重要性を理解できる。3. 妊婦・産婦・褥婦・新生児の個別性に応じた看護計画・保健指導を考案できる。4. 妊婦・産婦・褥婦・新生児の状態に応じた看護を実践できる。5. 周産期の看護を通して倫理上の諸問題について考えられる。6. 周産期医療チームとしての役割と連携を知る。

《成績評価の方法》

母性看護学実習評価表に基づいて、教員と学生の面談を行い評価する（100点満点）。

《テキスト》

「母性看護学概論」・「母性看護援助論」で用いたテキスト

《参考図書》

「ウェルネス看護診断に基づく母性看護過程」医歯薬出版K.K
 「病気が見える 産科」メディックメディカ
 「ウェルネスからみた母性看護過程」医学書院
 「妊産褥婦のケア」医歯薬出版K.K

《授業時間外学習》

「母性看護援助論」の復習により、実習に必要な基礎的知識を確実に身につける。
 実習の事前課題について徹底学習。
 母性領域の国家試験問題への取り組み。

《備考》

「看護学臨地実習要綱」に記載の実習誓約事項を遵守すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	-	「母性看護学実習要項」で詳細を説明します。
2	-	-
3	-	-
4	-	-
5	-	-
6	-	-
7	-	-
8	-	-
9	-	-
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-

科目名	小児看護援助論				
担当者氏名	小島 賢子、渋谷 洋子、藤井 清美				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ◎ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ○ 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力				

《授業の概要》

小児の発達段階とその家族の理解をもとに、様々な健康段階にある小児と家族の看護を学ぶ。病気や障害が与える小児と家族への影響を知り、健康問題への看護を理解する。小児の環境や健康障害の経過と治療状況に応じた看護を学ぶ。また、小児の事例をもとに看護過程を展開し立案した援助に対する演習を行い、小児看護技術と関連させながら学ぶ。

《テキスト》

小児看護学1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
 小児看護学2 小児臨床看護各論 医学書院
 小児看護技術 南江堂

《参考図書》

子どものフィジカルアセスメント 金原出版
 子どもの病気の地図帳 講談社
 入院のための遊びとおもちゃ 中央法規
 小児看護過程 病態関連図 医学書院

《授業の到達目標》

1. 病気や障害の小児と家族に与える影響を述べるができる。2. 小児の健康問題に対する看護について理解することができる。3. 健康問題を持つ小児の環境に応じた看護の特徴を述べるができる。4. 健康障害の経過と治療状況に応じた看護を述べるができる。5. 小児のアセスメントに必要な技術を習得することができる。6. 症状を示す小児への看護を述べるができる。

《授業時間外学習》

講義内容や演習について、復習を行うこと。臨地実習への活用を常に意識すること。

《成績評価の方法》

定期試験70%、課題レポート、演習レポート30%で評価する。

《備考》

演習や事例検討を行うため、自主的な学習への取り組みが必要になる。自覚を持ち授業に臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	病気・障害が小児と家族に与える影響と看護	子どもと家族の病気の理解と病気・治療に伴うストレスと対処について理解しストレスへの援助や遊びの効果を学ぶ。検査、処置に対するプリパレーションを学ぶ。
2	子どもとの関わりを進める技術	発達段階に応じた子どもとのコミュニケーションを演習し、コミュニケーション技術を習得する。また、子どもの年齢に応じた遊びを考え演習する。
3	症状別にみる小児と家族の看護 1	発熱、脱水の事例をもとに、小児の身体的アセスメントの分析・評価方法および看護について理解する。
4	小児のアセスメント技術	小児に対するアセスメントについて、モデルを活用しながら演習し、技術を習得する。バイタルサインの測定・呼吸器系・循環器系フィジカルアセスメントの演習を行う。
5	症状別にみる小児と家族の看護 2	痛みのある小児とその家族への看護について、事例を活用し援助の実際を理解する。
6	経過別にみる小児と家族の看護 1	急性期の特徴と生命維持、生体機能の安定を優先する看護を学ぶ。さらに急性期にある子どもへの安楽、安全、苦痛の緩和に向けた看護と家族への看護を学ぶ。
7	経過別にみる小児と家族の看護 2	慢性期の特徴と慢性状態が及ぼす影響を学ぶ。また、年齢にあったセルフケア能力の育成や自立に向けた子どもと家族への看護を学ぶ。
8	経過別にみる小児と家族の看護 3	終末期の特徴と生命、死についての小児のとらえ方を知り、終末期にある子どもと家族の看護を学ぶ。
9	検査処置を受ける小児への援助技術	子どもにとっての検査処置体験について知り、輸液療法を受ける子どもへの援助技術を演習し、技術を習得する。輸液管理、シーネ交換、手の清拭の演習を行う。
10	小児の看護過程演習 1	喘息発作を起こした小児の事例をもとに看護過程の実際を学ぶ。看護過程の概要を学び、事例をもとに看護過程の演習を行う。
11	小児の看護過程演習 2	喘息発作を起こした小児の事例をもとに看護過程の実際を学ぶ。事例から情報収集、アセスメントを行い、関連図を作成する。
12	小児の看護過程演習 3	喘息発作を起こした小児の事例をもとに看護過程の実際を学ぶ。事例の看護問題を明確にし、計画立案を行う。
13	小児の看護過程演習 4	喘息発作を起こした小児の事例をもとに看護過程の実際を学ぶ。計画した援助を実際に演習する。
14	小児の看護過程演習 5	喘息発作を起こした小児の事例をもとに看護過程の実際を学ぶ。実施した計画を評価し計画の修正を行う。
15	小児看護のこれからの方向性	小児看護の現状（混合病棟・在宅療養・災害・障害を持つ小児）を踏まえ、これからの看護の方向性を考える。

科目名	小児看護学実習				
担当者氏名	小島 賢子、渋谷 洋子、藤井 清美				
授業方法	実習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ○ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力 ○ 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 				

《授業の概要》

小児看護学実習は、小児各期の特徴を理解し、健康のレベルや成長・発達段階に応じた看護を実践することを目的とする。小児看護学概論と小児看護援助論で学んだ知識を統合して活用し、小児と家族がもっている力を最大限発揮できるよう看護するための基礎的能力を習得するための実習である。小児病棟と幼稚園で実習を行う。

《授業の到達目標》

小児病棟の実習では、小児各期の成長・発達の特徴や生活と、健康障害を関連してとらえ、個々の特性に応じた援助の必要性を判断する。小児の健康障害を理解し、適切な援助を行うことなどを目標とする。幼稚園の実習では、子ども各期の成長・発達を理解する。子どもとの望ましい関わり方を学び、実践することなどを目標とする。詳細は実習要項で確認する。

《成績評価の方法》

小児看護学実習要項に記載している評価表をもとに、学生と教員の面談によって評価する。

《テキスト》

小児看護学1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
 小児看護学2 小児臨床看護各論 医学書院
 小児看護技術 南江堂

《参考図書》

小児看護過程+病態関連図 医学書院
 小児看護技術 医学書院
 写真でわかる小児看護技術 インターメディカ
 小児看護過程&関連図 日総研
 小児看護実習ガイド 照林社

《授業時間外学習》

既習学習の復習、実習に関する事前学習、事前の技術の確認や演習が必須となる。

《備考》

子どものもっているパワーを感じ、出会えることを楽しんでください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	-	小児看護学実習要項で説明します。
2	-	-
3	-	-
4	-	-
5	-	-
6	-	-
7	-	-
8	-	-
9	-	-
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-

科目名	精神看護援助論				
担当者氏名	加藤 知可子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ○ 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力 ○ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 ◎ 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力 				

《授業の概要》

全体の授業計画に示す通りである。

《テキスト》

「精神看護学Ⅰ 精神保健学」第5版 吉松和哉他 編（ヌーヴェルヒロカワ）「精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学」第5版川野雅資 編（ヌーヴェルヒロカワ）

《参考図書》

「精神看護学 学生一患者のストーリーで綴る実習展開」田中美恵子（医歯薬出版株式会社）「オレムのセルフケアモデル事例を用いた看護過程の展開第2版」宇佐美しおり（ヌーヴェルヒロカワ）「プロセスレコードを通して学ぶ 臨地実習ケーススタディ」吉田哲（看護の科学社）

《授業の到達目標》

○患者一看護師関係の形成に必要なコミュニケーションを説明できる。○自己を洞察する方法を説明できる。○精神の健康に障がいや問題を持つ人の援助方法について、その理論と具体的な援助を説明できる。○事例を基に、ニーズに沿った看護計画の展開方法を説明できる。

《授業時間外学習》

(1) 予習の方法：次回の講義内容について、テキストを読んでおく。(2) 復習の方法：講義内容を再確認し、不明な点は自分で資料や図書を用いて調べたり、質問する。精神看護援助論に関する図書・資料を読み、学問的な視野を広げる。

《成績評価の方法》

授業回数の3分の2以上の出席者を単位認定対象とする。基準の出席回数を満たさない場合、定期試験を受ける資格はない。また、特別な理由がない場合の大幅な遅刻は、出席として扱わない。定期試験70%、平常評価30%（小テスト、レポート、出席状況、受講態度）により総合的に判断する。

《備考》

受講者の興味関心、受講者数、講義の進行状況などにより、授業計画や成績評価法には変更を加えることがある。授業中の進行や周囲の迷惑となる行為は、減点の上、退席を求める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	患者一看護師関係	患者一看護師関係の発展過程を説明できる。
2	自己への振り返りプロセスレコード	自己への振り返りの方法について（プロセスレコード等）説明できる。
3	コミュニケーション技術	コミュニケーションの技術について、説明できる。
4	精神疾患の理解	精神疾患について説明できる。
5	精神障がいの回復過程	精神障がいの回復過程を説明できる。
6	日常生活援助	精神を病む人への日常生活援助を具体的に説明できる。
7	行動制限と看護	行動制限について、法と人権の擁護、看護の視点から何が必要なのかを説明できる。保護室使用時の看護についての基本や注意事項、法との関連を説明できる。
8	検査を受ける人及び薬物療法を受ける人への看護	検査を受ける人及び薬物治療を受ける人への看護について何が必要かを具体的に説明できる。
9	SSTと心理教育	SSTと心理教育について基本的な概念と役割、応用について説明できる。
10	看護過程を展開するための理論	看護過程を展開するための理論の基本的な概念を説明できる。
11	事例展開：看護過程による事例展開	事例を基に看護過程の展開を行う。
12	事例展開：看護過程による事例展開	事例を基に看護過程の展開を行う。
13	家族支援	精神障がい者の家族支援について、家族のQOLを保持・増進できる具体的な援助を説明できる。
14	患者と家族を取り巻く地域精神医療資源	患者と家族を取り巻く地域精神医療資源やその活用について説明できる。
15	総括・小テスト	これまでの学習内容を再確認し、精神看護学に関する援助方法を具体的に説明できる。

科目名	精神看護学実習				
担当者氏名	加藤 知可子				
授業方法	実習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 実施する看護について説明し同意を得る能力 ○ 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 ○ 2-2 看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力 ◎ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 				

《授業の概要》

詳細は精神看護学実習要項を参照する。
 「精神看護学Ⅰ 精神保健学」第5版 吉松和哉他 編（ヌーヴェルヒロカワ）
 「精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学」第5版 川野雅資 編（ヌーヴェルヒロカワ）

《テキスト》

「精神看護学Ⅰ 精神保健学」第5版 吉松和哉他 編（ヌーヴェルヒロカワ）
 「精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学」第5版 川野雅資 編（ヌーヴェルヒロカワ）

《参考図書》

「精神看護学 学生－患者のストーリーで綴る実習展開」田中美恵子（医歯薬出版株式会社）
 「オレムのセルフケアモデル 事例を用いた看護過程の展開第2版」宇佐美しおり（ヌーヴェルヒロカワ）

《授業の到達目標》

○精神障がい者とその家族を理解し、日常生活の自立に向けて、精神障がい者の個別性に合った看護を実践できる基礎的な能力を身につける。○心を病む人々を支える看護活動および関連する社会資源の活用、チーム連携について学ぶ。

《授業時間外学習》

(1) 予習の方法：精神看護学実習に関する図書・資料を読み、事前学習しておく。(2) 復習の方法：提出が必要な課題・記録物を作成し、指導を受け、修正・追加をしていく。

《成績評価の方法》

精神看護学実習の評価表に基づいて評価を行なう。

《備考》

(1) 臨地実習要綱や精神看護学実習要項をよく読んでおく。(2) 事前学習・演習をしっかり行って実習に臨む。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習	内容の詳細や方法等は精神看護学実習要項を参照
2	実習	内容の詳細や方法等は精神看護学実習要項を参照
3	実習	内容の詳細や方法等は精神看護学実習要項を参照
4	実習	内容の詳細や方法等は精神看護学実習要項を参照
5	実習	内容の詳細や方法等は精神看護学実習要項を参照
6	実習	内容の詳細や方法等は精神看護学実習要項を参照
7	実習	内容の詳細や方法等は精神看護学実習要項を参照
8	実習	内容の詳細や方法等は精神看護学実習要項を参照
9	実習	内容の詳細や方法等は精神看護学実習要項を参照
10	実習	内容の詳細や方法等は精神看護学実習要項を参照
11	実習	内容の詳細や方法等は精神看護学実習要項を参照
12	実習	内容の詳細や方法等は精神看護学実習要項を参照
13	実習	内容の詳細や方法等は精神看護学実習要項を参照
14	実習	内容の詳細や方法等は精神看護学実習要項を参照
15	実習	内容の詳細や方法等は精神看護学実習要項を参照

科目名	在宅看護援助論				
担当者氏名	星 智子、東 久子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 ○ 2-2 看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力 ○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ◎ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力				

《授業の概要》

在宅看護概論の学習内容を想起し、療養者とその家族に必要な知識・技術・マナーについて学習します。事例を通して、様々な医療ニーズに応じた生活上の工夫や支援の方法、在宅で医療管理を必要とする人への看護を学びます。

《テキスト》

系統看護学講座 統合分野「在宅看護論」2014（医学書院）

《参考図書》

ナーシング・グラフィカ在宅看護論「地域療養を支えるケア」2015（メディカ出版）

《授業の到達目標》

訪問看護師と病棟看護師の密な連携活動（退院調整を含む）を知り、一貫した継続ケアの必要性が説明できる。在宅という「場」を理解し、看護技術の応用による援助の方法を工夫することができる。独居療養者やターミナル期の療養者、老々介護の問題など事例を通して学ぶことができる。

《授業時間外学習》

難病をもつ生活者や、介護をしている生活者などの手記を読んで、理解を深めること。身近な高齢者をイメージし、生活の場で介護する上で困難な事柄を把握すること。

《成績評価の方法》

定期試験（60%）
 課題等の提出（20%）※提出遅れについては減点する
 受講態度（20%）

《備考》

在宅療養やケアの実際をイメージできるようにDVD等を使用し、授業内容を工夫します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	在宅看護で求められる能力	在宅看護概論で学んだ学習内容を想起する。在宅看護を展開するにあたって、求められる能力を学ぶ。
2	訪問看護の基本	在宅看護の活動を支えるコミュニケーションや訪問時のマナーを学ぶ。
3	在宅看護技術①	食生活に関する在宅看護技術 排泄に関する在宅看護技術
4	在宅看護技術②	移動・移乗に関する在宅看護技術として、在宅における日常生活動作（ADL）のアセスメントと移動援助の技術を学ぶ。安全確保、補助用具などを理解する。
5	在宅看護技術③	呼吸機能に関する在宅看護技術として、呼吸のアセスメント、排たん法、吸引、在宅で使用される呼吸に関する医療機器の種類を理解する。
6	認知症の療養者に対する看護	認知症をもつ療養者とその家族への支援の実際を学ぶ。
7	在宅における終末期看護	終末期にある療養者に対し、訪問看護師と病棟看護師との連携や疼痛管理について学ぶ。家族へのみとり教育や遺族訪問について理解する。
8	独居の療養者に対する看護	独居で高齢という状況下にあっても365日24時間、安心して住み慣れたわが家で過ごしたい療養者の希望をかなえるための社会資源の活用について理解する。
9	さまざまな在宅看護の対象者	小児の療養者とその家族への支援の実際を学ぶ。 統合失調症の療養者に対する支援の実際を学ぶ。
10	在宅医療技術①	療養者の経管栄養・胃瘻・在宅中心静脈栄養法について事例をあげて、家族指導や在宅で起こりやすいトラブルなどを理解する。
11	在宅医療技術②	在宅における褥瘡ケアの実際と家族や介護者への支援と医療・福祉サービスとの連携の必要性を理解する。
12	在宅医療技術③	尿道留置カテーテルや人工肛門・人工膀胱を使用する療養者の観察、日常生活の工夫について理解する。
13	在宅医療技術④	在宅酸素療法、非侵襲的陽圧換気療法の実際と退院後の社会資源を理解する。
14	在宅医療技術⑤	在宅人工呼吸法を通して、日常生活の工夫や24時間ケアする家族の介護負担の軽減などについて理解する。
15	総括	これまで学習してきた内容の総括を行い、理解度を深める。

科目名	健康教育論				
担当者氏名	久井 志保				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	3年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 ○ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 ○ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ○ 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力				

《授業の概要》

健康教育の意義、目的、方法について学習する。

《テキスト》

最新保健学講座 別巻1 健康教育論 メディカルフレンド社

《参考図書》

適宜指示する。

《授業の到達目標》

- ・健康教育の意味を理解する。
- ・対象にあった健康教育の方法について考えることができる。

《授業時間外学習》

課題は期限までに提出する。

《成績評価の方法》

- ・筆記試験（60点）
- ・課題（40点）

《備考》

積極的な態度を評価します。
外部講師を招いて体験的に学びます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	基本的な概念	健康教育の概念、目的等の概要を理解する。
2	健康教育に関する理論	健康教育に関する理論と評価について理解する。
3	個人を対象にした健康教育	健康に課題のある人を対象にした健康教育について理解する。
4	集団を対象にした健康教育	集団を対象にした健康教育について理解する。（集団／個人）
5	演習Ⅰ	集団を対象にした健康教育の体験（グループワーク）
6	演習Ⅱ	実践Ⅰ：心肺蘇生法（外部講師による講習）
7	演習Ⅲ	実践Ⅱ：AED（外部講師による講習）
8	まとめ	全体の振り返り。筆記試験。
9	以下、空白	—
10	—	—
11	—	—
12	—	—
13	—	—
14	—	—
15	—	—

科目名	国際看護学				
担当者氏名	弘中 陽子				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	3年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ◎ 4-2 安全なケア環境を提供する能力 ○ 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力 ○ 5-2 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力				

《授業の概要》

世界の人々の健康と保健医療の現状について理解を深め、人々の健康に影響を及ぼす人口学的、社会経済的、文化的な要因について考える。

また、国際保健・看護の主要な概念や異文化看護の理論と国際保健協力の組織、具体的な事例を学び、世界の健康問題と国際保健協力について考える。

《テキスト》

国際看護学，ピラールプレス

《参考図書》

田村やよひ編 新体系看護学全書 39 看護の統合と実践 ③ 国際看護学 メヂカルフレンド社

《授業の到達目標》

1. 世界の主要な健康問題の概要を述べるができる。
2. 世界の健康問題を解決するための組織と概要、日本の国際保健医療・看護協力の組織と働きを述べるができる。
3. 国際保健・看護の主要な概念であるプライマリ・ヘルスケアの概念について説明できる。
4. 災害時における国際緊急援助の看護師の役割について説明できる。

《成績評価の方法》

- 「定期試験」：筆記試験 60%
- 「平常点」：授業と演習の参加度・グループワーク・発表 20%
- 「その他」：課題レポートの内容 20%

《授業時間外学習》

授業はテキスト関連章を読んでくることを前提に進めます。テキストとノートをもとに、必ず復習して授業に臨んで下さい。講義内容は大変幅広いです。地理や世界史、公衆衛生（看護）の知識などを統合して考えていくと理解できる内容です。既存の知識をあわせてイメージを広げ、考えましょう。

《備考》

- ・90分×7.5回分の授業時間となります。
- ・積極的な授業への参加を期待します。授業中の私語は他の学生の迷惑になりますので慎んでください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	国際看護とは	先進国と途上国
2	世界の人々の健康	国際保健・看護の主要概念
3	国際保健協力機関と国際協力	国・地域のアセスメント（レポート課題） 国際保健・看護協力活動の実際
4	開発途上国の健康問題1	グループワーク
5	開発途上国の健康問題2	子どもの健康・リプロダクティブヘルスについてのプレゼンテーション
6	異文化理解と看護	異文化理解と看護
7	開発途上国の健康問題3	感染症・国際緊急援助と難民の健康についてのプレゼンテーション
8	国際緊急援助の実際と在日外国人の健康問題	国際緊急援助の医療活動の実際について、在日外国人の健康問題について
9	-	-
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-

科目名	看護研究 I（基礎編）				
担当者氏名	看護学科全教員				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 5-2 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力				

《授業の概要》

看護者には、研究や実践を通して専門的知識・技術の創造と開発につとめ、看護学の発展に寄与する責務がある。常に探求的視点を持って看護を思考することが重要である。過去の看護の学習を通じて、看護の現象・事象における疑問・未解明な部分に対して、個人またはグループで研究課題を設定し、担当教員から指導・助言を受けながら研究を行うための基本的知識と方法論を修得する。

《授業の到達目標》

- ①看護学の研究とは何か、その目的や理論との関係、看護実践への応用について理解できる。
- ②研究目的の明確化とそのために不可欠な文献検索・文献検討について理解できる。
- ③看護研究における倫理的配慮(研究対象者の権利擁護)について理解できる。
- ④研究計画書が作成できる。

《成績評価の方法》

筆記試験（60%）、提出物（20%）、講義に対する積極的な態度（20%）で評価をする。

《テキスト》

黒田裕子：「黒田裕子の 看護研究 step by step」 第4版 医学書院

《参考図書》

- ①南 裕子：「看護における研究」日本看護協会出版会
- ②対馬 栄輝：「SPSSで学ぶ医療系データ解析—分析内容の理解と手順解説、バランスのとれた医療統計入門」東京図書
- ③Polit D.F&Hungler B.P.：Principles and Methods 近藤潤子監訳：「看護研究第2版—原理と方法」医学書院

《授業時間外学習》

基礎ゼミで習得した、「文献検索」の講義を復習し、自らのテーマを見つけるため図書館等を利用し、学術論文等を読むこと。学生の主体性（問題意識、関心、やる気、持ち味）を尊重するので、研究のプロセスを丁寧に学習すること。基礎看護学実習の経験や各援助論を学習し、自らの研究テーマを見つけること。

《備考》

研究計画書を提出後、研究Ⅱを引き続いて実施すること。看護研究Ⅱの履修届けは4年生Ⅰ期に提出する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	看護研究の概要と倫理	オリエンテーション 看護における研究の必要性と意義 研究における倫理的配慮について
2	看護研究の概観	研究の構成要素とプロセス、研究課題と概念枠組み、研究データの収集、研究データの分析
3	文献検討 理論と概念	文献検討・文献のクリティーク 理論と概念分析
4	研究方法① 研究デザイン	実験研究・事例研究・実態調査など
5	研究方法② データ収集	質問紙調査法・観察法・面接法など
6	研究方法③ データ分析	質的データ分析：KJ法・内容分析など
7	研究方法④ データ分析	量的データ分析：代表値・t検定・χ ² 検定・1要因分散分析など
8	研究方法⑤ データ分析	量的データ分析：2要因分散分析・相関分析・回帰分析など
9	研究計画書の作成について	研究疑問から研究課題を明確にし、研究計画書作成までのプロセス
10	研究論文のまとめ方について	研究結果をまとめて、論文執筆・研究発表までのプロセス
11	研究計画書作成	各領域にグループ分けをして、研究計画書の指導
12	研究計画書作成	各領域にグループ分けをして、研究計画書の指導
13	研究計画書作成	各領域にグループ分けをして、研究計画書の指導
14	研究計画書作成	各領域にグループ分けをして、研究計画書の指導
15	研究計画書作成	各領域にグループ分けをして、研究計画書の指導

科目名	リスクマネジメント論				
担当者氏名	塩 霧郁恵				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	3年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 ○ 1-2 実施する看護について説明し同意を得る能力 ○ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ◎ 4-2 安全なケア環境を提供する能力				

《授業の概要》

過去の報道された事故事例分析や、グループワークにより医療事故のメカニズム・ヒューマンエラー（人の信頼性）・安全文化とは何かを考えてみる。そして、わが国の取組み経緯、病院の事故防止対策などを参考に医療安全とセーフティマネジメントの考え方を学習する。

《授業の到達目標》

- ①医療事故防止の基本理念を説明できる。
- ②安全で良質な医療を提供するための看護師の責任や必要な態度、知識、技術が説明できる。
- ③危険予知訓練の方法を理解し、その準備や訓練を実施することができる。
- ④医療事故の分析より背後要因の理解を深め、危険予知ができる。

《成績評価の方法》

筆記試験（80％） グループワーク（20％）

《テキスト》

ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践『医療安全』 松下由美子・小林美雪編著, 2009. 1. 10メディカ出版

《参考図書》

- ・医療におけるヒューマンエラー、河野龍太郎、医学書院
- ・医療安全ワークブック、川村治子、医学書院
- ・看護事故予防、土屋八千代、山田静子、鈴木俊夫・中山書店
- ・人はなぜ誤るのか：ヒューマンエラー光と影、海保博之、福村出版

《授業時間外学習》

次回の授業までに指示した内容の予習
 提示された参考図書などにも目を通しておく。
 グループワークの目的が時間内に達成できなかった場合は、放課後グループメンバーで話し合い、次回までに目標を達成しておく。

《備考》

・授業内容は医療の質、患者の生命にかかわる重要な内容であることを理解し、ふさわしい受講態度で臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	医療事故とは	ヒューマンエラー「To error is human」をいくつかの事例から理解する
2	医療事故は何故おこる	医療事故のメカニズムと人間工学的対策、過去の事故事例から、防止対策の重要性を知る
3	医療事故を防止するには1	発生した事故の分析方法、 P-mSHELモデル K Y T R C A分析
4	医療事故を防止するには2 医療事故の判例	事故の分析、看護業務と医療事故の関係 医療事故と看護の法的責任、
5	事故事例分析	コミュニケーションについて（グループワーク） ケース・スタディ～起こりやすい医療事故とその対策～ 演習（AB分かれて）
6	事故事例分析（横浜市立 大学患者取り違え事件）	ケース・スタディ～起こりやすい医療事故とその対策～ 事故防止の実際例を通して分析（グループワーク） R C A分析 演習（AB分かれて）
7	事故事例分析のグループ の発表	事故事例分析より医療事故防止を考える 演習（AB分かれて）
8	テスト60分 学習のまとめ	授業の振り返り 用語の確認、事故防止のための知識、技術、態度
9	-	※90分×7.5回分の授業時間となります。
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-

《専門教育科目 統合科目 VIII群（看護の統合と実践）》

科目名	看護の統合と実践実習				
担当者氏名	新田 幸子 他				
授業方法	実習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 ○ 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力 ◎ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ○ 4-2 安全なケア環境を提供する能力				

《授業の概要》

保健医療専門職チームの一員としての責任を自覚し、倫理観に基づき総合的かつ継続的な看護実践能力を養うことができる。

《テキスト》

既習科目で使用した全てのテキストと参考書 看護管理 看護の統合と実践①

《参考図書》

必要時その都度提示する。

《授業の到達目標》

1. 複数の対象を受け持ち、必要なケアを提供する実践能力を養うことができる。
2. 看護チームにおける役割遂行、フォローアップのあり方について理解できる。
3. 対象の生活を支えるために継続的に提供される看護を理解できる。
4. 他職種との連携・協働を通して保健医療専門職チームの統合的ケア提供のあり方と看護職の役割について理解できる。
5. マネージメント活動や管理者の役割を理解できる。

《授業時間外学習》

1. 事前に看護管理(看護の統合と実践実習)の講義内容を復習しておくこと。
2. 実習中には既習の学習内容を活用し、複数の患者の問題解決にむけて看護展開ができるようにする。
3. 看護実践能力を養うための予習・復習をしっかりとすること。

《成績評価の方法》

実習指導要項の実習評価に基づいて評価する。 1. 目標達成度 70点 2. 実習態度 10点 3. 最終レポート 20点

《備考》

実習目的・目標を十分把握して実習に臨むこと

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	内容の詳細は実習指導要項に提示する。	-
2	-	-
3	-	-
4	-	-
5	-	-
6	-	-
7	-	-
8	-	-
9	-	-
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-

《専門教育科目 関連科目 IX群（保健師関連）》

科目名	疫学				
担当者氏名	伊藤 純				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 ○ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 ◎ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ○ 4-2 安全なケア環境を提供する能力			

《授業の概要》

疫学は、人間集団を対象とし、国民の疾病予防や健康増進に役立てることを目的とする学問です。保健行政などに活用できる基本知識と方法論を学習します。

《テキスト》

標準保健師講座別巻2「疫学・保健統計学」

《参考図書》

特になし。

《授業の到達目標》

- 1 公衆衛生の概念を理解する。
- 2 基本的な保健統計指標について説明できる。
- 3 疫学的な思考や手法を理解する。
- 4 主要な生活習慣病やがんの疫学や危険因子を説明できる。

《授業時間外学習》

その日のうちに授業内容を15分程度復習すること。

《成績評価の方法》

定期試験のみで評価する。

《備考》

特記すべきことなし。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	集団の健康状態の把握①	疫学の概念、有病率、罹患率
2	集団の健康状態の把握②	相対危険度、寄与危険度、年齢調整
3	疫学的探求方法①	介入研究の方法
4	疫学的探求方法②	観察研究の方法
5	疾病の予防とスクリーニング	予防の3段階、妥当性の評価、ROC曲線
6	各疾患の疫学 感染症①	感染症法、HIV/AIDS、結核、食中毒の疫学
7	各疾患の疫学 感染症②	感染症疫学に関する問題演習
8	各疾患の疫学 生活習慣病①	糖尿病、メタボリック症候群、虚血性心疾患の疫学
9	各疾患の疫学 生活習慣病②	生活習慣病疫学に関する問題演習
10	各疾患の疫学 がん①	がんの部位別統計と危険因子
11	各疾患の疫学 がん②	がん疫学に関する問題演習
12	保健統計学①	代表値、散布度、検定方法
13	保健統計学②	保健統計学の問題演習
14	グループ実習	模擬疾病対策の立案
15	グループ実習	模擬疾病対策の発表

科目名	公衆衛生看護学活動展開論				
担当者氏名	久井 志保				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 ○ 2-2 看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力 ○ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ○ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 				

《授業の概要》

地域で生活する個人、家族、組織、集団全てを対象とし、地域の特性やあらゆる健康状態に応じた健康の保持増進や疾病発生・悪化を要望するための基礎的な看護活動の方法と実際を講義と演習にて学ぶ。

《テキスト》

標準保健師講座2 地域看護技術（医学書院）
標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動（医学書院）

《参考図書》

保健師業務要覧（日本看護協会）
地域看護アセスメント（医歯薬出版株式会社）
国民衛生の動向（厚生統計協会）

《授業の到達目標》

公衆衛生看護活動の対象の特性を理解する。
公衆衛生看護活動の基礎的な技術を身につける。

《授業時間外学習》

個人やグループで実施する課題を期限内に提出する

《成績評価の方法》

筆記試験（80%）
課題（20%）
他の学生に迷惑をかける行為は減点（10～100点）します。

《備考》

日程を変更することがあるので、常に掲示を確認すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	公衆衛生看護活動の概要	公衆衛生看護活動の概要について理解する。 保健指導の概念と種類等について理解する。
2	母子保健における健康診査	健康診査の目的、方法、評価について理解する。
3	特定健康診査	特定健診、特定保健指導の技術について理解する。
4	地域診断	地域診断に必要な基礎知識について理解する。
5	家庭訪問	家庭訪問の目的、方法について理解する。
6	健康教育	健康相談の種類と具体的方法について理解する。
7	健康相談	公衆衛生看護活動における健康教育について理解する。
8	公衆衛生看護活動の実際	ゲストスピーカーによる講義を通して、公衆衛生看護活動の実際について理解する。
9	地域診断演習 家庭訪問演習	演習オリエンテーション。 事例に基づき、家庭訪問の訪問計画を立てる。
10	地域診断演習 家庭訪問演習	地域診断演習（全員）と家庭訪問演習（Aグループ）を通して、地域診断技術と家庭訪問技術を身につける。
11	地域診断演習 家庭訪問演習	地域診断演習（全員）と家庭訪問演習（Bグループ）を通して、地域診断技術と家庭訪問技術を身につける。
12	地域診断演習 家庭訪問演習	地域診断演習（全員）と家庭訪問演習（Cグループ）を通して、地域診断技術と家庭訪問技術を身につける。
13	家庭訪問演習 健康教育演習	健康教育演習（全員）と家庭訪問演習（Dグループ）を通して、地域診断技術と家庭訪問技術を身につける。
14	家庭訪問演習 健康教育演習	健康教育演習（全員）を通して、地域診断技術と家庭訪問技術を身につける。
15	健康教育演習 まとめ	健康教育の発表。 演習全般に対する振り返りを行う。

科目名	健康相談活動の理論と実践				
担当者氏名	大平 曜子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ◎ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 ○ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ○ 4-2 安全なケア環境を提供する能力				

《授業の概要》

学校教育における健康相談の概念や特質を踏まえて、子どものヘルスニーズに対処できる力量形成を目指す。また、人間観や健康観、対人関係など健康相談の基礎的理論を学び実践力をつける。養護教諭の仕事における健康相談の位置づけを理解するとともに、関係機関との有機的連携について学習する。授業では、健康相談の目標と方法、問題の捉え方、記録とプライバシー保護など、基礎から実際までを学ぶ。

《授業の到達目標》

- 健康相談の概念や役割について説明できる。
- 健康相談の基礎的理論について理解し、説明できる。
- 子どものヘルスニーズがわかり、健康相談の進め方がわかる。
- 健康相談の実際を体験的に理解する。ロールプレイングができる。

《成績評価の方法》

毎授業終了時記入の学習内容の記録についての評価 10%、
課題の実践とレポート提出 30%、
定期試験 60%とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方を理解し、自らの学習方法を確認する。健康相談の位置づけを理解し、学習の意味を説明することができる。
2	養護教諭と健康相談	養護教諭のもつ健康感や人間観との関わり
3	法規と健康相談	学校保健安全法を中心に、健康相談の位置づけを理解する。
4	健康相談の概念	定義、目的と意義
5	健康相談活動の対象	子どものヘルスニーズの理解、問題理解
6	健康相談に必要な力量	養護教諭の力量形成と資質
7	近接領域の相談と健康相談活動の違い	相談とは、臨床心理学とは、教育相談や生活指導、などとの関係
8	健康相談の実際 (1)	進め方の実際、保健室の機能
9	健康相談の実際 (2)	事例の学習、健康相談活動のプロセス保健室登校・特別支援教育と養護教諭のかかわり
10	健康相談の実際 (3)	ロールプレイの実際
11	健康相談の実際 (4)	グループ学習 (演習)
12	記録と保管	記録の方法、書式、保管と活用
13	幼児・児童・生徒への健康相談	支援方法の違いと実際
14	力量形成と研究	養護教諭にとって、健康相談に関する研究の意味と方法を理解する
15	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《テキスト》

テキストは使用しない。
必要に応じて適宜プリントを配布する。

《参考図書》

『養護教諭の行う健康相談活動』大谷・森田編著、東山書房
 『養護教諭の健康相談ハンドブック』森田著、東山書房
 『健康相談活動の理論と実際』三木・森田編著、ぎょうせい
 その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

関係図書にはできるだけ目を通す。課題レポートについては、文献にあたって上で作成する。授業で配布したプリントには、必ず目を通しておく。

《備考》

養護教諭をめざす者は、目的意識を持ち、主体的に授業に臨んで欲しい。演習の形態も含めるが、主体的に参加することが望まれる。また、演習には必ずレポート課題の提出を求める。

科目名	産業保健論				
担当者氏名	久井 志保				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 ○ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 ◎ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ○ 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力				

《授業の概要》

労働と健康が密接にかかわっていること、事業場で行われている安全衛生管理体制について理解する。働く人の健康に関する現状やそれらに対して産業保健専門職がどのように産業保健活動を実施しているかを理解する。

《テキスト》

産業看護学（日本看護教協会出版会）

《参考図書》

労働衛生のしおり（中央労働災害防止協会）
産業保健マニュアル改訂5版（南山堂）

《授業の到達目標》

- 1 労働に関する現状と課題について考えることができる
- 2 事業場で行われている安全衛生管理体制について理解する
- 3 働く人の健康課題に対して、産業保健専門職が連携して産業保健活動を実施していることを理解する
- 4 将来、自分自身が労働者となった時に知っておくべき最低限の法規について理解する

《授業時間外学習》

事前に示された課題レポートを計画的に実施して期限までに提出すること。

《成績評価の方法》

課題レポート（30%）
筆記試験（70%）

《備考》

労働者～管理職としての健康管理について基本的な知識を学ぶことができます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	産業保健の目的	産業保健の目的や歴史について理解する
2	産業保健の対象者の理解	産業保健の対象者の特徴について理解する
3	労働衛生の5分野	労働安全衛生管理体制、作業管理、作業環境管理について理解する
4	産業保健活動の実際	産業保健における健康管理システムについて理解する
5	産業保健の現状	女性労働者の健康管理について理解する
6	産業保健の現状	過重労働対策について理解する
7	産業保健の現状	産業保健における健康相談、保健指導、健康教育の特徴について理解する
8	産業保健の課題	ワーク・ライフ・バランスについて理解する
9	以下、空白	以下、空白
10	—	—
11	—	—
12	—	—
13	—	—
14	—	—
15	—	—

科目名	公衆衛生看護学実習 I				
担当者氏名	久井 志保				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 ◎ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ○ 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力 ○ 基教-F 自然・健康について理解する力 				

《授業の概要》

詳細は、公衆衛生看護学実習 I 要項を参照

《テキスト》

別途指示する

《参考図書》

別途指示する

《授業の到達目標》

公衆衛生看護学の基本的な活動である地域（地区）診断を实践して学ぶ。また地域の社会資源と健康支援との関係について学ぶ。

《授業時間外学習》

別途指示する

《成績評価の方法》

公衆衛生看護学実習 I 要項の評価表に基づいて評価する（100%）

《備考》

本実習終了後、面接および試験を行い、公衆衛生看護学実習Ⅱの受講可能者を選抜いたします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習	詳細は公衆衛生看護学実習 I 要項参照
2	実習	同上
3	実習	同上
4	実習	同上
5	実習	同上
6	実習	同上
7	実習	同上
8	実習	同上
9	—	—
10	—	—
11	—	—
12	—	—
13	—	—
14	—	—
15	—	—

科目名	学校保健活動論				
担当者氏名	柴田 順子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 ○ 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 ○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ◎ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 				

《授業の概要》

学校保健概論の学びをもとに、学校保健活動の実際についてその理論と方法を学ぶ。学校保健における保健管理に関する分野を中心に、学校安全を含めて保健管理に必要な知識や技術を習得することを目的とする。

《授業の到達目標》

- 学校保健の領域を構造的に説明できる。
- 学校保健活動の根拠となっている法律や制度が理解できる。
- 学校保健における養護教諭の専門性について説明ができる。
- 学校安全と危機管理について理解できる。

《成績評価の方法》

受講態度、課題レポート、演習などの提出物30%、小テスト20%、定期試験50%（テキスト、資料の持ち込み不可）

《テキスト》

『新版養護教諭執務のてびき』植田誠治他監、東山書房 2014
『新訂版学校保健実務必携』戸田芳雄編、第一法規 2014

《参考図書》

『新養護概説』第7版 采女智津江編、少年写真新聞社 2013
『教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応』
文部科学省 2009
『児童生徒の健康診断マニュアル改訂版』日本学校保健会2006
『学校保健ハンドブック』教員養成系大学保健協議会編
ぎょうせい 2013

《授業時間外学習》

関係図書にはできるだけ目を通す。また学校保健に近接する領域の復習を行う。

《備考》

学校保健に関連する課題について関心を持ち、主体的に授業に臨んで欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業オリエンテーション 養護教諭の職務について理解する。
2	養護教諭の職務の発展	養護教諭の職務と役割について理解する。
3	保健室経営	保健室の機能を生かした保健室経営の実際について理解する。
4	保健管理① 健康診断	児童生徒の健康診断① 健康診断の方法及び技術的基準、評価等について理解する。
5	保健管理② 健康診断	児童生徒の健康診断② 疾病別保健管理と保健指導、事後措置等について理解する。
6	保健管理③ 児童生徒の保健管理	特別な配慮を要する児童生徒の管理について理解する。
7	保健管理④ 健康相談	健康相談の法的根拠、健康相談の実際について理解する。
8	保健管理⑤ 学校環境衛生	学校環境衛生の意義と目的、養護教諭と学校環境衛生活動について理解する。
9	学校における救急処置活動①	養護教諭と救急処置活動、救急体制について理解する。
10	学校における救急処置活動②	救急処置活動の進め方、救急処置活動の実際について理解する。
11	安全管理と危機管理①	学校における危機管理の意義と基本的な考え方、危機管理の進め方について理解する。
12	安全管理と危機管理②	児童生徒の学校管理下の災害、災害共済給付制度の概要について理解する。
13	養護教諭と保健教育①	養護教諭と保健教育とのかかわりの意義、教育課程と保健教育について理解する。
14	養護教諭と保健教育②	保健教育の実際について理解する。
15	学習のまとめ	学校保健活動についてのまとめ

《専門教育科目 関連科目 X群（養護教諭関連）》

科目名	学校保健演習				
担当者氏名	柴田 順子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 ○ 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 ○ 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 ◎ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 				

《授業の概要》

既習の看護学や養護に関する専門科目をもとに、学校保健活動を推進するための知識・技術・態度を習得する。保健管理の実際について演習を通して専門的知識・技術を習得する。また保健指導案作成等の演習を通して保健教育についての知識理解を深めることを目的とする。

《テキスト》

『新訂版学校保健実務必携改訂版』戸田芳雄編 第一法規2014
『新版養護教諭執務のてびき』植田誠治他監、東山書房 2014

《参考図書》

『生きる力を育む小学校保健教育の手引き』文部科学省 2013
『小学校学習指導要領解説 体育編』文部科学省 2008
『中学校学習指導要領解説 体育編』文部科学省 2008

《授業の到達目標》

- 養護教諭の専門性について説明ができる。
- 教育課程と保健教育について理解できる。
- 学校保健分野に必要な知識・技能・態度を養う。

《授業時間外学習》

演習が主体ですので学校保健関連の既習科目は復習しておく。

《成績評価の方法》

演習等受講態度20%、課題レポート・演習等の提出物60%
プレゼンテーション20%

《備考》

養護履修生として目的意識を持ち、授業に主体的に参加する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方 養護教諭の専門性について理解する。
2	児童生徒理解	発達障害等、特別な配慮を要する児童生徒の対応について理解する。
3	学校保健に必要な専門性 事例対応	事例を通して養護教諭の対応について演習を行い、知識・技術を習得する。
4	保健教育の実際①	養護実習では、各学校において児童生徒を対象に保健指導を行うので、グループに分かれて指導案を作成する。
5	保健教育の実際②	養護実習では、各学校において児童生徒を対象に保健指導を行うので、グループに分かれて指導案を作成する。
6	保健教育の実際③	養護実習では、各学校において児童生徒を対象に保健指導を行うので、グループに分かれて指導案を作成する。
7	保健教育の実際④	養護実習では、各学校において児童生徒を対象に保健指導を行うので、グループに分かれて教材を作成する。
8	学校保健に必要な専門性 養護教諭の職務①	養護実習の発表を通して、養護教諭の職務の実際について知識・技術を習得する。
9	学校保健に必要な専門性 養護教諭の職務②	養護実習の発表を通して、養護教諭の職務の実際について知識・技術を習得する。
10	保健教育の実際⑤	養護実習では、各学校において児童生徒を対象に保健指導を行うので、作成した指導案をもとに模擬授業をする。
11	保健教育の実際⑥	養護実習では、各学校において児童生徒を対象に保健指導を行うので、作成した指導案をもとに模擬授業をする。
12	学校保健に必要な専門性 保健室経営①	先輩の養護教諭から保健室経営の実際について学び、養護教諭としての知識・技能を習得する
13	学校保健に必要な専門性 保健室経営②	先輩の養護教諭から保健室経営の実際について学び、養護教諭としての知識・技能を習得する
14	養護実習に向けて	養護実習に向けて、学校保健活動について知識・技術を習得する。
15	まとめ	学校保健についてまとめる。

平成 24（2012）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

看護学科 平成24年度（2012年度）入学者対象
 ()は兼担、[]は兼任講師

業 の 区 分	授業科目の名称	授 業 方 法	単 位 数		看 護 師	保 健 師	養 護 教 諭 一 種	学 年 配 当 (数字は週当たり授業時間)								平 成 27 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ	
			必 修	選 択				1 年		2 年		3 年		4 年				
								I	II	I	II	I	II	I	II			
専 門 基 礎 科 目	Ⅰ群(健康支援と 社会 保 障 制 度)	社会福祉論	講義	2					2									
		人間関係論(カウンセリングを含む)	講義	2					2									
		家族関係論	講義	2					2									
		精神保健	講義	2					2									
		環境保健学	講義	1								1						
		保健医療福祉行政論	講義	2		◇					2							
		公衆衛生学(疫学含)	講義	2		◇						2						
		保健統計学	講義	2		◇					2							
		保健統計学	講義	2		◇					2							
	Ⅱ群(人体の 構 造 と 機 能)	基礎生物学	講義	2					2									
		形態機能論Ⅰ	講義	2		◇			2									
		形態機能論Ⅱ	講義	2		◇			2									
		生化学	講義	2					2									
		栄養学(食品学を含む)	講義	2		◇			2									
		薬理学	講義	2		◇				2								
		免疫・微生物学	講義	2		◇					2							
	Ⅲ群(疾病の 成 立 及 び 回 復 の 促 進)	臨床病理病態学Ⅰ(内科系)	講義	2		◇					2							
		臨床病理病態学Ⅱ(内科系)	講義	2		◇						2						
		臨床病理病態学Ⅲ(外科系)	講義	2		◇						2						
		臨床病理病態学Ⅳ(周産期・小児科系)	講義	2		◇						2						
	教 育 科 目	Ⅳ群(基礎看護学)	看護学概論	講義	2		◇			2								
			看護理論	講義	1		◇				1							
			ヘルスアセスメント	演習	1		◇				1							
			看護技術論Ⅰ(生活技術援助)	演習	2		◇				4							
			看護技術論Ⅱ(診療技術援助)	演習	2		◇					4						
			看護技術論Ⅲ(看護過程)	演習	1		◇						2					
			基礎看護学実習Ⅰ	実習	1		◇				3							
			基礎看護学実習Ⅱ	実習	2		◇					6						
			看護教育学	講義	1		◇									1	新田 幸子	146
			看護倫理	講義	1		◇									1	白神 佐和子	147
			看護管理学	講義	1		◇								1			
Ⅴ群(成人・ 老 年 看 護 学)		成人看護学概論	講義	2		◇				2								
		成人看護援助論Ⅰ(生命危機状態にある人)	演習	2		◇						4						
	成人看護援助論Ⅱ(常態の維持・増進が困難な人)	演習	2		◇						4							
	成人看護学実習Ⅰ	実習	3		◇								9					
	成人看護学実習Ⅱ	実習	3		◇								9					
	老年看護学概論	講義	2		◇				2									
	老年看護援助論	演習	2		◇							4						
	老年看護学実習Ⅰ	実習	2		◇								6					
	老年看護学実習Ⅱ	実習	2		◇								6					
	Ⅵ群(母性・ 小 児 看 護 学)	母性看護学概論	講義	2		◇				2								
母性看護援助論		演習	2		◇							4						
母性看護学実習		実習	2		◇								6					
小児看護学概論		講義	2		◇					2								
小児看護援助論		演習	2		◇								4					
小児看護学実習		実習	2		◇								6					

カリキュラム年次配当表

看護学科 平成24年度（2012年度）入学者対象
 （ ）は兼任、[]は兼任講師

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		看護師	保健師	養護 教諭 一種	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成27年度の 担当者	ページ
								1年		2年		3年		4年			
								I	II	I	II	I	II	I	II		
専 門 実 践 科 目	VII群 (精神・在宅・地域看護学)	精神看護学概論	講義	2	◇	□	○				2						
		精神看護援助論	講義	2	◇	□	○					2					
		精神看護学実習	実習	2	◇	□	○						6				
		在宅看護概論	講義	2	◇	□					2						
		在宅看護援助論	講義	2	◇	□					2						
		在宅看護実習	実習	2	◇	□							6			星・東	148
		公衆衛生看護学概論	講義	2	◇	□					2						
		健康教育論	講義	1	◇	□						1					
		学校保健概論	講義	1	◇	□	○				1						
		国際看護学	講義	1	◇	□						1					
		災害看護学 (災害保健を含む)	講義	1	◇	□							1			弘中 陽子	149
専 門 教 育 科 目	VIII群 (統合と実践の看護)	基礎ゼミ	演習	2	◇	□		2									
		看護研究Ⅰ (基礎編)	講義	2	◇	□					2						
		看護研究Ⅱ (応用編)	演習	2	◇	□							2		*1	150・151	
		リスクマネジメント論	講義	1	◇	□					1						
		看護の統合と実践実習	実習	2	◇	□						6					
関 連 科 目	IX群 (保健師関連)	疫学	講義	2		□					2						
		公衆衛生看護学活動展開論	演習	2		□					4						
		健康相談活動の理論と実践	講義	2		□	○				2						
		産業保健論	講義	1		□					1						
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	実習	1		□						3					
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	実習	4		□							12			久井 志保	152・153
		公衆衛生看護学特論	講義	1									1			久井 志保	154
教 育 科 目 関 連	X群 (養護)	学校保健活動論	講義	2			○				2						
		学校保健演習	演習	2			○				2						
		養護概説	講義	2			○				2						

◇は看護師国家試験受験資格必修科目、□は保健師国家試験受験資格必修科目、○は養護教諭免許必修科目

*1 看護学科全教員

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		看護師	保健師	養護 教諭 一種	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成27年度の 担当者	ページ
								1年		2年		3年		4年			
								I	II	I	II	I	II	I	II		
教 職 に 関 す る 科 目	教職概論	講義	2				○	2									
	教育原理	講義	2				○	2									
	教育心理学	講義	2				○			2							
	教育制度論	講義	2				○	2									
	教育課程論 (道徳、特別活動を含む)	講義	2				○			2							
	教育方法・技術論	講義	2				○			2							
	生徒指導論 (進路指導を含む)	講義	2				○			2							
	教育相談 (カウンセリングを含む)	講義	2				○	2									
	養護実習 (事前事後指導を含む)	実習	5				○					5			柴田 順子	155・156	
	教職実践演習 (養護教諭)	演習	2				○						2		柴田 順子	157	

○は養護教諭免許必修科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法 (2単位)、体育 (2単位)、外国語コミュニケーション (2単位)、情報機器の操作 (2単位) について、指定の科目を修得すること。

科目名	看護教育学				
担当者氏名	新田 幸子				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	4年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 5-2 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力				

《授業の概要》

「看護教育学とは看護学各領域の教育に共通して普遍的に存在する要素を研究対象として、看護学生を含む看護職者個々人の発達の支援を通して看護の対象に質の高い看護を提供することを旨とする学問である」この定義を通して、看護教育学という学問がどのようなものか、「看護教育学」の教育内容は何か、看護教育学研究とは何をどのように研究することなのかを模索していきます。

《授業の到達目標》

1. 看護教育の目的・内容・方法など基本理論を学ぶ。
2. 看護師の教育課程について学び、各課程の特徴を理解し、臨地実習の位置づけを説明できる
3. 教育と看護学教育の関連を知り、教授＝学習過程を理解する。

《成績評価の方法》

授業への出席10% プロセスレコード提出20% プレゼンテーション20% 筆記試験50%

《テキスト》

資料配布

《参考図書》

看護教育学 第5版 杉森みど里 舟島なをみ

《授業時間外学習》

臨地実習での被教育体験・教育体験での被教育的指導場面と教育的指導場面を振り返り考えておくこと。

《備考》

これまでに受けた被教育体験・教育体験をフィードバックし、授業に主体的に参加してください。
90分×7.5回の授業です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	看護教育学とは何か	看護教育と看護教育学 看護学教育と看護教育学 看護師養成教育と看護教育学 看護教育学は看護学なのか 看護教育行政と看護教育学
2	看護教育制度	看護師養成教育の歴史の変遷 看護教育制度を支える法および関連法規 看護教育制度と学位
3	看護学教育課程	看護教育目的論の位置づけ 教育課程（カリキュラム）とは 教育目的・目標の設定 教育内容（講義・演習・実習）
4	教育方法の理論 教育的指導論	教育的指導とは ①教育的管理 ②教育的教授 ③教育的訓練
5	教育と看護	臨地実習における被教育体験を振り返る ①各自でプロセスレコードの展開 (指導を受けた場面から考察)
6	教育と看護	臨地実習における教育体験を振り返る ②各自でプロセスレコードの展開 (受持ち患者の看護過程の展開の指導プランを通して考察)
7	指導プランづくり グループワーク学習	臨地実習における教育体験 ② の事例から教育的指導へのアプローチ
8	プレゼンテーション	発表
9	-	-
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-

科目名	看護倫理				
担当者氏名	白神 佐知子				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	4年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 ○ 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 ○ 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力 ○ 5-2 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力				

《授業の概要》

看護師は生命、生活を預かる専門職であり、看護倫理は看護実践の場において常に存在しています。本授業では、人間や看護の本質を問うところから看護倫理を考え、医療や看護場面に於ける倫理的問題やジレンマの解決方法を考えていきます。

《テキスト》

『看護倫理』小西恵美子編 南江堂
 『新版 看護者の基本的責務』日本看護協会監修
 日本看護協会出版会

《参考図書》

『ケアの質を高める看護倫理』岡崎寿美子著、医歯薬出版
 『看護学生のための倫理学』高谷修著 KINPODO
 『看護実践の倫理』サラ T, フライ著 片田範子訳、日本看護協会出版会
 『事例検討から学ぶ看護実践のための倫理と責任』
 宮脇美穂子著 中央法規

《授業の到達目標》

- (1) 看護倫理を学ぶ意義がわかる。
- (2) 看護実践上の倫理概念を説明できる。
- (3) 生じやすい看護倫理問題を分析し、具体的な問題解決方法が説明できる。
- (4) 事例検討を通して、自己の倫理的感受性を高める。
- (5) 自己の価値観を明確にする。

《授業時間外学習》

今回の授業の予習と授業後の復習をしておく。
 参考図書は目を通しておく。

《成績評価の方法》

試験60%、レポート40%、受講態度、グループワーク参加態度10%の計100点満点で評価する。

《備考》

すべての科目に共通する重要な科目です。
 グループワークは必ず参加すること。
 90分×7.5回分の授業時間となります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	看護倫理の考えと歴史的推移	人間、看護とは何かを問いつつ、歴史的な社会から影響を受けてきた看護から現実問題を考え、看護実践における倫理について考える。
2	倫理原則、看護実践上の倫理的概念	看護場面で重要な倫理原則、倫理的概念を理解し、具体例により原則の倫理のアプローチを理解する。
3	看護者の役割と倫理綱領	倫理綱領を理解し、看護者としての倫理的責任を考える。
4	倫理的問題の解決のプロセス	臨床で直面する倫理的諸問題と解決に向けたアプローチ、倫理的意思決定へのプロセスを具体的な事例を用いて検討する。
5	医療・看護現場における倫理問題	実習中に遭遇した看護実践上の倫理問題・ジレンマを討議し、倫理のアプローチを考える。
6	医療・看護現場における倫理問題	実習中に遭遇した看護実践上の倫理問題・ジレンマを討議し、倫理のアプローチを考える。
7	医療・看護現場における倫理問題	課題発表と討議
8	臨床での倫理的体制 看護研究における倫理	臨床における倫理的課題と解決過程を理解する。また、看護研究を遂行するうえで知っておくべき倫理的事項を学ぶ。
9	-	-
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-

科目名	在宅看護実習				
担当者氏名	星 智子、東 久子				
授業方法	実習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	4年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 ○ 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 ○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ◎ 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 				

《授業の概要》

健康課題や障がいをもちながら地域で生活する療養者とその家族を理解し、対象の特性に応じた訪問看護の実際を学び、看護の果たす役割を認識し、行動できる能力を養う。在宅ケア全般を支える仕組み、保健・医療・福祉における連携、チームケア体制について総合的に理解する。在宅看護の意義と役割を理解し、在宅看護に必要な基本的な知識・技術・態度を学ぶ。

《テキスト》

系統看護学講座 統合分野「在宅看護論」2014（医学書院）

《参考図書》

ナーシング・グラフィカ在宅看護論「地域療養を支えるケア」2015（メディカ出版）

《授業の到達目標》

健康課題や障がいをもちながら在宅で生活する療養者とその家族の日常生活を理解し、基本的な援助方法の実際を理解する。在宅における要介護者とその家族を支援するための介護保険法や地域サービスの仕組みを理解する。身体障がいをもつ利用者が医療的リハビリ終了後、社会復帰に向けてどのような目的で自立訓練と向き合っているかを知り看護の果たす役割を理解する。

《授業時間外学習》

現在居住している地域の社会資源について、役所等に出向き、市民に通知している情報をパンフレットを収集するなどして、情報を集めておく。
在宅療養者や介護者を取り巻く問題について関心を寄せ、メディアや生活体験の中から情報が得ておく。

《成績評価の方法》

実習前学習課題の提出（10%）
在宅看護実習の評価表に基づく評価（80%）
実習態度（10%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習	在宅看護実習要項に内容の詳細を提示する。
2	実習	在宅看護実習要項に内容の詳細を提示する。
3	実習	在宅看護実習要項に内容の詳細を提示する。
4	実習	在宅看護実習要項に内容の詳細を提示する。
5	実習	在宅看護実習要項に内容の詳細を提示する。
6	実習	在宅看護実習要項に内容の詳細を提示する。
7	実習	在宅看護実習要項に内容の詳細を提示する。
8	実習	在宅看護実習要項に内容の詳細を提示する。
9	実習	在宅看護実習要項に内容の詳細を提示する。
10	実習	在宅看護実習要項に内容の詳細を提示する。
11	実習	在宅看護実習要項に内容の詳細を提示する。
12	実習	在宅看護実習要項に内容の詳細を提示する。
13	実習	在宅看護実習要項に内容の詳細を提示する。
14	実習	在宅看護実習要項に内容の詳細を提示する。
15	実習	在宅看護実習要項に内容の詳細を提示する。

科目名	災害看護学（災害保健を含む）				
担当者氏名	弘中 陽子				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	4年・1期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ◎ 4-2 安全なケア環境を提供する能力 ○ 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力 ○ 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力				

《授業の概要》

「災害直後から支援できる看護の基礎的能力を養う」ことをねらいに2009年度から看護基礎教育に災害看護が導入された。この授業では、災害サイクルの各段階を概観し、災害時の特徴的健康課題や看護ニーズ、看護職の役割について理解する。また、国内外における災害看護活動の実際について学ぶ。

《テキスト》

看護の統合と実践②災害看護学 辺見弘、小井戸雄一、山西文子：メヂカルフレンド社、2013

《参考図書》

災害看護－心得ておきたい基本的な知識：南山堂、2007
 災害看護学・国際看護学：医学書院、2010
 ナース発東日本大震災レポート：日本看護協会出版会、2011
 グローバル災害看護マニュアル：真興交易医書出版部 2007

《授業の到達目標》

1. 災害の定義と健康障害について説明できる。
2. 災害医療・災害看護の定義について説明できる。
3. 災害看護の基礎知識について説明できる。
4. 災害サイクルにおける支援活動について類別できる。
5. 国内外の災害看護活動について説明できる。
6. NBC災害時の医療活動と看護について説明できる。
7. 災害時の基礎技術について演習を通し実行できる。

《授業時間外学習》

- ・授業までに赤十字救急法（基礎講習）もしくは、消防普通救命講習を受講しておくことが望ましい。
- ・課題レポートについては、開講後に説明する。

《成績評価の方法》

「定期試験」：筆記試験 60%
 「平常点」：授業と演習の参加度・グループワーク・発表 20%
 「その他」：課題レポートの内容 20%

《備考》

- ・防災袋の作成（学校に備えておくもの及び自宅で備えておくもの：授業初日に現物を持参してください。）
- ・90分×7.5回分の授業時間となります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス 災害看護の概要	災害と災害医療、災害の種類と特徴、災害医療と災害看護、自己防災：自己の備えについて（防災袋の確認）、自己防災について
2	災害医療の基本・災害医療災害・看護活動	指揮命令系統・連絡調整の確立、安全確保、情報伝達、CSCATTT、災害サイクル、災害サイクルからみた災害医療と看護、災害時の要援護者、トリアージ、傷病者搬送
3	NBC災害	NBC災害時の対応と看護について
4	避難所運営	避難所運営の体験（HUG）
5	避難所の看護	被災者への聞き取り体験（ロールプレイ）
6	避難所の公衆衛生活動	避難所での公衆衛生活動：グループワーク・発表
7	病院の初動体制	机上シミュレーション：グループワーク・発表
8	こころのケア、まとめ	こころのケア、応用救急法（演習）、まとめ
9	-	-
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-

科目名	看護研究Ⅱ（応用編）				
担当者氏名	看護学科全教員				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	4年・通年（Ⅰ期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ○ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ○ 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力 ◎ 5-2 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力				

《授業の概要》

看護の学習を通じて、看護の現象・事象における疑問や未解決部分に対して研究課題を設定し、担当教員の指導の下研究を行う。看護研究Ⅰで作成した看護研究計画書に基づいて、問題解決学習の集大成として研究を行い、科学的思考や論理的表現方法を学ぶ。その過程を通して倫理的配慮の重要性、研究フィールドを得るための方法を学び、その結果を論文にまとめる。

《テキスト》

看護研究Ⅰで使用したテキスト
 黒田裕子：[黒田裕子の看護研究 step by step] 第4版
 医学書院

《参考図書》

・南 優子：「看護における研究」日本看護協会出版社
 ・横山美江：「よくわかる看護研究の進め方・まとめ方」医歯薬出版株式会社

《授業の到達目標》

1. 看護における研究の意義・必要性が理解できる。
2. 看護研究を通して、論理的・科学的思考を修得することができる。
3. 看護研究を通して、看護上の問題解決能力を養う。
4. 看護研究における倫理的配慮の重要性を修得することができる。
5. 看護研究を論文としてまとめることができる。

《授業時間外学習》

看護研究Ⅱでの研究課題に関する文献・図書・資料を積極的に読み、論文作成に活かす。

《成績評価の方法》

論文内容を評価基準に基づいて評価し、また論文作成にあたり、積極的、主体的取り組みなどの研究的態度を踏まえ、総合的に評価する。

《備考》

自ら選択した研究課題に探究心を持ち、主体的、計画的に研究を進めていくこと

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	看護研究Ⅱオリエンテーション	研究Ⅱの進め方と論文作成にあたっての留意点を説明する。
2	研究①	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
3	研究②	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
4	研究③	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
5	研究④	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
6	研究⑤	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
7	研究⑥	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
8	研究⑦	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
9	研究⑧	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
10	研究⑨	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
11	研究⑩	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
12	研究⑪	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
13	研究⑫	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
14	研究⑬	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
15	研究⑭	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。

科目名	看護研究Ⅱ（応用編）				
担当者氏名	看護学科全教員				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	4年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ○ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ○ 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力 ◎ 5-2 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力				

《授業の概要》

看護の学習を通じて、看護の現象・事象における疑問や未解決部分に対して研究課題を設定し、担当教員の指導の下研究を行う。看護研究Ⅰで作成した看護研究計画書に基づいて、問題解決学習の集大成として研究を行い、科学的思考や論理的表現方法を学ぶ。その過程を通して倫理的配慮の重要性、研究フィールドを得るための方法を学び、その結果を論文にまとめる。

《テキスト》

看護研究Ⅰで使用したテキスト
 黒田裕子：[黒田裕子の看護研究 step by step] 第4版
 医学書院

《参考図書》

・南 優子：「看護における研究」日本看護協会出版社
 ・横山美江：「よくわかる看護研究の進め方・まとめ方」医葉薬出版株式会社

《授業の到達目標》

1. 看護における研究の意義・必要性が理解できる。
2. 看護研究を通して、論理的・科学的思考を修得することができる。
3. 看護研究を通して、看護上の問題解決能力を養う。
4. 看護研究における倫理的配慮の重要性を修得することができる。
5. 看護研究を論文としてまとめることができる。

《授業時間外学習》

看護研究Ⅱでの研究課題に関する文献・図書・資料を積極的に読み、論文作成に活かす。

《成績評価の方法》

論文内容を評価基準に基づいて評価し、また論文作成にあたり、積極的、主体的取り組みなどの研究的態度を踏まえ、総合的に評価する。

《備考》

自ら選択した研究課題に探究心を持ち、主体的、計画的に研究を進めていくこと

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究①	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
2	研究②	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
3	研究③	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
4	研究④	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
5	研究⑤	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
6	研究⑥	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
7	研究⑦	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
8	研究⑧	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
9	研究⑨	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
10	研究⑩	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
11	研究⑪	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
12	研究⑫	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
13	研究⑬	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
14	研究⑭	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
15	研究⑮	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる、提出要領に基づいて論文提出をする。

科目名	公衆衛生看護学実習Ⅱ				
担当者氏名	久井 志保				
授業方法	実習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	4年・通年（Ⅰ期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力 ○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ○ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 ◎ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力				

《授業の概要》

保健師活動の実際、保健・医療・福祉の協働活動、コミュニティに対する健康支援のあり方について実践を通して理解する。
 さらに人々とのかかわりを通して人間とし成長し、生活を基盤とした公衆衛生看護活動の視座を培うことを目的とする。
 詳細は実習要項に示す。

《テキスト》

実習要項に示す通り

《参考図書》

教員が実習で指示するもの

《授業の到達目標》

- 1 地域の健康課題の明確化と計画・立案の必要性について理解できる。
- 2 地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動について理解できる。
- 3 地域の健康危機管理について知識としてわかる。
- 4 地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化について知識としてわかる。

《授業時間外学習》

指定された課題（個人学習、グループ学習）を期限までに実施する。

《成績評価の方法》

実習態度（10%）
 実習要項に示す課題（90%）

《備考》

主体的に、意欲的に実習に取り組む。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習	詳細は公衆衛生看護学実習Ⅱ 要項参照
2	実習	—
3	実習	—
4	実習	—
5	実習	—
6	実習	—
7	実習	—
8	実習	—
9	実習	—
10	実習	—
11	実習	—
12	実習	—
13	実習	—
14	実習	—
15	実習	—

科目名	公衆衛生看護学実習Ⅱ				
担当者氏名	久井 志保				
授業方法	実習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	4年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力 ○ 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 ○ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 ◎ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力				

《授業の概要》

保健師活動の実際、保健・医療・福祉の協働活動、コミュニティに対する健康支援のあり方について実践を通して理解する。
 さらに人々とのかかわりを通して人間とし成長し、生活を基盤とした公衆衛生看護活動の視座を培うことを目的とする。
 詳細は実習要項に示す。

《テキスト》

実習要項に示す通り

《参考図書》

教員が実習で指示するもの

《授業の到達目標》

- 1 地域の健康課題の明確化と計画・立案の必要性について理解できる。
- 2 地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動について理解できる。
- 3 地域の健康危機管理について知識としてわかる。
- 4 地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化について知識としてわかる。

《授業時間外学習》

指定された課題（個人学習、グループ学習）を期限までに実施する。

《成績評価の方法》

実習態度（10%）
 実習要項に示す課題（90%）

《備考》

主体的に、意欲的に実習に取り組む。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習	詳細は公衆衛生看護学実習Ⅱ 要項参照
2	実習	—
3	実習	—
4	実習	—
5	実習	—
6	実習	—
7	実習	—
8	実習	—
9	実習	—
10	実習	—
11	実習	—
12	実習	—
13	実習	—
14	実習	—
15	実習	—

《専門教育科目 関連科目 IX群（保健師関連）》

科目名	公衆衛生看護学特論				
担当者氏名	久井 志保				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-G 論理的思考力			

《授業の概要》

保健師として必要な基礎学力の向上を図る。また、関連分野とのつながりについて理解し、公衆衛生看護の発展的な思考が醸成されることを期待する。

《テキスト》

公衆衛生がみえる (MEDIC MEDIA)
他は、別途指示します

《参考図書》

別途指示します。

《授業の到達目標》

- ・保健師としての基礎的な知識を修得する。
- ・公衆衛生看護の現状を理解できる。
- ・公衆衛生看護の展望を描くことができる。

《授業時間外学習》

別途指示します。

《成績評価の方法》

筆記試験 100%

《備考》

国家試験対策プログラムとリンクします。保健師国家試験受験希望者は必ず受講してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	公衆衛生看護学概論	公衆衛生看護の基礎的な考え方と今後の展望についての復習
2	疫学・保健統計学	疫学・保健統計学についての復習
3	保健指導・公衆衛生看護管理	保健指導、公衆衛生看護管理についての復習
4	対象別活動論	母子保健、成人保健、高齢者保健、精神保健、難病、感染症についての復習
5	保健医療福祉行政論	公衆衛生に関する法律についての復習
6	産業保健・学校保健	産業保健、学校保健についての復習
7	健康危機管理・災害保健	健康危機管理、災害保健についての復習
8	まとめ、試験	まとめ、筆記試験
9	以下、空白	以下、空白
10	—	—
11	—	—
12	—	—
13	—	—
14	—	—
15	—	—

《教職に関する科目》

科目名	養護実習（事前事後指導を含む）				
担当者氏名	柴田 順子				
授業方法	実習	単位・必選	5・選択	開講年次・開講期	4年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

養護実習では、学校における養護教諭の役割と意義について実習を通して理解する。また児童生徒や教職員とのかかわりを通して教員としての学びを深める。事前指導では、養護教諭の専門的知識・技術、教員としての知識等を再確認する。事後指導では、実習の成果を発表することで他の学校での学びを共有し養護教諭としての自覚を高める。

《テキスト》

『新訂版学校保健実務必携』戸田芳雄編、第一法規 2011
『新版養護教諭執務のてびき』植田誠治監、東山書房 2014

《参考図書》

『学校保健マニュアル』江藤隆・岡田加奈子編、南山堂 2010
『児童生徒の健康診断マニュアル改訂版』日本学校保健会2006

《授業の到達目標》

養護実習要項の実習目標を本講座の目標とする。
事前指導では養護の専門的知識・技術等について理解する。
養護実習では教育現場での実践を通して目標達成を目指す。
事後指導では自らの振り返りを行うとともに学びを共有する。

《授業時間外学習》

養護実習に向けて、既習科目のテキストや参考図書を参考にし
て知識・技術の確認と定着を行う。

《成績評価の方法》

事前学習資料の提出10%、養護実習報告会20%、
実習校評価、養護実習要項の記録等70%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 事前指導①	養護実習に向けての心構え、養護教諭の職務と役割について
2	事前指導②	実習要項の内容と記録について
3	事前指導③	保健管理の実際について ほけんだより作成
4	事前指導④	保健教育の実際について 指導案作成
5	養護実習①	養護実習（一般校）
6	養護実習②	養護実習（一般校）
7	養護実習③	養護実習（一般校）
8	養護実習④	養護実習（一般校）
9	養護実習⑤	養護実習（特別支援学校または特別支援学級）
10	事後指導①	実習のまとめを行い、実習報告会で発表する。
11	事後指導②	実習のまとめを行い、実習報告会で発表する。
12	事後指導③	実習のまとめを行い、実習報告会で発表する。
13	-	-
14	-	-
15	-	-

《教職に関する科目》

科目名	養護実習（事前事後指導を含む）				
担当者氏名	柴田 順子				
授業方法	実習	単位・必選	5・選択	開講年次・開講期	4年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

養護実習では、学校における養護教諭の役割と意義について実習を通して理解する。また児童生徒や教職員とのかかわりを通して教員としての学びを深める。事前指導では、養護教諭の専門的知識・技術、教員としての知識等を再確認する。事後指導では、実習の成果を発表することで他の学校での学びを共有し養護教諭としての自覚を高める。

《テキスト》

『新訂版学校保健実務必携』戸田芳雄編、第一法規 2011
『新版養護教諭執務のてびき』植田誠治監、東山書房 2014

《参考図書》

『学校保健マニュアル』江藤隆・岡田加奈子編、南山堂 2010
『児童生徒の健康診断マニュアル』日本学校保健会 2006

《授業の到達目標》

養護実習要項の実習目標を本講座の目標とする。
事前指導では養護の専門的知識・技術等について理解する。
養護実習では教育現場での実践を通して目標達成を目指す。
事後指導では自らの振り返りを行うとともに学びを共有する。

《授業時間外学習》

養護実習に向けて、既習科目のテキストや参考図書を参考にし
て知識・技術の確認と定着を行う。

《成績評価の方法》

事前学習資料の提出10%、養護実習報告会20%、
実習校評価、養護実習要項の記録等70%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 事前指導①	養護実習に向けての心構え、養護教諭の職務と役割について
2	事前指導②	実習要項の内容と記録について
3	事前指導③	保健管理の実際について ほけんだより作成
4	事前指導④	保健教育の実際について 指導案作成
5	養護実習①	養護実習（一般校）
6	養護実習②	養護実習（一般校）
7	養護実習③	養護実習（一般校）
8	養護実習④	養護実習（一般校）
9	養護実習⑤	養護実習（特別支援学校または特別支援学級）
10	事後指導①	実習のまとめを行い、実習報告会で発表する。
11	事後指導②	実習のまとめを行い、実習報告会で発表する。
12	事後指導③	実習のまとめを行い、実習報告会で発表する。
13	-	-
14	-	-
15	-	-

《教職に関する科目》

科目名	教職実践演習（養護教諭）				
担当者氏名	柴田 順子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

養護教諭は専門職であり学校保健活動の推進に当たって中核的な役割を果たしている。教育課程における保健教育の位置付け、保健教育の実際、養護教諭の職務の特質を生かした保健室経営の実際、健康相談について学び、養護教諭に必要な専門的な知識・技能を習得することを目的とする。

《授業の到達目標》

- 教育課程における保健教育の位置付けを理解できる。
- 保健学習、集団及び個別の保健指導について理解できる。
- 保健室経営の実際について理解できる。
- 養護教諭が行う健康相談について理解できる。

《成績評価の方法》

演習等受講態度40%、各段階における個別レポート40%
課題レポート20%

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

『生きる力を育む小学校保健教育の手引き』文部科学省 2013
『新訂版学校保健実務必携改訂版』戸田芳雄編 第一法規2011
『教職に関する科目の履修したテキスト』
『学校保健で履修したテキスト』

《授業時間外学習》

既習科目の復習をしておく。

《備考》

養護履修生として目的意識を持ち、授業に主体的に参加する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 保健教育①	教職実践演習の目的等を知る。 保健指導、保健学習の実際について発表し学びを深める。
2	保健教育②	保健指導、保健学習の実際について発表し学びを深める。
3	保健教育③	保健指導、保健学習の実際について発表し学びを深める。
4	保健教育④	保健指導、保健学習の実際について発表し学びを深める。
5	養護教諭の役割①	学校における養護教諭の役割について理解する。（講義・演習）
6	養護教諭の役割②	学校における養護教諭の役割について理解する。（講義・演習）
7	特別支援教育①	特別支援教育と保健指導の実際について理解する。（講義・演習）
8	特別支援教育②	特別支援学校での保健室経営について理解する。（講義・演習）
9	保健教育の実際①	中学校における保健指導の実際について理解する。（講義・演習）
10	保健室経営の実際①	中学校における保健室経営について理解する。（講義・演習）
11	保健教育の実際②	小学校における保健指導の実際について理解する。（講義・演習）
12	保健室経営の実際②	小学校における保健室経営について理解する。（講義・演習）
13	保健室経営の実際③	養護教諭の行う健康相談について理解する。 場面設定ロールプレイングによる演習
14	特別支援教育③	場面設定ロールプレイングによる発表
15	まとめ	シェアリング 教職実践演習のまとめ

授業科目索引一覧 (50音順)

授業科目の名称	ページ
<ア> 英語	21~24
<エ> 栄養学 (食品学を含む)	70
疫学	135
<カ> 化学	47
化学基礎	28
家族関係論	65
学校保健演習	141
学校保健概論	105
学校保健活動論	140
環境保健学	114
看護学概論	71
看護管理学	115
看護技術論Ⅰ (生活技術援助)	74
看護技術論Ⅱ (診療技術援助)	95
看護技術論Ⅲ (看護過程)	96
看護教育学	146
韓国語 (初級)	54
韓国語 (中級)	55
看護研究Ⅰ (基礎編)	132
看護研究Ⅱ (応用編)	150・151
看護の統合と実践実習	134
看護理論	72
看護倫理	147
<キ> 基礎看護学実習Ⅰ	75
基礎看護学実習Ⅱ	97
基礎ゼミ	76
教育課程論 (道徳、特別活動を含む)	108
教育原理	78
教育心理学	107
教育制度論	79
教育相談 (カウンセリングを含む)	80
教育方法・技術論	109
教職概論	77
教職実践演習 (養護教諭)	157
<ケ> 経済学	46
芸術	34・35
形態機能論Ⅰ	67
形態機能論Ⅱ	68
健康・スポーツ科学Ⅰ (講義)	56・57
健康・スポーツ科学Ⅱ (演習)	58
健康・スポーツ科学Ⅲ (演習)	59
健康教育論	130
健康相談活動の理論と実践	137

授業科目の名称	ページ
<コ> 公衆衛生学 (疫学含)	86
公衆衛生看護学概論	104
公衆衛生看護学活動展開論	136
公衆衛生看護学実習Ⅰ	139
公衆衛生看護学実習Ⅱ	152・153
公衆衛生看護学特論	154
国際看護学	131
国際理解と宗教Ⅰ (キリスト教)	38
国際理解と宗教Ⅱ (イスラム教)	39
コンピュータ演習	25~27
<サ> 災害看護学 (災害保健を含む)	149
在宅看護援助論	129
在宅看護概論	103
在宅看護実習	148
産業保健論	138
<シ> 色彩とデザイン	40
実用英語 (初級)	50
実用英語 (中級)	51
社会学	45
社会福祉論	64
宗教と人生	30
小児看護援助論	125
小児看護学概論	101
小児看護学実習	126
食と健康	49
人権の歴史	43
心理学	36
<セ> 生化学	69
政治学	44
精神看護援助論	127
成人看護援助論Ⅰ (生命危機状態にある人)	116
成人看護援助論Ⅱ (常態の維持・増進が困難な人)	117
精神看護学概論	102
成人看護学概論	98
精神看護学実習	128
成人看護学実習Ⅰ	118
成人看護学実習Ⅱ	119
精神保健	66
生徒指導論 (進路指導を含む)	110
生物学	48
生物基礎	29
生命倫理学	31

授業科目の名称	ページ
<チ> 中国語 (初級)	52
中国語 (中級)	53
<テ> 哲学	32
<ニ> 日本語 (読解と表現)	20
日本国憲法	42
人間関係論 (カウンセリングを含む)	84
<フ> 仏教と現代社会	37
文学	33
<ヘ> ヘルスアセスメント	73
<ホ> 法と社会	41
保健医療福祉行政論	85
保健統計学	87・88
母性看護援助論	123
母性看護学概論	100
母性看護学実習	124
<メ> 免疫・微生物学	90
<ヤ> 薬理学	89
<ヨ> 養護概説	106
養護実習 (事前事後指導を含む)	155・156
<リ> リスクマネジメント論	133
臨床病理病態学Ⅰ (内科系)	91
臨床病理病態学Ⅱ (内科系)	92
臨床病理病態学Ⅲ (外科系)	93
臨床病理病態学Ⅳ (周産期・小児科系)	94
<ロ> 老年看護援助論	120
老年看護学概論	99
老年看護学実習Ⅰ	121
老年看護学実習Ⅱ	122
<ワ> 私のためのキャリア設計	60